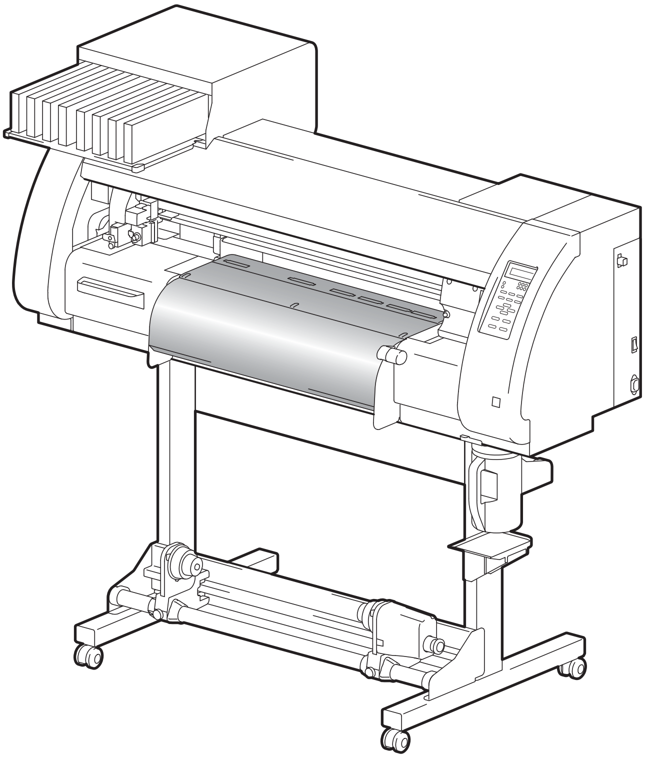
OPERATION MANUAL

Mimaki

Printer Cutter

CJV30-60
CJV30-100
CJV30-130
CJV30-160

取扱説明書



株式会社ミマキエンジニアリング

D201872-14

目　次

ご注意 vii
　ご注意 vii
　おねがい vii
　電波障害自主規制 vii
　テレビ / ラジオの受信障害について vii
はじめに viii
　取扱説明書について viii
安全にお使いいただくために ix
　マーク表示について ix
本書の読み方 xiv

第 1 章　ご使用の前に

本装置の移動 1-2
　設置場所について 1-2
　使用環境温度について 1-2
　本装置の移動 1-3
各部の名称とはたらきについて 1-4
　装置前面 1-4
　背面 / 側面 1-5
　操作パネル 1-6
　ヒーター 1-7
　メディアセンサー 1-7
　キャリッジ 1-8
　キャッピングステーション 1-9
　ピンチローラーとグリッドローラー 1-9
　ペンラインゴム 1-10
メディアについて 1-11
　使用可能メディアサイズ 1-11
　メディア取り扱い上の注意 1-11
ケーブルを接続する 1-12
　USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する 1-12
　電源ケーブルを接続する 1-13
インクカートリッジを入れる 1-14
　インクカートリッジ取り扱い上のご注意 1-15
　ES3 インクのシルバー、ホワイトインクに関する
　ご注意 1-16
メニューモードについて 1-17

第 2 章　基本的な使い方

プリント時のユーザータイプについて 2-2
　ユーザータイプに登録できる設定内容 2-2
　登録したユーザータイプを使用する 2-2

カット時のツール条件について 2-3
ツール条件の種類と選択方法 2-3
ツール条件を登録する 2-4
カット品質を上げる 2-6
作業の流れ 2-7
電源を入れる / 切る 2-8
電源を入れる 2-8
電源を切る 2-9
ツールを取り付ける 2-10
カッターを使う場合 2-10
ツールを交換する 2-13
ボールペンの取り付け方 2-14
メディアをセットする 2-15
ヘッド高さを調整する 2-15
メディアに合わせてピンチローラーの位置を
調整する 2-17
ロールストッパーについて 2-22
最大プリントエリア / カットエリアについて 2-23
メディアをセットするときの注意事項 2-24
ロールメディアをセットする 2-25
巻き取り装置について 2-29
リーフメディアをセットする 2-31
原点を変更する場合は 2-33
テストプリントをする 2-34
通常のテストパターンでテストプリントを行う 2-35
ホワイト確認用のテストパターンでテストプリント
を行う 2-36
ホワイトノズル状態確認警告
(SS21 ホワイトインク使用時のみ) 2-37
ヘッドクリーニング 2-38
ヘッドクリーニングについて 2-38
テストプリントの結果に合わせてヘッドクリー
ニングを行う 2-39
特色メンテナンスを行う 2-40
テストカット (試し切り) をする 2-44
ヒーターの準備をする 2-46
ヒーターの温度設定を変更する 2-46
ヒーターの温度を確認する 2-47
データをプリントする 2-48
プリントを開始する 2-48
プリントを中止する 2-49
受信したデータを消去する (データクリア) 2-49

カットする 2-50
カットを開始する 2-50
カットを中断する 2-50
カットを再開する 2-50
カットを中止する（データクリア）..........................2-51
カッターユニットを退避させる 2-51
メディアを裁断する 2-52

第 3 章　応用機能ープリンタ編ー

ユーザータイプについて 3-2
プリント条件をまとめて登録する (タイプ登録) 3-2
タイプ登録のしかた 3-2
ピンチローラーの設定をする 3-5
推奨するピンチローラー圧の設定 3-5
ピンチローラーの個数について 3-5
ピンチローラーの設定 3-6
メディア補正の設定をする 3-9
メディア補正の設定 3-9
ドットの位置がずれたら 3-12
ヒーターの設定値を変更する 3-14
ヒーターの温度設定を変更する 3-14
適温調整 3-16
ヒーター温度が設定温度に達していないと 3-17
プリント方式の設定をする 3-18
プリント品質の設定 3-18
スキャン方向の設定 3-20
ロジカルシークの設定 3-21
白重ねプリントの設定 3-22
乾燥時間の設定をする 3-23
優先順位の設定をする 3-24
オートクリーニングの設定をする 3-26
プリント中クリーニングの設定をする 3-28
その他の設定 3-30
設定内容をコピーする 3-32
設定した内容を初期状態に戻す 3-33
マシン設定 3-34
ハイキファンの設定をする 3-35
カンソウフィードの設定をする 3-36
スタンプの設定をする 3-37
テストプリントハイチの設定をする 3-38
シツオンの動作条件を変更する 3-39

インクの有効期限を延長する 3-40
インクの有効期限を延長する 3-40
インク供給経路の切替設定 3-42

第 4 章　応用機能ーカット編ー

ピンチローラーの設定をする 4-2
推奨するピンチローラー圧と使用ピンチローラー数 ..4-2
ピンチローラーの個数について 4-2
ピンチローラーの設定 4-3
トンボ付きデータをカットする 4-6
トンボ付きデータをカットする流れ 4-6
トンボ検出モードにする 4-6
トンボ付きデータ作成に関する注意事項 4-7
トンボ検出の設定をする 4-12
トンボの検出方法 4-16
正常にカットできなかったとき確認してください ...4-19
オートカットの設定をする 4-25
分割カットをする 4-26
分割カットの設定をする 4-26
分割カットでデータをカットする 4-28
点線でカットする 4-29
カット順を変更する 4-31
ソーティングの設定をする 4-32
ソーティング手順 4-34
トンボが無いデータをカットするために 4-35
P/C 原点オフセットの設定をする 4-36
P/C スケール補正の設定をする 4-38
その他の設定 4-41
設定内容をコピーする 4-44
設定した内容を初期状態に戻す 4-45
サンプルカットをする 4-46
一定の長さのメディアを複数枚カットする 4-48
同じデータを複数枚カットする 4-50
ステップサイズの設定をする 4-52
その他の便利な機能 4-53
メディアフィード 4-53
カットモードでヒーターを OFF にしたいときは 4-54

第 5 章　　応用編ー共通設定ー

共通設定 5-2
　ピンチローラー設定をする 5-3
　カットホウシキの設定をする 5-4
　カクニンフィードの設定をする 5-5
　エキスパンドの設定をする 5-6
　マージンの設定をする 5-8
　ジュシンデータの設定をする 5-9
　ジコクの設定をする 5-10
　タンイの設定をする 5-11
　マシンメイショウの設定をする 5-12
　キーブザーの設定をする 5-13
装置情報を確認する 5-14
　情報を表示させる 5-14
　設定リストをプリントする 5-16

第 6 章　　お手入れ

日常のお手入れ 6-2
　お手入れ上のご注意 6-2
　メンテナンス洗浄液について 6-2
　外装のお手入れ 6-3
　プラテンの清掃 6-3
　メディアセンサー／トンボセンサーの清掃 6-4
　メディア押えの清掃 6-4
キャッピングステーションのメンテナンス 6-5
　ワイパーとキャップの清掃 6-6
　ワイパーを交換する 6-8
　インク排出路の洗浄をする前に 6-10
　ヘッドノズルの洗浄 6-12
　インク排出路の洗浄 (PUMP チューブ洗浄) 6-14
　長期間使用しない場合 (ホカンセンジョウ） 6-16
インクヘッド周辺の清掃 6-19
ノズル詰まりが復旧しない場合 6-21
　インクを充填する 6-21
　ハイシュツ＆センジョウ 6-22
　インクの初期充填を行う 6-24
電源オフ時のインク詰まりを防止する 6-26
　スリープ中のリフレッシュ間隔を設定する 6-27
　スリープ中のチューブ洗浄間隔を設定する 6-28
　スリープ中のクリーニング間隔を設定する 6-29

定期動作を設定する 6-30
プリント中の定期ワイピングの動作を設定する 6-31
待機中のリフレッシュ間隔を設定する 6-33
待機中のポンプチューブ洗浄間隔を設定する 6-34
待機中のクリーニング間隔を設定する 6-35
その他のメンテナンス機能 6-37
ワイパー交換の警告時期を変更する 6-37
メディア残量表示の設定をする 6-38
ホワイトインクメンテナンス機能 6-40
廃インクタンク確認メッセージが表示されたら 6-43
インクを変更したいとき 6-47
裁断カッター刃の交換 6-48
ピンチローラーの交換 6-50
付属品以外のカッター刃の交換方法 6-51

第 7 章　困ったときは

故障？と思う前に 7-2
画質不良が発生したときは 7-5
ノズル詰まりを解消したいとき 7-5
カートリッジ異常が発生したら 7-6
メッセージを表示するトラブル 7-8
ワーニングメッセージ 7-8
エラーメッセージ 7-11

第 8 章　付録

本体仕様 8-2
プリンタ部仕様 8-2
カット部仕様 8-2
共通仕様 8-4
インク仕様 8-5
警告ラベルについて 8-6
お問い合わせシート 8-8
機能フローチャート 8-9

ご注意

株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。
また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
一例として、本製品を使用したメディア等の損失や、作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。
本機を使用したことによる金銭上の損害および逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

おねがい

- この取扱説明書は、内容について十分注意しておりますが、万一ご不審な点などがありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- この取扱説明書は、改良のため予告なく変更する場合があります。

電波障害自主規制

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合は、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

テレビ / ラジオの受信障害について

本機は、使用時に高周波が発生します。このため、本機が不適切な条件下で設置または使用した場合、ラジオやテレビの受信障害を発生する可能性があります。したがって特殊なラジオ／テレビに対しては保証しておりません。
本機がラジオ／テレビ受信の障害原因と思われましたら、本機の電源を切り、ご確認ください。電源を切り受信障害が解消すれば、本製品が原因と考えられます。
次の手順のいずれか、またはいくつかを組み合わせてお試しください。

- テレビやラジオのアンテナの向きを変え、受信障害の発生しない位置をさがしてください。
- この製品から離れた場所にテレビやラジオを設置してください。
- この製品とは別の電源供給路にあるコンセントにテレビやラジオを接続してください。

はじめに

この度は、プリンタカッター CJV30-60/100/130/160 をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。

「CJV30-60/100/130/160」は、ソルベントインク (4/6/7/8 色) による高画質印刷を実現したプリンタにカッティング機能を搭載したプリンタカッターです。

- 4 色モデル　　：シアン・マゼンタ・イエロー・ブラックの各インクカートリッジを 2 本ずつ使用可能
- 6 色モデル　　：シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック・ライトシアン・ライトマゼンタの各インクカートリッジを 1 本使用可能 (ただし、シアン・マゼンタは 2 本)
- 6 色 + 白モデル：シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック・ライトシアン・ライトマゼンタ・ホワイトの各インクカートリッジを 1 本使用可能 (ただし、ホワイトのみ 2 本)
- 7 色モデル　　：シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック・ライトシアン・ライトマゼンタ・ライトブラックの各インクカートリッジを 1 本使用可能 (ただし、ライトブラックのみ 2 本)
- 8 色モデル　　：シアン・マゼンタ・イエロー・ブラック・ライトシアン・ライトマゼンタ・ホワイト・シルバーの各インクカートリッジを 1 本使用可能 (ファームウェアバージョン V2.40 より対応)

取扱説明書について

- 本書は、「CJV30-60/100/130/160」（以後本機と称します）の操作やメンテナンスなどの取り扱いについて説明いたします。
- 本書をお読みになり、十分理解してからお使いください。また、本書をいつも手元に置いてお使いください。
- 本書は、本機をお使いになる担当者のお手元に確実に届くようお取りはからいください。
- 本書は、内容について十分注意して作成していますが、万一不審な点がありましたら、販売店または弊社営業所までご連絡ください。
- 本書は、改良のため予告なく変更する場合があります。ご了承ください。
- 本書が焼失／破損などの理由により読めなくなった場合は、新しい取扱説明書を弊社営業所にてお買い求めください。
- 取扱説明書の最新版は、弊社ホームページからもダウンロードできます。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。
© 株式会社ミマキエンジニアリング
All Rights Reserved.Copyright

マーク表示について

本書では、マーク表示により操作上の注意内容を説明しています。注意内容により表示するマークは異なります。各マーク表示の持つ意味をご理解し、本機を安全に正しくお使いください。

マーク表示の例

	内　容
	「警告」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずよくお読みになり、正しくお使いください。
	「注意」マークは、指示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。
	「重要」マークは、本機をお使いいただく上で、知っておいていただきたい内容が書かれています。操作の参考にしてください。
	「ヒント」マークは、知っておくと便利なことが書かれています。操作の参考にしてください。
	関連した内容の参照ページを示しています。
	△マークは、注意 (危険・警告を含む) を促す内容があることを告げるものです。中に具体的な注意事項 (左図の場合は感電注意) が描かれています。
	⊘記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容 (左図の場合は分解禁止) が描かれています。
	●記号は、行為を強制したり、指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は差し込みプラグをコンセントから抜いてください) が描かれています。

使用上の警告と注意

⚠ 警　告

分解・改造はしない

- 本機やインクカートリッジの分解・改造は、絶対にしないでください。感電や故障の原因になります。

湿気の多い場所では使用しない

- 湿気の多い場所の使用や、装置に水をかけないでください。火災や感電、故障の原因になります。

換気の悪い部屋では使用しない

- 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用しないでください。
- 換気の悪い部屋、または密閉された部屋で使用する場合は、必ずオプションの乾燥排気ユニットをお使いください。

異常事態の発生

- 万一、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常事態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。すぐに、電源スイッチをオフにして、その後必ずプラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認してから、販売店または弊社営業所に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対に行わないでください。

電源ケーブルの取り扱い

- 付属の電源ケーブルを使用してください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工しないでください。また、重い物をのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源ケーブルが破損し、火災・感電の原因になります。

プラテンについて

- プラテンのヒーターにホコリやゴミ等が付着しないようにしてください。発火、火災の原因になります。

可動部について

- 危険な可動部に、指や体の他の部分を近づけないでください。

インクの取り扱い

- 本機で使用する専用インクは、危険物第 4 種第 2 石油類、または危険物第 4 類第 3 石油類に該当します。よって、引火する可能性があるため、本プリンターを使用する場所は、火気厳禁としてください。

⚠ 注　意

電源供給について

- 右側面にある主電源スイッチはOFF にしないでください。

ヒーターについて

- プラテン上に液体をかけないでください。ヒーターの故障や発火の原因になります。
- プラテンのヒーターが熱いうちに素手で触らないください。火傷の原因になります。

- 本機を移動する場合は、ヒーターの温度が十分下がった状態で行ってください。目安として、ヒーターの電源をOFF にしてから 30 分以上お待ちください。なお、本機の移動は、段差のない同一フロアー内とします。移設の場合は、弊社営業所、または販売店にご連絡ください。

インクの取り扱い

- インクステーションやヘッドを清掃する際は、必ず付属の手袋を着用してください。また、ソルベントインクをお使いの場合は、付属のゴーグルの着用が必要です。

メディアについて

- カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。カールがきついと、プリントやカットに影響を及ぼします。

カッターについて

- カッターの刃先は鋭利です。触らないでください。
- カッターホルダーは振らないでください。刃先が飛び出す場合があります。

換気の悪い部屋では使用しない

- 万一、インクが目に入った場合は、直ちに大量の清浄な水で 15 分以上洗い流し、まぶたの裏まで完全に洗い流してください。また、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 誤ってインクを飲み込んだ場合は、安静にして直ちに医師の診断を受けてください。嘔吐物は、飲み込ませないでください。その後、毒物管理センターに連絡してください。
- 蒸気を大量に吸い込んで気分が悪くなった場合は、直ちに空気の新鮮な場所に移り、暖かくして安静にしてください。また、直ちに医師の診察を受けてください。

- インクには有機溶剤を使用しています。皮膚に付着した場合は、直ちに石けん水で洗った後、水で十分に洗い流してください。

可動部に注意する

- 回転中のグリットローラには触れないでください。
  指の皮や爪をはいでけがをする場合があります。
- プリント中やカット中は、可動部分に顔や手を近づけないでください。髪の毛を巻き込んだり、けがをする場合があります。
- 作業の妨げになるような服装（ダブついた服装、装飾品など）で作業しないでください。また、長い髪の毛は束ねてください。
- プリント／カットの動作に合わせ、各ユニットが自動的に切り替わります。プラテン上に顔や手を近づけないでください。また、小物やツールなどを置かないようにご注意ください。

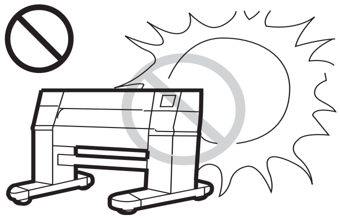
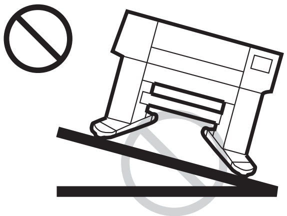
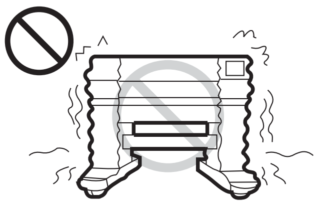
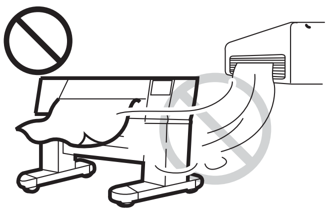
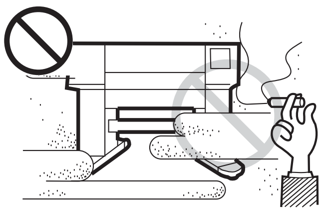
ご注意とお願い

⚠ 警　告

<table>
<tr><th>インクカートリッジの取り扱い</th><th>クランプレバーについて</th></tr>
<tr><td rowspan="5">• 本機の専用インクをお使いください。専用インク以外を使用して故障した場合の修理は、お客様の負担になりますのでご了承ください。
• 本機の専用インク以外のインクを使用すると、装置保護のため、動作しません。
• 本機の専用のインクは、他のプリンタで使用しないでください。プリンタが壊れます。
• カートリッジ内のインクを詰め替えないでください。詰め替えたインクを使用して生じた不具合について、弊社はいっさいの責任を負いかねます。
• インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、3 時間以上室温環境下に放置してから使用してください。
• インクカートリッジは、取付直前に開封してください。開封した状態で長時間放置しておくと、正常にプリントできない場合があります。
• インクカートリッジは、冷暗所で保存してください。
• インクカートリッジや廃インクタンクは、子供の手の届かない場所に保管してください。
• インクカートリッジは、開封してから 3 カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものは、プリント品質が低下します。
• インクカートリッジを強くたたいたり、激しく振り回さないでください。カートリッジからインクが漏れる場合があります。
• インクカートリッジの基板接点部分は、手で触れたり、汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。
• 空になったインクカートリッジ・廃インクは、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。</td><td>• プリント中にクランプレバーを上げないでください。プリントが終了してしまいます。</td></tr>
<tr><td>メディアの取り扱い</td></tr>
<tr><td>• 推奨メディアをご使用ください。
安定した高画質でプリントするには、弊社推奨のメディアをご使用ください。
• メディアの特性に合わせ、ヒーター温度を設定してください。
メディアの種類や特性に合わせて、プリヒーター、プリントヒーターおよびアフターヒーターの温度を設定してください。また、専用 RIP からプロファイル指定により自動温度設定を操作パネルから指定する方法があります。指定方法は、お使いの RIP の取扱説明書を参照してください。
• メディアの伸縮にご注意ください。
包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で 30 分以上さらしてから装置に取り付けてください。
• カールしたメディアは使用しないでください。
紙詰まりの原因になるだけでなく、画質にも影響を及ぼします。
また、カールのきついメディアは、カールを取り除いてから使用してください。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。</td></tr>
<tr><td>メディアとホコリについて</td></tr>
<tr><td>• メディアは袋に入れて保管してください。メディアに付着したホコリを拭き取ると、静電気により逆効果になります。
• 夜帰宅する際は、メディアをロールハンガーに掛けっぱなしにしないでください。メディアの上にホコリが付着してしまいます。</td></tr>
</table>

⚠ 警　告
メンテナンス上の注意
• できるだけホコリの少ない部屋で利用してください。悪環境下では、リフレッシュレベルを 2 または 3 に設定してください。(P.3-31 「リフレッシュの設定」)
• プリント中に、突然インクの雫がヘッドからメディアに落ちるのもホコリが原因です。この場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(P.3-26 「オートクリーニングの設定をする」)
• インクステーションやヘッドをクリーニングする際は、必ず付属の手袋を着用してください。また、ソルベントインクをお使いの場合は、付属のゴーグルの着用が必要です。
• キャッピングステーション、およびワイパーの拭き掃除 (ホコリ、紙粉) は、こまめに行ってください。
定期交換部品
• 本機には定期的に交換する部品があります。本機を末永くご利用いただくためにも、必ず、年間保守契約にご加入ください。

設置上のご注意

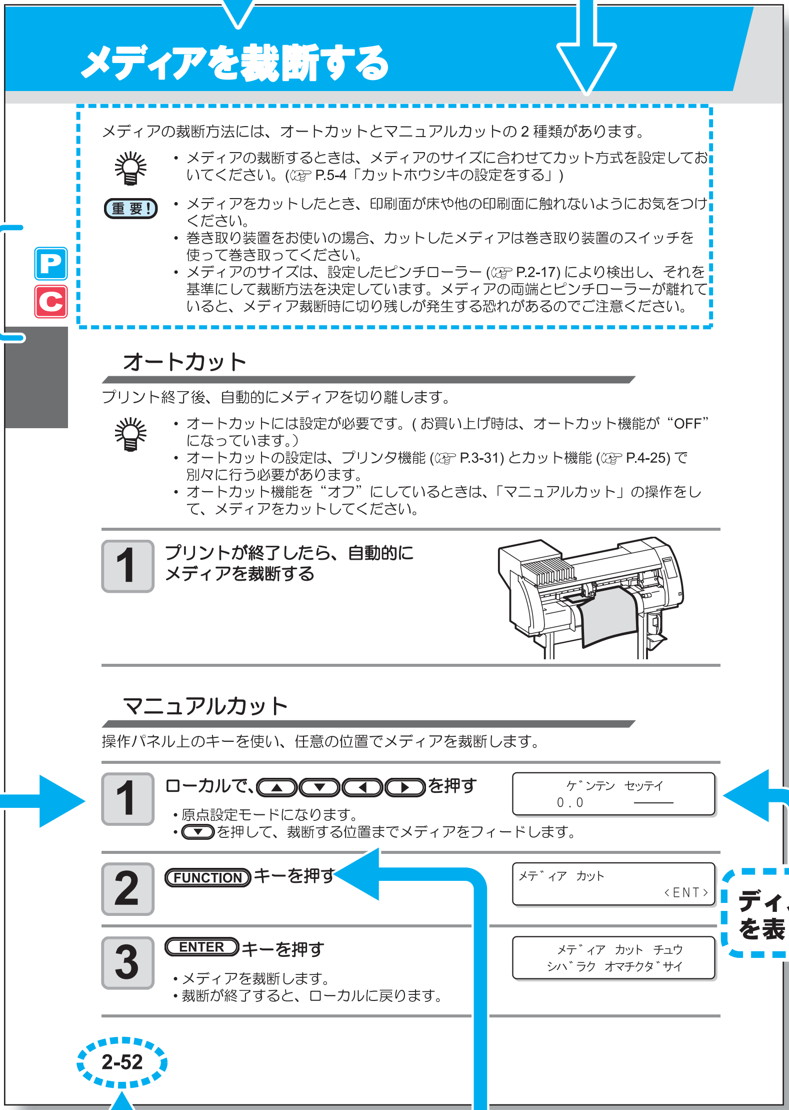
⚠ 注　意		
直射日光が当たる場所	水平でない場所	温度や湿度の変化が激しい場所
		•次の環境下でお使いください。 •使用環境： 20 ～ 35 ℃ 35 ～ 65 % (Rh)
振動が発生する場所	エアコンなどの風が直接当たる場所	火を使う場所
		

本書の読み方

プリンタモードの説明ページまたは、カットモードの説明ページであることを表します。
P :プリンタモード
C :カットモード

ページのタイトルです。

機能の概要を文章やイラストで説明します。また、設定値や注意事項など、事前に知っておいていただきたい内容を説明します。



メディアを裁断する

メディアの裁断方法には、オートカットとマニュアルカットの 2 種類があります。

- メディアの裁断するときは、メディアのサイズに合わせてカット方式を設定しておいてください。(☞ P.5-4「カットホウシキの設定をする」)

重要!
- メディアをカットしたとき、印刷面が床や他の印刷面に触れないようにお気をつけください。
- 巻き取り装置をお使いの場合、カットしたメディアは巻き取り装置のスイッチを使って巻き取ってください。
- メディアのサイズは、設定したピンチローラー (☞ P.2-17) により検出し、それを基準にして裁断方法を決定しています。メディアの両端とピンチローラーが離れていると、メディア裁断時に切り残しが発生する恐れがあるのでご注意ください。

オートカット

プリント終了後、自動的にメディアを切り離します。

- オートカットには設定が必要です。(お買い上げ時は、オートカット機能が“OFF”になっています。)
- オートカットの設定は、プリンタ機能 (☞ P.3-31) とカット機能 (☞ P.4-25) で別々に行う必要があります。
- オートカット機能を“オフ”にしているときは、「マニュアルカット」の操作をして、メディアをカットしてください。

1 プリントが終了したら、自動的にメディアを裁断する

マニュアルカット

操作パネル上のキーを使い、任意の位置でメディアを裁断します。

1 ローカルで、▲▼◀▶を押す
- 原点設定モードになります。
- ▼を押して、裁断する位置までメディアをフィードします。

ゲンテン セッテイ
0.0 ———

2 FUNCTION キーを押す

メディア カット
<ENT>

3 ENTER キーを押す
- メディアを裁断します。
- 裁断が終了すると、ローカルに戻ります。

メディア カット チュウ
シバラク オマチクダサイ

2-52

操作手順の番号です。

ディスプレイ表示を表します。

ページ番号です。(2章の－52ページ)

文章中のボタンを ◯ 囲みで表しています。

第 1 章
ご使用の前に

この章では ...

本装置の各部の名称や設置方法など、ご使用の前に知っておいていただきたいことについて説明します。

本装置の移動 1-2
設置場所について 1-2
使用環境温度について 1-2
本装置の移動 1-3
各部の名称とはたらきについて....... 1-4
装置前面 1-4
背面 / 側面 1-5
操作パネル 1-6
ヒーター 1-7
メディアセンサー 1-7
キャリッジ 1-8
キャッピングステーション 1-9
ピンチローラーとグリッドローラー 1-9
ペンラインゴム 1-10
メディアについて 1-11
使用可能メディアサイズ 1-11
メディア取り扱い上の注意 1-11
ケーブルを接続する........................ 1-12
USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する 1-12
電源ケーブルを接続する 1-13
インクカートリッジを入れる 1-14
インクカートリッジ取り扱い上のご注意 1-15
ES3 インクのシルバー、ホワイトインクに関するご注意 1-16
メニューモードについて................ 1-17

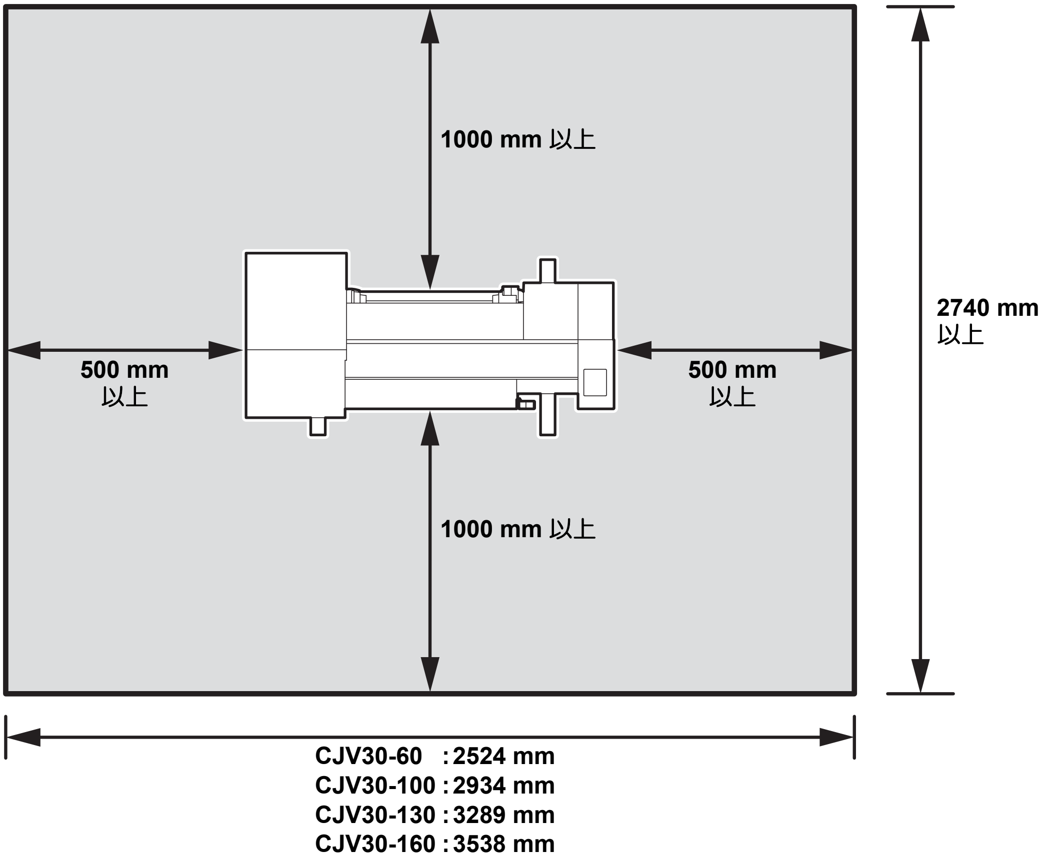
本装置の移動

P
C

設置場所について

本装置を組み立てる前に、設置するスペースを確保してください。
本体の大きさとプリント／カットのために必要なスペースを考慮して設置します。

機　　種	幅	奥行き	高　　さ	全体重量
CJV30-60	1524mm	739mm	1424mm	110kg
CJV30-100	1934mm	739mm	1424mm	130kg
CJV30-130	2289mm	739mm	1424mm	145kg
CJV30-160	2538mm	739mm	1424mm	160kg



使用環境温度について

本装置は安定したプリントを行うために、20 ～ 35 ℃の環境でご使用ください。
周囲の温度条件により、ヒーター温度が設定値まで上昇しない場合があります。

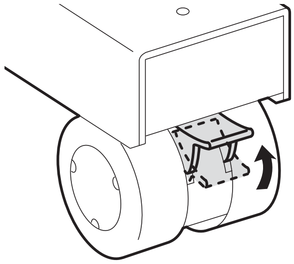
本装置の移動

本装置をやむを得ず、段差のない同一フロアー内で移動する場合は、下記のように行ってください。

重要！
- 本装置の移設の際は、弊社営業所または販売店までご連絡ください。
お客様が本装置の移設を行うと、故障や破損の原因になります。
本装置の移設は、必ず専門の担当者におまかせください。

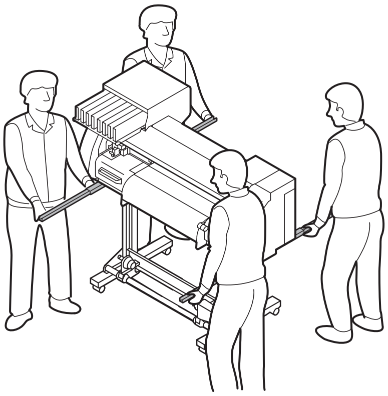
注意
- 移動するときは、大きな振動を与えないでください。
- 移動後は、必ずキャスターをロックしてください。

1 キャスターのロックを解除する

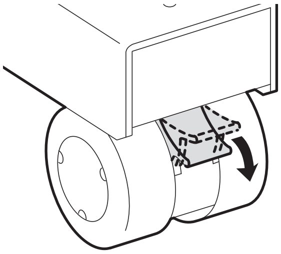


2 図のようにして、移動する

- 本装置を移動するときは、必ず 4 人以上で行ってください。
- カバーを押して移動すると、カバーが割れる可能性があります。



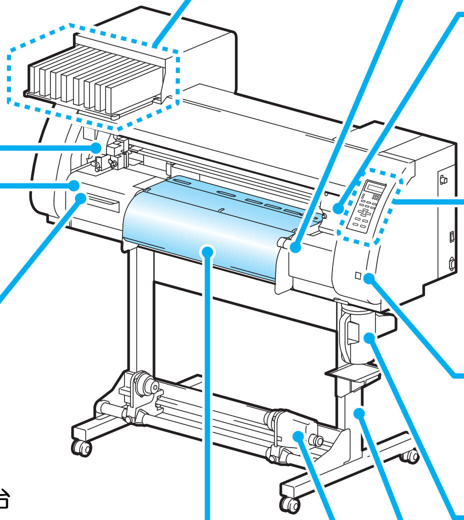
3 キャスターをロックする



各部の名称とはたらきについて

P
C

装置前面



メンテナンスカバー
メンテナンス時にカバーを開けます。電源スイッチがオフの場合でも、カバーは閉じておいてください。

キャリッジ（カッターユニット）
カットを行うヘッドがあり、左右にスキャンします。

インクカートリッジ
各色のインクが入っています。

カートリッジ保護カバー
440cc カートリッジの突出によるケガや装置の破損などを防止します。
(インクカートリッジの下にあります）

クランプレバー (前)
ピンチローラを上下して、メディアを保持 / 解放します。

キャリッジ（プリンタユニット）
プリントを行うヘッドがあり、左右にスキャンします。

操作パネル
本装置に必要な設定を行う操作キーや、操作項目を表示するディスプレイがあるパネルです。

電源スイッチ *1
本装置の電源をオン / オフします。

ツール置き台
カッター、ペンなどの小物を置く台です。

廃インクタンク
廃インクを溜めるタンクです。

プラテン
プラテンに沿って、メディアを出力します。
プラテン内の３カ所にヒーターが内蔵されています。

プリントヒーター / アフターヒーター
プリント中のインクの定着と乾燥を行います。
（プラテンの内側にあります。）

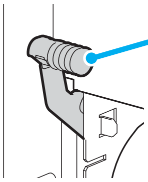
脚
本体を支える部分です。移動するためのキャスタが付いています。

巻き取り装置
プリント終了後のロールメディアを自動で巻き取ります。

---

*1 : 電源スイッチをオンにすると操作パネル下の電源スイッチが緑色に点灯し、オフにすると点滅します。主電源スイッチ（☞ P.1-5）をオンにしておくと、電源スイッチをオフにしても定期的にインク詰まり防止動作を行います。(スリープ機能 ☞ P.6-26)

背面 / 側面



クランプレバー（後）

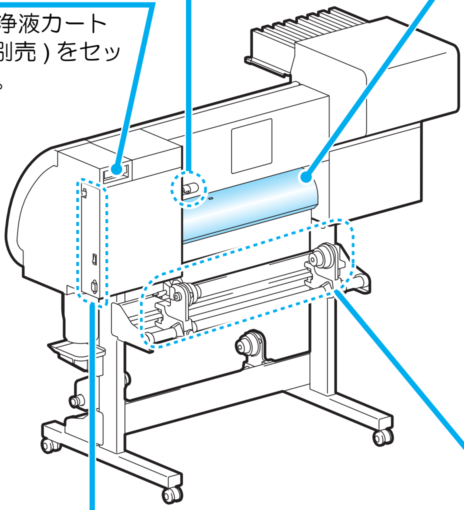
本装置前面にあるクランプレバーと連動しています。

プリヒーター

プリント前のメディアに予熱をかけます。（プラテンの内側にあります。）

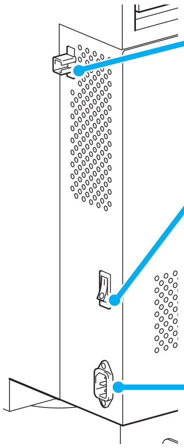
洗浄液カートリッジ

専用の洗浄液カートリッジ (別売) をセットします。



ロールホルダー

ロールメディアの紙管の左右に入れて、メディアを保持します。２インチと３インチの紙管に対応しています。



USB コネクタ

USB2.0 インターフェースコネクタです。

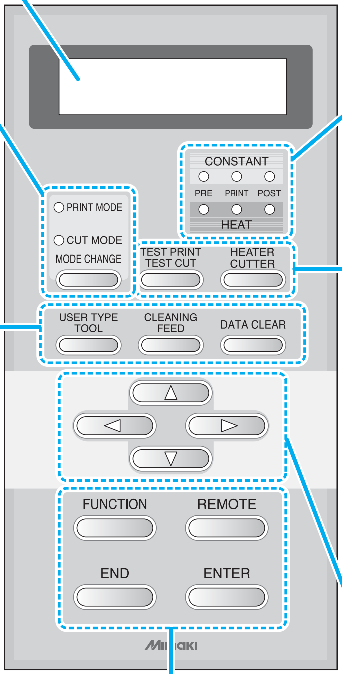
主電源スイッチ

本装置の主電源をオン / オフします。インク詰まり防止のため、常に主電源はオンにしてください。

AC インレット

電源ケーブルを接続します。

操作パネル



ディスプレイ

本装置の状態、設定項目、エラーなどを表示します。

MODE CHANGE キー

プリンタモード (PRINT MODE ランプ点灯) とカットモード (CUT MODE ランプ点灯) を切り替えるときに押します。

USER TYPE/TOOL キー

プリンタモードでユーザータイプを選ぶときや、カットモードでツール条件を選ぶときに使用します。

CLEANING/FEED キー

プリンタモードでインク詰まりを起こしている場合のヘッドのクリーニングを実行するときや、カットモードメディアをフィードするときに使用します。

DATA CLEAR キー

本装置が受信したデータを消去します。

CONSTANT ランプ

ヒーターの温度が設定温度に達すると緑色に点灯します。

HEAT ランプ

ヒーター加熱中にオレンジ色に点灯します。

TEST PRINT/TEST CUT キー

プリントモード / カットモードそれぞれで、プリント不良がないか確認するためときに使用します。

HEATER/CUTTER キー

プリントヒーター、プリヒーター、アフターヒーターの温度を設定します。現在のプラテンの温度も確認できます。

ジョグキー ◀ ▶ ▲ ▼

《ローカル》でのヘッドやメディアの移動、プリント条件の項目選択に使用します。

FUNCTION キー

各種機能設定メニューに入ります。

REMOTE キー

《ローカル》と《リモート》を切り替えます。

END キー

直前に入力した設定のキャンセルや、設定メニューを 1 つ前の階層に戻す場合に使用します。

ENTER キー

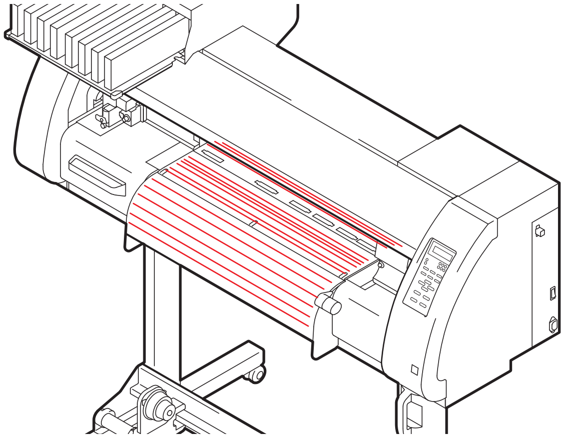
1 段下の階層メニューに移動する場合や、設定値の確定に使用します。

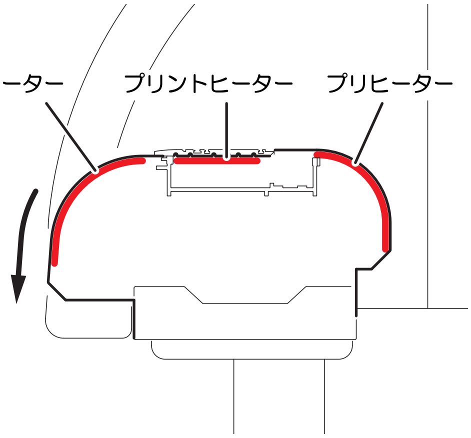
ヒーター

プラテンには、プリヒーター・プリントヒーター・アフターヒーターが内蔵されています。
プリヒーターは、印字前のメディアを予熱し、プリント部での急激な温度変化を抑えます。
プリントヒーターは、印字する際の画像品質を上げます。アフターヒーターは印刷後のインクを乾燥させます。

注意

- ヒーターの加熱中は、プラテンが高温になっています。フロントカバー（オプション）を開ける際やメディアを交換する際は、ヒーターの温度を下げ、プラテンの温度が十分下がってから行ってください。火傷の原因になります。
- 薄手のメディアに交換する際は、ヒーターの温度を下げてプラテンの温度が十分下がってから行ってください。プラテンが高温の状態で行うと、メディアがプラテンに貼り付いたり、シワやカールの原因になります。



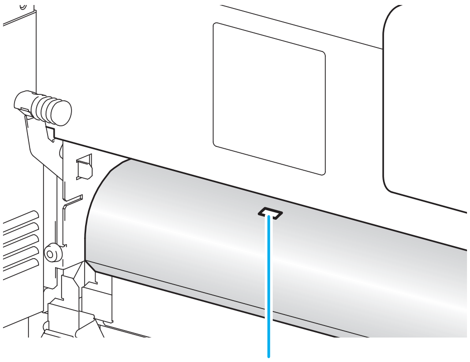


メディアセンサー

メディアセンサーは、メディアの有無とメディア長を検出します。
プラテン上（背面側）にメディアセンサーが 1 箇所あります。

重 要！

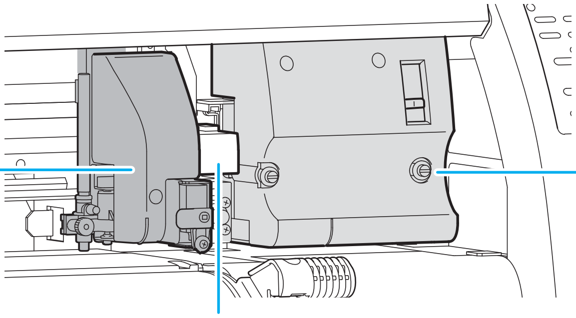
- メディアは、必ずプラテン後部側のメディアセンサーを覆い隠すようにセットしてください。センサー上にメディアがないと、メディア検出を実行できません。



P
C

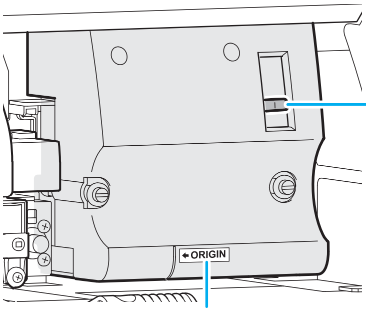
キャリッジ

キャリッジは、プリンタユニットとカッターユニットで構成されています。

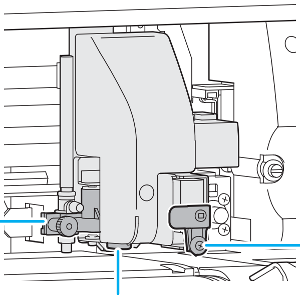


*1 連結ユニットをプリンタユニットへ切り替えるときの移動速度について、カッターユニットがプラテン上にある状態でプリンタユニットへ切り替える際、裁断カッターによる危険防止のため、移動開始 20cm を低速動作します。

プリンタユニット



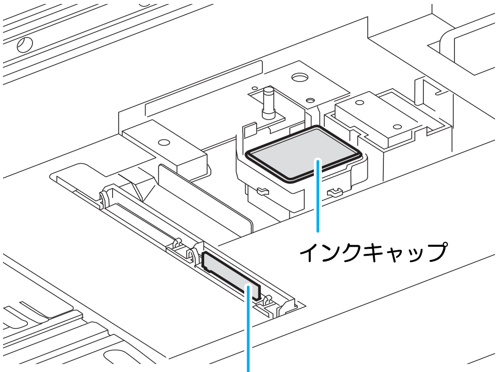
カッターユニット



キャッピングステーション

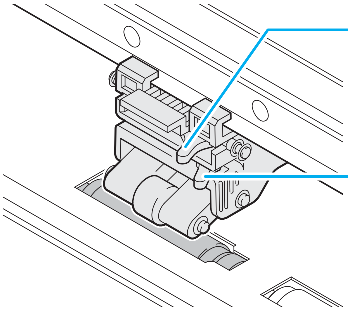
- キャッピングステーション内をクリーニングする場合は、必ず付属のゴーグルを着用してください。目にインクが入る危険があります。

キャッピングステーションは、インクキャップやヘッドのメンテナンスに必要なワイパなどで構成されています。
インクキャップは、インクヘッドのノズル乾きを防ぎます。
ワイパは、ヘッドのクリーニングに使用します。
ワイパは、消耗品です。ワイパが変形したりメディアが汚れる場合は、新しいワイパに交換してください。（P.6-8）



ピンチローラーとグリッドローラー

ピンチローラーとグリッドローラーでメディアを押さえます。



圧力切替レバー
メディアを押さえる圧力を切り替えます。圧力の設定は、P.3-5、P.4-2 の「ピンチローラーの設定をする」を参照してください。

ON/OFF 切替レバー
ピンチローラーの ON/OFF を切り替えます。設定は、P.3-5、P.4-2 の「ピンチローラーの設定をする」を参照してください。

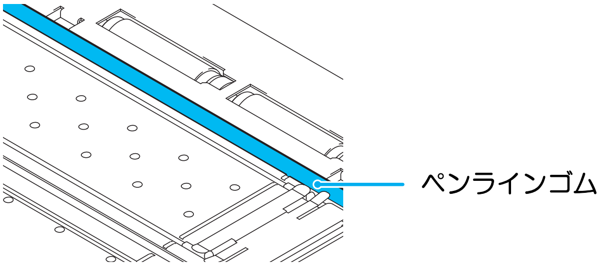
重 要！

- 圧力切替レバーおよび ON/OFF 切替レバーは手で切り替えないでください。誤動作の原因となります。

ペンラインゴム

ペンラインゴム上でカットとペン作図を行います。

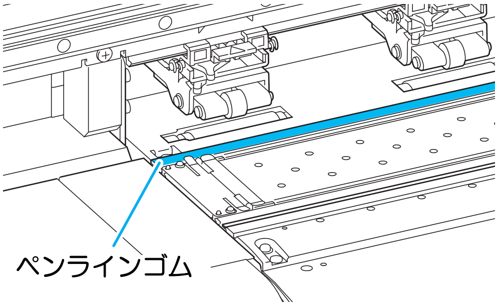
点線カットをするときは、下記のようにしてください。



点線カットをするときは

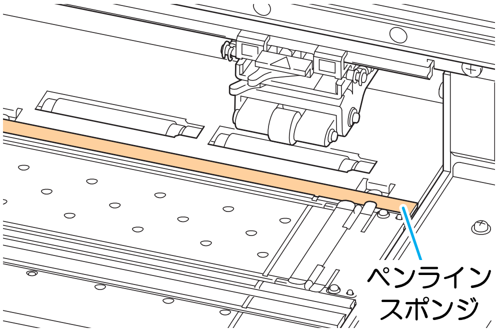
1 ペンラインゴムを取り外す

(1) ペンラインゴムの左端とプラテンの間にマイナスドライバなどを差し込む
(2) ペンラインゴムを持ち上げる



2 ペンラインスポンジを取り付ける

(1) ペンラインスポンジの右端をプラテンの右端に合わせる
(2) ペンラインスポンジを取り付ける



重 要！ ペンラインゴムを取り付けるとき、以下のことにお気をつけください。

- 取り付けるときは無理に引っ張らず、上から押さえるようにして、丁寧に取り付けてください。
- ペンラインゴムを無理に引っ張ると、ペンラインの端がはがれて、カット品質が低下することがあります。
- 交換したペンラインは、大切に保管しておいてください。

- ペンラインゴム・ペンラインスポンジは消耗品です。必要に応じて交換してください。

メディアについて

使用可能なメディアサイズと、その取扱方法について説明します。

使用可能メディアサイズ

機種名		CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
推奨メディアの種類	プリント時	FF、ターポリン、塩ビフィルム、MS 塩ビ、MS ターポリン			
	カット時	MS 塩ビ、塩ビシート、蛍光シート、反射シート			
最大幅		620mm	1030mm	1371mm	1620mm
最小幅		100mm	100mm	100mm	100mm
最大プリント / カット幅		610mm	1020mm	1361mm	1610mm
ロールメディア	厚さ	1.0mm 以下			
	ロール外径	Φ180mm 以下			
	ロール重量	25kg 以下			
	紙管内径	2 インチまたは 3 インチ			
	プリント面	ロール外側面			
	巻き終り処理	紙管にテープ止めまたは弱粘着			

メディア取り扱い上の注意

メディアの取り扱いについて、次の点にご注意ください。

重 要！

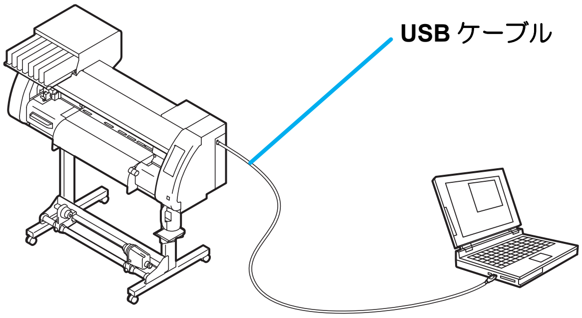
- **推奨メディアをご使用ください。**
  安定した高画質でプリントをするには、弊社推奨のメディアをご使用ください。
- **メディアの特性に合わせ、ヒーター温度を設定してください。**
  メディアの種類や特性に合わせて、プリヒーターおよびプリントヒーターの温度を設定してください。また、専用 RIP からプロファイル指定により自動温度設定を操作パネルから指定する方法があります。指定方法は、お使いの RIP の取扱説明書を参照してください。
- **メディアの伸縮にご注意ください。**
  包装を開けて間もないメディアは、使用しないでください。室内の温度や湿度によって、メディアが伸縮する場合があります。包装を開けて、使用する場所で 30 分以上さらしてから装置に取り付けてください。
- **カールしたメディアは使用しないでください。**
  紙詰まりの原因になります。コーティングした定型サイズ紙をまるめて保管する場合は、コーティング面が外側になるようにしてください。

ケーブルを接続する

P
C

USB2.0 インターフェイスケーブルを接続する

コンピュータと本装置をUSB2.0インターフェイスケーブルで接続します。



注 意

- ご使用のアプリケーションが USB2.0 インターフェイスに対応している必要があります。
- USB2.0 インターフェイスがコンピュータに付いていない場合は、お近くの RIP メーカーまたは弊社営業所までお問い合わせください。

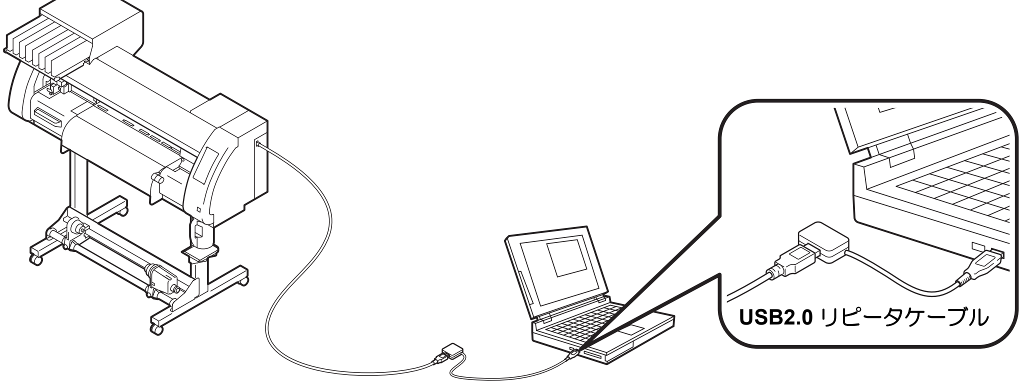
USB 2.0 インターフェイスについての注意事項

重 要！

- ご使用の アプリケーション が、USB 2.0 に対応している必要があります。

● 1 台のパソコンに複数の CJV30 を接続する場合

接続しているCJV30それぞれに、異なる"マシンメイショウ"を設定してください。（☞ P.5-12）
1 台のパソコンに CJV30 を複数台接続する場合、CJV30 を正常に認識できない場合があります。
複数の USB ポートが付いているパソコンの場合は、他の USB ポートに接続して CJV30 を認識できるか確認してください。USB ポートを変えても CJV30 を認識しない場合は、市販の USB2.0 リピータケーブルを使用してください。

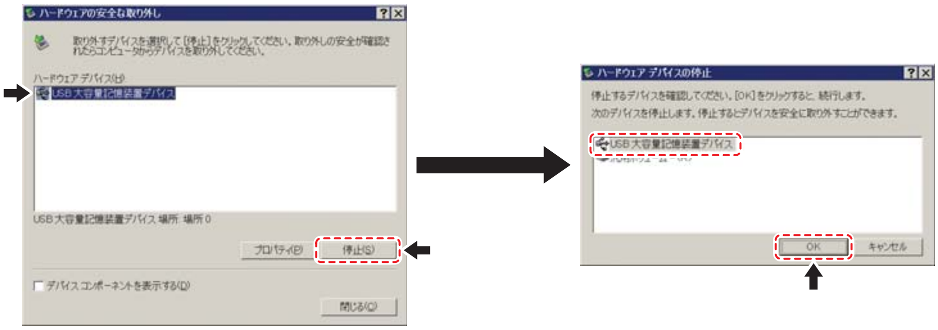


● USB ハイスピードモードの周辺機器について

CJV30 と USB ハイスピードモードで動作する周辺機器 (USB メモリ、USB-HDD など) を併用した場合、USB 機器が認識できない場合があります。
外付けの USB のハードディスクドライブなどを接続したパソコンに CJV30 を接続した場合、CJV30 へのデータ出力速度が遅くなる場合があります。よって、プリント中にヘッドが右端または左端でいったん停止する原因になります。

● USB メモリの抜きかた

CJV30 を接続してあるパソコンに USB メモリを差してある場合は、「ハードウェアの安全な取り外し」により「停止」させてから抜いてください。
[ERROR 10 コマンドエラー] 発生の原因になります。
スプールデータをハードディスクにコピーした後、プリント出力してください。

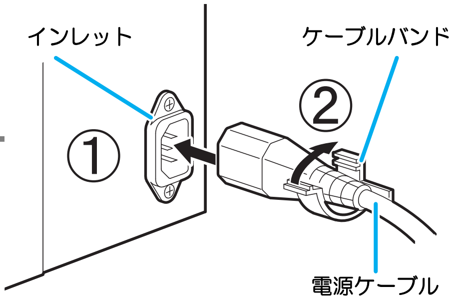


電源ケーブルを接続する

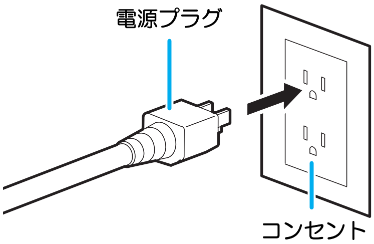
1 電源ケーブルを本装置のインレットに差し込む

2 ケーブルバンドを固定する

- 本装置に備え付けのケーブルバンドでケーブルを固定します。



3 電源プラグをコンセントに差し込む



警 告

- 付属品の電源ケーブル以外は使用しないでください。

重 要！

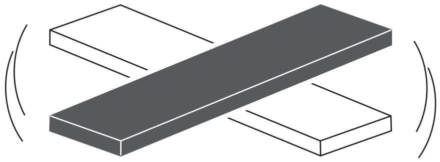
- 必ず本装置の近くにある電源コンセントに接続し、容易に取り外しができるようにしてください。
- 電源ケーブルのプラグは、アース処理したコンセントに接続してください。感電・火災の原因となります。

インクカートリッジを入れる

P

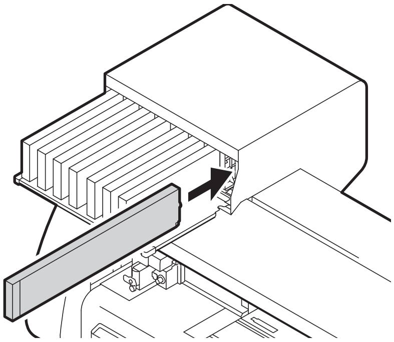
インクカートリッジを挿入します。

1 図のようにして、インクカートリッジを振る



2 インクカートリッジを差し込む

- IC チップがある方を左側に向けて、縦にして差し込んでください。
- ディスプレイには、次のように色を表示します。
  ブラック : K, シアン :C, マゼンダ :M,
  イエロー : Y, ライトシアン : c,
  ライトマゼンダ : m , ホワイト :W
  シルバー : S, ライトブラック : k



インクカートリッジを交換する

ディスプレイに [インクエンド] や [インクニアエンド] などが表示されたときは、次のようにしてください。

● [インクエンド] が表示されたとき

(1) 交換するインクカートリッジを引き抜く
(2) IC チップの向きに注意して、新しいインクカートリッジを差し込む

● [インクニアエンド] が表示されたとき

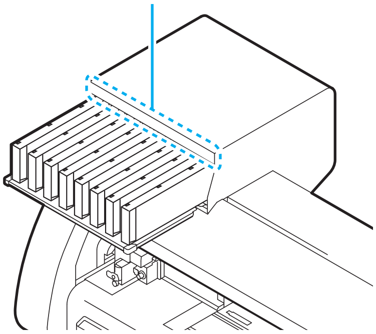
インク残量が少なくなっています。続けてプリントをすることはできますが、プリント中にインクがなくなる恐れがあります。早めにインクカートリッジの交換をすることをお勧めします。

重 要 !

- [インクニアエンド] 表示中は、プリント中クリーニングの設定ができなくなります。（P.3-28）

インクカートリッジランプについて

インクカートリッジの上にあるランプで、セット中のインクカートリッジの状態を確認することができます。



ランプの状態		説　明
上段 赤色ランプ	消灯	異常なし
	点滅	次のいずれかのエラーを発生しています。 ・インクニアエンド ・インクエンド ・インク期限切れ (1ヶ月)
	点灯	次のいずれかのエラーを発生しています。 ・インクの残量が 0 になった ・インクカートリッジが挿入されていない ・その他のインクエラー（☞ P.7-6）
下段 緑色ランプ	消灯	異常なし
	点灯	4 色インクセットでお使いのとき、本機はインク残量の少ないインクカートリッジからインク供給を行います。この場合、使用中のカートリッジのランプが緑点灯します。

インクカートリッジ取り扱い上のご注意

- ソルベントインクには有機溶剤を使用しております。皮膚に付着した場合は、直ちに石けん水で洗った後、水で十分に洗い流してください。万一、インクが目に入った場合は、直ちに大量の清浄な流水で 15 分以上洗い流し、まぶたの裏まで完全に洗い流してください。できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 本装置には専用のインクカートリッジをお使いください。本装置は、専用のインクカートリッジを認識して動作します。インクカートリッジ等の改造により故障した場合は、保証期間内であっても保証の対象外になります。
- インクカートリッジを寒い所から暖かい所に移した場合は、３時間以上、室温環境下に放置してから使用してください。
- インクカートリッジは開封してから 3 カ月以内に使い切ってください。開封後、長時間経過したものはプリント品質が低下します。
- インクカートリッジは冷暗所で保存してください。
- インクカートリッジは、子供の手の届かない場所に保管してください。
- 空になったインクカートリッジは、産業廃棄物の処理業者に処理を依頼してください。

- インクカートリッジを強く振らないでください。強く振ったり、振り回したりすると、カートリッジからインクがもれることがあります。
- インクカートリッジのインクを詰め替えないでください。故障の原因になります。また､インクを詰め替えて使用したことによって生じた不具合について､弊社はいっさい責任を負いかねます。
- インクカートリッジの基板接点部分は、手で触れたり汚したりしないでください。基板の故障の原因になります。

- インクカートリッジは分解しないでください。

ES3 インクのシルバー、ホワイトインクに関するご注意

ES3 インクのシルバー、ホワイトインクをお使いになる前に必ずお読みください。

- ES3 インクのシルバー、ホワイトインクは、ファームウェアバージョン 2.40 よりご使用になれます。

● シルバーインク、ホワイトインクは時間がたつと顔料が沈降します。

ES3 インクのシルバー、ホワイトインクは、長時間放置していると、顔料が沈降する性質があります。
顔料が沈降したインクでそのままプリントすると、色ムラなどが発生する原因になります。

● インクを長時間使用していなかった場合は、「特色メンテナンス」をしてからプリントしてください。

装置にセットしたまま、長時間使用していなかったシルバーインクやホワイトインクを使ってプリントをするときは、顔料の沈降による色ムラの防止のため「特色メンテナンス」を実行してください。(☞ P.2-40「特色メンテナンスを行う」)

● インクを長時間放置していると、電源投入時に警告メッセージを表示します。

インクを長時間放置していると、電源投入時にメンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージを表示します。
P.2-42「特色メンテナンスの実行警告表示について」を参照して、メンテナンスを行ってください。

重 要！

- ES3 インクのシルバーインクやホワイトインクを充填した後は、本機の主電源を切らないでください。(プリンタをご使用にならない場合は、装置前面の電源スイッチで電源をオフしてください。)

メニューモードについて

本装置には 4 つのモードがあります。各メニューモードについて説明します。

ノットレディ

メディアを検出する前のモードです。

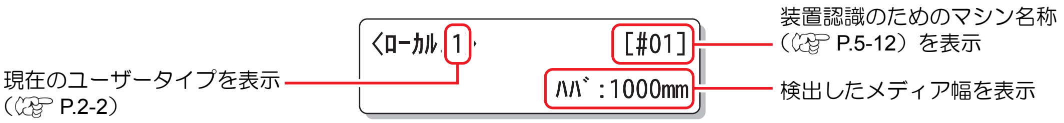
- (REMOTE)/(TEST PRINT/TEST CUT) キー以外のキーが有効です。

ローカル

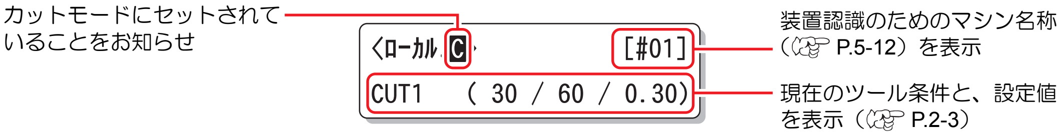
ローカルは、準備状態のモードです。
ローカルには [プリンタモード] と [カットモード] の 2 種類があります。

- (MODE CHANGE)キーを押して、プリンタモードとカットモードを切り替えます。
- 全てのキーが有効です。
- コンピュータから、データを受信できます。ただし、プリントやカットは行いません。

プリンタモード中のローカル表示



カットモード中のローカル表示



ファンクション

ローカル時に、(FUNCTION)キーを押すとファンクションモードになります。
各ファンクション機能を設定します。

リモート

受信したデータをプリント / カットします。
プリント / カット中に(REMOTE)キーを押すと、一時停止します。

第２章
基本的な使い方

この章では ...

プリントするためのインク／メディアの準備や、カットするためのツールの取付方法から、プリント／カットまでの手順や設定方法について説明します。

プリント時のユーザータイプについて...... 2-2
　ユーザータイプに登録できる設定内容 2-2
　登録したユーザータイプを使用する 2-2
カット時のツール条件について................ 2-3
　ツール条件の種類と選択方法 2-3
　ツール条件を登録する 2-4
　カット品質を上げる 2-6
作業の流れ 2-7
電源を入れる / 切る 2-8
　電源を入れる 2-8
　電源を切る 2-9
ツールを取り付ける............................... 2-10
　カッターを使う場合 2-10
　ツールを交換する 2-13
　ボールペンの取り付け方 2-14
メディアをセットする............................ 2-15
　ヘッド高さを調整する 2-15
　メディアに合わせてピンチローラーの
　位置を調整する 2-17
　ロールストッパーについて 2-22
　最大プリントエリア / カットエリアに
　ついて 2-23
　メディアをセットするときの注意事項 .. 2-24
　ロールメディアをセットする 2-25
　巻き取り装置について 2-29
　リーフメディアをセットする 2-31
　原点を変更する場合は 2-33
テストプリントをする............................ 2-34
　通常のテストパターンでテストプリント
　を行う 2-35
　ホワイト確認用のテストパターンで
　テストプリントを行う 2-36
　ホワイトノズル状態確認警告
　(SS21 ホワイトインク使用時のみ) 2-37
ヘッドクリーニング 2-38
　ヘッドクリーニングについて 2-38
　テストプリントの結果に合わせて
　ヘッドクリーニングを行う 2-39
　特色メンテナンスを行う 2-40
テストカット (試し切り) をする........... 2-44
ヒーターの準備をする............................ 2-46
　ヒーターの温度設定を変更する 2-46
　ヒーターの温度を確認する 2-47
データをプリントする............................ 2-48
　プリントを開始する 2-48
　プリントを中止する 2-49
　受信したデータを消去する
　(データクリア) 2-49
カットする.. 2-50
　カットを開始する 2-50
　カットを中断する 2-50
　カットを再開する 2-50
　カットを中止する（データクリア） 2-51
　カッターユニットを退避させる 2-51
メディアを裁断する 2-52

プリント時のユーザータイプについて

お使いになるメディアに合わせたプリント条件をタイプに登録しておけば、違う種類のメディアに交換したとき、タイプを変更するだけで最適のプリント条件を設定できます。

ユーザータイプに登録できる設定内容

ユーザータイプ（1 ～ 4）への登録方法は、P.3-2 を参照してください。

設定項目	参照ページ	設定項目	参照ページ
ピンチローラーの設定	P.3-5	プリフィードの設定	P.3-30
メディア補正の設定	P.3-9	カラーパターンの設定	
ドット位置補正	P.3-12	リフレッシュの設定	
ヒーターの設定	P.3-14	吸着の設定	
プリント方式の設定	P.3-18	フィード速度レベルの設定	
重ね塗りの設定	P.3-30	優先順位の設定	P.3-24
乾燥時間の設定	P.3-23	オートクリーニングの設定	P.3-26
オートカットの設定	P.3-30	プリント中クリーニングの設定	P.3-28

登録したユーザータイプを使用する

1 ローカルで（MODE CHANGE）キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
            ﾊﾊﾞ：＊＊＊＊mm
```

2 （USER TYPE/TOOL）キーを押す

3 （▲）（▼）を押して、ユーザータイプ（1 ～ 4）を選ぶ

- （USER TYPE/TOOL）キーを押しても選べます。

```
   ﾕｰｻﾞｰﾀｲﾌﾟ  ﾍﾝｺｳ
ﾀｲﾌﾟ （1）－＞ ＜2＞   ：ent
```

4 （ENTER）キーを押す

```
<ローカル.2>          [#01]
            ﾊﾊﾞ：＊＊＊＊mm
```

選択したユーザータイプの番号

（USER TYPE/TOOL）を使わないでユーザータイプを選ぶには

（USER TYPE/TOOL）キーを押さなくても、プリンタモードから（FUNCTION）キーを使ってユーザータイプを選ぶことができます。

1. （MODE CHANGE）を押してプリントモードにする
2. （FUNCTION）を押して［セッテイ］を確認し、（ENTER）を押す
3. （▲）（▼）を押してユーザータイプ（1 ～ 4）を選ぶ
4. （ENTER）を押す

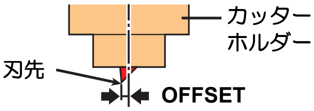
カット時のツール条件について

お使いになるメディアに合わせたカット条件をツール条件に登録しておけば、違う種類のメディアに交換したとき、ツール条件を変更するだけで最適のカット条件を設定できます。

ツール条件の種類と選択方法

ツール条件には、カット条件とペン作図条件があります。
ツール条件は、USER TYPE/TOOL キーを押して選び、ENTER キーを押して決定します。
ツール条件の登録方法は、P.2-4 を参照してください。

	種　類	説　明
CUT1 ～ CUT3	SPD PRS OFS [CUT1] 30 60 0.30 ↓ USER TYPE/TOOL SPD PRS OFS [CUT2] 20 50 0.50 ↓ USER TYPE/TOOL SPD PRS OFS [CUT3] 20 50 0.30 ↓ USER TYPE/TOOL SPD PRS [PEN] 30 80 ↓ USER TYPE/TOOL SPD PRS OFS [HALF] 20 40 0.30	カッターを使用する場合のツール条件です。 次の場合に表示されます。 「カットモードの設定」を“コウヒンイ”に設定 (☞ P.4-42) 「メディア設定」を“オモイ”に設定 (☞ P.4-42) “＊”を表示しているときは、実際のカット速度は 20cm/s に制限されます。 SPD＊ PRS OFS [CUT1] 30 60 0.30 **OFFSET** カッターホルダーの中心から刃先までの距離 (mm) **PRESSURE** カットする圧力 (g) **SPEED** カットする速度 (cm/s)
PEN		ペンを使用する場合のツール条件です。 SPD PRS [PEN] 30 80 OFFSET の設定は不要です。
HALF		点線カットを行う場合のツール条件です。 SPD PRS OFS [HALF] 20 40 0.30



USER TYPE/TOOL を使わないでツール条件を選ぶには

USER TYPE/TOOL キーを押さなくても、カットモードから FUNCTION キーを使ってツール条件を選ぶことができます。

1. MODE CHANGE を押してカットモードにする
2. FUNCTION を押して [セッテイ] を確認し、ENTER を押す
3. ▲ ▼ を押してツール条件を選ぶ
4. ENTER を押す

ツール条件を登録する

1	ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ	＜ローカル．C＞ [#01] CUT1 (30/ 60/ 0.30)
2	USER TYPE/TOOL キーを押す	SPD PRS OFS [CUT1] 30 60 0.30
3	USER TYPE/TOOL キーを押して、設定するツール条件を選ぶ • ツール条件にはカット条件 (CUT1~CUT3)/ ペン作図条件 (PEN)/ カット条件 (HALF) があります。	SPD PRS OFS [CUT2] 20 50 0.50
4	▲▼を押して、設定する • 設定値：1~10cm/s（1cm/s ステップで設定可能） 15~30cm/s（5cm/s ステップで設定可能） • 値を大きくすると速度が速くなり、値を小さくすると速度が遅くなります。（通常は 20~30cm/s に設定）	SPD PRS OFS [CUT2] 20 50 0.50
5	▶を押して、**PRS(PRESSURE) を選ぶ** • カーソルが PRS に移動します。 • 前の設定項目に戻る場合は、ジョグキー◀を押します。	SPD PRS OFS [CUT2] 20 50 0.50
6	▲▼を押して、設定する • 設定値：10~20g（2g ステップで設定可能） 20~100g（5g ステップで設定可能） 100~350g（10g ステップで設定可能） • ツール条件を「PEN」にした場合、最大値は 150g になります。	SPD PRS OFS [CUT2] 20 60 0.50
7	▶を押して、**OFS(OFFSET) を選ぶ** • カーソルが OFS に移動します。 • 前の設定項目に戻る場合は、ジョグキー◀を押します。	SPD PRS OFS [CUT2] 20 60 0.50
8	▲▼を押して、設定する • 設定値：0.0~2.5mm	SPD PRS OFS [CUT2] 20 60 0.30
9	ENTER キーを押す • 設定した値が登録されます。	SPD PRS OFS [CUT2] 20 60 0.30

- 手順 3 でペン作図条件 (PEN) を選択した場合は、SPEED:30cm/s、PRESSURE:60~80g を参考値としてください。
- ツール条件の登録をしたら、テストカットを実行して設定した条件が適切か確認することをお勧めします。(☞ P.2-44)

重 要！

- カット条件（CUT1~3 または HALF）を設定すると、捨て切り (刃先方向合わせ) 動作 (☞ P.4-43) をします。
- 手順 7 で PRESSURE を 20g 未満に設定する場合は、手順 5 の SPEED の設定を 10cm/s 以下に設定してください。ツールが浮いて、カスレや切り残しの原因となります。
- PRESSURE (カット圧力) を強く設定したまま、刃先の出し量のみでカット調整を行わないでください。
  刃先の出し量を少なくして強い PRESSURE でカットした場合、カット中に異音がすることがあります。また、カッターの底面とシートが擦れてシート表面が傷ついたり、カット品質が低下するおそれがあります。

C

カット品質を上げる

カット時加速度のレベルを減速させることにより、カット品質を向上させることができます。

重 要！ • 減速レベルを設定すると、カット速度は低下します。（最低動作加速度：0.1G）

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>          [#01]
CUT1 (  30/  60/ 0.30)
```

2 (USER TYPE/TOOL)キーを押す

```
          SPD* PRS  OFS
[CUT1]  30   60 0.30
```

3 (REMOTE) キーを押す

```
         (100% = 0.5G)
[CUT1]カソクト゛ Lv.=100%
```

4 (▲)(▼)を押して、減速レベルを設定する

```
         (100% = 0.5G)
[CUT1]カソクト゛ Lv.= 80%
```

• 設定値：10 ~ 100% (10% ステップ)
• ディスプレイ上段には、減速レベル 100%のときの加速度が表示されます。減速レベルを下げても、上段の加速度は更新されません。

5 (ENTER)キーを押す

• 設定した値が登録されます。

● カット速度と加速度の関係

項目		カットモード		
		コウヒンイ	ヒョウジュン	ハヤイ
速度 [cm/s]	1 ~ 5	0.4 [G]	0.6 [G]	0.8 [G]
	6 ~ 15	0.5 [G]	0.7 [G]	0.9 [G]
	20 ~ 30	0.6 [G]	0.8 [G]	1.0 [G]

• ペン圧 (PRS) が 150g 以上に設定された場合、左表の値より 0.2G 下げた加速度で動作します。

作業の流れ

Print	Print & Cut	Cut

- **電源を入れる**（Print／Print & Cut／Cut）
  P.2-8「電源を入れる / 切る」を参照してください。
- **ツールを取り付ける**（Print & Cut／Cut）
  P.2-10「ツールを取り付ける」を参照してください。
- **メディアをセットする**（Print／Print & Cut／Cut）
  P.2-15「メディアをセットする」を参照してください。
- **ユーザータイプを選ぶ**（Print／Print & Cut）
  P.2-2「プリント時のユーザータイプについて」を参照してください。
- **ツール条件を選ぶ**（Print & Cut／Cut）
  P.2-3「カット時のツール条件について」を参照してください。
- **ヒーターの設定をする**（Print／Print & Cut）
  P.2-46「ヒーターの準備をする」を参照してください。
- **テストプリントをする**（Print／Print & Cut）
  P.2-34「テストプリントをする」を参照してください。
- **テストカットをする**（Cut）
  P.2-44 を参照してください。
- **プリントをする**（Print／Print & Cut）
  P.2-48「データをプリントする」を参照してください。
- **カットをする**（Print & Cut／Cut）
  P.2-50「カットする」を参照してください。

電源を入れる / 切る

電源を入れる

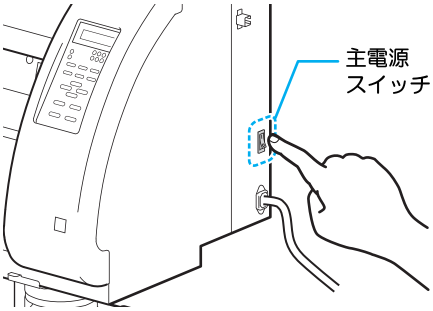
本機には、2 つの電源スイッチがあります。

主電源スイッチ：本機の側面にあります。常時「オン」にしておいてください。

電源スイッチ　：通常、電源のオン / オフをするときはこのスイッチを使用します。
電源がオンのときは電源スイッチが緑色に点灯し、オフにすると緑色に点滅します。
電源スイッチがオフでも、主電源スイッチがオンになっていれば（電源スイッチが緑色点滅）、定期的に電源が自動的に入り、ノズル詰まり防止機能が動作します。

1　主電源スイッチを入れる

- 装置側面にある主電源スイッチを「I」側に倒します。



- 電源をオンにするとファームウェアのバージョンを表示します。

```
CJV30-60          V*.**
```

- 初期動作を実行します。
- 主電源をオンにすると、プリンタユニットがプラテン上を一往復します。

```
シバ゛ラク　オマチクダ゛サイ
```

2　ローカルになる

```
<ローカル.1>          [#01]
```

3　接続しているコンピュータの電源をオンにする

重 要！

- 主電源スイッチを「オフ」のまま長時間放置すると、ヘッドのノズル詰まりの原因となります。

電源を切る

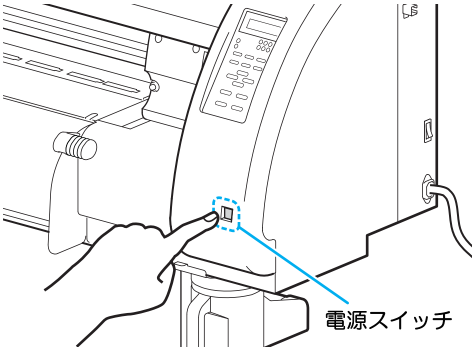
本機の使用が終了したら、前面にある電源スイッチを押して電源をオフにします。
電源を切るときは、次のことを確認してください。

- コンピュータからデータを受信中ではないか、また、未出力のデータが残っていないか。
- ヘッドはキャッピングステーションに戻っているか。
- エラーは発生していないか。（☞ P.7-11「エラーメッセージ」）

1 接続してあるコンピュータの電源をオフにする

2 電源スイッチを押して、電源を切る

- 電源スイッチが緑色に点滅します。
- 装置側面にある主電源スイッチは、切らないでください。
- 次に、本機をご使用になるときは、電源スイッチを押して緑色ランプを点灯させてからお使いください。
- 連結ユニットが、カッターユニットに連結している場合は、プリンタユニットに連結後、電源が切れます。



電源を切るときのご注意

● **主電源スイッチは切らないでください。**
主電源スイッチが入っていると、定期的に電源が入りノズル詰まり防止機能（フラッシング機能）が働きます。
主電源スイッチを切っていると、フラッシング等のスリープ機能が働かず、ノズル詰まりの原因となります。

● **プリントユニットの位置を確認してから電源を切ってください。**
プリントユニットがキャッピングステーションに戻っていない状態で電源を切ると、インクヘッドが乾燥してノズル詰まりの原因となります。
このときは、再度、電源を入れ、プリントユニットがキャッピングステーションに戻ったことを確認してから電源を切ってください。

● **プリントまたはカット中は電源を切らないでください。**
ヘッドがキャッピングステーションに戻らないことがあります。

● **電源スイッチを切ってから、 主電源スイッチを切ってください。**
本機の移動や本機のエラー対処等で主電源スイッチを切る場合、必ず、前面にある電源スイッチを押し、操作パネルのディスプレイ表示が消えていることを確認してから主電源スイッチを切ってください。

ツールを取り付ける

本機では、以下のツールを使用することができます。

カッター　：メディアに印字した画像をカットしたり、カッティングメディアで切り文字をするときに選びます。

ペン (水性ボールペン)　：実際にどのようにカットするのか「試し書き」をするときに選びます。

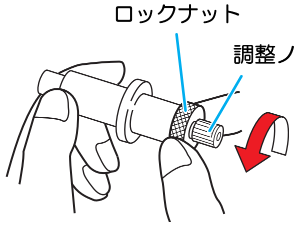
カッターを使う場合

- カッターは指で触らない
  刃先が鋭利になっているため、怪我の原因となります。
- カッターをセットした後、ツールを振らない
  刃先が飛び出し、怪我の原因となります。
- カッター刃は子供の手の届かない場所に保管してください。
  また、使用済みのカッター刃は地域の条例に従い廃棄してください。

カッター刃を取り付ける

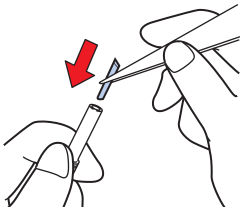
1 カッターホルダーを取り外す

2 ロックナットを緩め、調整ノブをホルダーから抜き取る

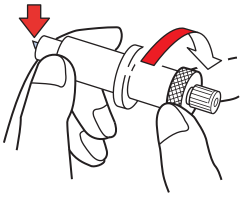


3 カッター刃を調整ノブに入れる

- ピンセット等でカッターをつまんで入れます。



4 ロックナットを締める

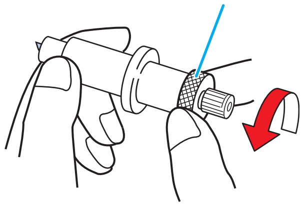


刃先を調整する

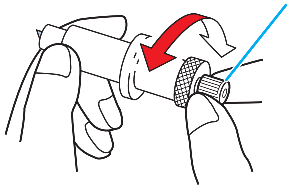
使用するカッターやメディアの種類に応じてカッターの刃先を調節します。
刃先の調整後、カット条件の設定および試し切りを行い、切れ具合を確認してください。

重要!
- 刃先を出しすぎないように注意してください。台紙まで切り抜き、本機を傷付けることがあります。

1 カッターホルダーを取り外し、ロックナットを緩める

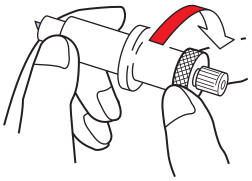


2 調整ノブを回し、刃先の出し量を調整する



3 ロックナットを締める

- 調整ノブが回らないように確実に締めてください。



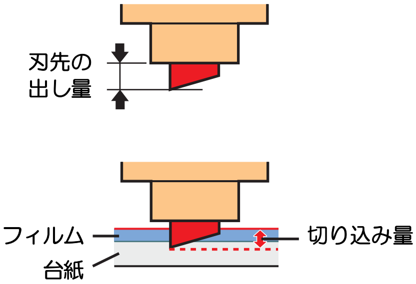
重要!
- 付属品以外のカッターの刃先調整については、付録を参照してください。
  (☞ P.6-51)

刃先の出し量を調整する

$$\text{切り込み量} = \frac{(\text{フィルムの厚さ} + \text{台紙の厚さ})}{2}$$

- ただし、フィルムの厚さ < ベース紙の厚さ のとき

参考：刃先の出し量＝ 0.3 ～ 0.5mm
(切れない場合は交換してください)



重要!
- 台紙にカッター跡が若干付く程度に圧力を調整してください。
- 台紙の厚さがフィルムの厚さより薄く、正確なカット品質を得られない場合、刃先の出し量を変更すると、良い結果が得られる場合があります。

C

2

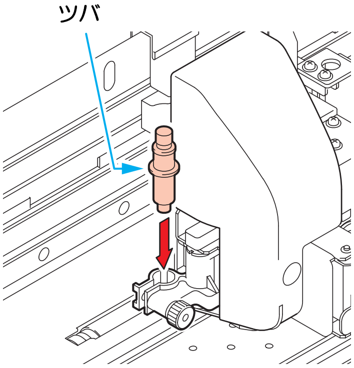
基本的な使い方

カッターホルダーを取り付ける

重要！ • カッターホルダーは浮きがないように、奥までしっかりと差し込んでください。

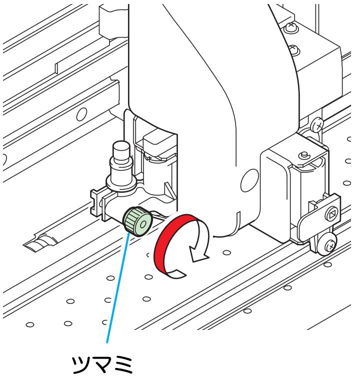
1 カッターホルダーをツールホルダーに入れる

• カッターのツバをホルダーに押し当てます。



2 カッターホルダーを固定する

• ツールホルダーのツマミを時計方向に回し、確実に固定してください。



重要！ • カッターホルダーは確実に固定してください。カッターホルダーの固定が緩いと、正確なカット (ペン作図) 品質を得ることができなくなります。

ツールを交換する

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>          [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 (FUNCTION)キーを押す

```
FUNCTION             C
セッテイ          <ent>
```

3 (▼)(▲)を押して[メンテナンス]を選ぶ

```
FUNCTION             C
メンテナンス       <ent>
```

4 (ENTER)キーを押す

```
メンテナンス
トンボ゛センサー    <ent>
```

5 (▼)(▲)を押して[ツールコウカン]を選ぶ

```
メンテナンス
ツール コウカン     <ent>
```

6 (ENTER)キーを押す

```
ツール コウカン
ト゛ウサ カイシ      :ent
```

7 (ENTER)キーを押す

- カッターユニットが、本機の左端へ移動します。
- カッターユニットが手動で移動できるようになります。交換しやすい位置に移動させてから交換してください。

重 要！ • カッターユニットが停止するまで、手を触れないでください。

8 P.2-12「カッターホルダーを取り付ける」を参照して、カッターホルダーを交換する

- カッター刃の交換をするときは、P.2-10「カッター刃を取り付ける」を参照してください。
- 必要に応じて、刃先の出し量を調整してください。(☞ P.2-11)

9 交換が終わったら、(ENTER)キーを押す

C

2 基本的な使い方

ボールペンの取り付け方

重要！

- 市販ボールペンを使用する場合は、直径 8mm ～ 9mm のペンをご使用ください。
  画質は、ペンによって変わることがあります。
  （推奨ボールペン：ぺんてる株式会社　製品番号：K105-A、K105-GA）
- 右記のようなボールペンは、ペンアダプタで保持した場合、ペンが傾きカバーに当たる場合があります。（軸の太さが変わるペン・軸に突起物や段差があるペン）

C

1 ペンアダプタにキャップをかぶせる

- キャップはペンの高さを調整するために使用します。

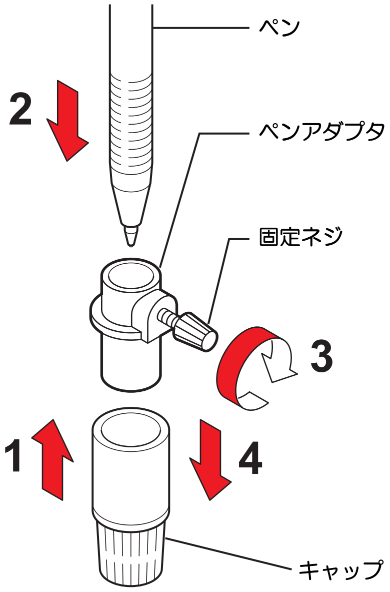
2 ペンをペンアダプタに差し込む

- ペン先がキャップに突き当たるまで差し込みます。

3 ペン先を固定する

- 固定ネジを時計回りに締めます。
- ペンアダプタの固定ネジは、締めすぎないように注意してください。ボールペンが割れることがあります。

4 キャップを取り外す

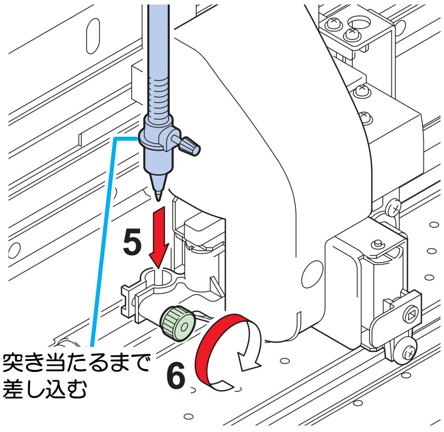


5 ペンをつけたペンアダプタをツールホルダーに入れる

- ペンアダプタのツバをホルダーに押し当てます。
- 固定ネジが妨げにならない方向にセットしてください。

6 ツールを固定する

- ツールホルダーのツマミを時計方向に回し、確実に固定してください。



メディアをセットする

本機では、ロールメディアとリーフメディアをご使用になれます。
使用できるメディアについては、P.1-11「使用可能メディアサイズ」を参照してください。

ヘッド高さを調整する

お使いになるメディアの厚みに合わせて、ヘッド高さを調節してください。

重要！
- ヘッド高さの調整は、メディアをセットする前に行ってください。メディアをセットしたあとに調整すると、メディア詰まりやプリント品質の低下、ヘッドの破損の原因となります。
- プリント品質を " ソウホウコウ " にセット（P.3-20）している場合、ヘッド高さの調整後にタイプ登録の「ドット位置補正」をしてください。(P.3-12)

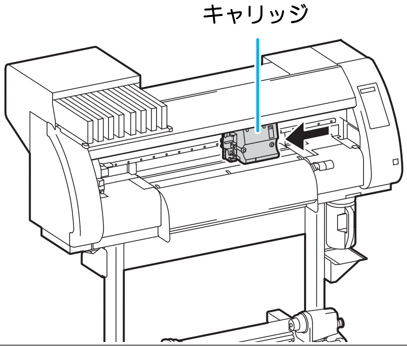
P

2

基本的な使い方

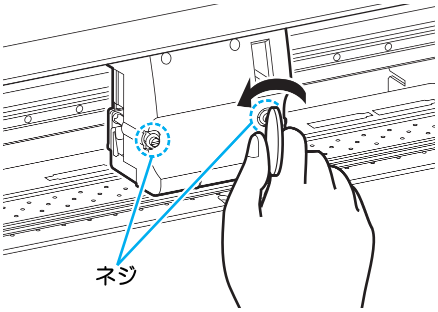
1 キャリッジをプラテン上に移動する

- 電源オン時
  メンテナンス機能の「ステーションメンテナンス - キャリッジアウト」を実行
  (P.6-6 手順 1 〜 4)
- 電源オフ時
  手でキャリッジを動かす



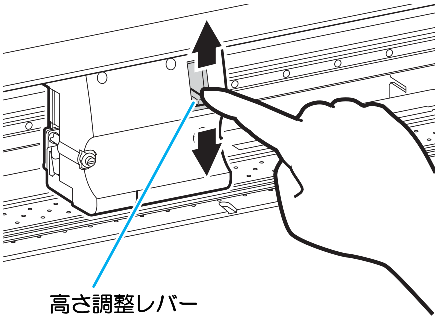
2 正面にある 2 ヶのネジを緩める

- ドライバー等を使って、1 回程度回して緩める



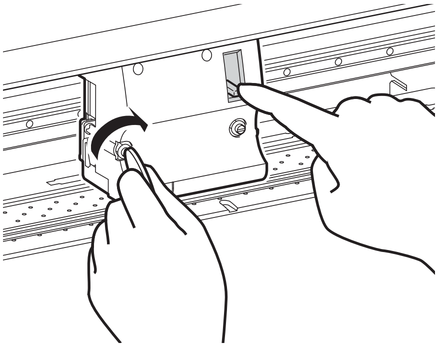
3 高さ調整レバーをメディアに応じて調整する

- 「調整レバーとレンジについて」を参照して、レバーの位置を調整してください。
- 高さ調整レバーは、確実に上か下に設定してください。レバーが中間にあると、プリント異常をおこします。

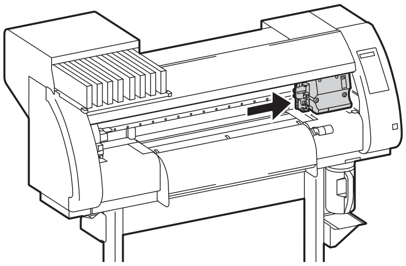


4 高さ調整レバーを押さえたまま、2ヶのネジを締める

- 必ず、高さ調整レバーを押さえながらでネジを締めてください。正常な位置にヘッドを固定できません。
- ネジは緩まないように確実に締めてください。



5 キャリッジをステーションに戻す



調整レバーとレンジについて

高さ調整レバー	ヘッド高さ	切換エリア
Thin / 薄い	2mm (出荷時設定位置)	ユーザー切換
Thick / 厚い	3mm	

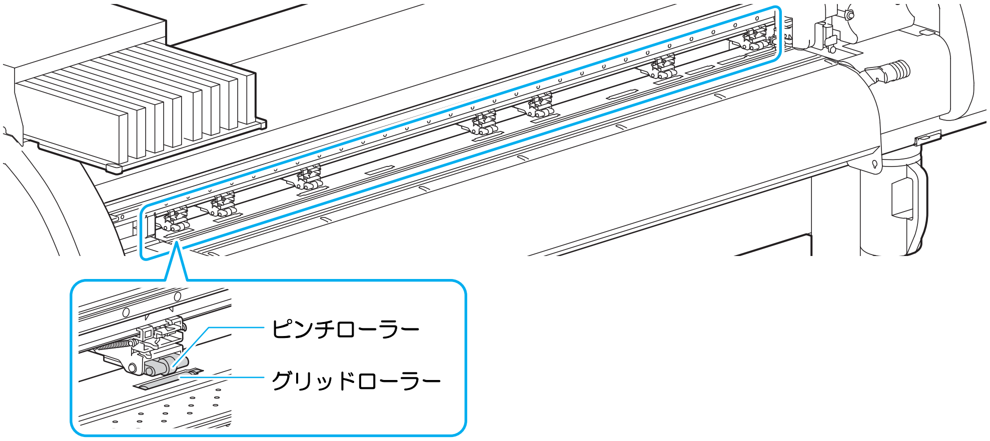
- ターポリンや FF のように厚いメディアをお使いになる場合は、レバーを「厚い (Thick)」にセットしてください。
- メディアの種類により、ヘッドにホコリが付着しやすい場合やインクこすれが発生する場合、レバーを「厚い (Thick)」にセットしてください。

注意

- 1mm 厚以下のメディアと SS21 インクの組み合わせでお使いの場合、ヘッド高さは薄い（Thin）に必ず設定してください。
  ヘッド高さを厚い（Thick）で使用すると、ヘッドギャップ（メディアからヘッドノズル面の高さ）が空きすぎてインク滴が飛び散ることがあり、画質の保証ができません。

メディアに合わせてピンチローラーの位置を調整する

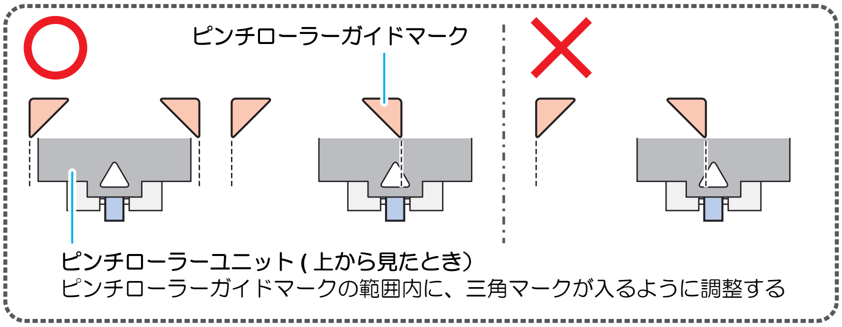
セットするメディアの幅に合わせて、ピンチローラーの位置を調整します。
本機は、ピンチローラーとグリッドローラーでメディアを搬送し、プリントやカットを行っています。ピンチローラーはグリッドローラーの上になるようにしてください。



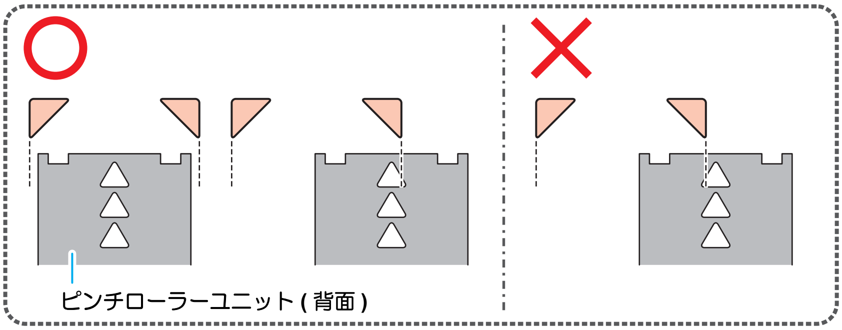
ピンチローラーの合わせ方

ピンチローラーユニットを移動させて、ピンチローラーの位置を調整します。
ピンチローラーガイドマークを目安にしてください。

前面から合わせるとき



背面から合わせるとき

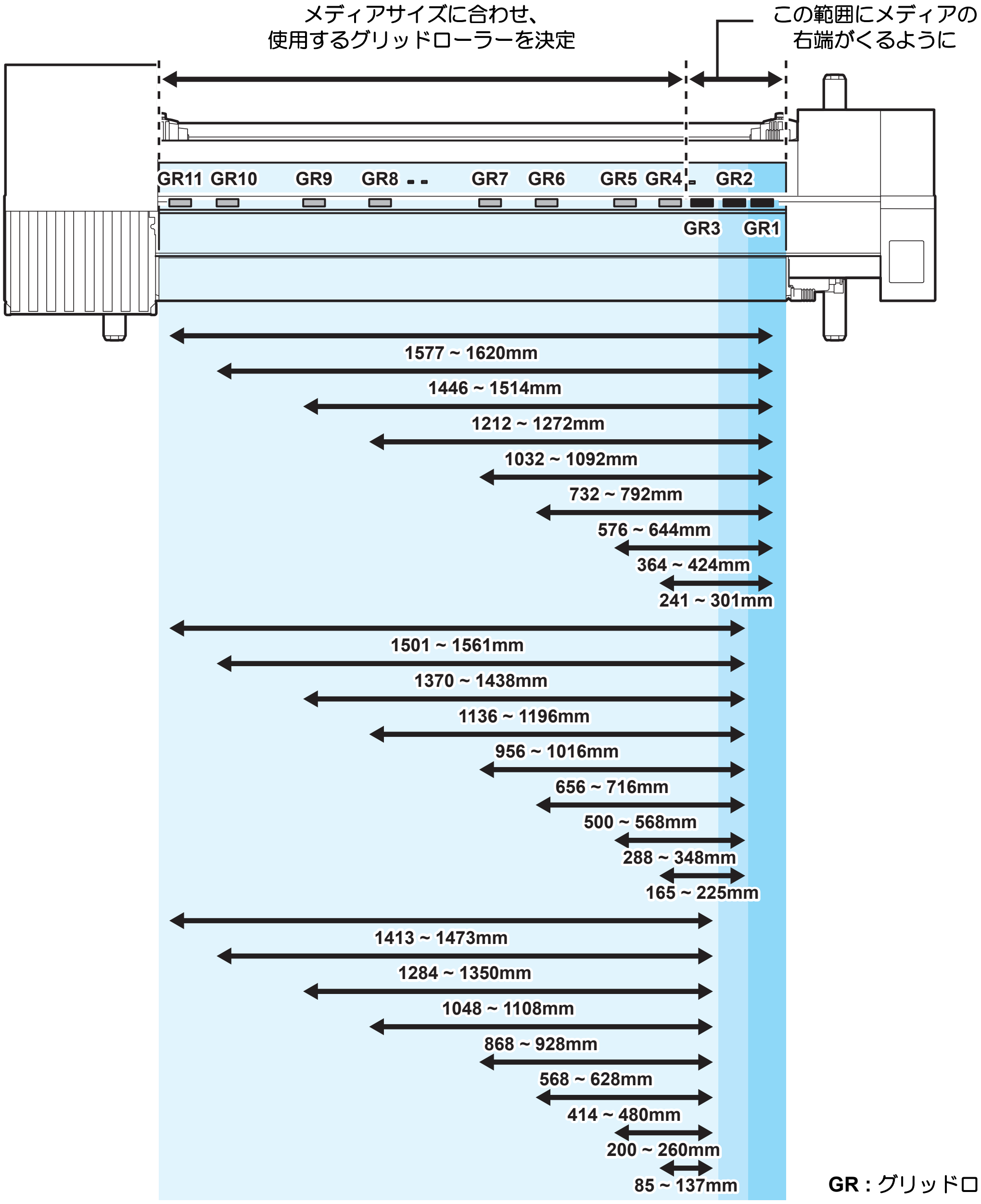


メディアサイズとグリッドローラーについて (CJV30-160)

メディアのサイズによって、使用するグリッドローラーが決定されます。

重 要！

- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリッドローラーを選択してください。
- 使用するグリッドローラーが決定したら、P.2-17「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは 2 ～ 7 個の間なら、何個使っても問題はありません。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせると、メディア裁断時に切り残しになります。



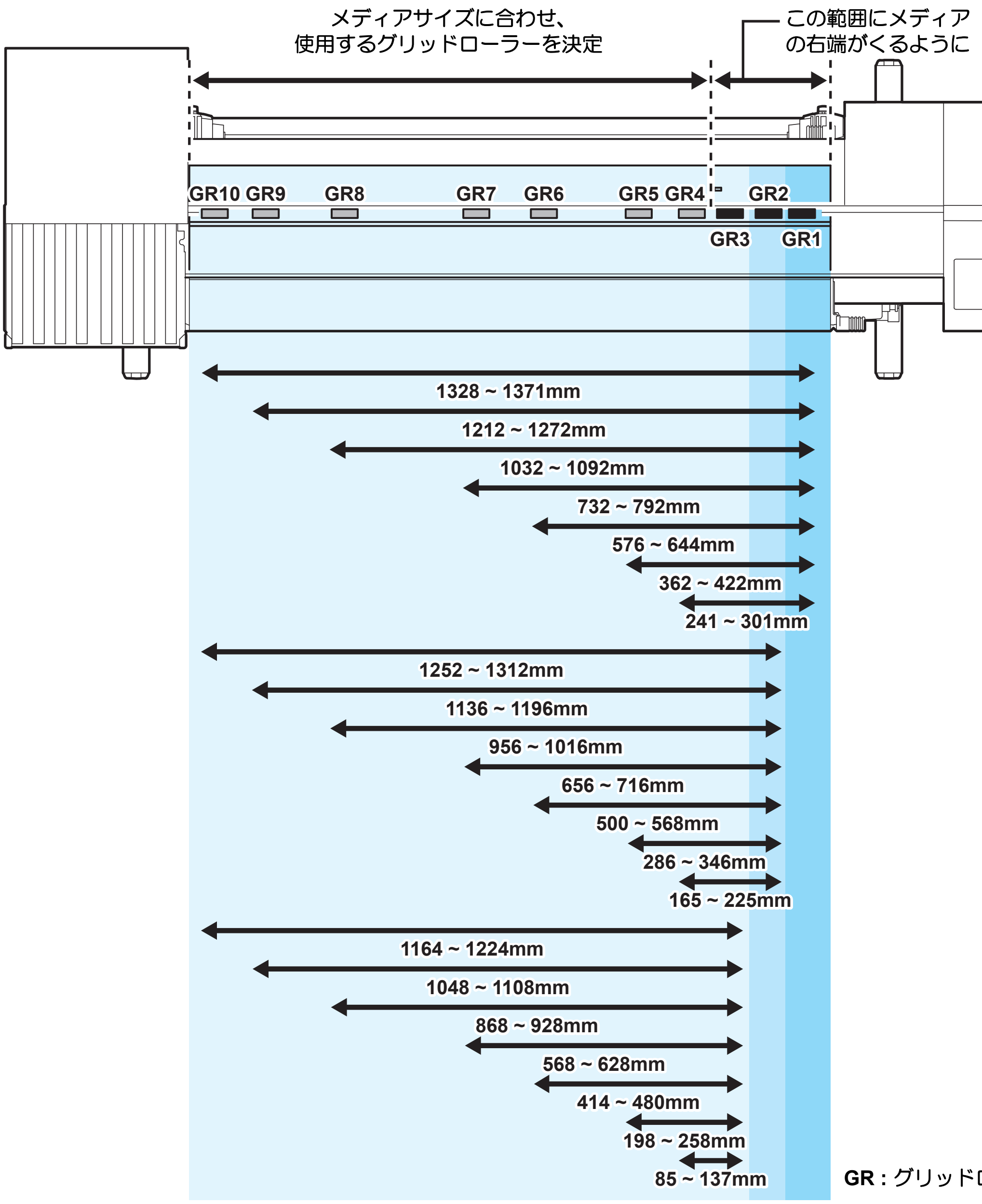
GR : グリッドローラー

メディアサイズとグリッドローラーについて (CJV30-130)

メディアのサイズによって、使用するグリッドローラーが決定されます。

重 要！

- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリッドローラーを選択してください。
- 使用するグリッドローラーが決定したら、P.2-17 「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは 2 〜 6 個の間なら、何個使っても問題はありません。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせると、メディア裁断時に切り残しになります。



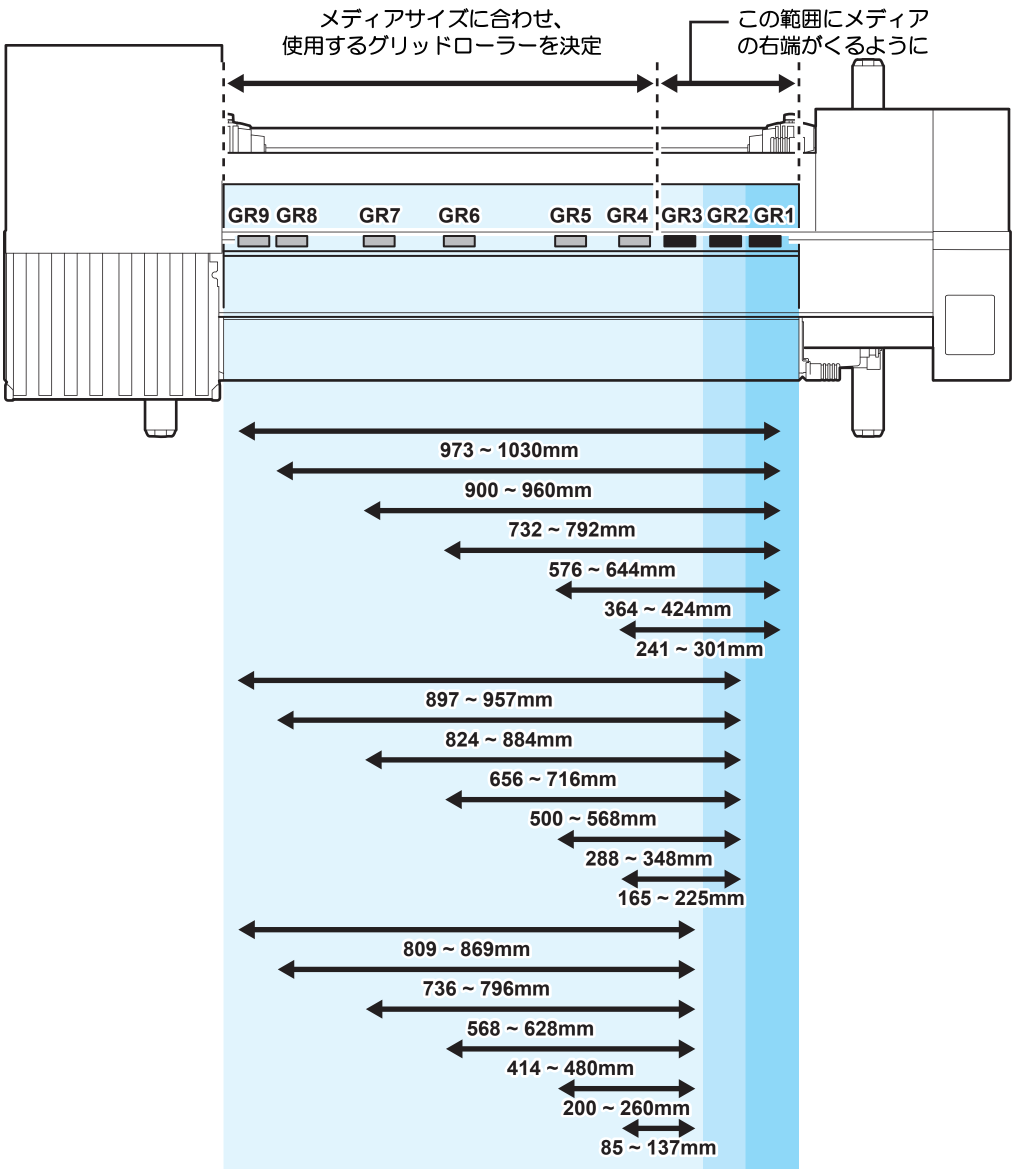
GR : グリッドローラー

メディアサイズとグリッドローラーについて (CJV30-100)

メディアのサイズによって、使用するグリッドローラーが決定されます。

重 要！

- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリッドローラーを選択してください。
- 使用するグリッドローラーが決定したら、P.2-17 「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは 2 ～ 4 個の間なら、何個使っても問題はありません。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせると、メディア裁断時に切り残しになります。

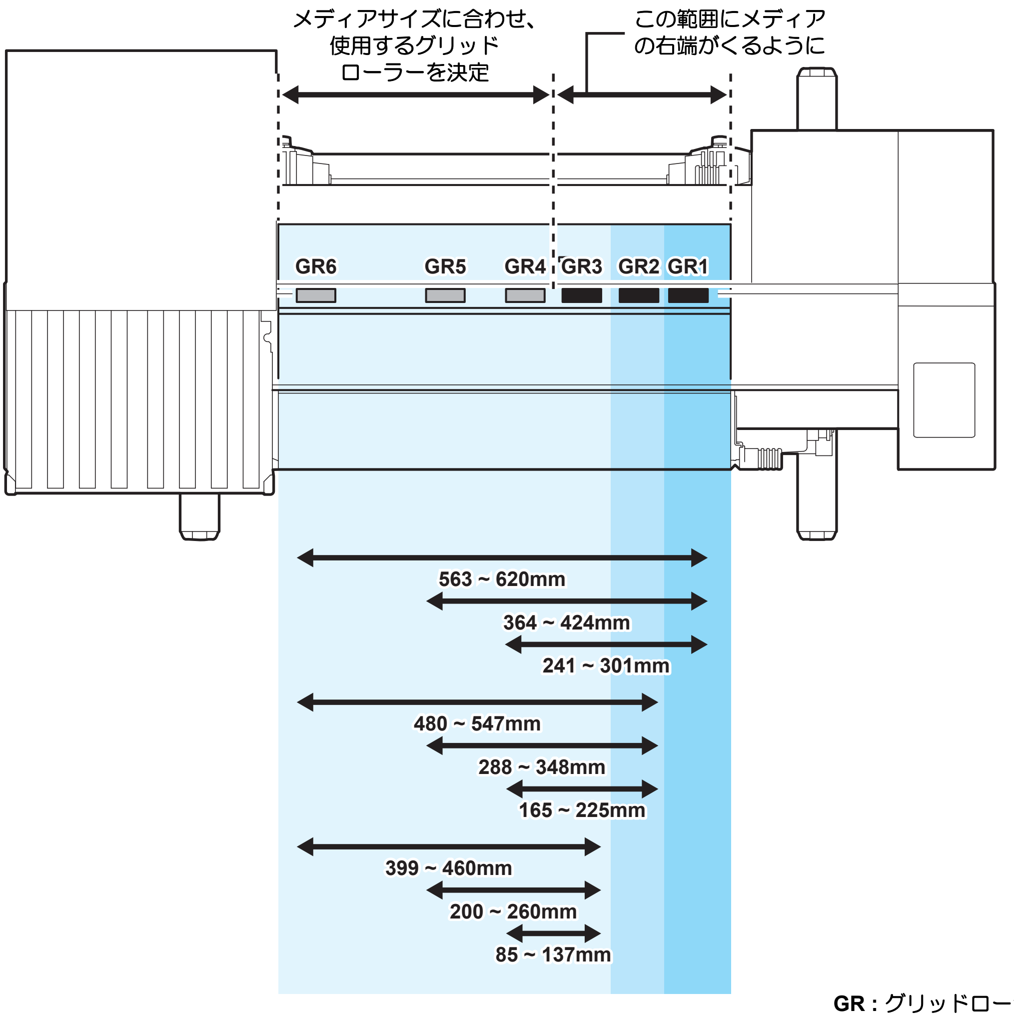


GR : グリッドローラー

メディアサイズとグリッドローラーについて (CJV30-60)

メディアのサイズによって、使用するグリッドローラーが決定されます。

重 要!
- メディアをスムーズに搬送するため、メディアを等間隔で押さえられるような位置のグリッドローラーを選択してください。
- 使用するグリッドローラーが決定したら、P.2-17「ピンチローラーの合わせ方」を参照して、ピンチローラーユニットを合わせてください。
- ピンチローラーユニットは、必ず 2 個以上使用してください。
- 両端のピンチローラーは、メディアの端から左 10cm/ 右 2cm 以内の位置に合わせてください。それ以上離れた位置に合わせると、メディア裁断時に切り残しになります。



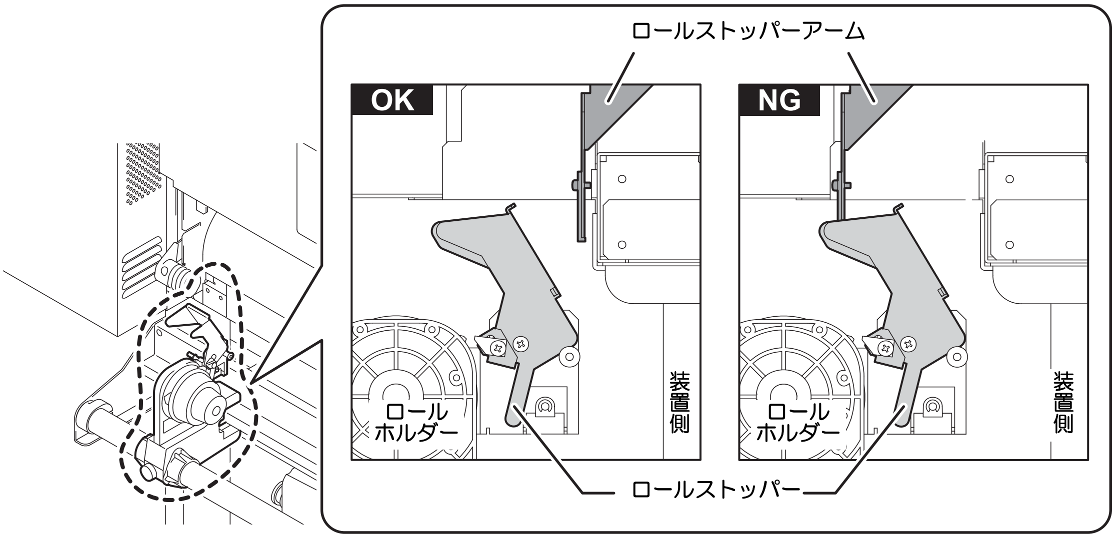
GR : グリッドローラー

ロールストッパーについて

メディアをセットするときに一定量のメディアを引き出すと、ロールストッパー機能により、ロールホルダーが一時固定され、必要以上メディアの引き出しを防止します。

注意

- ロールストッパーアームはクランプレバーに連動して動きます。 ロールストッパーアームと本体の間にロールストッパーが入り込んだ状態で、クランプレバーを下げないでください。ロールストッパーアームを破損し、ロールストッパー機能が使用できなくなることがあります。

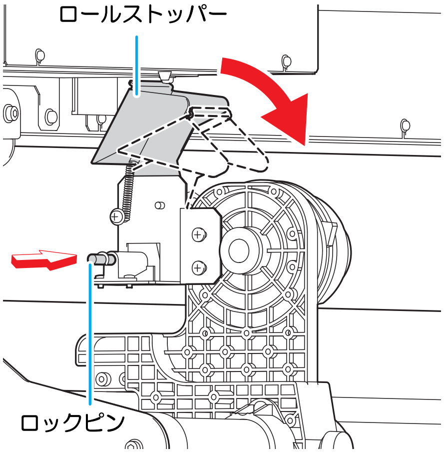


手動でロールストッパーをロックする

ロールホルダーをセットした場所によっては、ロールストッパーアームでロールストッパーをロックできないことがあります。このときは、次のようにしてロールストッパーをロックしてください。

1 ロールストッパーを矢印の方向に倒す

2 ロックピンを押して、固定する

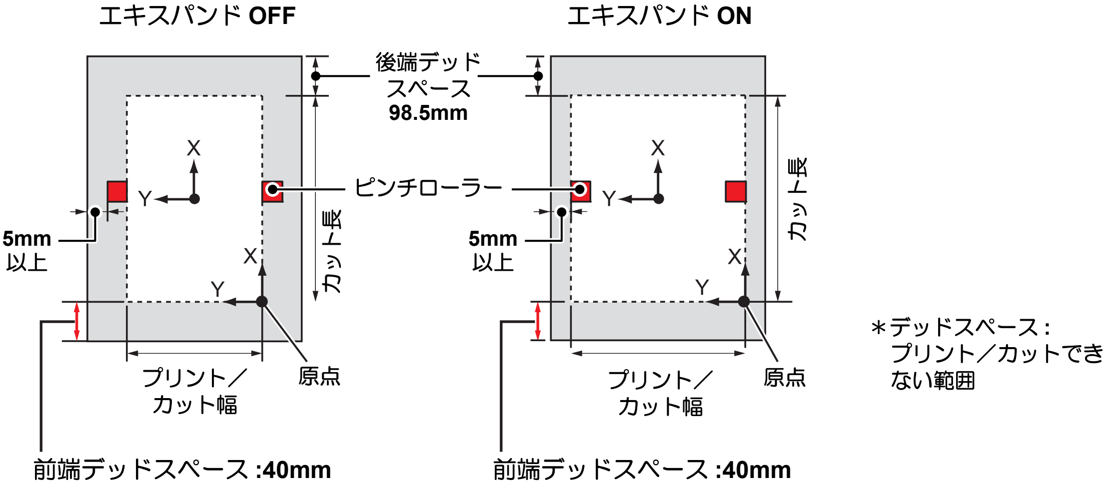


最大プリントエリア / カットエリアについて

最大プリントエリア / カットエリアは、ピンチローラの位置 (☞ P.2-18 ～ P.2-21) および原点の位置 (☞ P.2-33) により変わります。下図の白部が最大プリント／カットエリアとなります。それ以外のプリント／カットできない範囲が、デッドスペースとなります。

	CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
最大プリント / カット幅	610mm	1020mm	1361mm	1610mm

● 共通設定のエキスパンド機能を使って、最大プリント／カットエリアを広げる



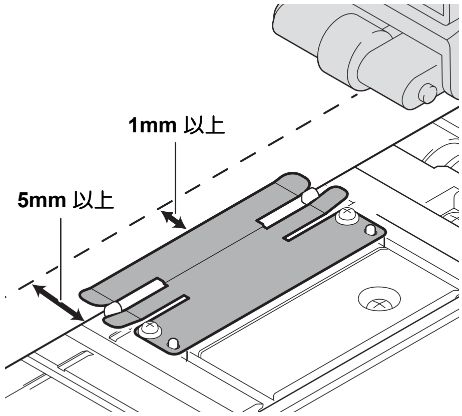
重 要！

- 前端のデッドスペースは、40mm 以上を推奨します。(エキスパンド機能を "OFF" にする ☞ P.5-6) 前端のデッドスペースが小さいと、メディア浮きの発生によりプリント / カット品質に影響を及ぼします。

エキスパンド機能を ON にしているときの注意事項

注 意

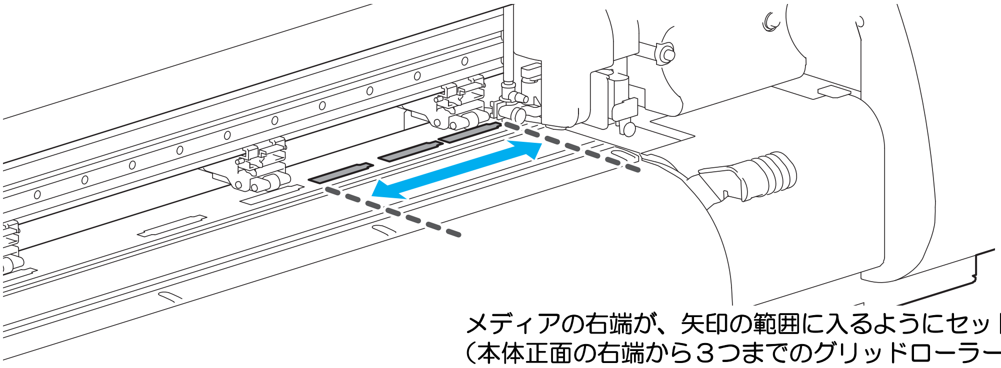
- エキスパンド機能をお使いの場合、メディア押さえの端面がピンチローラーにかからないようにしてください。プリント時、メディア汚れの原因になります。
- メディア押さえの端面とピンチローラーの間を 1mm 以上空けてセットしてください。



メディアをセットするときの注意事項

メディアのセット位置について

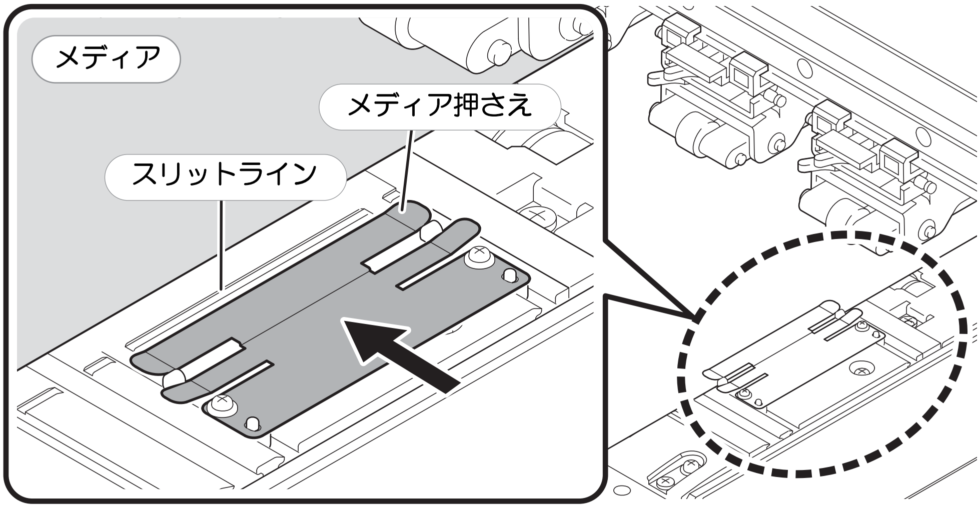
メディアの右端が下図の範囲に入るようにセットしてください。



プラテン上のスリットラインを超える位置にメディアをセットしない

注意

- プラテン上のスリットラインを超える位置にメディアをセットすると、メディアが斜行した場合、メディアが浮き上がりヘッドを破損する原因になります。



ロールメディアをセットする

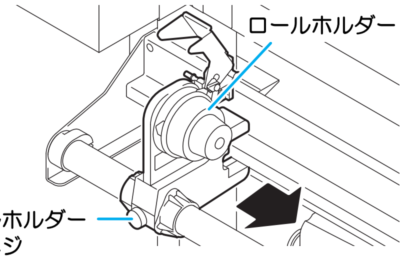
ロールメディアは、装置背面にあるロールメディアハンガーにセットします。

注 意
- セットするときは、メディアを足などに落とさないように注意してください。メディアの重みで怪我をすることがあります。

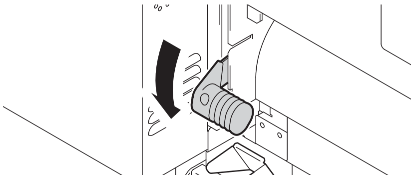
- プラテン上にカッターユニットがある場合は、HEATER/CUTTER キーを押してカッターユニットを退避させてください。(☞ P.2-51)

1 装置背面にあるロールホルダーを、装置中央方向に移動する

- ロールホルダー固定ネジを緩めてから移動させます。

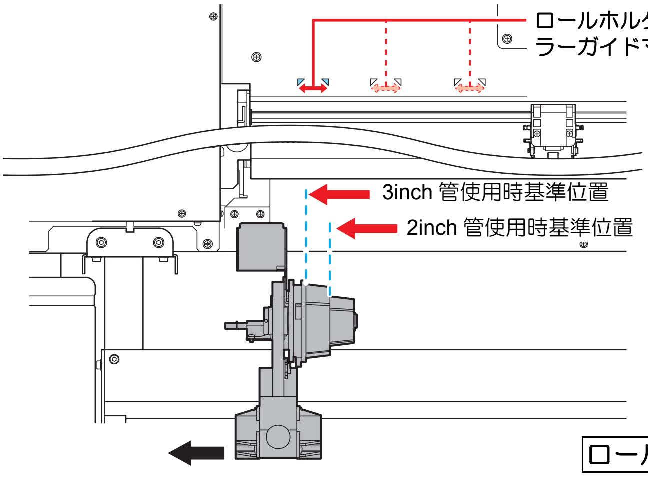


2 クランプレバーが下がっていることを確認する



3 ロールホルダーをロールセット位置へ移動する

- お使いになっている装置に合わせて、P.2-18 ～ P.2-21 を参照し、メディアサイズとメディアをセットする位置を確認してください。



- ロールストッパーアームと本体の間に、ロールストッパーが入り込んでいないことを確認してください。
- ロールストッパーアームとロールストッパーが連動して動作しないときは、手動でロールストッパー機能を有効にしてください。(☞ P.2-22)

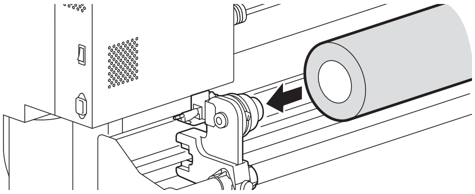
P
C

4 ロールホルダー固定ネジを締める

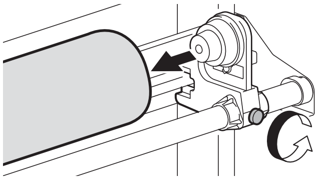
- 手順 2 ～ 3 を、再度確認してください。

5 左側のホルダーにロールメディアの紙管を差し込む

- 紙管が動かなくなるまで、奥に差し込んでください。

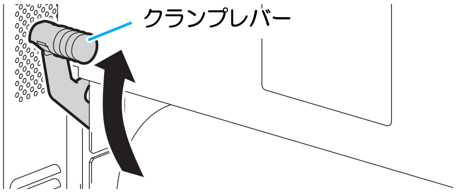


6 右側のロールホルダーのネジを緩め、ホルダーに紙管を差し込む

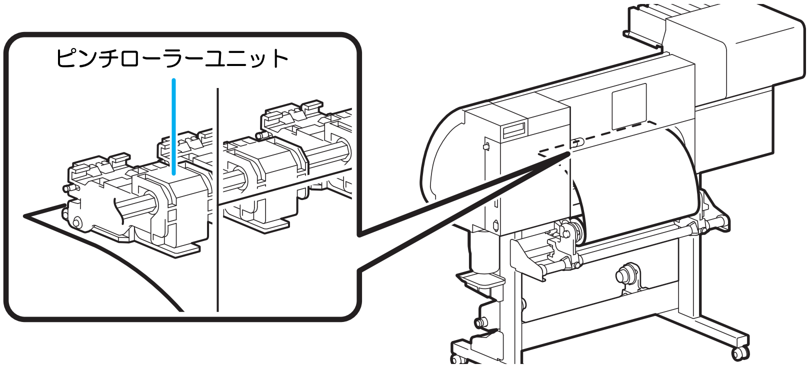


7 装置背面のクランプレバーを上げる

- ピンチローラー圧の設定が“OFF”になっている場合（☞ P.3-6、P.4-3）、クランプレバーを上げると自動的に“OFF”から“LOW”へ変更されます。（メディアサイズ変更時にメディアを確実に保持するため）



8 本機にロールメディアを差し込む



- メディアを斜めにすると、引っ掛かりが少なくスムーズに差し込めます。

(1) プラテンの先端まで届くくらい、メディアを引き出す
(2) プラテンとピンチローラーユニットの間にメディアを差し込む
- 装置前面からメディアをつかめるくらい、メディアを送り出してください。

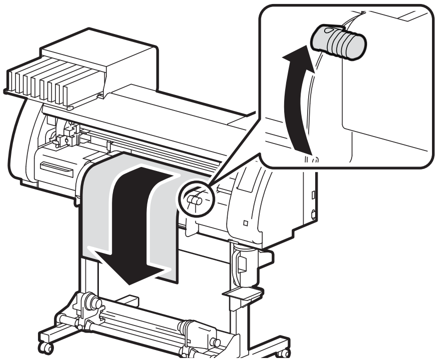
(3) 装置背面からクランプレバーを下げる
- メディアが保持されます。

注意

- メディアをほぼ等間隔で押さえられるように、ピンチローラーユニットをセットしてください。等間隔にセットできない場合は、手順 3 からやり直してください。
- メディアの両端から 5mm 以上をデットスペース（☞ P.2-23）として確保してください。

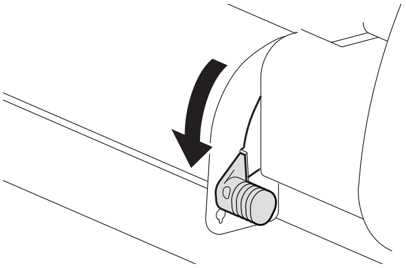
9 ロールメディアを引き出す

(1) 装置前面からクランプレバーを上げる
(2) ロールメディアを静かに引き出し、軽くロックのかかる位置で止める



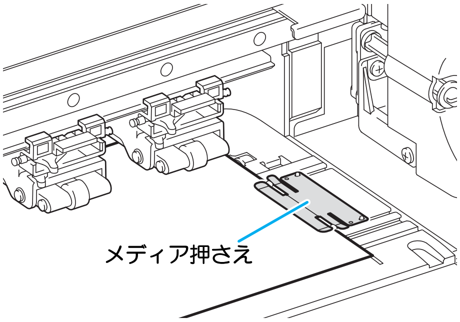
10 ロールメディアを均等にし、クランプレバーを下げる

- メディアの数カ所を軽く引っ張り、ロールメディアの引き出し量がほぼ均等になっているのを確認してから、クランプレバーを下げてください。



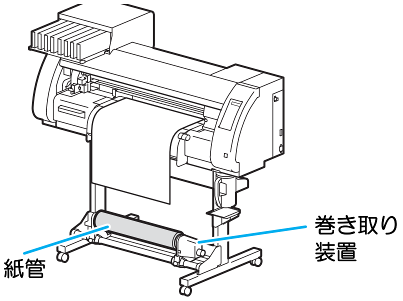
11 プリントの場合、メディア押えでメディアを軽くはさむ

- 厚みのあるメディアを使用する場合は、メディア押えをメディアから外してプリントしてください。
- メディア押さえのセットをするときは、P.2-23,P.2-24 を参照してから行ってください。
- カットの場合、メディア押さえをお使いになる必要はありません。



12 巻き取り装置を準備する

- 巻き取り装置に空の紙管をセットします。



13 [▲][▼]を押して、ピンチローラーの左端の **No.** を設定する

```
＊ヒ゜ンチローラー　セッテイ＊
ヒ゜ンチローラー　　　：No．7－1
```

- セットしたメディアの左端のピンチローラー No. を設定します。
- [◀]を押すと、手順 14 からのピンチローラー圧の設定をキャンセルし、手順 17 へ進みます。

14 [ENTER] キーを押す

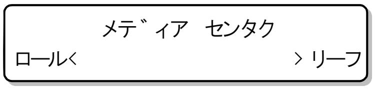
現在設定されているモードと、ピンチローラー圧を [>] 表示でお知らせします。

15 現在設定されているピンチローラー圧を確認する

- 一時的にピンチローラー圧の設定を変更したいときは、次のようにしてください。
  (1) [◀][▶] を押して設定するピンチローラーを選ぶ
  (2) [▲][▼] を押して設定する

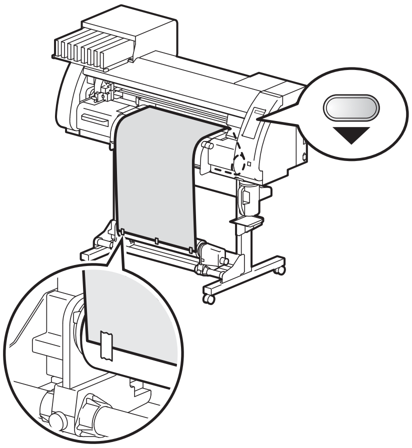
16 [ENTER] キーを押す

17 [◀] を押して、" ロール " を選択する



- メディア幅を検出します。
- メンテナンス機能の「メディア残量表示」の設定が "ON" の場合 (☞ P.6-38)、メディア幅の検出後メディア残量入力画面を表示します。(☞ P.2-29)

18 巻き取り装置にメディアを固定する (☞ P.2-29)



(1) [▼] を押して、巻き取り装置の紙管に届くまでメディアをフィードする
(2) 粘着テープでメディアの中央を固定する
(3) 同様にしてメディアの左右を固定する
- ロールメディアを左右均等に引っ張り、メディアにタルミ、シワが無いことを確認し、テープを貼ってください。

- タイプ登録やツール条件を設定するときに、メディアに合わせた適切なプリント条件やカット条件を登録しておけば、手順 13~15 でピンチローラーの設定をする必要はありません。
- 初回設定時、手順 14 で表示される値は、タイプ登録やツール条件で設定されている値が表示されます。
- 手順 13 ～ 16 で設定した値は、電源をオフするか、ファンクション機能の「ピンチローラーの設定」(☞ P.3-5、 P.4-2) を変更するまで保持されます。
- 次にメディアをセットするときは、ここで設定した値が表示されます。
- 共通設定の「ピンチローラーの設定」(☞ P.5-3) を変更して、 メディアセット時にピンチローラー設定をキャンセルすることができます。

メディア残量入力について

メンテナンス機能の「メディア残量表示」の設定を “ON” にしている場合 (☞ P.6-38)、メディア幅の検出が終了すると、メディア残量の入力画面が表示されます。

重 要！
- メディア残量は、プリンタモードでメディアを検出またはロール検出をした場合のみ入力できます。

1 メディア残量入力画面を表示する

```
 メテ゛ィア ナカ゛サ ニュウリョク
メテ゛ィア ナカ゛サ    =＊＊＊.＊m
```

2 [▲][▼]を押して、メディア残量を入力する

```
 メテ゛ィア ナカ゛サ ニュウリョク
メテ゛ィア ナカ゛サ    = 50.0m
```

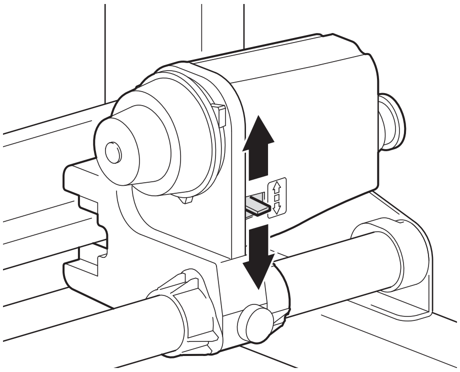
3 [ENTER]キーを押す

巻き取り装置について

スイッチを調整する

巻き取り装置のスイッチを使って、メディアの巻き取り方向の選択などができます。

レバー上（REVERSE）：プリント面を内側にして巻き取る
レバー中（OFF）：巻き取り動作をしない
レバー下（FORWARD）：プリント面を外側にして巻き取る

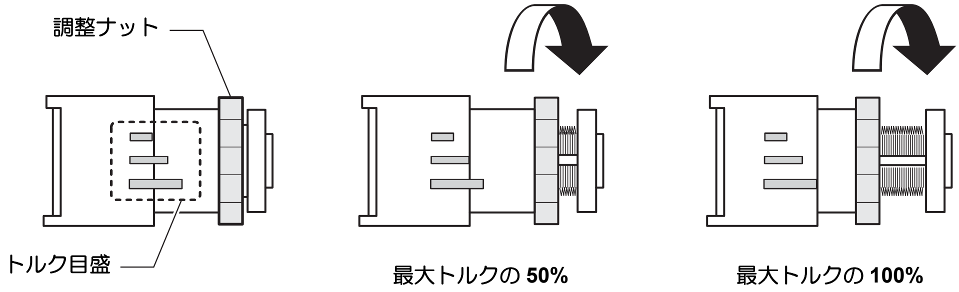


トルクリミッタを調節する

巻き取り装置には、トルクリミッタが付いています。トルクリミッタを調整して、巻き取りの強さを変更できます。（工場出荷時は、トルクリミッタを最も強く設定してあります。）
次のようなときは、調節を弱めてください。

(1) 薄いメディアを使用してテンションが強すぎるとき
(2) プリント＆カットの複合動作を行うとき

- 時計回り　：テンションが強くなる（ターポリン等の重量のある厚いメディア）
- 反時計回り：テンションが弱くなる（軽いメディア）



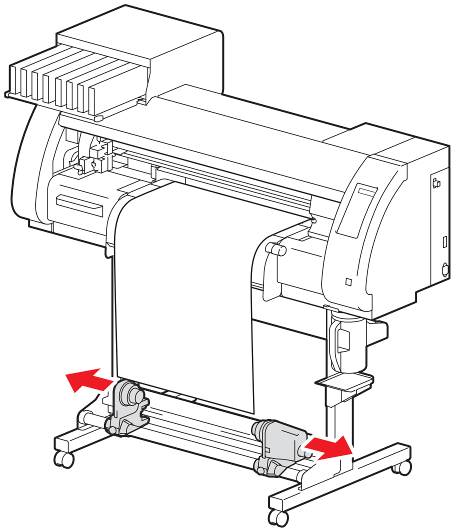
重 要！

- トルクリミッタの調節が弱すぎると
  メディアを確実に巻き取ることができません。
- トルクリミッタの調節が強すぎると
  メディアによってはたるんでしまい、画質に影響する場合があります。
  また、プリント＆カットの複合動作において、プリント終了後にカット開始位置へメディアを引き戻す際、トンボ原点位置に戻らない場合があります。

巻き取り装置を使わないとき

注 意

- 巻き取り装置を使用しないで、手前方向に 700mm 以上のプリントまたはカットをする場合、巻き取り装置を左右へ退避してください。メディアの前端が巻き取り装置に触れた衝撃によって、プリントやカットの品質が悪くなる場合があります。
  （オプションの乾燥排気ユニット装着時も同様）



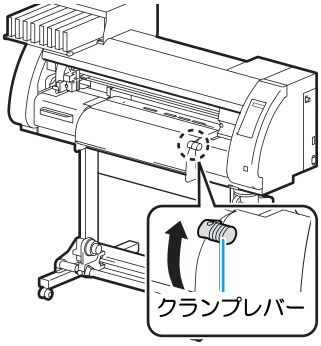
リーフメディアをセットする

リーフメディアは、メディアをロールホルダーに固定する必要はありません。

- プラテン上にカッターユニットがある場合は、HEATER/CUTTER キーを押してカッターユニットを退避させてください。（☞ P.2-51）

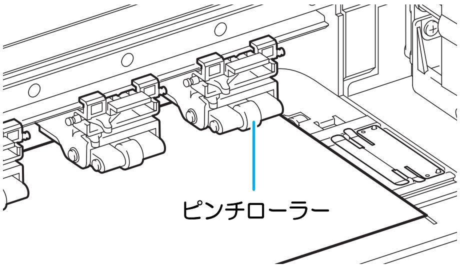
1 クランプレバーを上げる

- ピンチローラー圧の設定が“OFF”になっている場合（☞ P.3-6、P.4-3）、クランプレバーを上げると自動的に“OFF”から“LOW”へ変更されます。（メディアサイズ変更時にメディアを確実に保持するため）



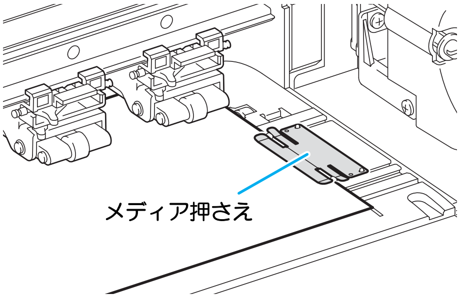
2 リーフメディアをピンチローラーとプラテンの間に差し込む

- お使いになっている装置に合わせて、P.2-18 ～ P.2-21 を参照し、メディアサイズとメディアをセットする位置を確認してください。



3 プリントの場合、メディア押えでメディアを軽くはさむ

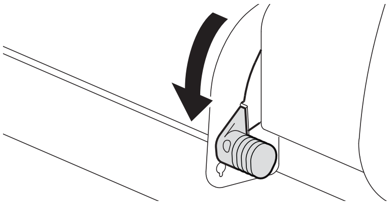
- 厚みのあるメディアを使用する場合は、メディア押えをメディアから外してプリントしてください。
- メディア押えのセットをするときは、P.2-23,P.2-24 を参照してから行ってください。
- カットの場合、メディア押さえをお使いになる必要はありません。



注意
- メディアをほぼ等間隔で押さえられるように、ピンチローラーをセットしてください。等間隔にセットできない場合は、手順 2 からやり直してください。
- メディアの両端から 5mm 以上をデットスペース（☞ P.2-23）として確保してください。

4 クランプレバーを下げる

- メディアはまっすぐにセットしてください。



2 基本的な使い方

P
C

5 [▲][▼]を押して、ピンチローラーの左端の No. を設定する

```
 ＊ピ゜ンチローラー セッテイ＊
ピ゜ンチローラー        :No.7-1
```

- セットしたメディアの左端のピンチローラー No. を設定します。
- [◀]を押すと、手順 6 からのピンチローラー圧の設定をキャンセルし、手順 9 へ進みます。

6 [ENTER]キーを押す

現在設定されているモードと、ピンチローラー圧を [>] 表示でお知らせします。

```
>PRINT       [MMMMMMMM]
 CUT         [H_____H]
```

7 現在設定されているピンチローラー圧を確認する

- 一時的にピンチローラー圧の設定を変更したいときは、次のようにしてください。

(1) [◀][▶] を押して設定するピンチローラーを選ぶ
(2) [▲] [▼]を押して設定する

8 [ENTER]キーを押す

9 [▶]を押して、“ リーフ ” を選択する

```
   メテ゛ィア センタク
ロール<          >リーフ
```

10 メディアの検出を始める

```
 メテ゛ィア ケンシュツ チュウ
  シハ゛ラク オマチクタ゛サイ
```

(1) メディア幅を検出する
(2) メディアがフィードし、メディア後端の検出をする
(3) 検出が終わると、ローカルに戻る

- タイプ登録やツール条件を設定するときに、メディアに合わせた適切なプリント条件やカット条件を登録しておけば、手順 5~7 でピンチローラーの設定をする必要はありません
- 初回設定時、手順 6 で表示される値は、タイプ登録やツール条件で設定されている値が表示されます。
- 手順 5 ～ 8 で設定した値は、電源をオフするか、ファンクション機能の「ピンチローラーの設定」(☞ P.3-5、P.4-2) を変更するまで保持されます。
- 次にメディアをセットするときは、ここで設定した値が表示されます。
- 共通設定の「ピンチローラーの設定」(☞ P.5-3) を変更して、 メディアセット時にピンチローラー設定をキャンセルすることができます。

原点を変更する場合は

プリント / カットするときの原点の位置を変更することができます。
変更したい位置へ原点を移動させて決定します。

- プリンタユニットで原点を変更する場合は、プリンタユニットに付いている [ORIGIN] シールを目安にしてください。
- カッターユニットで原点を変更する場合は、カッターユニットのツールホルダー (ペン先) を目安にしてください。

重 要 !

- トンボ付きデータをプリント＆カットするとき、前回のプリント位置と横方向 (Y 方向) がずれないようにプリントしたい場合は原点の変更をしないでください。
- トンボ付きデータのカット (☞ P.4-6) 終了後、ツールホルダー (ペン先) の横方向 (Y 方向) の位置は TP1 トンボマークのコーナー線上にあるため、そのまま原点を設定すると、次のプリントはこの位置から開始され、前回のプリントとずれる場合があります。

1 ローカルで、▲ ▼ ◀ ▶ を押す

- 原点設定モードになります。

```
ゲンテン　セッテイ
0.0　　　――――
```

2 ▲ ▼ ◀ ▶ を押して、原点を変更したい位置へ合わせる

- ▲ ▼ ◀ ▶ でキャリッジとメディアを移動させて選びます。

```
ゲンテン　セッテイ
0.0　　　0.0
```

原点位置 (長さ)　原点位置 (幅)

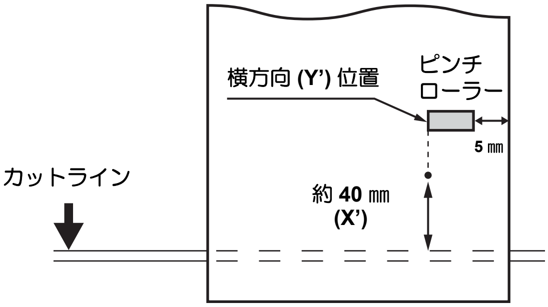
3 原点を決定したら、ENTER キーを押す

- 原点が変更されます。

```
ゲンテン　セッテイ
＊＊　ゲンテン　＊＊
```

原点設定位置の目安

プリント原点は、奥行方向 (X') はカットラインから奥側約 40 mm の位置になります。
横方向 (Y') は、第 1 ピンチローラー（本体正面から見て右端のピンチローラー）の左端です。
共通設定の「マージン」(☞ P.5-8) により変更できます。また、ジョグキーを使って変更することもできます。



重 要 !

- 第 1 ピンチローラーの右端からメディアの右端まで、5mm 以上のスペースを空けてください。

テストプリントをする

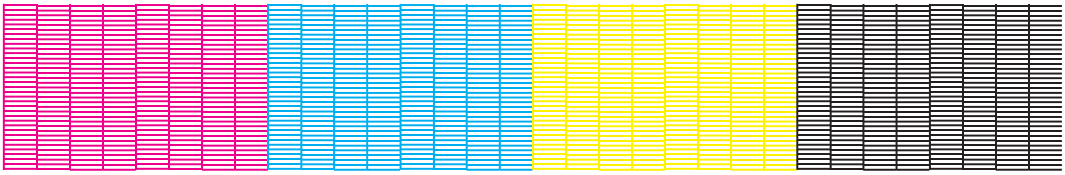
テストパターンをプリントして、ノズル詰まりなどの吐出不良（カスレや抜け）がないか確認します。

テストパターンについて

本機では、2 種類のテストパターンを用意しています。

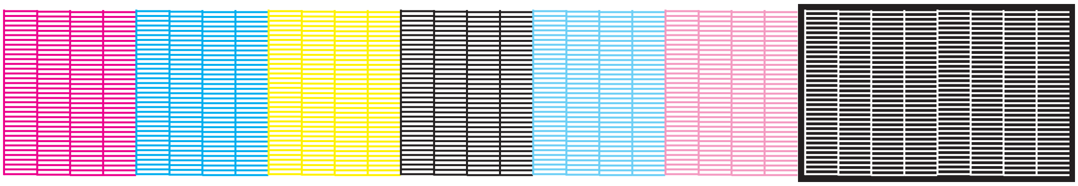
● 通常のテストパターン (ホワイトインク以外のインクをご使用の場合)

白いメディアにテストパターンをプリントして確認できるインクをお使いの場合は、こちらのテストパターンをプリントしてください。



● ホワイト確認用のテストパターン

白いメディアをお使いでホワイトインクの吐出状態を確認したい場合は、こちらのテストパターンをプリントしてください。



テストプリントに関する注意事項

重 要！

- リーフメディアを使用する場合、A4 サイズ縦置き以上のサイズのメディアをセットしてください。
- ロールメディアを使用する場合、プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たわみのない状態にしてください。画質不良の原因になります。
- メディア検出時にカットモードになっていた場合、そのままテストプリントを行うと、手順 2 で (TEST PRINT/TEST CUT) キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、(ENTER) キーを押してピンチローラー圧の設定をプリントモードに切り替えてからテストプリントを実行してください。
- (END) キーを押すと切替動作を行いません。

```
！ ヒ゜ンチローラーアツ：CUT ！
キリカエ              ：ent
```

通常のテストパターンでテストプリントを行う

テストプリントの前に確認してください	• メディアをセットしているか (☞ P.2-15)	• 原点位置をセットしているか
	• ヘッドギャップを調整しているか (☞ P.2-15)	

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
          ハバ : ****mm
```

2 TEST PRINT/TEST CUT キーを押す

```
テスト プリント
(FEED ホウコウ)        <ENT>
```

- ▲ ▼ を押して、テストパターンの配置方向を変更できます。ここで変更した配置方向は、テストプリントが終わると P.3-38 で設定した配置方向に戻ります。
- 配置方向を "SCAN ホウコウ " から "FEED ホウコウ " に変更してテストプリントを実行すると、1 つめのテストプリントの位置に改行されます。
- テストプリントの配置方向について、詳しくは P.3-38 を参照してください。

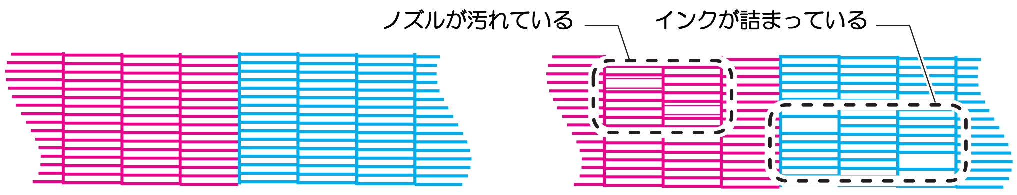
3 ENTER キーを押す

```
** テスト プリント **
```

- テストプリントを開始します。
- プリントが終わると、ローカルに戻ります。

4 テストプリントの結果を確認する

- 正常な場合は、操作を終了します。
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。(☞ P.2-38)



正常なパターン　　異常なパターン

ホワイト確認用のテストパターンでテストプリントを行う

テストプリントの前に確認してください	• メディアをセットしているか (☞ P.2-15)	• 原点位置をセットしているか
	• ヘッドギャップを調整しているか (☞ P.2-15)	

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >        [ #01 ]
              ハハ゛：＊＊＊＊mm
```

2 TEST PRINT/TEST CUT キーを押す

```
テスト　プ゜リント
（FEED　ホウコウ）      <ENT>
```

3 ▲ ▼ を押して、“（ホワイトカクニン）” を選ぶ

```
テスト　プ゜リント
（ホワイト　カクニン）    <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

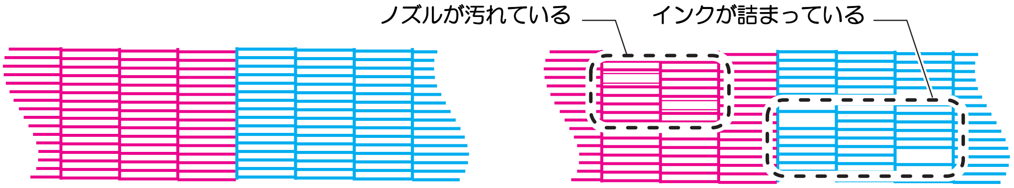
- 次の順番で、テストパターンをプリントします。
- ディスプレイ 2 行目には、プリント開始よりの残り時間を表示します。

```
＊＊　テスト　プ゜リント　＊＊
```

(1) 黒塗りつぶしパターンをプリントする
(2) パターンを 30 秒間乾燥
(3) メディアを自動的に戻し、 テストパターンをプリント

5 テストプリントの結果を確認する

- 正常な場合は、操作を終了します。
- 異常があった場合は、ヘッドクリーニングを実行してください。（☞ P.2-38）



正常なパターン　　異常なパターン

ホワイトノズル状態確認警告 (SS21 ホワイトインク使用時のみ)

SS21 ホワイトインクは他のインクと比べノズル詰まりを起こしやすいため、吐出させない状態でもノズル状態を正常に保っておく必要があります。
ノズルの状態を正常に保つため、本機はおよそ 2 週間*1 に 1 度右の警告を表示します。

```
ホワイト ノズ゛ル シ゛ョウタイ ヲ
カクニン シテクタ゛サイ      <ENT>
```

- 警告表示は、 メディア検出を実施した後に表示されます。
- 警告表示が出たら、 次のようにしてください。

1 警告表示が出たら、ENTER キーを押す

・テストプリント実行待ち状態になります。

```
テスト フ゜リント
( ホワイト カクニン)        <ENT>
```

2 ▲ ▼ を押してテストプリントの種類を選ぶ

3 ENTER キーを押す

・テストパターンをプリントします。

重 要 !

- 警告表示後、「ホワイト確認用のテストパターンでテストプリントを行う」(前ページ) または「ホワイトインクメンテナンス機能」(P.6-40) を実行すると警告は解除されます。
- 警告が表示されたとき、END キーを押してキャンセルすることもできます。 ただし、 次にメディア検出をした後に再度、 警告表示されます。
- 警告表示は、プリントモードでメディア検出を実行した場合のみ表示されます。

*1. 警告表示を解除してから 2 週間または、ホワイトインクメンテナンスを実行してから 2 週間。

ヘッドクリーニングについて

ヘッドクリーニングには、大きく分けて次の 2 種類があります。

● テストプリントの結果に合わせて、ノズル詰まりの解消のために行う

プリントしたテストパターンの結果を確認して、症状に合わせたクリーニングを行います。
次の 3 種類から選んでください。

ノーマル ：線の抜けがある時
ソフト ：ヘッドワイプのみ実行したい時（線の曲がりがある場合）
ハード ：ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

● ES3 インクのシルバーインクやホワイトインクを使用しているときに行う (ファームウェアバージョン Ver.2.40 以降対応)

ES3 インクのシルバーインクやホワイトインクは、インクの性質上、しばらく未使用のまま放置していると、顔料が沈降しやすくなり、色ムラが発生します。
ヘッドクリーニングの “ トクショク ” を行うと、沈降したインクを排出することにより、色ムラを改善することができます。(特色メンテナンス機能)

トクショク ：本機のヘッドやダンパー、チューブに残っている顔料が沈降した特色インクを排出して、色ムラを改善します。

重 要 !
- 特色メンテナンスは、ファームウェア Ver.2.40 以降で、ES3 インクのシルバーインクまたはホワイトインクが充填されている場合のみ選択できます。

テストプリントの結果に合わせてヘッドクリーニングを行う

ヘッドクリーニングには、3 種類あります。テストパターンを確認して使い分けてください。

1 ローカルで（MODE CHANGE）キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
＜ローカル．1＞　　　　［#01］
　　　　　　ハバ：****mm
```

2 （CLEANING/FEED）キーを押す

```
クリーニング
タイプ　　　　　：ノーマル
```

3 （▲）（▼）を押して、クリーニングタイプを選択する

```
クリーニング
タイプ　　　　　：ハード
```

ノーマル ： 線の抜けがある時
ソフト ： ヘッドワイプのみ実行したい時（線の曲がりがある場合）
ハード ： ノーマル、ソフトでクリーニングを実行しても画質不良が改善しない時

4 （ENTER）キーを押す

```
クリーニング　チュウ
　　00：00
```

- クリーニングの残り時間をディスプレイの下段に表示します。
- クリーニングが終わると、ローカルに戻ります。

5 再度テストプリントを実行し、結果を確認する

- テストプリントの結果が正常になるまで、クリーニングとテストプリントを繰り返してください。

ヘッドクリーニングを実行しても画質品質が改良されない場合
- ワイパーとインクキャップのクリーニングをする (☞ P.6-6)
- ヘッドノズルの洗浄をする (☞ P.6-12)
- 「ノズル詰まりが復旧しない場合」を参照して画質不良を解消する (☞ P.6-21)

特色メンテナンスを行う

ES3 インクのシルバーインクやホワイトインクをお使いのとき､顔料の沈降による色ムラを解消するために行います。
特色メンテナンスは、ファームウェア Ver.2.40 以降で、ES3 インクのシルバーインクまたはホワイトインクが充填されている場合のみ選択できます。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >        [ #01 ]
           ハハ゛ : ****mm
```

2 CLEANING/FEED キーを押す

```
クリーニング゛
タイプ゜           : ノーマル
```

3 ▲ ▼ を押して、[トクショク] を選択する

```
クリーニング゛
タイプ゜           : トクショク
```

4 ENTER キーを押す

```
トクショク  センタク
カラー          : シルバ゛ー
```

5 ▲ ▼ を押して、メンテナンスを行う色を選択する

```
トクショク  センタク
カラー          : ホワイト
```

シルバー　　　　　：シルバーインクのみメンテナンスを行う
ホワイト　　　　　：ホワイトインクのみメンテナンスを行う
シルバー & ホワイト ：シルバーインクとホワイトインクを同時にメンテナンスする

6 ENTER キーを押す

```
インクカートリッシ゛ ヲ  ハス゛ス
        _ _ _ W _ _ _ _
```

7 選択した色のインクカートリッジを取り外す

- 取り外すインクカートリッジを、カートリッジの上にあるランプが点灯してお知らせします。
- インクカートリッジを取り外すと、インクの排出を始めます。

```
＊  ハイシュツ  チュウ  ＊
        03 : 00
```

↓

- 排出が終わると、右の画面を表示します。

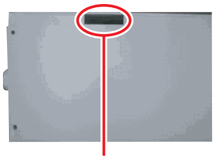
```
カートリッシ゛ ヲ  フッテクタ゛サイ
                    : ent
```

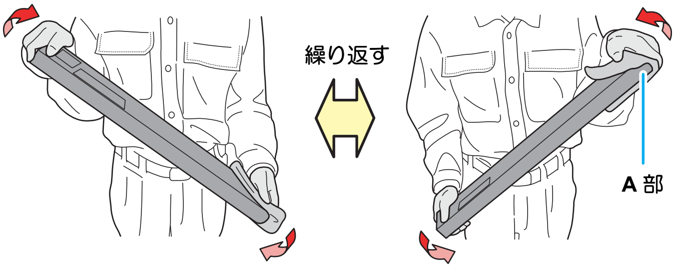
8 取り外したカートリッジを 20 回程度ゆっくりと左右に振る

- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に 20 回以上振ります。

- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。

A 部（針の差し口）


B 部（底面の隙間）



紙タオルでしっかりと押さえてゆっくり振る

9 ENTER キーを押す

```
インクカートリッシ゛ ヲ セットスル
___W____
```

10 カートリッジをセットする

- カートリッジをセットすると、充填を開始します。
- 充填が終わると、ローカルに戻ります。

```
シ゛ュウテン チュウ
03:00
```

```
<ローカル.1>            [#01]
```

特色メンテナンスの実行警告表示について

ES3 インクのシルバーインク、ホワイトインク使用時の顔料の沈降による色ムラを回避するため、インクが未使用のまま放置されている状態が 2 日以上続くと、電源投入時にディスプレイに右のメッセージを表示します。

トクショクメンテナンス　ヲ
ジ゛ッコウシマスカ?　　　<ENT>

↕

カラー　　　　　：シルバ゛ー

- ■ シルバーインクとホワイトインクは約 **2** 日間放置すると、色味が変化してきます。
- ■ 警告表示が出たら、次のようにして特色メンテナンスを行ってください。

---

1 警告表示が出たら、ENTER キーを押す

- 特色メンテナンスを行わない場合は、END キーを押してキャンセルしてください。

---

2 ENTER キーを押す

インクカートリッジ゛　ヲ　ハズ゛ス
_S_W_ _ _ _

---

3 画面に表示した色のインクカートリッジを取り外す

- 取り外すインクカートリッジを、カートリッジの上にあるランプが点灯してお知らせします。
- インクカートリッジを取り外すと、インクの排出を始めます。

＊　ハイシュツ　チュウ　＊
03：00

↓

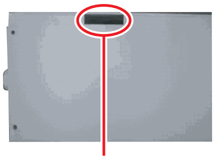
- 排出が終わると、右の画面を表示します。

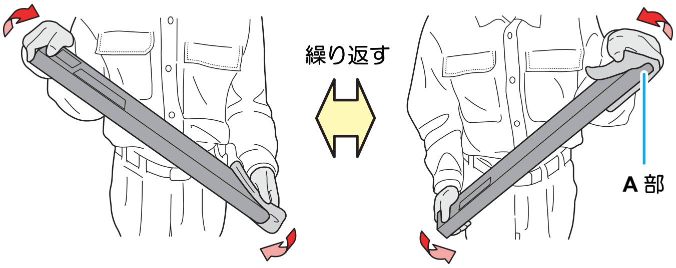
カートリッジ゛　ヲ　フッテクダ゛サイ
：ent

4 取り外したカートリッジを 20 回程度ゆっくりと左右に振る

- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に 20 回以上振ります。

> - 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
> - インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。



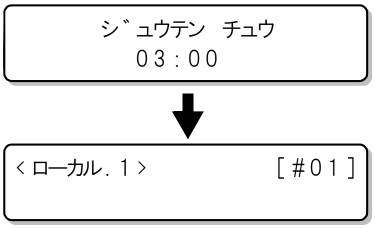


紙タオルでしっかりと押さえてゆっくり振る

5 ENTER キーを押す

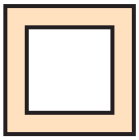
6 カートリッジをセットする

- カートリッジをセットすると、充填を開始します。
- 充填が終わると、ローカルに戻ります。



テストカット（試し切り）をする

テストカット (試し切り) を実行して､ツール条件の設定が適切か確認します。
テストカットをすると、右のような 2 つの正方形をカットします。



重 要！

- カッター刃の磨耗により切れ味が悪くなってきたときは、暫定的に PRESSURE を強くして対処することができます。
  (この措置は、あくまで暫定的な措置です。カット品質を維持する上でもカッター刃の交換を推奨いたします。)
- テストカットは現在のカッター位置で動作を実行します。(メディア上にカッターユニットが無い場合は、作図原点でテストカットを行う)
- テストカット後、データをカットする場合は、あらかじめ原点を移動させておく必要があります。原点を移動しないでカットを行うと、テストカットに重なってしまう恐れがあります。
- メディア検出時にプリントモードになっていた場合、そのままテストカットを行うと、手順 2 で TEST PRINT/TEST CUT キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、ENTER キーを押してピンチローラー圧の設定をカットモードに切り替えてからテストカットを実行してください。
- END キーを押すと切替動作を行いません。

```
!  ピ゜ンチローラーアツ:PRINT  !
キリカエ                :ent
```

- ツール条件の設定が適切な場合は、試し切り結果が以下のようになります。
  2 つの正方形をはがして、全て切れている
  ベース紙が切れていない
  正方形の角が丸くない
  正方形の角がめくれていない

---

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>            [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

---

2 TEST PRINT/TEST CUT キー押す

```
テスト  カット
                    <ENT>
```

---

3 ENTER キーを押す

・テストカットを行います。

```
   **  テスト  カット  **
```

テストカットの結果により、カット条件の設定をやり直してください。

症　状	原　因	対　処
切れていない部分がある	SPEED が速すぎるため、刃先が浮き上がっている	SPEED を遅くする (☞ P.2-4)
		ツールホルダーのツマミを締める (☞ P.2-12)
メディアのベース紙が切れている	PRESSURE が強すぎる	PRESSURE を弱くする (☞ P.2-4)
	刃先の出し量が大きい	刃先の出し量を調節する (☞ P.2-11)
角が丸い	OFFSET の値が不適正	お使いのカッターに合わせて、OFFSET 値を調節する (☞ P.2-4)
角がめくれている	刃先の出し量が大きい カット圧力が高い 刃先補正圧オフセット値が大きい 上記の 2 つ以上が該当している	刃先の出し量を調節する (☞ P.2-11)
		PRESSURE を調整する (☞ P.2-4)
		刃先補正圧オフセット値を変更する (☞ P.4-41)

ヒーターの温度設定を変更する

ヒーターの温度設定は、P.3-14 の「ヒーターの設定値を変更する」で変更・保存できます。
ここでは、設定済みの温度の変更方法について説明します。
お使いになるメディアに合わせて、ヒーター温度を設定してください。

- お買い上げ時、ヒーターの温度設定は "OFF" になっています。
- プリント中にも温度の調整ができるため、適切な温度調整ができます。
- 周囲の温度により、設定した温度に到達するまでに数分から数十分かかることがあります。

P

1 ローカルで、HEATER/CUTTER キーを押す

- ディスプレイの "AFT" は、操作パネル上では "POST" を示します。

```
PRE    PRT    AFT
35°C   40°C   50°C
```

ヒーター温度確認画面

2 HEATER/CUTTER キーを押す

```
 40°C    40°C    50°C
( OFF    OFF     OFF  )
```

タイプ登録の [ヒーター] で設定されている温度

3 ▲ ▼ ◀ ▶ を押して、各ヒーターの温度を設定する

ヒーターの選択 ： ◀ ▶ で選ぶ
温度の設定 ： ▲ ▼ で設定

設定温度：**20 ～ 50 ℃**

```
 40°C    40°C    50°C
( OFF    OFF     OFF  )
```

- ヒーターの加熱が始まります。（[HEAT] ランプがオレンジ点灯）

4 ヒーターの加熱が終了する

- ヒーターの温度が設定温度に達すると、[HEAT] ランプが消灯し、[CONSTANT] ランプが緑色に点灯します。

5 終了するとき、ENTER キーを押す

- ローカルに戻ります。

- あらかじめ、お使いになるメディアに合わせてヒーターの温度を登録しておくことができます。☞ P.3-2「プリント条件をまとめて登録する (タイプ登録)」
- 上の操作で設定した温度は、タイプ登録のヒーターの設定値には反映されません。電源をオフにするか、次の条件で新しく温度を変更するまで継続します。
  (1) タイプを変更する
  (2) P.3-14 の「ヒーターの設定値を変更する」でヒーター温度を変更する
  (3) コンピューターからヒーターの温度を指定する
- お使いの RIP が、ヒーターの温度をコントロールできる機能を搭載している場合は、RIP 側でコントロールすることができます。（設定方法は、お使いの RIP の取扱説明書をご覧ください。）

重 要 !

- 本機は、20 ～ 35 ℃の環境で使用してください。周囲の温度条件により、設定値まで温度が上昇しない場合があります。

温度設定の目安

インクの種類	ES3 インク			SS21 インク
メディアの種類	光沢塩	ターポリン	FF	全メディア
Pre ヒーターの設定	40 ℃	40 ℃	40 ℃	35 ℃
Print ヒーターの設定	40 ℃	40 ℃	40 ℃	35 ℃
After ヒーターの設定	50 ℃	50 ℃	50 ℃	50 ℃

重 要！

- メディアの状態により、適温に調整してください。

ヒーターの温度を確認する

1 操作パネルの HEATER/CUTTER を押す

- 現在のヒーター温度が表示されます。

```
PRE    PRT    AFT
35°C   40°C   50°C
```

2 確認を終わるとき、END を押す

- ローカルに戻ります。

重 要！

- カットモードでデータをカットした後にプリントモードにモードを切り替えた場合、手順 1 で HEATER/CUTTER キーを押すと、 それぞれのヒーター温度は “OFF” で表示されます。 再度 HEATER/CUTTER キーを押すと、 設定した温度まで上昇を始めます。

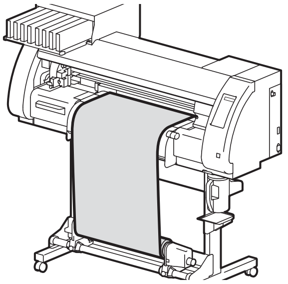
データをプリントする

プリントを開始する

重 要！

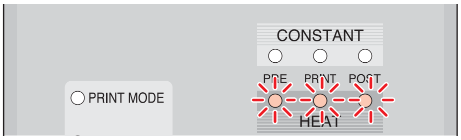
- ロールメディアを使用する場合、プリントを開始する前にロールメディアを手で巻き戻し、たわみのない状態にしてください。画質不良の原因になります。
- カットモードでデータをカットした後にプリントモードにモードを切り替えた場合、それぞれのヒーター温度は “OFF” になっています。 HEATER/CUTTER キーを 2 回押し、 設定した温度までヒーター温度を上昇させてから、 プリントしてください。

1 メディアをセットする（P.2-15）



2 ヒーターの温度を確認する

- ディスプレイ下の [PRE]、[PRINT]、[POST] で CONSTANT ランプが点灯していることを確認してください。
- [POST] はディスプレイ上の “AFT” を示します。



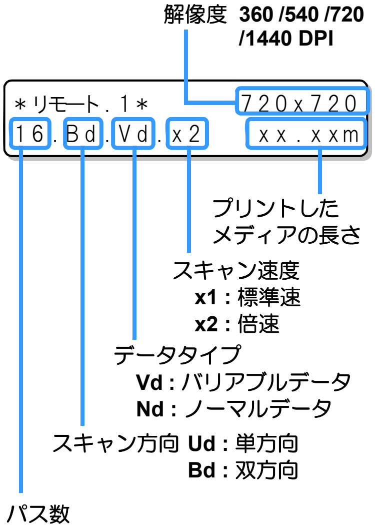
3 ローカルで、REMOTE キーを押す

- リモートになり、コンピュータからのデータを受信できるようになります。

オント゛　セイキ゛ョ　チュウ
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ

4 コンピュータからプリントするデータを送信する

- P.3-6「ピンチローラーの設定」で設定したピンチローラー圧に合わせて、自動的に圧力を切り替えます。
- ACTIVE ランプが点滅し、プリント条件を表示します。
- データの送信方法については、出力ソフトウェアの取扱説明書をお読みください。



5 プリント開始

- 解像度によっては同じデータをプリントしても、セットしたメディアの幅やプリント原点の位置によってプリント速度が変化する場合があります。

プリントを中止する

プリントを途中で中止する場合、次の操作をしてください。

1 プリント中に、REMOTE キーを押す

- プリント動作を中止します。
- コンピュータからデータを送信している場合は、コンピュータ側でデータ送信を止めます。
- 再度 REMOTE キーを押すと、中断したデータからプリントを再開します。

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

受信したデータを消去する (データクリア)

プリントを中止したいときは、受信済みのデータを消去してください。

1 ローカルで、DATA CLEAR キーを押す

```
テ゛ータ クリア
                 <ENT>
```

2 ENTER キーを押します。

- 受信データを消去し、ローカルに戻ります。

```
** テ゛ータ クリア **
```

カットを開始する

ペン作図をするときも、同様にして作図してください。

1 本機がリモート状態になっているとき、コンピュータからカットするデータを送信する

```
＊リモート．C＊      ＜   100%＞
 CUT1 （30／ 70 ／0.30）
```

- P.4-3「ピンチローラーの設定」で設定したピンチローラー圧に合わせて、自動的に圧力を切り替えます。
- データを受信すると、自動的にカットが始まります。
- カットが終了すると、右のような表示になります。

カットを中断する

カットやペン作図を中断する場合、次の操作をしてください。

1 本機が動作中に(REMOTE)キーを押す

- しばらくすると本機の動作が止まり、ローカル状態になります。
- 処理中のデータによって、動作が止まるタイミングが異なります。
  円の処理中　：円を処理後、止まる
  他の線分　　：ベクトル単位で処理後、止まる

カットを再開する

1 再開するとき、(REMOTE)キーを押す

- リモート状態になり、カットを再開します。

中断後に設定できる機能

● ツール条件を変更する

☞ P.2-3「カット時のツール条件について」

● 受信データのカットを中止する

☞ P.2-51「カットを中止する（データクリア）」

カットを中止する（データクリア）

受信したデータのカットを中止したい場合、データクリアを行います。

- データクリアを実行した場合、REMOTE キーを押しても、処理は再開しません。
- データクリア実行後、リモートモードに切り替えてデータを受信するすると新しいデータをカットします。

1 ローカルで、DATA CLEAR キーを押す

```
デ゛ータ クリア
                <ENT>
```

2 ENTER キーを押す

- 受信バッファをクリアし、ローカルに戻ります。

```
** デ゛ータ クリア **
```

- データクリアは、データ送信の途中では行わないでください。
- データクリア実行後も、受信データは受信バッファ内に保存されています。データクリアを実行したデータを指定して、マイスウギリ機能をすることができます。（☞ P.4-50）

カッターユニットを退避させる

カットまたはペン作図が終了したとき、カッターユニットはプラテン上にあります。
カット（ペン作図）した結果の確認や、新しいメディアをセットするときに次の操作をして、カッターユニットをプラテン上から退避させてください。

1 ローカルで、HEATER/CUTTER キーを押す

```
カッターユニット タイヒ
                <ENT>
```

2 ENTER キーを押す

- カッターユニットがプラテン上から本機の左端へ移動します。

```
シハ゛ラク オマチクタ゛サイ
```

C

2

基本的な使い方

メディアを裁断する

メディアの裁断方法には、オートカットとマニュアルカットの 2 種類があります。

- メディアの裁断するときは、メディアのサイズに合わせてカット方式を設定しておいてください。(☞ P.5-4「カットホウシキの設定をする」)

重要！

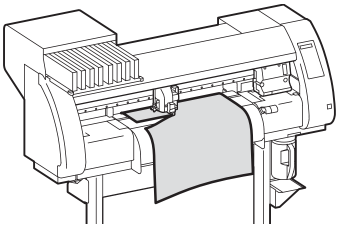
- メディアをカットしたとき、印刷面が床や他の印刷面に触れないようにお気をつけください。
- 巻き取り装置をお使いの場合、カットしたメディアは巻き取り装置のスイッチを使って巻き取ってください。
- メディアのサイズは、設定したピンチローラー (☞ P.2-17) により検出し、それを基準にして裁断方法を決定しています。メディアの両端とピンチローラーが離れていると、メディア裁断時に切り残しが発生する恐れがあるのでご注意ください。

オートカット

プリント終了後、自動的にメディアを切り離します。

- オートカットには設定が必要です。(お買い上げ時は、オートカット機能が “OFF” になっています。)
- オートカットの設定は、プリンタ機能 (☞ P.3-31) とカット機能 (☞ P.4-25) で別々に行う必要があります。
- オートカット機能を “ オフ ” にしているときは、「マニュアルカット」の操作をして、メディアをカットしてください。

1 プリントが終了したら、自動的にメディアを裁断する



マニュアルカット

操作パネル上のキーを使い、任意の位置でメディアを裁断します。

1 ローカルで、[▲][▼][◀][▶]を押す

- 原点設定モードになります。
- [▼]を押して、裁断する位置までメディアをフィードします。

```
ケ゛ンテン　セッテイ
0.0　　　　———
```

2 [FUNCTION]キーを押す

```
メテ゛ィア　カット
　　　　　　　<ENT>
```

3 [ENTER]キーを押す

- メディアを裁断します。
- 裁断が終了すると、ローカルに戻ります。

```
メテ゛ィア　カット　チュウ
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ
```

第３章
応用機能ープリンタ編ー

この章では ...

プリンタ機能をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

ユーザータイプについて 3-2
　プリント条件をまとめて登録する (タイプ登録) 3-2
　タイプ登録のしかた 3-2
ピンチローラーの設定をする 3-5
　推奨するピンチローラー圧の設定 3-5
　ピンチローラーの個数について 3-5
　ピンチローラーの設定 3-6
メディア補正の設定をする................. 3-9
　メディア補正の設定 3-9
ドットの位置がずれたら 3-12
ヒーターの設定値を変更する 3-14
　ヒーターの温度設定を変更する 3-14
　適温調整 3-16
　ヒーター温度が設定温度に達していないと 3-17
プリント方式の設定をする............... 3-18
　プリント品質の設定 3-18
　スキャン方向の設定 3-20
　ロジカルシークの設定 3-21
　白重ねプリントの設定 3-22
乾燥時間の設定をする....................... 3-23
優先順位の設定をする....................... 3-24
オートクリーニングの設定をする 3-26
プリント中クリーニングの設定をする 3-28
その他の設定..................................... 3-30
設定内容をコピーする 3-32
設定した内容を初期状態に戻す 3-33
マシン設定 3-34
　ハイキファンの設定をする 3-35
　カンソウフィードの設定をする 3-36
　スタンプの設定をする 3-37
　テストプリントハイチの設定をする 3-38
　シツオンの動作条件を変更する 3-39
インクの有効期限を延長する 3-40
　インクの有効期限を延長する 3-40
インク供給経路の切替設定............... 3-42

ユーザータイプについて

プリント条件をまとめて登録する (タイプ登録)

本機では、タイプ（1~4）ごとにプリント条件を登録できます。
お使いになるメディアに合わせたプリント条件をタイプに登録しておけば、違う種類のメディアに交換したとき、タイプを変更するだけで最適のプリント条件を設定できます。

タイプ登録の例

タイプ 1	ターポリン 1 用	タイプ 3	FF(Flexible Face) 用
タイプ 2	ターポリン 2 用	タイプ 4	塩ビマット

P

タイプ登録のしかた

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >        [ #01 ]
          ハハ゛ : ＊＊＊＊mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ             < ENT >
```

3 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク            : タイプ゜1
```

4 ▲ ▼ を押してタイプ（1 ～ 4）を選び、ENTER キーを押す

5 設定機能一覧表の各項目を選び、設定する

- 詳細な設定方法は「ユーザータイプ設定機能一覧表」に記載した参照ページをご覧ください。

ユーザータイプ設定機能一覧表

ユーザータイプに登録できる各設定機能の概要と設定値について説明します。
お買い上げ時は、下線の設定になっています。

<table>
<tr><th colspan="3">機能名称</th><th>設定値</th><th>概　要</th></tr>
<tr><td rowspan="3">ピンチ
ローラー
(☞ P.3-5)</td><td colspan="2">リョウタン</td><td>HIGH/MIDDLE/LOW</td><td rowspan="2">ピンチローラーの圧力を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">チュウカン</td><td>HIGH/MIDDLE/LOW/OFF</td></tr>
<tr><td colspan="2">ピンチローラー No.</td><td>2 ～ 7</td><td>メディア左端のピンチローラー No. を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">メディアホセイ (☞ P.3-9)</td><td>-255 ～ 0 ～ 255</td><td>メディアの送り量を補正するためのパターンをプリントし、補正します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">ドットイチホセイ (☞ P.3-12)</td><td>-40.0 ~ 0 ~40.0</td><td>往復プリントにおける、着弾位置の調整を行います。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">ヒーター
(☞ P.3-14)</td><td rowspan="3">オンド
セッテイ</td><td>プリ
ヒート</td><td>OFF/ 20 ～ 50 ℃
(OFF/ 68 ～ 122 ゜F)</td><td rowspan="5">ヒーターの状態を設定します。</td></tr>
<tr><td>プリント
ヒート</td><td>OFF/ 20 ～ 50 ℃
(OFF/ 68 ～ 122 ゜F)</td></tr>
<tr><td>アフター
ヒート</td><td>OFF/ 20 ～ 50 ℃
(OFF/ 68 ～ 122 ゜F)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ジカン
セッテイ</td><td>スタン
バイ</td><td>(ナシ / 0 ～ 90 min
10min 単位)</td></tr>
<tr><td>OFF
ジカン</td><td>(ナシ / 0 ～ 90 min
10min 単位)</td></tr>
<tr><td rowspan="5">プリント
ホウシキ
(☞ P.3-18)</td><td colspan="2">DRAFT ヒンシツ</td><td>ヒョウジュン / ハヤイ / キレイ</td><td rowspan="5">プリント品質、プリント方向を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">FINE ヒンシツ</td><td>ヒョウジュン / ハヤイ / キレイ</td></tr>
<tr><td colspan="2">スキャンホウコウ</td><td>ソウホウコウ / タンホウコウ</td></tr>
<tr><td colspan="2">ロジカルシーク</td><td>ON / OFF</td></tr>
<tr><td colspan="2">シロ カサネプリント</td><td>OFF / ON(LEVEL1~3)</td></tr>
<tr><td colspan="3">カサネヌリ (☞ P.3-30)</td><td>1 ～ 9</td><td>インクの重ね塗りを行います。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">カンソウ
ジカン
(☞ P.3-23)</td><td colspan="2">スキャン</td><td>0.0 ～ 19.9 sec</td><td rowspan="2">インクの乾燥時間を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">プリントエンド</td><td>0 ～ 999 sec</td></tr>
<tr><td colspan="3">オートカット (☞ P.3-30)</td><td>ON / OFF</td><td>プリント後、自動でメディアをカットします。</td></tr>
<tr><td colspan="3">プリフィード (☞ P.3-30)</td><td>ON / OFF</td><td>プリント前にメディアを前後搬送させます。
貼り付きやすいメディアを使用する場合、ON にしてください。</td></tr>
<tr><td colspan="3">カラーパターン (☞ P.3-30)</td><td>ON / OFF</td><td>メディア右端にカラーパターンをプリントします。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="3">機能名称</th><th>設定値</th><th>概　要</th></tr>
<tr><td colspan="3">リフレッシュ (☞ P.3-30)</td><td>レベル 0 (リフレッシュ間隔長い) ～ 3 (間隔短い)</td><td>プリント中に、インクヘッドのリフレッシュを行います。</td></tr>
<tr><td colspan="3">キュウチャク (☞ P.3-30)</td><td>OFF/ ヨワイ / ヤヤヨワイ / ヒョウジュン / ツヨイ</td><td>メディアの吸着する力を設定します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">フィードソクドレベル (☞ P.3-30)</td><td>10 ～ 100 ～ 200%
10% 6mm/sec
100% 60mm/sec
200% .... 120mm/sec</td><td>プリント中などにメディア送りをする速度を変更します。</td></tr>
<tr><td colspan="3">ユウセンジュンイ (☞ P.3-24)</td><td>コベツセッテイ / スベテホスト / スベテパネル</td><td>優先する設定 (パネル / ホスト) を決定します。
コベツセッテイ選択時は、以下の各項目について個別に設定
• メディアホセイ
• ヒーター
• サクズホウシキ
• カサネヌリ
• カンソウジカン
• オートカット
• プリフィード
• カラーパターン
• リフレッシュ
• キュウチャク
• フィードソクドレベル</td></tr>
<tr><td rowspan="3">オートクリーニング (☞ P.3-26)</td><td rowspan="2">ON</td><td>カンカク</td><td>10 ～ 1000 ～ 10000 mm</td><td rowspan="3">プリントごとに行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定します。</td></tr>
<tr><td>タイプ</td><td>ノーマル / ソフト / ハード</td></tr>
<tr><td colspan="2">OFF</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">プリントチュウクリーニング (☞ P.3-28)</td><td rowspan="2">ON</td><td>カンカク</td><td>10 ～ 1000 ～ 10000 mm</td><td rowspan="3">プリント中に行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定します。</td></tr>
<tr><td>タイプ</td><td>ノーマル / ソフト / ハード</td></tr>
<tr><td colspan="2">OFF</td><td></td></tr>
</table>

ピンチローラーの設定をする

使用するメディアに合わせて、ピンチローラーの圧力とピンチローラー No. を設定します。

設定項目	設定値	概　　要
リョウタン	HIGH MIDDLE LOW	使用するメディアに合わせて、メディア両端のピンチローラーの圧力を設定します。
チュウカン	HIGH MIDDLE LOW OFF	使用する用途に合わせて、両端以外のピンチローラーの圧力を設定します。
ピンチローラー No.	2 ～ 7 *1	使用するメディアサイズに応じて、左端のピンチローラー No. を設定します。

*1. お使いになっている装置のタイプによって、ピンチローラー数は変わります。

推奨するピンチローラー圧の設定

プリントをするときのピンチローラー圧は、以下のように設定することをお勧めします。

設定圧力	用　　途
両端 : Middle 中間 : Middle	標準使用時
両端 : High 中間 : Low	メディアに残るピンチローラー跡を小さくしたいとき • メディアの種類 / 送り量 / メディア幅により、メディアがずれる場合があります。

重 要！
- 上記以外の条件での使用は、プリント時のメディアズレの可能性があります。
- ピンチローラー圧は、お使いの状況に応じて設定してください。

ピンチローラーの個数について

ピンチローラーの個数は以下のようになります。

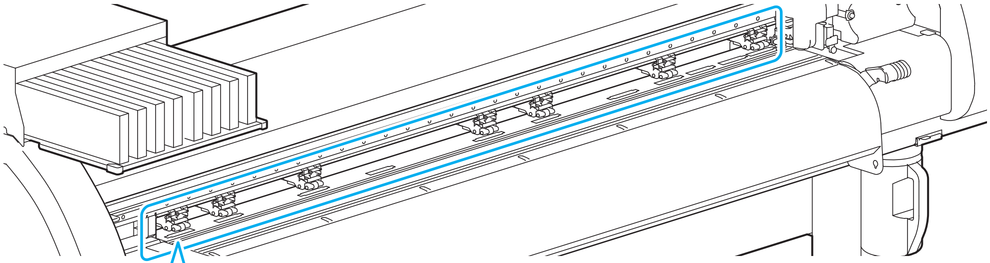
お使いの装置のピンチローラーをご確認ください。

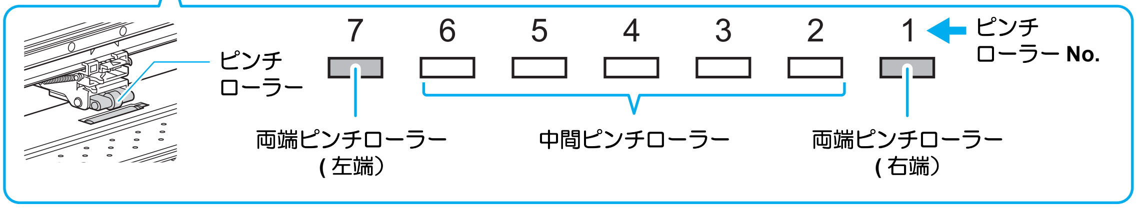
モデル名	個　数
CJV30-160	7 個
CJV30-130	6 個
CJV30-100	4 個
CJV30-60	3 個

P

ピンチローラーの設定

ここでは、CJV30-160 をお使いになったときの設定方法を説明します。
CJV30-130/100/60 をお使いの場合は、手順 10 で設定できるピンチローラー数が異なります。





• イラストは CJV30-160 になります。

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

< ローカル. 1 > [#01]
ﾊﾊﾞ : ****mm

2 (FUNCTION) キーを押す

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3 (ENTER) キーを押す

セッテイ
センタク : タイプ° 1

4 (▲)(▼) を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、(ENTER) キーを押す

5 (ENTER) キーを押す

リョウタン: HIGH [H_ _ _ _ _H]
チュウカン: OFF No . 7 - 1

6 (▲)(▼) を押して、メディア両端のピンチローラー圧を設定する

リョウタン: MID. [H_ _ _ _ _H]
チュウカン: OFF No . 7 - 1

• 設定値：HIGH/MID./LOW

7 ▶ を押して、中間ピンチローラーの設定を選ぶ

```
リョウタン:MID. [H_____H]
チュウカン:OFF    No.7-1
```

8 ▲▼ を押して、中間のピンチローラー圧を設定する

```
リョウタン:MID. [H_____H]
チュウカン:MID.   No.7-1
```

・設定値：HIGH/MID./LOW/OFF

9 ▶ を押して、使用するピンチローラー No. の設定を選ぶ

```
リョウタン:MID. [H_____H]
チュウカン:MID.   No.7-1
```

10 ▲▼ を押して、メディア左端のピンチローラーの No. を設定する

```
リョウタン:MID. [___H__H]
チュウカン:MID.   No.4-1
```

・設定値：2 ～ 7

11 ENTER キーを押す

12 終了するとき、END キーを数回押す

重 要！

・ここで設定したピンチローラー圧は、次の条件でメディアに反映されます。
リモートでプリント / カットするとき
次にメディア検出を行ったとき
・現在セットしているメディアに対して設定した値を反映させたい場合は、クランプレバーを上下させ、再度メディア検出を行う必要があります。
・ドット位置補正やメディア補正などローカルでプリントを行う場合は、手順 1 からの操作をして、ピンチローラー圧を再設定してください。

ピンチローラーの詳細設定

使用するメディアに応じて、中間ピンチローラーの詳細設定ができます。

1 **P.3-6**「ピンチローラーの設定」手順 **10** までの操作をする

2 FUNCTION キーを押す

```
リョウタン: [H__H__H]
チュウカン: No.3-1
```

3 ◀ ▶ を押して設定するピンチローラーを選び、▲ ▼ を押して設定する

```
リョウタン: [H__L__H]
チュウカン: No.3-1
```

4 ENTER キーを押す

5 終了するとき、END キーを数回押す

メディア補正の設定をする

次のような場合は、必ずメディア補正の設定をして、メディアの送り量を補正してください。

- メディアの種類を交換した場合 (☞ P.2-15)
- ヒーターの温度を変更した場合 (☞ P.2-46)
- ピンチローラーの設定でピンチローラー圧を変更した場合 (☞ P.3-6)

補正値が適切でないと、プリントした画像に縞が入るなど、きれいにプリントできない場合があります。

重要!

- ヒーターの温度を変更した場合は、[CONSTANT] ランプが点灯し、設定した温度に達していることを確認してから補正してください。
- 巻き取り装置を使用してプリントした場合、あらかじめメディアをセットした状態でメディア補正を行ってください。

メディア補正の設定

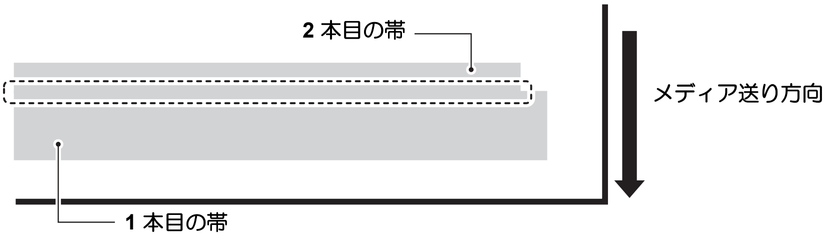
補正パターンをプリントして、メディア送り量の補正を行います。

- 補正パターンでは 2 本の帯をプリントします。
- 2 本の帯の境が均等の濃さになるように調整してください。

重要!

- メディア検出時にカットモードになっていた場合、そのままメディア補正を行うと、手順 7 で (ENTER) キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、(ENTER) キーを押してピンチローラー圧の設定をプリントモードに切り替えてから補正パターンをプリントしてください。
- (END) キーを押すと切替動作を行いません。

```
！  ピ゜ンチローラーアツ：CUT  ！
キリカエ                  ：ent
```



1 メディアをセットする (☞ P.2-15)

2 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
＜ローカル．1＞          ［#01］
            ハハ゛：＊＊＊＊mm
```

3 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ            <ENT>
```

4 (ENTER) キーを押す

```
セッテイ
センタク          : タイプ゜1
```

5 (▲)(▼) を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、(ENTER) キーを押す

6 (▲)(▼) を押して、[メディアホセイ] を選ぶ

```
[1]
メテ゛ィア ホセイ      <ent>
```

7 (ENTER) キーを押す

```
[1] メテ゛ィア ホセイ
フ゜リント カイシ      :ent
```

8 (ENTER) キーを押して、補正パターンをプリントする

```
フ゜リント チュウ
シハ゛ラク オマチクタ゛サイ
```

9 補正パターンを確認し、補正値を入力する

```
[1] メテ゛ィア ホセイ
ホセイチ          =  0
```

- (▲)(▼) を押して、補正値を入力します。
  " ＋ " に入力すると : 2 本の帯の間隔が広がる方向に移動します。
  " － " に入力すると : 2 本の帯の間隔が近づく方向に移動します。
- 補正値を ”10” 変更するごとに、約 0.1mm 帯が移動します。

10 (ENTER) キーを押す

```
[1] メテ゛ィア ホセイ
フ゜リント カイシ      :ent
```

11 (ENTER) キーを押す

```
フ゜リント チュウ
シハ゛ラク オマチクタ゛サイ
```

- 再度、補正パターンをプリントして確認します。
- 補正の必要がある場合は、手順 9 の操作をして補正してください。

12 終了するとき、(END) キーを数回押す

プリント中にメディア送りを補正したいときは

リモートモードや画像データのプリント中でもメディア送り量の補正ができます。

1 リモートモードで、FUNCTION キーを押す

メデ゛ィアオクリ　ホセイ
0

2 ENTER キーを押す

メデ゛ィアオクリ　ホセイ
0　▶　1

3 ▲▼を押して、補正量を入力する

- 補正量：-500 ～ 500
- ここで入力した値は、すぐに補正量に反映されます。

4 ENTER キーを押す

メデ゛ィアオクリ　ホセイ
ホゾ゛ン　:ent

- ENTER キーのか代わりに END キーを押すと、ここで補正した内容は無効となります。

5 ENTER キーを押す

- 変更した値が登録されます。
- ENTER キーの代わりに END キーを押すと、ここで補正した内容は一時、有効となります。(再度メディア検出を行うか電源を OFF すると、補正値はクリアされます)

リモートモード中にメディア補正が行われたことを表します

＊リモート．＋＊　[#01]
＊＊．＊＊mm

P

3

応用機能―プリンタ編―

ドットの位置がずれたら

プリント時の条件（メディアの厚み／ヘッドの高さ／ピンチローラー圧の設定／インクの種類など）が変わったときは、次の操作をして双方向（Bi）プリント時のインクの落下位置を補正し、適正なプリント結果を得られるようにしてください。

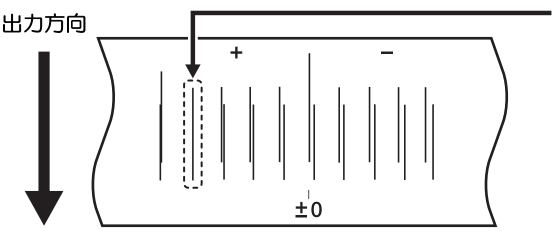
重 要！

- メディア検出時にカットモードになっていた場合、そのままドット位置補正を行うと、手順 7 で ENTER キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、ENTER キーを押してピンチローラー圧の設定をプリントモードに切り替えてからパターンをプリントしてください。
- END キーを押すと切替動作を行いません。

```
！　ヒ゜ンチローラーアツ：CUT　！
キリカエ　　　　　　　　：ent
```

P

パターンプリント例



プラス方向に **0** 位置から **4** 本目が、直線で表示されています。
この場合のドット位置補正値は **4.0** です。

1 メディアをセットし、プリント原点を設定する (**P.2-15、P.2-33**)

- パターンプリントをするには、幅 500mm× 送り 400mm 以上の大きさのメディアが必要です。

2 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
＜ローカル．1＞　　　　［#01］
　　　　　　ハハ゛：****mm
```

3 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ　　　　　　　＜ENT＞
```

4 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク　　　　　：タイフ゜1
```

5 ▲ ▼ を押して、タイプ（**1** ～ **4**）を選び、ENTER キーを押す

6 [▲][▼]を押して、[ドットイチホセイ]を選ぶ

```
[1]
ドット イチ ホセイ        <ent>
```

7 [ENTER]キーを押す

```
[1]ドット イチ ホセイ
プリント カイシ           :ent
```

8 [ENTER]キーを押して、パターンプリントを開始する

```
    プリント チュウ
 シバラク オマチクダサイ
```

- 複数のテストパターンをプリントします。(プリント順にパターン 1,2,3... と呼ぶ)

9 [▲][▼]を押して、パターン 1 のドット位置を補正する

現在のヘッドの高さを表します
(H) ...High(厚い)
(L)....Low (薄い)

```
[1]ドット イチ ホセイ    (H)
パターン1           = 0.0
```

- 補正値:-40.0 ~ 40.0
- テストパターンを確認し、往路と復路が 1 本の直線になっている位置が補正値となります。
- 補正値が -40.0 ~ 40.0 の間にない場合は、ヘッドの高さを調整後、手順 2 から操作をし直してください。
- 補正値はヘッドの高さに応じて 2 種類持つことができます。

10 [ENTER]キーを押す

11 手順 9 と同様にして、パターン 2~ のドット位置を補正し、[ENTER]キーを押す

12 終了するとき、[END]キーを数回押す

P

3

応用機能―プリンタ編―

ヒーターの設定値を変更する

温度設定の目安

インクの種類	ES3 インク			SS21 インク
メディアの種類	光沢塩	ターポリン	FF	全メディア
Pre ヒーターの設定	40 ℃	40 ℃	40 ℃	35 ℃
Print ヒーターの設定	40 ℃	40 ℃	40 ℃	35 ℃
After ヒーターの設定	50 ℃	50 ℃	50 ℃	50 ℃

重 要!
- メディアの状態により、適温に調整してください。

ヒーターの温度設定を変更する

ここでは、「オンドセッテイ」と「ジカンセッテイ」の各項目の設定をします。

オンドセッテイ		プラテン内に内蔵されているプリヒーター・プリントヒーター・アフターヒーターの設定温度を変更します。
ジカンセッテイ *1	スタンバイ	プリント終了後から、ヒーターが予熱温度に下がり始めるまでの時間を設定します。 **設定値**：ナシ、0 ～ 90min（10min 単位) • 予熱温度はあらかじめ設定されています。変更はできません。 • 温度が下がった状態でデータを受信すると、自動的に設定温度まで上がってからプリントを開始します。 • 設定値を「ナシ」にしていると、ヒーターは予熱温度にはなりません。
	OFF ジカン	以下の場合にヒーターをオフにします。 • スタンバイ時に設定時間以上プリントしない場合 • スタンバイの設定を「ナシ」にしているとき、プリント終了後に設定時間以上プリントしない場合 **設定値**：ナシ、0 ～ 90min（10min 単位) ヒーターがオフの状態でデータを受信すると、自動的に設定温度まで上げてからプリントします。 •「ナシ」に設定すると、ヒーターはオフになりません。 •「0min」に設定すると、プリント終了でオフとなります。

*1. ここで設定した時間は、プリント終了時のみ有効です。プリント＆カットの動作終了時およびカット動作の終了時は、お使いのアプリケーションソフト (RasterLinkPro4 以降、FineCut7 以降) の設定により異なります。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

< ローカル. 1 > [#01]
ハハ゛ : ＊＊＊＊mm

2 (FUNCTION) キーを押す

FUNCTION
セッテイ <ENT>

3 (ENTER) キーを押す

セッテイ
センタク : タイフ゜1

4 [▲][▼]を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、[ENTER]キーを押す

5 [▲][▼]を押して、[ヒーター] を選ぶ

```
[1]
ヒーター                <ent>
```

6 [ENTER]キーを 2 回押す

・ヒーターの温度設定画面が表示されます。

```
PRE      PRT      AFT
25°C     25°C     35°C
```

7 [▲][▼][◀][▶]を押して、各ヒーター温度を設定する

ヒーターの選択 ： [◀][▶]で選ぶ
温度の設定 ： [▲][▼]で設定

```
PRE      PRT      AFT
35°C     40°C     50°C
```

設定温度：OFF、20 ～ 50 ℃

8 [ENTER]キーを押す

```
[1]ヒーター
オンド゛  セッテイ      <ent>
```

9 [▼]を押して、[ジカンセッテイ] を選ぶ

```
[1]ヒーター
シ゛カン  セッテイ      <ent>
```

10 [ENTER]キーを押す

```
スタンハ゛イ      :OFF  シ゛カン
10min             :     ナシ
```

11 [▲][▼][◀][▶]を押して設定する

項目の選択 ： [◀][▶]で選ぶ
時間の設定 ： [▲][▼]で設定

```
スタンハ゛イ      :OFF  シ゛カン
10min             :     ナシ
```

設定値：ナシ、0 ～ 90 分
(10 分単位)

12 [ENTER]キーを押す

13 終了するとき、[END]キーを数回押す

・ローカルに戻ります。

重 要！

・本機は、20 ～ 35 ℃の環境で使用してください。周囲の温度条件により、設定値まで温度が上昇しない場合があります。

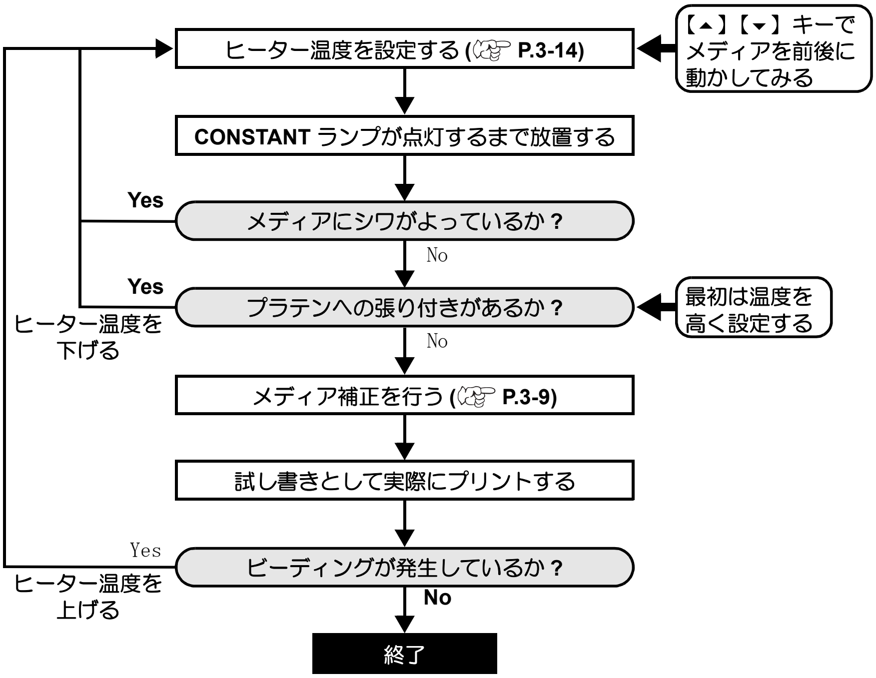
P

3

応用機能―プリンタ編―

適温調整

ヒーター温度を調整する際の適温設定について説明します。
ヒーターの温度はメディアの種類、環境温度などにより異なりますので、各メディアに適した温度に設定してください。非コートメディアやインク乾燥の遅いメディアは、インクの定着性や乾燥性を向上させるためにヒーター温度を上げてください。
以下の方法で、確認しながら適温に設定してください。



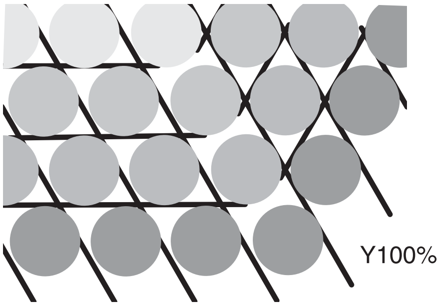
ヒーター温度が設定温度に達していないと

ヒーター温度やインクの受容量 (インクリミット）が低すぎると、ビーディングやバンディングなどプリント不良になります。

ビーディングとは、隣り合ったドットが引き合ってくっつくことです。ビーディングが発生するとブツブツ状のムラになったり、パスの間隔で帯状の横ムラ (バンディング) になったりします。

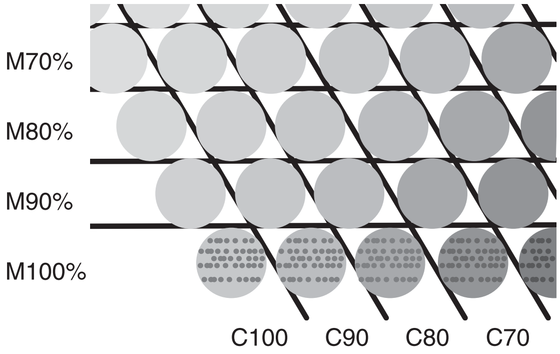
ビーディングの例

単色のマゼンタ 100 パーセント付近は、綺麗にプリントされています。単色の 70 ～ 100 パーセント付近はメディア送りムラの影響を非常に受けやすい部分です。この部分にムラが無いことから、メディアの送り補正は適正に調整されていることがわかります。



綺麗にプリントされた状態

ところが、M100% ＋ C100% のブルー部分にはブツブツのムラと、バンディングが発生しています。これがビーディングによるバンディングです。ヒーターの温度が低かったり、メディアのインク受容量 (インクリミット) が低いと、先に着弾したインク粒が定着する前に、次のインク粒が着弾し、ドットがくっついたり分布が均一でなくなり、ムラやバンディングが発生します。
ビーディングを防ぐには、ヒーターの温度を上げてメディアのインク受容量 (インクリミット) を上げたり、インク量をメディアに合わせて調整したり、パス数を増やして少しずつインクを打ち込む、スキャンウェイトで時間をかせぐなどの対策をとる必要があります。
上記対策を行ってもビーディングが解消されない場合はメディアを変更してください。



バンディングが発生した状態

プリント方式の設定をする

プリント方式の設定では、プリントに関する次の各項目の設定をします。

- プリント品質 **(DRAFT)** : DRAFT モード (スキャン方向の解像度が 540dpi) のプリント品質を設定
- プリント品質 **(FINE)** : FINE モード (スキャン方向の解像度が 720dpi) のプリント品質を設定
- スキャン方向 : プリント方向を設定
- ロジカルシーク : ロジカルシークの ON/OFF を設定
- 白重ねプリント : 白インク(SS21W-2)使用時、白インク印字後の他カラーの印字方法を設定

プリント品質の設定

設定項目	設定値	概　要
DRAFT 品質 FINE 品質	ヒョウジュン／ハヤイ／キレイ	プリント時の画質を選択します。

P

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >        [ #01 ]
            ハハ゛ : ****mm
```

2 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              < ENT >
```

3 (ENTER) キーを押す

```
セッテイ
センタク             : タイフ゜1
```

4 (▲)(▼) を押して、タイプ（**1** ～ **4**）を選び、(ENTER) キーを押す

5 (▲)(▼) を押して、[プリントホウシキ] を選ぶ

```
[ 1 ]
フ゜リント　ホウシキ        < ent >
```

6 (ENTER) キーを押す

```
[ 1 ] フ゜リント　ホウシキ
DRAFT　ヒンシツ        < ent >
```

7 設定する項目を選ぶ

(1) (▲)(▼) を押して [DRAFT ヒンシツ] または [FINE ヒンシツ] を選ぶ
（ここでは、[DRAFT ヒンシツ] を選択）
(2) (ENTER) を押す

8 (▲)(▼) を押して、プリント品質を選ぶ

```
[ 1 ] フ゜リント　ホウシキ
DRAFT　ヒンシツ　　: ヒョウシ゛ュン
```

- 設定値 : ヒョウジュン / ハヤイ / キレイ
- ここで設定を終了する場合は、(ENTER) キーを押して、手順 11 へ進みます。

9 各解像度でのプリント品質の詳細を変更したい場合 FUNCTION キーを押して、解像度を選ぶ

```
[1]DRAFT  ヒンシツ
540x720          <ent>
```

(1) ▲ ▼ を押して解像度を選ぶ
(2) ENTER を押す

- 設定値：540x720,540x900,540x1080 dpi (DRAFT 選択時)
  720x540,720x720,720x1080,720x1440 dpi (FINE 選択時)

10 パス数とプリント速度を選ぶ

```
[1]DRAFT  ヒンシツ
PASS=8  :スキャン=ヒョウシ゛ュン
```

(1) ▲ ▼ でパス数を選び、▶ を押す
(2) ▲ ▼ でプリント速度 (コウソクまたはヒョウジュン）を選ぶ
(3) ENTER を押す

- パス数は、インクセットの内容や手順 8 で選んだ解像度により設定値が異なります。「設定可能な要素の組み合わせ」を参照して、パス数を選んでください。

11 終了するとき、END キーを数回押す

設定可能な要素の組み合わせ

「プリント品質の設定」手順 9，10 でプリント品質の詳細を変更する場合、下の表を参考にして設定してください。

DRAFT 品質

解像度 (dpi)	4 色		6 色	
	Pass	速度	Pass	速度
540x720 dpi	4	高速 / 標準	8	高速 / 標準
	8		16	
	16		32	
540x900 dpi	10	高速 / 標準	10	高速 / 標準
	20		20	
	40		40	
540x1080 dpi	6	高速 / 標準	12	高速 / 標準
	12		24	
	24		48	

FINE 品質

解像度 (dpi)	4 色		6 色	
	Pass	速度	Pass	速度
720x540	6	高速 / 標準	6	高速 / 標準
	12		12	
	24		24	
720x720	4	高速 / 標準	8	高速 / 標準
	8		16	
	16		32	
720x1080	6	高速 / 標準	12	高速 / 標準
	12		24	
	24		48	
720x1440	8	高速 / 標準	16	高速 / 標準
	16		32	
	32		64	

スキャン方向の設定

設定値	概　　要
ソウホウコウ	プリンタユニットの往路および復路の両方でプリントします。 短時間でプリントしたいときに設定してください。
タンホウコウ	プリンタユニットの往路のみでプリントします。 よりきれいにプリントしたいときに設定してください。

1 **P.3-18 手順 6 までの操作をする**

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
DRAFT　ヒンシツ　　　<ent>
```

2 (▲)(▼)を押して、**[スキャンホウコウ]**を選ぶ

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　　　<ent>
```

3 (ENTER)キーを押す

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　　:ソウホウコウ
```

4 (▲)(▼)を押して、スキャン方向を選ぶ

- 設定値：ソウホウコウ、タンホウコウ

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　　:タンホウコウ
```

5 (ENTER)キーを押す

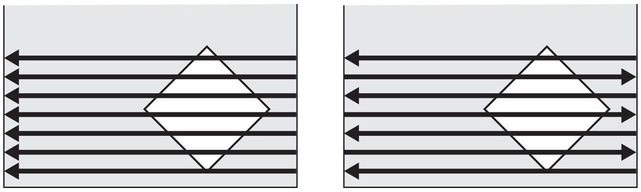
```
[1]フ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　　　<ent>
```

6 終了するとき、(END)キーを数回押す

ロジカルシークの設定

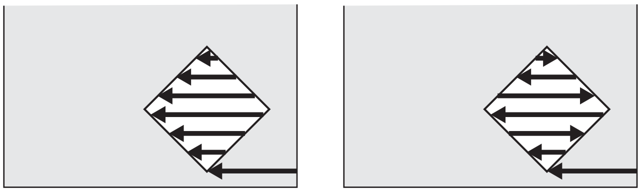
設定値	概　　要
ON	プリント時、データのサイズに合わせて、プリンタユニットが移動します。短時間でプリントしたいときに設定してください。
OFF	プリントするデータのサイズにかかわらず、メディアの右端から左端までプリンタユニットが移動します。インクが乾燥しづらいメディアをお使いの場合、より多く乾燥時間を作ることができます。

単方向プリント　　双方向プリント



ロジカルシーク **OFF** 時のヘッドの動き

単方向プリント　　双方向プリント



ロジカルシーク **ON** 時のヘッドの動き

1 **P.3-18 手順 6 までの操作をする**

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
DRAFT　ヒンシツ　　　<ent>
```

2 [▲][▼]を押して、**[ロジカルシーク]** を選ぶ

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　　　<ent>
```

3 [ENTER]キーを押す

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　　　:ON
```

4 [▲][▼]を押して、**ON/OFF** を選ぶ

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　　　:OFF
```

5 [ENTER]キーを押す

```
[1]フ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　　　<ent>
```

6 終了するとき、[END]キーを数回押す

P

3

応用機能―プリンタ編―

白重ねプリントの設定

SS21W-2(SPC-0504W-2) インクで白インクを使用している場合、白インクを印字後のカラーインクの印字方法を設定します。

設定値	概　　要
OFF	白インクとカラーインクを同時にプリントします。
ON (LEVEL1~3*1)	白インクを印字してしばらくしてから、カラーインクを印字します。 • LEVEL1~3 について、数字が大きくなるほど白インクを印字してからカラーインクを印字するまでの時間が長くなります。 • LEVEL の数字を大きい値に設定すると、白インクの乾燥性は上がりますが、印字時間は長くなります。

*1. 本機で、合成順の設定は行えません。

P

重 要！

- 本機能は、SS21W-2 インク（6 色 + 白）充填時のみ設定できます。
- プリント時間は通常の印字より 2 倍以上長くなります。
- 次のような条件でプリントをする場合、使用するノズル数が制限されるため、プリント速度が低下します。

プリント品質の設定	解像度	プリント幅
DRAFT	540 x 1080 dpi	1541 mm 以上
FINE	720 x 1080 dpi	1155 mm 以上
	720 x 1440 dpi	
	1440 x 1440 dpi	1155 mm 以上 (Vd データの場合は 577 mm)

1 P.3-18 手順 6 までの操作をする

```
[1]プ゚リント　ホウシキ
DRAFT　ヒンシツ　　　<ent>
```

2 ▲▼を押して、[シロ カサネサクズ] を選ぶ

```
[1]プ゚リント　ホウシキ
シロ　カサネ　プ゚リント　　<ent>
```

3 ENTER キーを押す

```
[1]プ゚リント　ホウシキ
セッテイ　　　　:OFF
```

4 ▲▼を押して、プリント方式を選ぶ

• 設定値：OFF、ON(LEVEL 1 ～ 3)

```
[1]プ゚リント　ホウシキ
セッテイ　　　　:ON(LEVEL1)
```

5 ENTER キーを押す

```
[1]プ゚リント　ホウシキ
シロ　カサネプ゚リント　　<ent>
```

6 終了するとき、END キーを数回押す

乾燥時間の設定をする

インクの乾燥時間について、次の各項目の設定をします。

設定項目	設定値	概　　要
スキャン	0.0 ~ 19.9 秒	スキャン毎のインク乾燥時間を設定します。 (双方向プリントの場合は、往路 / 復路のスキャン毎に設定した時間だけ一時停止する)
プリントエンド	0 ~ 8 時間	プリント終了後のインク乾燥時間を設定します。 （乾燥時間が経過するまで、次のプリントは実行しない）

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>         [#01]
          ハバ : ****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ            <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク          : タイプ゜1
```

4 ▲ ▼ を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、ENTER キーを押す

5 ▲ ▼ を押して、[カンソウジカン] を選ぶ

```
[1]
カンソウ シ゛カン       <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
スキャン       : フ゜リントエント゛
  0.0s       :  0h00m00s
```

7 ▲ ▼ ◀ ▶ を押して、乾燥時間を設定する

項目の選択: ◀ ▶ で選ぶ
時間の設定: ▲ ▼ で設定

スキャン：
0.0 ～ 19.9 秒

プリント後：
0 ～ 8 時間

```
スキャン       : フ゜リントエント゛
  0.0s       :  0h00m00s
```

8 ENTER キーを押す

```
[1]
カンソウ シ゛カン       <ent>
```

9 終了するとき、END キーを数回押す

P

3

応用機能―プリンタ編―

優先順位の設定をする

プリント時に、本機での設定 (パネル) を優先するか、コンピュータでの設定 (ホスト) を優先するかを選びます。

設定値	概　　要
コベツセッテイ	表下の各項目について、本機での設定 (パネル) を優先するか、コンピュータでの設定 (ホスト) を優先するかを選択します。
スベテホスト	表下の各項目について、コンピュータでの設定 (ホスト) を優先します。
スベテパネル	表下の各項目について、本機での設定 (パネル) を優先します。

選択する項目 : メディア補正 / ヒーター / プリント方式 / 重ね塗り / 乾燥時間 / オートカット / プリフィード / カラーパターン / リフレッシュ / 吸着 / フィード速度レベル

P

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
              ハバ:****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク            :タイプ1
```

4 ▲ ▼ を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、ENTER キーを押す

5 ▲ ▼ を押して、[ユウセンジュンイ] を選ぶ

```
[1]
ユウセン ジュンイ       <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
[1]ユウセン ジュンイ
セッテイ    :スベテ パネル
```

7 ▲ ▼ を押して、設定値を選ぶ

```
[1]ユウセン ジュンイ
セッテイ    :コベツ セッテイ
```

- 設定値 : コベツセッテイ / スベテホスト / スベテパネル
- [コベツセッテイ] を選んだ場合は手順 8 へ、[スベテホスト] または [スベテパネル] を選んだ場合は、ENTER キーを押してから手順 12 へ進んでください。

8 FUNCTION キーを押す

```
[1]ユウセン ジュンイ
メディア ホセイ       :ホスト
```

- メディア補正の設定画面が表示されます。

9 ▲▼を押して、“ ホスト ” または“ パネル ” を選ぶ

```
[ 1 ] ユウセン  シ゛ュンイ
メテ゛ィア  ホセイ         : ハ゜ネル
```

10 ENTER キーを押す

- ◀▶を押しても項目の移動ができます。ただし、ENTER キーを押さないと設定値は確定されません。

11 手順 9、10 と同様の操作をして、他の項目も設定する

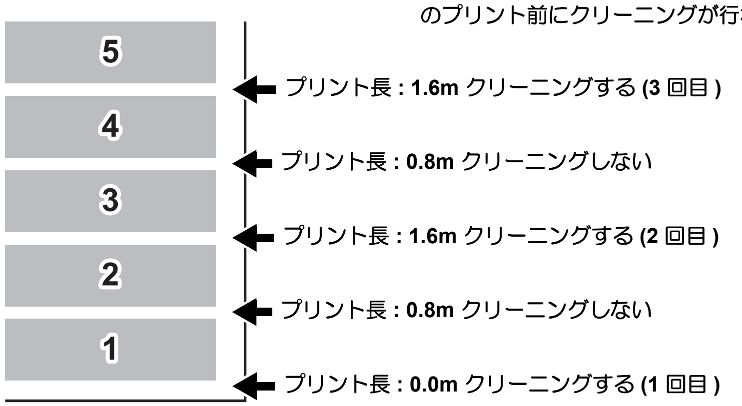
12 終了するとき、END キーを数回押す

- ホスト優先の設定で、ホストからの指定がない項目については、パネルの設定内容が有効となります。

オートクリーニングの設定をする

設定した分の長さだけプリントが終わると自動的にヘッドのクリーニングを実行するように設定できます。
プリントが終了すると、本機が前回ヘッドをクリーニングしてから行ったプリントした長さをカウントし、クリーニングが必要な場合は、自動的にクリーニングを行います。
ヘッドを常に清潔に保つことで、安定したプリントが持続します。
クリーニングは、装置起動後の最初のプリント前に行い、以降は、プリントした長さ（メートル単位）に従って行います。

80cm 長の画像を **5** 枚プリントする場合は **1**、**3**、**5** 枚目のプリント前にクリーニングが行われます。



動作間隔が 1000 ㎜ の場合の例

設定項目	設定値	概　　要
カンカク	10 ~ 10000mm	オートクリーニングをするまでの間隔（プリント長）
タイプ	ノーマル／ソフト／ハード	クリーニングタイプを選択します。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

< ローカル. 1 >　[#01]
ハハ゛ : ＊＊＊＊mm

2 FUNCTION キーを押す

FUNCTION
セッテイ　< ENT >

3 ENTER キーを押す

セッテイ
センタク　: タイプ゜1

4 ▲ ▼ を押して、タイプ（**1** ～ **4**）を選び、ENTER キーを押す

5 ▲ ▼ を押して、[オートクリーニング] を選ぶ

[1]
オート　クリーニング゛　< e n t >

6 (ENTER)キーを押す

```
[1]オート クリーニング
セッテイ            :OFF
```

7 (▲)(▼)を押して、ON を選ぶ

• OFF を選んだ場合は、手順 10 へ進んでください。

```
[1]オート クリーニング
セッテイ            :ON
```

8 (FUNCTION)キーを押す

```
カンカク          : タイプ
 1000mm          : ノーマル
```

9 (▲)(▼)(◀)(▶)を押して、クリーニング間隔とクリーニングタイプを設定する

項目の選択　　　　　：(◀)(▶)で選ぶ
間隔とタイプの設定　：(▲)(▼)で設定

タイプ：ノーマル
ソフト
ハード

間隔：
10 ～ 10000mm

```
カンカク          : タイプ
 1000mm          : ノーマル
```

10 (ENTER)キーを押す

11 終了するとき、(END)キーを数回押す

重 要！

• インクニアエンドが発生している場合、本機能は動作しません。P.1-14「インクカートリッジを交換する」を参照して、インクニアエンドを解消してください。
• ヘッド等の状態によっては、本機能を実行しても画質不良が復旧しない場合があります。この場合は、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

プリント中クリーニングの設定をする

プリント中、自動的にヘッドのクリーニングを行うか設定します。
プリント中クリーニングでは、クリーニング間隔をプリントした長さで設定します。
設定した長さをプリントするごとにプリントを中断し、自動的にヘッドのクリーニングを行います。

設定項目	設定値	概　要
カンカク	10 ~ 10000mm	クリーニングをするまでの間隔（プリント長）
タイプ	ノーマル／ソフト／ハード	クリーニングタイプを選択します。

1 ローカルで（MODE CHANGE）キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
＜ローカル．1＞          [#01]
              ハバ：****mm
```

2 （FUNCTION）キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              ＜ENT＞
```

3 （ENTER）キーを押す

```
セッテイ
センタク          ：タイプ゜1
```

4 （▲）（▼）を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、（ENTER）キーを押す

5 （▲）（▼）を押して、[プリントチュウクリーニング] を選ぶ

```
[1]
プ゜リントチュウクリーニング゛＜ent＞
```

6 （ENTER）キーを押す

```
[1]プ゜リントチュウ クリーニング゛
セッテイ               ：OFF
```

7 （▲）（▼）を押して、ON を選ぶ

・OFF を選んだ場合は、手順 10 へ進んでください。

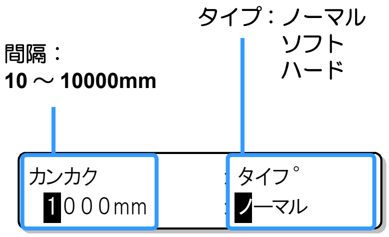
```
[1]プ゜リントチュウ クリーニング゛
セッテイ               ：ON
```

8 （FUNCTION）キーを押す

```
カンカク          ：タイプ゜
1000mm           ：ノーマル
```

9 [▲][▼][◀][▶]を押して、クリーニング間隔とクリーニングタイプを設定する

項目の選択　　　　：[◀][▶]で選ぶ
間隔とタイプの設定：[▲][▼]で設定



10 [ENTER]キーを押す

11 終了するとき、[END]キーを数回押す

重 要！

- インクニアエンドが発生している場合、本機能は動作しません。P.1-14「インクカートリッジを交換する」を参照して、インクニアエンドを解消してください。
- ヘッド等の状態によっては、本機能を実行しても画質不良が復旧しない場合があります。この場合は、弊社サービスおよび販売店にサービスコールしてください。

その他の設定

使い方に合わせて設定を変えてください。

1	ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ	＜ローカル．1＞　[#01] ハバ：＊＊＊＊mm
2	FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ　＜ENT＞
3	ENTER キーを押す	セッテイ センタク　：タイプ゜1
4	▲ ▼ を押してタイプ（1 ～ 4）を選び、ENTER キーを押す	
5	▲ ▼ を押して設定する項目を選ぶ •「設定一覧表」を参照して選んでください。(☞ P.3-31)	
6	ENTER キーを押す	
7	▲ ▼ を押して設定値を選ぶ •「設定一覧表」を参照して選んでください。(☞ P.3-31)	
8	ENTER キーを押す	
9	終了するとき、END キーを数回押す	

重 要！

- 設定した値は、電源を “OFF” にしても保持しています。

設定一覧表

お買い上げ時は、下線の設定になっています。

機能名	概　要	設定値
ピンチローラーの設定	使用するメディアに合わせて、ピンチローラーの圧力とピンチローラーNo. を設定。	P.3-5 を参照してください
メディア補正の設定	メディアの送り量を補正。	P.3-9 を参照してください
ドット位置補正の設定	ご使用になるメディアの厚みやヘッドの高さ、インクの種類が変わったときに設定。	P.3-12 を参照してください
ヒーターの設定	ヒーターの温度を設定。 ヒーターのスタンバイ時間とOFF時間を設定。	P.3-14 を参照してください
プリント方式の設定	プリント品質を設定。 スキャン方向を設定。 ロジカルシークを設定。 白重ねプリントを設定。	P.3-18 を参照してください
重ね塗りの設定	インクの重ね塗り回数を設定。	1 ～ 9 回
乾燥時間の設定	スキャンごとのインクの乾燥時間を設定。 プリント終了後のインクの乾燥時間を設定。	P.3-23 を参照してください
オートカットの設定	プリント後、自動でメディアをカットするか設定。	ON / OFF
プリフィードの設定	プリント前にメディアを前後搬送させるか設定。	ON / OFF
カラーパターンの設定	メディア右端にカラーパターンをプリントするか設定。*1	ON / OFF
リフレッシュの設定	ヘッドのリフレッシュレベルを設定。	0 ～ 3
吸着の設定	メディアを吸着する力を設定。	OFF / ヨワイ / ヤヤヨワイ / ヒョウジュン / ツヨイ
フィード速度レベルの設定	プリント中などにメディア送りをする速度を変更する。	10 ～ 100 ～ 200%
優先順位の設定	優先する設定 (パネル / ホスト) を決定する。	P.3-24 を参照してください
オートクリーニングの設定	プリントごとに行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定。	P.3-26 を参照してください
プリント中クリーニングの設定	プリント中に行う、ヘッドの自動クリーニング動作を設定。	P.3-28 を参照してください

*1. ON にした場合、最大プリント幅は 18mm 狭くなります。
RasterLinkPro4 SG 以降を使ってカットのみの動作を行う場合、最大カット幅も 18mm 狭くなります。データのレイアウト上、支障がある場合は OFF にしてください。

設定内容をコピーする

設定した内容を他のタイプにコピーすることができます。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
          ハハ゛:****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク            :タイフ゜1
```

4 ▲ ▼ を押して、タイプ（**1** ～ **4**）を選び、ENTER キーを押す

5 ▲ ▼ を押して、**[** セッテイコピー **]** を選ぶ

```
[1]
セッテイ コヒ゜ー         <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
[1]セッテイ コヒ゜ー
  TYPE.1 -> TYPE.2
```

7 ▲ ▼ を押して、コピーするタイプ（**1** ～ **4**、**ALL**）を選ぶ

```
[1]セッテイ コヒ゜ー
  TYPE.1 -> TYPE.3
```

- “ALL” を選ぶと、すべてのタイプが同じ設定内容になります。

8 ENTER キーを押す

```
コヒ゜ー スル            :ent
  TYPE.1 -> TYPE.3
```

9 ENTER キーを押す

10 終了するとき、END キーを数回押す

設定した内容を初期状態に戻す

設定した内容をお買い上げ時の状態に戻します。（設定リセット）
選択されているタイプの設定項目がリセットされます。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

< ローカル. 1 >　　[#01]
ハハ゛ : ＊＊＊＊mm

2 FUNCTION キーを押す

FUNCTION
セッテイ　　<ENT>

3 ENTER キーを押す

セッテイ
センタク　　: タイフ゜1

4 ▲ ▼ を押して、タイプ（1 ～ 4）を選び、ENTER キーを押す

5 ▲ ▼ を押して、[セッテイリセット] を選ぶ

[1]
セッテイ　リセット　　< e n t >

6 ENTER キーを押す

[1] セッテイ　リセット
リセット　　: e n t

7 ENTER キーを押す

- 設定を初期化します。

8 終了するとき、END キーを数回押す

マシン設定

本機を快適に使用するための各種設定です。
マシン設定で設定できる内容は、次の項目です。

項目		設定値*1	内容
ハイキファン*2	テイシタイマー	0 ～ 120 ～ 240min/レンゾク	プリント終了後、排気ファンの回転を停止するまでの時間を設定します。(☞ P.3-35)
	キリカエ	ON / OFF	現在の排気ファンの動作状態を切り替えます。(☞ P.3-35)
カンソウフィード		ON / OFF	プリント終了後、メディアを乾燥させるためのフィードを行うか設定します。(☞ P.3-36)
スタンプセッテイ		ON / OFF	プリント終了後に、出力日時・プリント条件を出力する設定を行います。(☞ P.3-37)
ハイインクタンクワーニング		ON / OFF	廃インクタンクの確認メッセージを表示させるか設定します。(☞ P.6-44)
テストプリントハイチ		FEED ホウコウ / SCAN ホウコウ	テストプリントを繰り返し実行したときの、テストパターンの配置方向を設定します。(☞ P.3-38)
インク　キョウキュウ *3 ユウセン		ザンリョウ ユウコウキゲン	ダブルカートリッジ自動切替機能で、優先して使用するカートリッジを設定します。(☞ P.3-42)
シツオン		トウタツヲマタナイ トウタツヲマツ	室温が使用可能範囲外になっているためにエラーが発生した時の動作を設定します。(☞ P.3-39)

*1. お買い上げ時は、下線の設定になっています。
*2. ハイキファンはオプションです。
*3. 4 色インクセットの場合のみ有効となります。

ハイキファンの設定をする

ファンはプリント中は動作し、プリント終了後からは " テイシタイマー " の設定に従って動作します。

ハイキファンの設定では、次の 2 項目の設定ができます。
- **テイシタイマー** : プリント終了からファン動作を停止するまでの時間を設定します。
- **キリカエ** : "ON" にすれば、プリント中でなくてもファン動作を実行できます。

重要！
- 排気ファンは乾燥排気ユニットに含まれるオプション品となります。
- 乾燥ファンを装着している場合、乾燥ファンの設定はここで設定した内容に連動して動作します。

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>        [#01]
        ハバ : ****mm
```

2 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ            <ENT>
```

3 (▲)(▼) を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
マシン  セッテイ     <ENT>
```

4 (ENTER) キーを 2 回押す

```
ハイキ  ファン
テイシ  タイマー     <ent>
```

5 (▲)(▼) を押して、設定する項目を選ぶ

テイシタイマー : プリント終了から排気ファンが停止するまでの時間を設定
キリカエ : ファンを動作させたいときに選ぶ

6 (ENTER) キーを押す

7 (▲)(▼) を押して、設定値を選ぶ

テイシタイマー : 0 ～ 240 分／連続運転から設定値を選ぶ
キリカエ : 動作させるときに "ON" を選び、動作を停止させるとき "OFF" を選ぶ

8 (ENTER) キーを押す

- 終了するとき、(END) キーを数回押します。

カンソウフィードの設定をする

プリント完了後、メディアを乾燥させるためのフィードを行うか設定します。

1	ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ	＜ローカル．1＞ [#01] ハバ：****mm
2	(FUNCTION)キーを押す	FUNCTION セッテイ ＜ENT＞
3	(▲)(▼)を押して、[マシンセッテイ]を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ ＜ENT＞
4	(ENTER)キーを押す	マシン セッテイ ハイキ ファン ＜ent＞
5	(▲)(▼)を押して、[カンソウフィード]を選ぶ	マシン セッテイ カンソウ フィード ＜ent＞
6	(ENTER)キーを押す	カンソウ フィード セッテイ ：ON
7	(▲)(▼)を押して、ON/OFF を選ぶ	
8	(ENTER)キーを押す	
9	終了するとき、(END)キーを数回押す	

スタンプの設定をする

プリント完了後に、プリント条件やプリント日時などの情報を出力するか設定します。

1	ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ	< ローカル. 1 > [#01] ハバ : ****mm
2	(FUNCTION) キーを押す	FUNCTION セッテイ < ENT >
3	(▲)(▼) を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ	FUNCTION マシン セッテイ < ENT >
4	(ENTER) キーを押す	マシン セッテイ ハイキ ファン < ent >
5	(▲)(▼) を押して、[スタンプセッテイ] を選ぶ	マシン セッテイ スタンプ゜ セッテイ < ent >
6	(ENTER) キーを押す	スタンフ゜ セッテイ スタンフ゜ : OFF
7	(▲)(▼) を押して、ON/OFF を選ぶ	
8	(ENTER) キーを押す ・終了するとき、(END) キーを数回押します。	

出力の例

```
                CJV30-100 Ver1.00
PRINT MODE   : 540x1080 6PASS Uni-D Hi      1LAYER
MEDIA COMP.  : 100(-100,0,200)
HEAD GAP     : ｳｽｲ
INK          : ES3ｲﾝｸ  4color
HEATER TEMP.: ﾌﾟﾘ  :35°C ﾌﾟﾘﾝﾄ:35°C ｱﾌﾀｰ :45°C
DATE         : 12.05.05 17:24:29
```

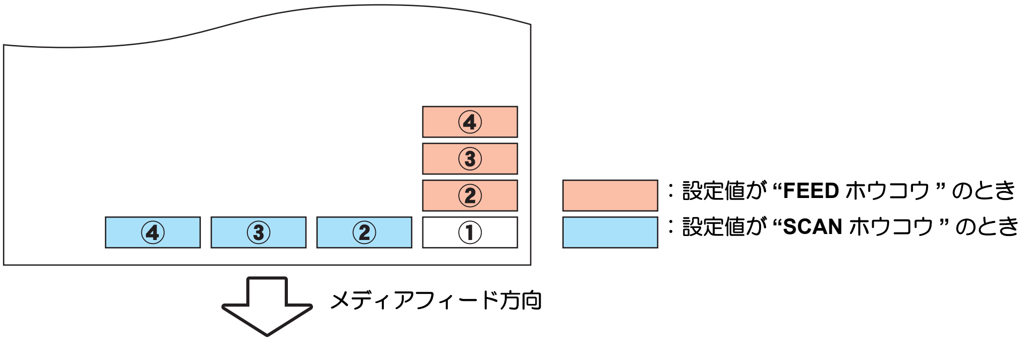
P

3

応用機能―プリンタ編―

テストプリントハイチの設定をする

テストプリントを繰り返し実行するときの、プリントされるテストパターンの配置方向を設定できます。



1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
              ハハ゛：****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

3 ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
マシン　セッテイ      <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
マシン　セッテイ
ハイキ　ファン        <ent>
```

5 ▲ ▼ を押して、[テストプリントハイチ] を選ぶ

```
マシン　セッテイ
テスト　フ゜リント　ハイチ　<ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
テスト　フ゜リント　ハイチ
セッテイ        :FEED　ホウコウ
```

7 ▲ ▼ を押して、設定値を選ぶ

FEED ホウコウ ：メディアのフィード (奥行き) 方向に配置（お買い上げ時の設定）
SCAN ホウコウ ：メディアのスキャン (横) 方向に配置

8 ENTER キーを押す

• 終了するとき、END キーを数回押します。

シツオンの動作条件を変更する

本機を設置している場所の温度 (室温) が使用可能範囲から外れている状態でプリントをすると、インクの吐出不良や色味が変わるなど、プリント品質に悪影響を及ぼします。
ここでは、プリント時に室温が使用可能範囲から外れていた場合の動作を選択します。

- 使用可能範囲について、詳しくは P.8-4「使用可能温度」を参照してください。
- プリント開始時に室温が適正範囲外になっていると、以下のエラーメッセージを表示してお知らせします。

```
**** ERROR 120 ****
 シツオン ヒクイ (XX°C)
```

```
**** ERROR 121 ****
 シツオン タカイ (XX°C)
```

* メッセージ内に表示される温度は、装置内部の温度です。実際の室温とは異なりますので、ご注意ください。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
              ﾊﾊﾞ : ****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

3 ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
マシン セッテイ        <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
マシン セッテイ
ハイキ ファン          <ent>
```

5 ▲ ▼ を押して、[シツオン] を選ぶ

```
マシン セッテイ
シツオン               <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
シツオン
センタク     :トウタツ ヲ マタナイ
```

7 ▲ ▼ を押して、設定値を選ぶ

トウタツ ヲ マタナイ : エラーメッセージを一瞬表示した後、プリントを開始する。
トウタツ ヲ マツ : エラーメッセージを表示した後、室温が適正値になるまで待ってからプリントを行う。

8 ENTER キーを押す

- 終了するとき、END キーを数回押します。

3 応用機能 ―プリンタ編―

インクの有効期限を延長する

通常は期限切れ後 2ヶ月で使用不可となるインクの有効期限を、期限切れの月から 6ヶ月延長できます。

インクの有効期限を延長する

以下の設定・確認画面は、本機の電源を ON にしたときや、期限切れのインクカートリッジをセットしたときに表示されます。

重 要！

- 一度延長 [YES] を設定したカートリッジは、設定の変更ができません。
- 複数の期限切れインクをセットしてから、期限延長を設定すると、複数のインクの有効期限をまとめて延長できます。
- インクの有効期限を延長して使用すると、印刷画質が低下したり、色味の変化やバンディングなど印字品質が低下する可能性があります。このことをご了解の上、インクの有効期限を延長してください。
- 初期充填では、期限切れ後 2ヶ月以上が過ぎたインクを使用することはできません。

P

1 右の画面を表示したら

```
ユウコウキケ゛ン　エンチョウ　？
YES<                    >NO
```

交互に表示

```
スイショウ　シナイカ゛　ヨイカ?
YES<                    >NO
```

2 ◀▶を押して、[YES] を選ぶ

- インク期限の延長をしないときは、[NO] を選んでください。この場合、インク期限が切れてから 2ヶ月すると、インクが使用できなくなります。

```
ユウコウキケ゛ン　ヲ　エンチョウシタ
[ENT]　ヲ　オス
```

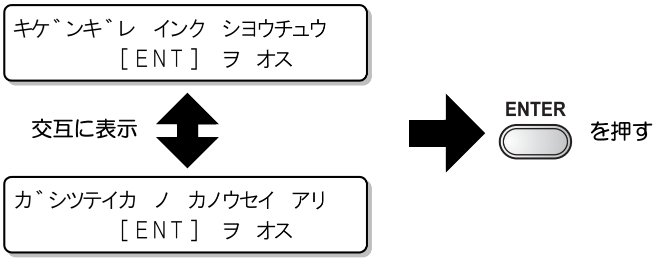
3 ENTER キーを押す

- インク期限が延長されます。

- インクの有効期限を延長した場合、インク期限切れから 6ヶ月が経過するとディスプレイに [カンゼン　キゲンギレ] が表示され、セットしているインクカートリッジは使用できなくなります。速やかに新しいインクカートリッジと交換してください。
- 有効期限を延長したインクカートリッジからインクを供給しているときは、インクカートリッジの上にあるカートリッジランプが緑色に点滅してお知らせします。

インクの有効期限を延長したカートリッジをセットすると

本機にインクの有効期限を延長したカートリッジをセットしている状態で電源をオンにしたときや、有効期限の延長を設定したカートリッジを本機にセットすると、次の画面を表示します。



- 上の画面を交互表示しているときに FUNCTION キーを押すと、期限切れになっているインクの確認ができます。

インクの有効期限を延長したときは

(例) 2014 年 2 月が有効期限のインクカートリッジをお使いの場合

- 期限延長をしなかった場合

2 月	3 月	4 月	5 月～
連続印刷可能		連続印刷不可能	印刷不可能（使用不可）

ディスプレイに " キゲンギレ（2 カゲツ）" または " カンゼンキゲンギレ " を表示し、カートリッジランプが赤色点灯

ディスプレイに " キゲンギレ（1 カゲツ）" を表示し、カートリッジランプが赤色点滅

ディスプレイに " インクキゲンギレ " を表示

- 期限延長を実行した場合（ ▲ で期限延長実行）

2 月	3 月	4 月	5 月～	9 月
連続印刷可能		連続印刷不可 ▲	連続印刷可能	印刷不可能（使用不可）
連続印刷可能		連続印刷不可能	印刷不可能（使用不可） ▲ 連続印刷可能	印刷不可能（使用不可）

ディスプレイに " カンゼンキゲンギレ " を表示

4 月～ 8 月のいずれのタイミングで期限延長しても、延長される期間は有効期限から 6 か月です。

インク供給経路の切替設定

インク供給について、ダブルカートリッジ自動切替機能で優先して使用するカートリッジの状態を選択できます。
本設定は、4 色インクセットをお使いの場合のみ有効です。

重 要!

- ここでの設定に関わらず、有効期限が切れたインクカートリッジがセットされている場合は、期限切れのカートリッジを優先して使用します。
- オプションのバルクインクシステム (MBIS) をお使いの場合、両方のスロットでバルクインクシステム（MBIS）をセットしていれば、ここで行う設定が有効になります。
- 同色の供給経路にインクカートリッジとバルクインクシステム (MBIS) が混在している場合は、次ページの設定をご参照ください。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
              ハバ゛:****mm
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

3 ▲ ▼ を押して、[マシンセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
マシン セッテイ        <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
マシン セッテイ
ハイキ ファン          <ent>
```

5 ▲ ▼ を押して、[インク キョウキュウ ユウセン] を選ぶ

```
マシン セッテイ
インク キョウキュウ ユウセン<ent>
```

6 ENTER キーを押す

7 ▲ ▼ を押して、優先するカートリッジの状態を選ぶ

```
インク キョウキュウ ユウセン
センタク           :ザ゛ンリョウ
```

ザンリョウ　：残量が少ないインクカートリッジから供給する
ユウコウキゲン　：有効期限が短いインクカートリッジから供給する

8 ENTER キーを押す

9 終了するとき、END キーを数回押す

インクカートリッジと MBIS を混在している場合

4 色インクセットで、同色の供給経路にインクカートリッジとオプションのバルクインクシステム (MBIS) を混在して使用している場合、優先して使用するインクを選択できます。

- 通常、同色のインク供給経路にインクカートリッジとバルクインクシステム (MBIS) を混在して使用する場合、バルクインクシステム (MBIS) 側のインクを優先して使用します。

重要!

- 本機能は 4 色インクセットをお使いの場合のみ有効です。
- インクカートリッジとバルクインクシステム (MBIS) が混在している供給経路がない場合は、本機能は設定できません。
- 本機能で選択しているカートリッジを引き抜くか電源を入れ直すと設定は無効となります。

1 プリントモードのローカルまたはリモートモードで、(ENTER) キーを押す

```
ES3            MMCCYYKK
ザ゛ンリョウ       34567899
```

2 (REMOTE) キーを押す

```
BULK/CART  センタク
       - B B B
```

現在、供給している側を表示
B : バルクインクシステム **(MBIS)**
C : インクカートリッジ
ー : 混在していない

3 (▲)(▼)(◀)(▶) を押して、供給経路と、どちらを優先するか設定する

経路の選択 : (◀)(▶) で選ぶ
優先する側を設定 : (▲)(▼) で入力

```
BULK/CART  センタク
       - C B B
```

4 (ENTER) キーを押す

- ローカルまたはリモートモードに戻ります。

第４章
応用機能ーカット編ー

この章では ...

カット機能をより便利に使うための操作方法や、各種設定方法について説明しています。

ピンチローラーの設定をする 4-2
推奨するピンチローラー圧と使用ピンチローラー数 4-2
ピンチローラーの個数について 4-2
ピンチローラーの設定 4-3
トンボ付きデータをカットする 4-6
トンボ付きデータをカットする流れ 4-6
トンボ検出モードにする 4-6
トンボ付きデータ作成に関する注意事項 4-7
トンボ検出の設定をする 4-12
トンボの検出方法 4-16
正常にカットできなかったとき確認してください 4-19
オートカットの設定をする 4-25
分割カットをする 4-26
分割カットの設定をする 4-26
分割カットでデータをカットする .. 4-28
点線でカットする 4-29
カット順を変更する 4-31
ソーティングの設定をする 4-32
ソーティング手順 4-34
トンボが無いデータをカットするために 4-35
P/C 原点オフセットの設定をする ...4-36
P/C スケール補正の設定をする 4-38
その他の設定 4-41
設定内容をコピーする 4-44
設定した内容を初期状態に戻す 4-45
サンプルカットをする 4-46
一定の長さのメディアを複数枚カットする 4-48
同じデータを複数枚カットする 4-50
ステップサイズの設定をする 4-52
その他の便利な機能 4-53
メディアフィード 4-53
カットモードでヒーターを OFF にしたいときは 4-54

ピンチローラーの設定をする

使用するメディアに合わせて、ピンチローラーの圧力とピンチローラー No. を設定します。

設定項目	設定値	概　要
リョウタン	HIGH	使用するメディアに合わせて、メディア両端のピンチローラーの圧力を設定します。
	MIDDLE	
	LOW	
チュウカン	HIGH	使用する用途に合わせて、両端以外のピンチローラーの圧力を設定します。
	MIDDLE	
	LOW	
	OFF	
ピンチローラー No.	2 ～ 7 *1	使用するメディアサイズに応じて、左端のピンチローラー No. を設定します。

*1. お使いになっている装置のタイプによって、ピンチローラー数は変わります。

推奨するピンチローラー圧と使用ピンチローラー数

カットをするときのピンチローラー圧は、以下のように設定することをお勧めします。

設定圧力	用　途
両端 : High 中間 : High	標準使用時
両端 : High 中間 : Low	メディアに残るピンチローラー跡を目立たなくしたいとき • メディアの種類 / 送り量 / メディア幅により、メディアがずれる場合があります。

メディア幅	使用するピンチローラー
600mm 未満	両端のみ
600 ～ 1300mm	両端＋中間ピンチローラー 1 個
1300mm 以上	両端＋中間ピンチローラー 2 個

重 要 !
- 上記以外の条件での使用は、カット時のメディアズレの可能性があります。
- ピンチローラー圧は、お使いの状況に応じて設定してください。

ピンチローラーの個数について

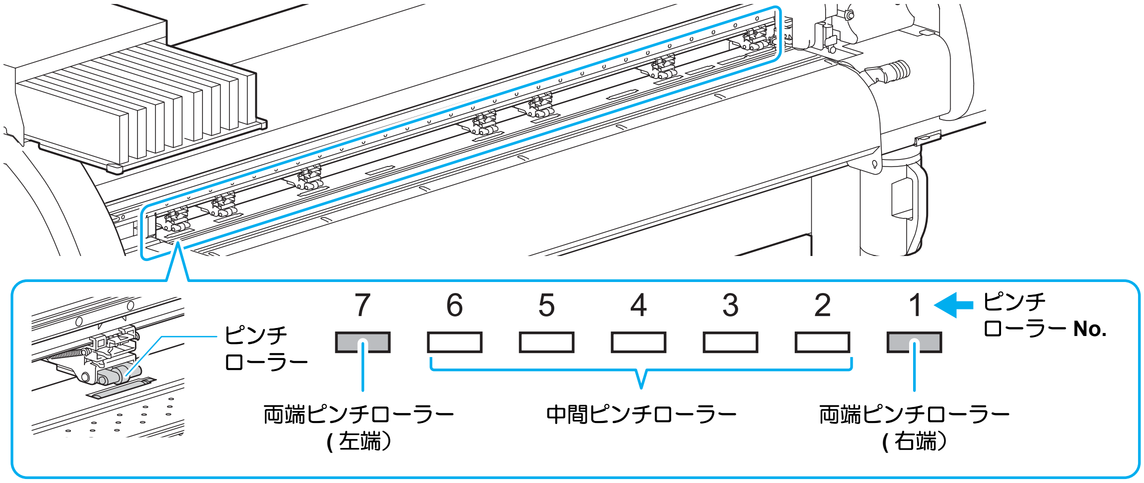
ピンチローラーの個数は以下のようになります。

お使いの装置のピンチローラーをご確認ください。

モデル名	個　数
CJV30-160	7 個
CJV30-130	6 個
CJV30-100	4 個
CJV30-60	3 個

ピンチローラーの設定

ここでは、CJV30-160 をお使いになったときの設定方法を説明します。
CJV30-130/100/60 をお使いの場合は、手順 10 で設定できるピンチローラー数が異なります。



• イラストは CJV30-160 になりま

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>            [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 (FUNCTION)キーを押す

```
FUNCTION                  C
セッテイ               <ENT>
```

3 (ENTER)キーを押す

```
セッテイ
センタク              :CUT1
```

4 (▼)(▲)を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、HALF、PEN)** を選び、(ENTER)キーを押す

5 (ENTER)キーを **2** 回押す

```
リョウタン:HIGH  [H_____H]
チュウカン:OFF     No.7-1
```

6 (▲)(▼)を押して、メディア両端のピンチローラー圧を設定する

• 設定値：HIGH/MID./LOW

```
リョウタン:MID.  [H_____H]
チュウカン:OFF     No.7-1
```

7 ▶を押して、中間ピンチローラーの設定を選ぶ

```
リョウタン:MID.  [H_____H]
チュウカン:OFF     No.7-1
```

8 ▲▼を押して、中間のピンチローラー圧を設定する

```
リョウタン:MID.  [H_____H]
チュウカン:MID.    No.7-1
```

- 設定値：HIGH/MID./LOW/OFF

9 ▶を押して、使用するピンチローラー **No.** の設定を選ぶ

```
リョウタン:MID.  [H_____H]
チュウカン:MID.    No.7-1
```

10 ▲▼を押して、メディア左端のピンチローラーの **No.** を設定する

```
リョウタン:MID.  [___H__H]
チュウカン:MID.    No.4-1
```

- 設定値：2 ～ 7

11 ENTER キーを押す

12 終了するとき、END キーを数回押す

重 要！

- ここで設定したピンチローラー圧は、次の条件でメディアに反映されます。
  リモートでプリント / カットするとき
  次にメディア検出を行ったとき
- 現在セットしているメディアに対して設定した値を反映させたい場合は、クランプレバーを上下させ、再度メディア検出を行う必要があります。

ピンチローラーの詳細設定

使用するメディアに応じて、中間ピンチローラーの詳細設定ができます。

1 P.4-3「ピンチローラーの設定」手順 10 までの操作をする

2 FUNCTION キーを押す

```
リョウタン:[H__H__H]
チュウカン:No.3-1
```

3 ◀ ▶ を押して設定するピンチローラーを選び、▲ ▼ を押して設定する

```
リョウタン:[H__L__H]
チュウカン:No.3-1
```

4 ENTER キーを押す

5 終了するとき、END キーを数回押す

C

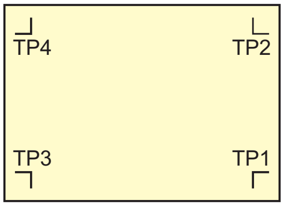
4

応用機能―カット編―

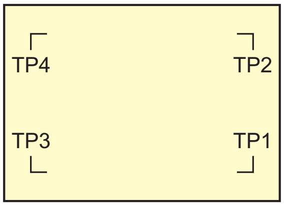
トンボ付きデータをカットする

シールなどにしたい画像に「トンボ」を付けて出力しておけば、トンボ位置を検出して、自動的にメディアをカットすることができます。
ここでは、本機でプリント済みのメディアをカットする方法を説明します。
プリント＆カットの複合動作については、P.4-11 を参照してください。

トンボの形状は下の２種類です。



トンボ形状：タイプ１



トンボ形状：タイプ２

- トンボ 4 (TP4) は、左右のグリットローラ径の違いによるメディア送り量の差を補正する台形補正を実行する時に使用します。台形補正を行わない場合は省略可能ですが、カット誤差が大きくなります。

トンボ付きデータをカットする流れ

シールなどを作成したい画像にトンボを付けて、メディアに印刷する

> トンボを作成するにはいくつかの条件があります。P.4-7 ～ P.4-11 を参照してください。

▼

印刷したメディアを、CJV30 にセットする

> P.2-15 を参照してセットしてください。

▼

コンピュータよりカットする画像のカットデータを送信し、カットする

> 正常にカットできない場合
> - トンボセンサーの反応を確認してください。(☞ P.4-19)
> - ライトポインタの位置を確認してください。(☞ P.4-22)
> - トンボセンサーの感度を調整してください。(☞ P.4-23)

トンボ検出モードにする

1 ローカルの時に END キーを押す

- トンボ検出モードになります。

- トンボ検出の設定が “OFF” の時は、トンボ検出モードになりません。(☞ P.4-12)
- 各種機能の設定中は、入力をキャンセルしたり、前の設定項目に戻ります。

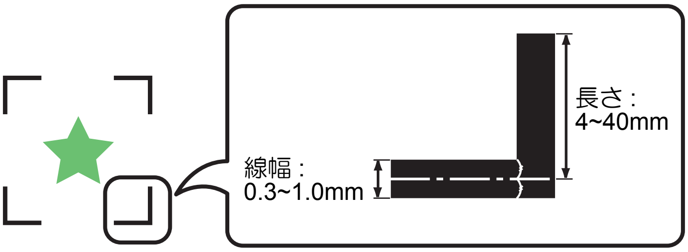
トンボ付きデータ作成に関する注意事項

トンボ付きデータの作成方法には、いくつかの制限事項があります。
トンボ機能を十分に活用していただくために、以下の注意事項をよくご覧になり、正しい知識でトンボ作成を行ってください。

重 要!
- ここで説明するトンボは、メディアの傾きやX軸・Y軸の長さを検出するためのものであり、裁ち落としトンボとは異なります。

トンボの大きさ

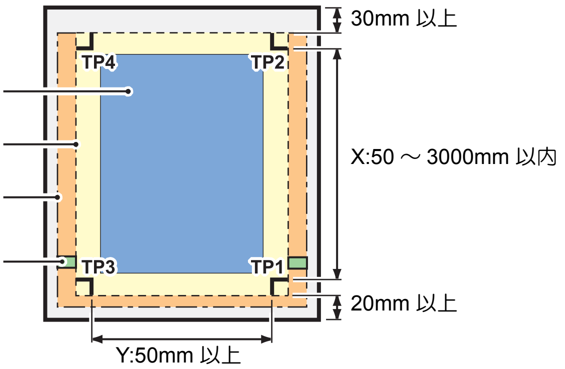
データに対するトンボの1辺の長さの目安は、「トンボの距離とトンボサイズの目安」(☞ P.4-9) を参照してください。



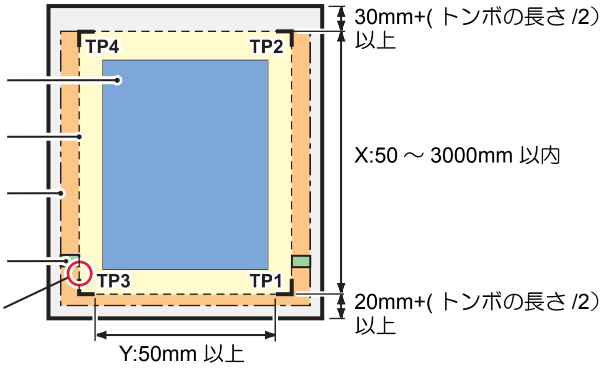
トンボと図柄の配置可能範囲

- TP1 の開始位置は、メディア前端から 20mm 以上あけてください。
- TP2 の終わりは、メディア後端から 30mm 以上あけてください。

トンボ形状：タイプ 1



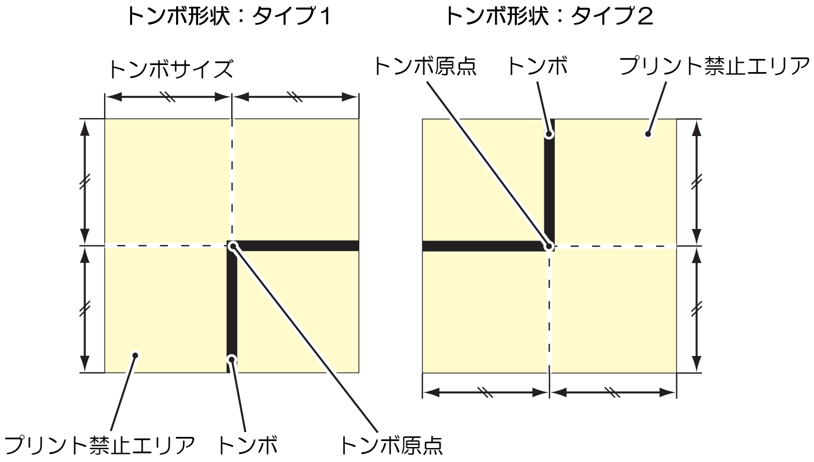
トンボ形状：タイプ 2



トンボ周辺のプリント禁止エリア

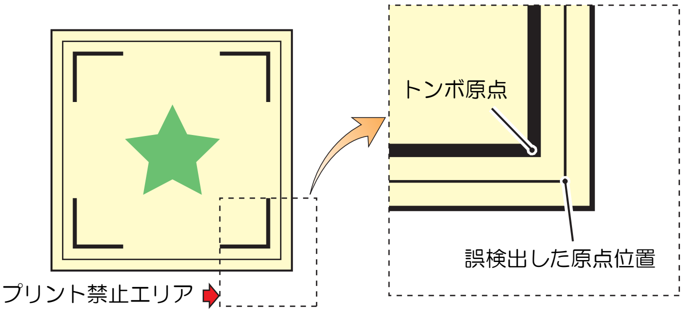
トンボ周辺 (トンボの原点からトンボサイズ分のエリア) は、プリント禁止エリアです。
データをプリントしない、また、汚れがないようにしてください。
トンボ原点を誤検出したり、トンボ読み取りエラーになる場合があります。

重 要！ ・トンボ原点を誤検出すると、カット位置がずれてしまいます。



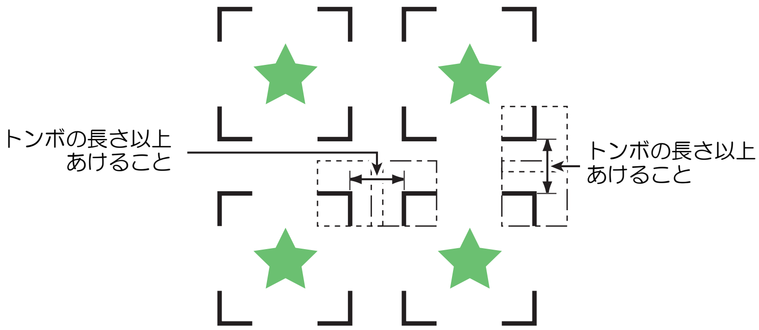
トンボ原点誤検出の例 1

トンボの外側を囲む画像があった場合



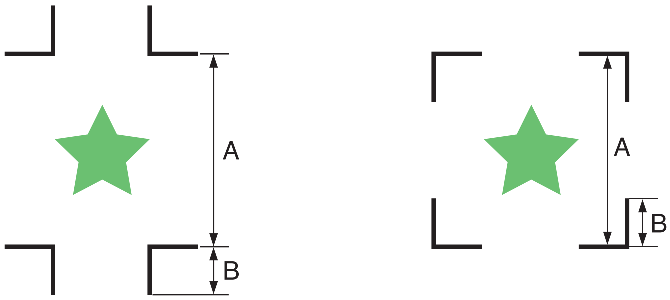
トンボ原点誤検出の例 2

トンボの間隔 (TP2 と TP1、TP4 と TP2) がトンボの長さ以上あいていない (トンボ形状がタイプ 2 の場合)



トンボの距離とトンボサイズの目安

トンボの距離 (A) に対するトンボサイズ (B) の目安は以下の通りです。
トンボの距離 (A) に対してトンボサイズ (B) が小さすぎると、トンボを正しく検出できない場合があります。適正なサイズでトンボを作成してください。

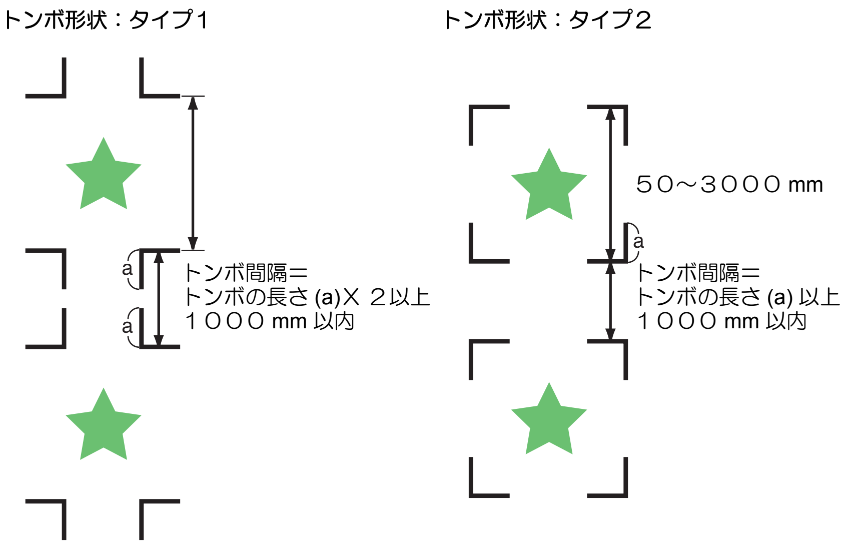


A	２００以下	５００	１０００	２０００	３０００以上
B	４～	８～	１５～	２５～	３５～

単位 (mm)

コピーする図形間のトンボ間隔

トンボ形状がタイプ１の場合には、トンボ１辺の長さの２倍以上 1000mm 以下にしてください。トンボ形状がタイプ 2 の場合は、トンボ１辺の長さ以上 1000mm 以下にしてください。



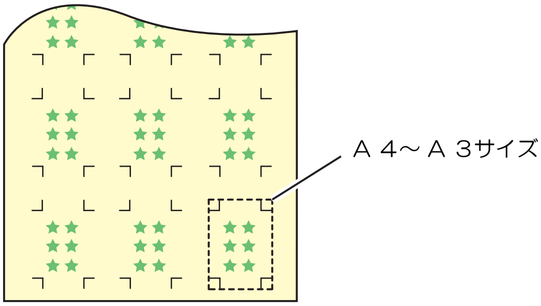
C

4

応用機能―カット編―

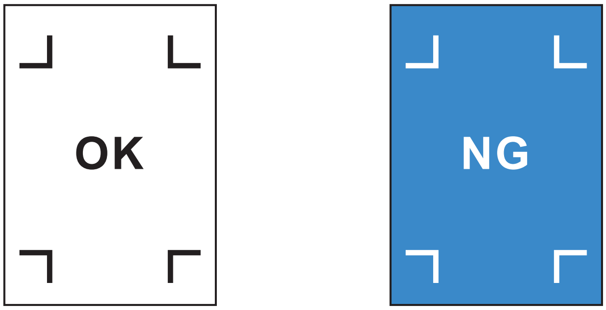
推奨するトンボ 4 辺を含めた大きさ

トンボ 4 辺を含めた大きさは A4 サイズ (210mm x 297mm) 以上～ A3 サイズ (297mm x 420mm) 程度にしてください。
無駄な余白が少なくなり、効率よく図柄を配置することができます。



トンボの色

白地に黒色のトンボであること。
地の色が白色以外の場合やトンボが黒色以外の場合、トンボ検出を正常に行うことができません。



トンボのにじみ

トンボがにじんでいると、トンボ原点を誤検出してカットがずれる場合があります。

トンボ検出に関する注意事項

以下に、トンボ検出に関する注意事項を列記します。

- メディア検出をやり直すと、メディアの傾き補正、原点位置をクリアします。
- トンボを検出すると、TP1 の位置に原点を設定します。
  ジョグキーで他の場所に原点を設定すると、その原点が有効になります。
- トンボの位置は、４点を結んだ時に長方形となるよう配置してください。
  不均等に配置した場合、カットにズレが生じる可能性があります。

プリント＆カットの複合動作に関する注意事項

Raster Link Pro 4 SG 以降のアプリケーションソフトを使ってプリント＆カットの複合動作を行う場合、次の項目にご注意ください。

(1) 本機に付属したアプリケーションソフト（**Rasater Link Pro 4 SG 以降 / FineCut 7.0 以降**）を使ったプリント＆カットの複合動作では、以下の設定内容はソフト側の指示に従います。本機で設定した内容は無効になりますのでご注意ください。

- トンボサイズ
- トンボ形状
- マイスウ (X)/(Y)

(2) トンボマークが無い場合でのプリント＆カットの複合動作について、 以下の条件では実行できません。

- 巻取装置を使ったプリント＆カット
- セッテイモードの「カラーパターン (☞ P.3-30) 」を “ オン ” にセットしているときのプリント＆カット

注 意

- 上記の条件の他にも、プリントデータの大きさにより、カットラインがずれる場合がありますので、プリント＆カットの複合動作をするときも、トンボ付のデータでの作業を推奨します。

トンボ検出の設定をする

トンボ付きのデータをカットするときは、必ず次の設定をしてください。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>          [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ           <ENT>
```

3 (ENTER)キーを押す

```
セッテイ
センタク          :CUT1
```

4 (▼)(▲)を押してツール条件 (CUT1~CUT3、HALF、PEN) を選び、(ENTER)キーを押す

5 (▼)(▲)を押して [トンボケンシュツ] を選ぶ

```
[CUT1]
トンボ゛ケンシュツ       <ent>
```

6 (ENTER)キーを押す

```
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
ケンシュツ         :OFF
```

7 (▼)(▲)を押してトンボ検出点数を選ぶ

- 設定値：OFF、１テン、２テン X ↑、２テン Y ←、３テン、４テン

8 (ENTER)キーを押す

- 手順 7 で “OFF” を選択した場合は、手順 12 へ進みます。

9 (▼)(▲)を押して次の各項目を選び、(ENTER)キーを押す

- トンボ検出の設定には次の各項目があります。
  トンボの検出点数 / トンボのサイズ / オフセット Y/ オフセット X/ トンボの形状 /
  Y 方向の連続カット枚数 /X 方向の連続カット枚数 / 高速リミット / スキューチェック
- 各設定項目の内容については、P.4-13 〜 P.4-15 を参照してください。

C

10 [▼][▲]を押して設定値を選ぶ

• 各設定項目の設定値については、P.4-13 ～ P.4-15 を参照してください。

11 [ENTER]キーを押して設定値を確定する

12 [END] キーを数回押して、ローカルに戻る

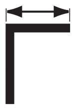
設定項目について

トンボ検出点数の設定

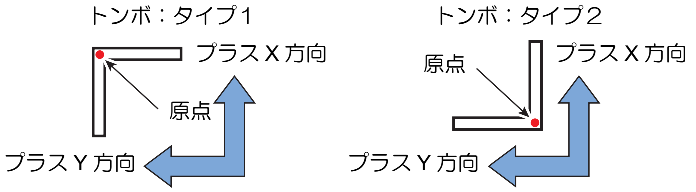
検出点数が多いほど、カット精度が高くなります。
RasterLinkPro4 SG(以降) または FineCut 使用時は “1 テン ” に設定します。

設定値	内　容
OFF	輪郭カット用ではなく、通常のメディアをカットする場合に設定します。
1テン	トンボ 1 を検出し、原点設定だけを行います。
2テン **X** ↑	トンボ 1 とトンボ 2（送り方向）、二か所のトンボを検出し、傾き補正とメディア送り方向のスケール補正を行います。
2テン **Y**←	トンボ 1 とトンボ 3（幅方向）、二か所のトンボを検出し、傾き補正と幅方向のスケール補正を行います
3テン	トンボ 1・トンボ 2・トンボ 3、三か所のトンボを検出し、傾き補正とメディア送り方向・幅方向のスケール補正を行います。
4テン	トンボ 1・トンボ 2・トンボ 3・トンボ 4、四か所のトンボを検出し、傾き補正と 3 テンのスケール補正に加えて台形補正を行います。

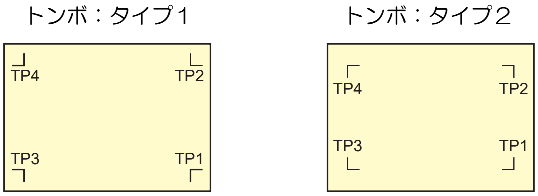
トンボサイズの設定

設定値	内　容
4 ～ 40mm	トンボ 1 辺の長さを設定します。 印刷したトンボの縦・横の線の長さが違う場合は、短い方に設定します。 1 辺の長さ 

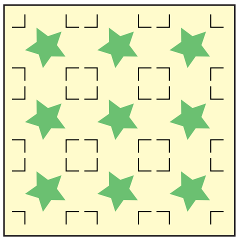
オフセット Y、オフセット X の設定

設定値	内　容
± 40.00mm	通常、原点の位置は下図の位置になります。 しかし、お使いのアプリケーションやご使用のメディアによって、送られてくる原点の位置情報が異なる場合がありますこの場合、原点の位置を修正することができます。  原点位置が有効カット範囲から外れると、[エラー 37 トンボゲンテン] を表示します。この場合、トンボの位置を用紙の中心側に書くようにしてください。

トンボの形状の設定

設定値	内　容
タイプ 1 タイプ 2	２種類のトンボの形状から選択します。 

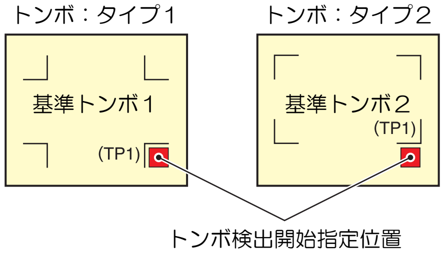
マイスウ Y (X)、マイスウ X (Y) の設定

設定値	内　容
1 ～ 9999 （マイスウ **X**） **1 ～ 9999** （マイスウ **Y**）	同一パターンが等間隔で複数印刷してある場合に有効です。 最初のデータを元に、トンボを連続読み取りしながら指定枚数分自動的にカットします。  リーフ (カット紙) の場合、コピー枚数は「マイスウ Y」の値を使用します。 付属の FineCut 等、アプリケーションソフトウェア側でコピー枚数を指定できる場合、枚数は [1] に設定してください。

高速リミットの設定

設定値	内　容
0 〜 30cm/s	連続コピー時の高速移動に、制限速度を設定します。 高速移動の際、メディアの種類によってはメディアが滑ってしまい、トンボ検出を正しく行うことができない場合があります。この場合、移動速度を制限します。 速度を制限しない場合、設定値を 0 にします。

スキューチェックの設定

設定値	内　容
0 〜 99mm	連続コピー時の、シートのずれの許容量を設定します。 ロールシートで連続コピーを行うと、シートの傾きなどにより次第にずれる場合があります。このような場合、以下の手順で再度トンボ検出をすることにより、動作を継続できます。 トンボ 1 の B 軸座標値が設定値以上ずれた場合、カットを一時停止します。 (ENTER) キーを押すとトンボ検出待ちになります。 ジョグキーでライトポインタの光点を下図の位置に移動して (ENTER) キーを押すと、トンボ読み取りを再開します。 このとき、クランプレバーを上げてメディアの修正をしないでください。動作を継続できなくなります。 チェックしない場合、設定値を 0 にします。 

トンボ検出の設定を解除する

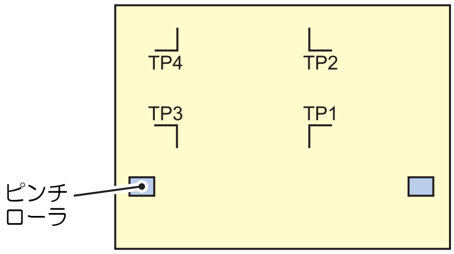
トンボを印刷していないメディアの検出を行った時に [トンボケンシュツカイシイチ] と表示する場合、トンボ検出を “OFF” に設定します。
トンボ検出は、無効になります。

「トンボ検出の設定をする」手順５までの操作をする ▶ (▲)(▼) を押して **“OFF”** を選ぶ ▶ (ENTER) を押す ▶ (END) を数回押す

トンボの検出方法

重要！

- メディアがカールしている場合は、カールを取り除いてください。
  トンボ機能がないカッティングソフトを使用する場合、TP1—TP2 間および TP1—TP3 間に、画像や汚れがないメディアを使用してください。



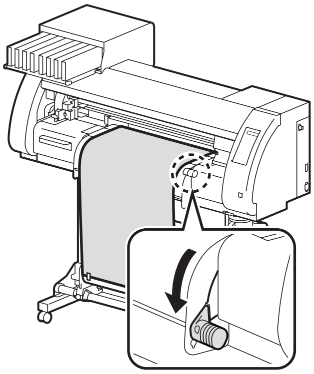
メディアセット後すぐにトンボ原点を設定する

重要！

- あらかじめ、トンボ検出の設定を [1 テン] 以上に設定しておいてください。
  (P.4-12)

1 メディアをセットし、クランプレバーを下げる

- ピンチローラがメディアを保持します。
- P.2-25 からの操作を参照して、メディアをセットしてください。

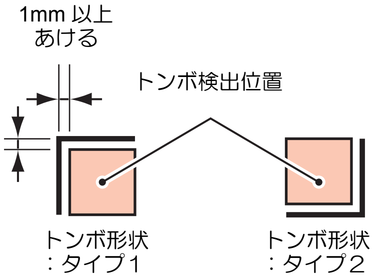


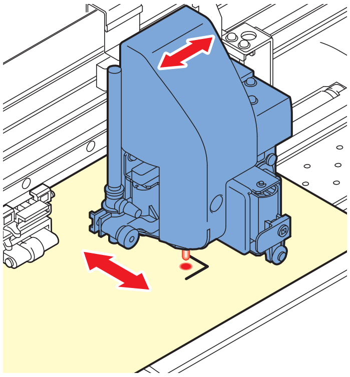
2 メディア検出を行う

- P.2-25「ロールメディアをセットする」を参照して、メディア検出を行ってください。
- メディアを検出すると、トンボ検出待ちの表示になります。

```
トンホ゛ケンシュツ　カイシ　イチ
 0.0         0.0
```

3 ▼▲◀▶で、ライトポインタを下図のエリア内に移動する





4 設定後、ENTERキーを押す

- [トンボケンシュツ] で設定したトンボの検出を開始します。
- トンボの個数については、「トンボ検出点数の設定」（☞ P.4-13）を参照してください。
- トンボが検出できない場合、ディスプレイに [エラー 36　トンボケンシュツ] と表示します。メディアを取り付け直してください。

5 原点を表示する

- 有効カットエリアを表示した後、ローカルになります。

テストカットなどをした後にトンボ原点を設定する

重 要！ ・ あらかじめ、トンボ検出の設定を [1 テン] 以上に設定しておいてください。
(☞ P.4-12)

1 ローカルでカットモードになっていることを確認して、END キーを押す

```
< ローカル. C >          [ #01 ]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

- ライトポインタが点灯します。
- プリンタモードになっているときは、MODE CHANGE キーを押して切り替えます。

2 **P.4-16**「メディアセット後すぐにトンボ原点を設定する」手順 **3** からの操作をして、原点を設定する

C

正常にカットできなかったとき確認してください

トンボセンサーの反応を確認する

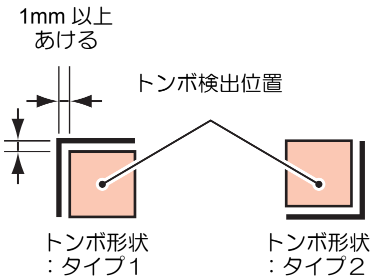
重要!

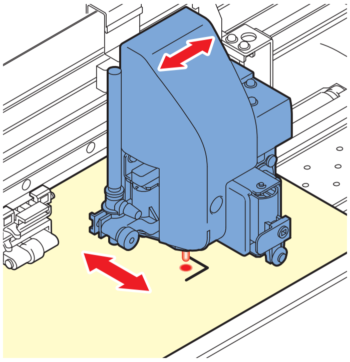
- 手動でヘッドやメディアを動かしても、正確な反応チェックは行えません。必ず、下の操作で反応チェックをしてください。
- 印刷済みトンボの条件は、「トンボ付きデータ作成に関する注意事項」(☞ P.4-7) を参照してください。
- 電源を落としても設定値は記憶しています。
- 本設定で変更したトンボ形状 / トンボサイズは、「トンボケンシュツ」(☞ P.4-12) の設定に反映されます。
- 設定した検出速度は、以後のトンボ検出動作時に使用されます。
- 本オペレーションで設定したポインタオフセット、センサ感度調整値は、セッテイリセットにより初期化されません。

1	ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ	＜ローカル．C＞　[#01] CUT1 (30/ 60/ 0.30)
2	(FUNCTION)キーを押す	FUNCTION　C セッテイ　＜ENT＞
3	(▼)(▲)を押して[メンテナンス]を選ぶ	FUNCTION　C メンテナンス　＜ENT＞
4	(ENTER)キーを 2 回押す	トンボ゛センサー センサー　チェック　＜ent＞
5	(ENTER)キーを押す • ライトポインターが点灯します。	センサー　チェック ゲ゛ンテン　セット　：ent

6 [▼][▲][◀][▶]を押して、ライトポインタをトンボ検出位置に移動する

• トンボ検出は、トンボより 1mm 以上離れた位置で実行してください。





重 要！ • ここで設定した原点は、通常プリント／カットするときに使用する原点として登録されます。トンボセンサーのチェック完了後に原点を変更したいときは、P.2-33「原点を変更する場合は」の操作をしてください。

7 [ENTER]キーを押す

```
センサー チェック
サイズ゛          = 10mm
```

8 [▼][▲]を押してトンボサイズを設定し、[ENTER]キーを押す

```
センサー チェック
ケイシ゛ョウ        : タイフ゜1 ╬
```

• 設定値：4 ～ 40mm
• ここで設定した値は、「トンボケンシュツ」の設定に反映されます。

9 [▼][▲]を押してトンボの形状を設定し、[ENTER]キーを押す

```
センサー チェック
スピ゜ード゛        = 10cm/s
```

• 設置値：タイプ 1(╬)、タイプ 2(⌜⌟)
• ここで設定した値は、「トンボケンシュツ」の設定に反映されます。

10 [▼][▲]を押してトンボ読み取りスピードを設定し、[ENTER]キーを押す

• 設置値：5 ～ 10cm/s
• ここで設定した値は、「トンボケンシュツ」の設定に反映されます。

11 [▶]を押して、検出動作を行う (次ページ)

検出動作

1 **X　方向のプラス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する**

- 線分の検出ができた場合、ブザーが鳴ります。できなかった場合、ブザーはなりません。

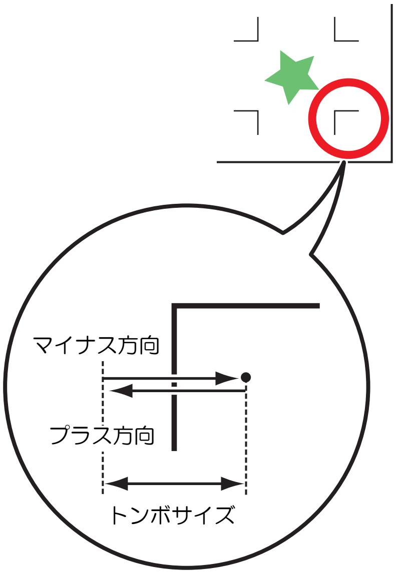
2 **X 方向のマイナス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する**

3 **Y 方向のプラス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する**

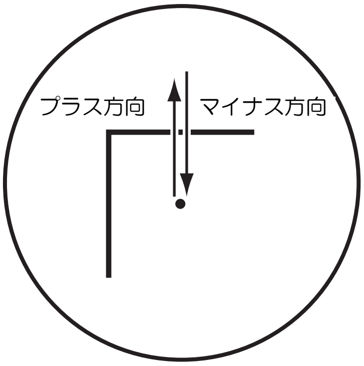
4 **Y 方向のマイナス方向スキャンを行い、線分の検出が可能か確認する**

5 **1 ～ 4 までの動作を行い、ブザーが 4 回鳴るか確認する**

- 正常に検出動作が終了すると、ブザーを 4 回鳴らしてお知らせします。
- 検出できなかった場合は、「トンボセンサ LED の感度 (光量) を自動調整する」(☞ P.4-23）を行ってください。
- 感度調整を行っても正常に検出できない場合、トンボ条件を確認の上、弊社営業所にご連絡ください。



Y 方向スキャン



X 方向スキャン

C

4

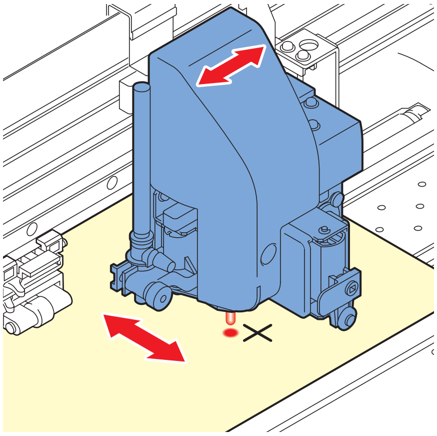
応用機能―カット編―

ライトポインタの位置を補正する

トンボが正しく読めなくなった場合、トンボセンサーとライトポインタの位置関係が合っていないことが考えられます。この場合、ライトポインタの位置を補正します。

1 ツールホルダに水性ボールペンを取り付ける (☞ P.2-14)

- 調整の際は、できるだけ誤差を少なくするためプロッター専用ペンをご使用ください。色は何色でもかまいません。弊社販売店より購入してください。



2 カットモードになっていることを確認する

- プリンタモードになっているときは、(MODE CHANGE) キーを押して切り替えます。

```
<ローカル.C>           [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

3 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

4 (▼)(▲)を押して [メンテナンス] を選ぶ

```
FUNCTION              C
メンテナンス        <ENT>
```

5 (ENTER) キーを 2 回押す

```
トンボ゛ センサー
センサーチェック    <ent>
```

6 (▼)(▲)を押して、[ポインタオフセット] を選ぶ

```
トンボ゛ センサー
ポ゜インタ オフセット  <ent>
```

7 (ENTER) キーを押す

- 縦・横の長さが 10mm の十字パターンをペン作図します。
- ライトポインタが点灯し、十字パターンの中央に移動します。

8 [▼][▲][◀][▶]を押して、ライトポインタの中央と十字パターンの中央が一致するようにライトポインタを移動する

9 [ENTER]キーを押す

・補正量を登録し、手順 6 の画面に戻ります。

```
ポ゜インタ オフセット
 X = 0.3    Y = 0.5
```

重要!
・［ポインタオフセット］で設定した値は、P.4-45「設定した内容を初期状態に戻す」を行っても初期化しません。

トンボセンサ LED の感度 (光量) を自動調整する

トンボ検出でエラーが頻発する場合、トンボセンサ LED の感度が適正でないことが考えられます。この場合、トンボセンサ LED の感度 (光量) を調整します。

重要!
・お使いのメディアが汚れのない白色のものであるか確認し、メディアがセンサの直下になるようにしておく必要があります。

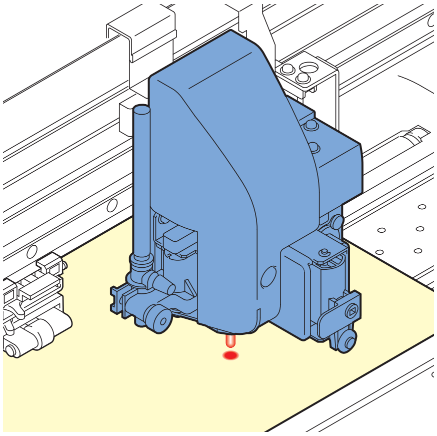
1 カットモードになっていることを確認する

・プリンタモードになっているときは、[MODE CHANGE] キーを押して切り替えます。

```
<ローカル.C>           [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 トンボセンサーが何も印字されていない箇所の上にあることを確認する

・トンボセンサーの下に絵柄等がある場合は、[▲][▼][◀][▶]を押して、位置を変更してください。



3 [FUNCTION] キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

C

4

応用機能―カット編―

4 [▼][▲]を押して [メンテナンス] を選ぶ

```
FUNCTION                C
メンテナンス          <ENT>
```

5 [ENTER]キーを 2 回押す

```
トンボ゛ センサー
センサーチェック      <ent>
```

6 [▼][▲]を押して、[カンドチョウセイ] を選ぶ

```
トンボ゛ センサー
カント゛ チョウセイ   <ent>
```

7 [ENTER]キーを押す

```
カント゛ チョウセイ
 OUT: ***    IN: ***
```

8 ディスプレイの数字が安定してから、[ENTER]キーを押す

- ディスプレイの値は、完全に安定しない場合があります。その場合は、一番大きな桁の数値が安定した時点で [ENTER] キーを押します。
- 調整値を登録し、ローカルに戻ります。
- [FUNCTION] キーを押すと、カッターユニットを手で動かせるようになります。

重要！

- [カンドチョウセイ] で設定した値は、P.4-45「設定した内容を初期状態に戻す」を行っても初期化されません。

オートカットの設定をする

カット終了後、自動的にメディアのカット (切り離し) を行います。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

<ローカル.C>　　　　[#01]
CUT1 (30/ 60/ 0.30)

2 (FUNCTION) キーを押す

FUNCTION　　　　　　　C
セッテイ　　　　　<ENT>

3 (ENTER)キーを押す

セッテイ
センタク　　　　　:CUT1

4 (▼)(▲)を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、PEN、HALF)** を選び、(ENTER)キーを押す

5 (▼)(▲)を押して [オートカット] を選ぶ

[CUT1]
オート　カット　　　<ent>

6 (ENTER)キーを押す

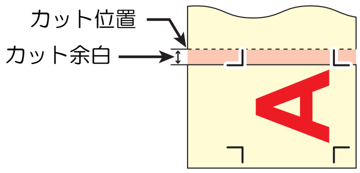
[CUT1]オート　カット
セッテイ　　　　　:OFF

7 (▼)(▲)を押して、**“ON”** を選び、(ENTER)キーを押す

[CUT1]オート　カット
カット　ヨハク　　=　00mm

• オートカットを設定したくない場合は、“OFF” を選び、手順 10 へ進んでください。

8 (▼)(▲)を押して、余白の長さ **(0 ～ 30mm)** を選び、(ENTER)キーを押す

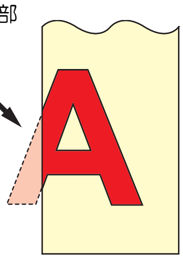


9 (END) キーを数回押して、ローカルに戻る

• ここで設定した内容は、プリント時のオートカットには反映されません。プリント時のオートカットを設定するときは、応用機能 - プリント編 - の「オートカット」(☞ P.3-30) を参照してください。
• 巻取タイミングの設定 (☞ P.4-42) を 1 以上にしている場合は、オートカットは実行されません。（巻き取りを優先します）

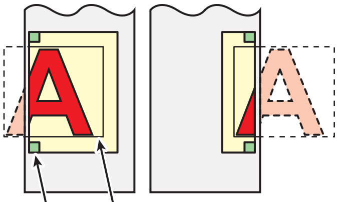
分割カットをする

分割カットをセットしておけば、メディアの幅より大きいデータを分割してカットできます。（ブンカツカット機能）



- 分割カットでは、次の便利な機能もお使いになれます。

  枠カットをする：
  カットデータとともに、カットデータのサイズに合わせた枠を自動的にカットします。
  貼りしろマークを付ける：
  分割カットをしたメディアを貼り合わせるための目安となる“マーク”を付けることができます。



分割カットの設定をする

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>            [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION                  C
セッテイ              <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク              :CUT1
```

4 ▼ ▲ を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、PEN、HALF)** を選び、ENTER キーを押す

5 ▼ ▲ を押して [ブンカツカット] を選ぶ

```
[CUT1]
フ゛ンカツ  カット      <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
[CUT1]フ゛ンカツ  カット
セッテイ               :OFF
```

7 ▼▲を押して“ON”を選び、ENTERキーを押す

```
[CUT1]ブンカツ カット
セッテイ          :ON
```

• “OFF” を選んだ場合は、手順 10 へ進んでください。

8 ▼▲を押して[ワク カット]の設定を選び、ENTERキーを押す

```
[CUT1]ブンカツ カット
ワク カット        :OFF
```

• 枠カットをするとき “ON” を選びます。

9 ▼▲を押して[マークカット]の設定を選び、ENTERキーを押す

```
[CUT1]ブンカツ カット
マーク カット       :ON
```

• 貼りしろマークを付けたいとき “ON” を選びます。

10 ENDキーを数回押して、ローカルに戻る

重 要!

- 電源を落としても設定値は記憶しています。
- 貼りしろは1cm あるため、有効カットエリアは常に1cm 以上の幅が必要になります。
- 分割カット中は、ホストコンピュータからのデータは無視します。
- 次のいずれかのとき、分割カットはできません。
  カットデータの容量が受信バッファの容量より大きい場合
  カットデータ内に原点更新コマンドがある場合
  トンボ検出をしている場合
  有効カットエリアの幅が１ cm 以下の場合
  本装置内のテストデータをカットした場合

分割カットの設定を解除する

「分割カットの設定をする」手順6までの操作をする → ▲▼を押して“OFF”を選ぶ → ENTERを押す → ENDを数回押す

C

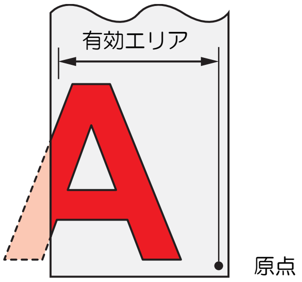
4

応用機能―カット編―

分割カットでデータをカットする

1 コンピュータからデータを受信する

- カットエリアからデータがはみ出ると、右のように表示します。




```
＊リモート.C＊     <    100KB>
    ＊＊ オフスケール ＊＊
```

2 カットが終了したら、枠と貼りしろマークを自動的にカットする

```
 ＊＊ ブ゛ンカツ ＊＊
```

3 枠カットが終了すると、ローカルになる

- この表示の時以外は、メディアを交換しないでください。

```
<ローカル.C>          [#01]
    ＊＊ ブ゛ンカツ ＊＊
```

4 新しい原点を設定する

- ジョグキーでキャリッジを移動して、原点を設定します。
- カットスペースが無い場合は、メディアを交換してください。

5 REMOTE キーを押して、リモートモードにする

- メディアをカットデータの最大メディア長分フィードし、カットを開始します。
- メディアをフィードしないときや、メディアが短いときは、手順 4 で大きなメディアに交換してください。

重要！ • 手順 4 で新しい原点を設定しなかった場合、カットは開始しません。

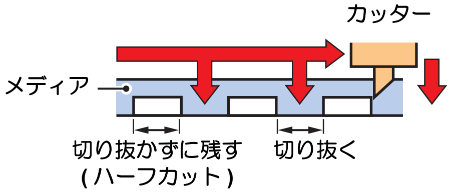
6 手順4、5 を繰り返す

- メディア幅を超えるデータがなくなるまで、続けます。
- 終了すると、ツール条件を表示して、ローカルに戻ります。

```
<ローカル.C>          [#01]
[CUT1]   30   60   0.30
```

点線でカットする

カットデータを切り抜かずに点線でカットします。
点線カットをするには、ツール条件を “HALF” にする必要があります。



- 点線カットは、別売のカッター (型番SPB-0001：超硬刃３本セット) を使用してください。
- 点線カットは、ペンラインスポンジを取り付けてから使用してください。（☞ P.1-10）

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

< ローカル. C >

2 (FUNCTION) キーを押す

FUNCTION　C
セッテイ　<ENT>

3 (ENTER)キーを押す

セッテイ
センタク　: CUT1

4 (▼)(▲)を押してツール条件 (HALF) を選び、(ENTER)キーを押す

セッテイ
センタク　: HALF

5 (▼)(▲)を押して [テンセンカット] を選ぶ

[HALF]
テンセン　カット　<ent>

6 (ENTER)キーを押す

[HALF]テンセン　カット
ハーフカット　プ゜レス　=　0g

7 (▼)(▲)を押してハーフカットのカット圧を選ぶ

[HALF]テンセン　カット
ハーフカット　プ゜レス　=　50g

- 設定値：0 ～ 300g

8 (ENTER)キーを押す

[HALF]テンセン　カット
ハーフカット　チョウ　=　0.1mm

9 (▼)(▲)を押してハーフカットの長さを選ぶ

[HALF]テンセン　カット
ハーフカット　チョウ　=　0.1mm

- 設定値：0.1 ～ 6.0mm

10 ENTER キーを押す

```
[HALF]テンセン カット
カット チョウ      =    5mm
```

11 ▼ ▲ を押して用紙を切り抜く部分の長さを選ぶ

```
[HALF]テンセン カット
カット チョウ      =   50mm
```

- 設定値：5 ～ 150mm

12 ENTER キーを押す

13 END キーを数回押して、ローカルに戻る

重 要！

- 手順 4 で “HALF” 以外のツール条件を選択した場合、点線カットの設定はできません。
- 電源を落としても設定値は記憶しています。
- 点線カットは台紙ごとメディアをカットする為、通常のカットに比べてカッター刃の寿命が短くなります。
- 用紙を切り抜くときのカット圧は、ツール条件（☞ P.2-4）で設定できます。

参考値

カッティングシートや塩ビのメディアを切り抜く場合のツール条件と点線カット条件は、次のようになります。

ツール条件	
PRESSURE	100 ~ 150 g
OFFSET	0.30mm

点線カット条件	
ハーフカットプレス	30g
ハーフカットチョウ	0.5mm
カットチョウ	10mm

65kB（キログラムベース）のメディアを切り抜く場合のツール条件と点線カット条件は、次のようになります。

ツール条件	
SPEED	40cm/s
PRESSURE	40g
OFFSET	0.30mm

点線カット条件	
ハーフカットプレス	0g
ハーフカットチョウ	0.5mm
カットチョウ	10mm

- “カットチョウ”は、字画の多い文字や小さい文字の場合は、短めに設定します。

カット順を変更する

ホストコンピュータから送られてきたカットデータを並び替えて、カット順を変更することができます。（ソーティング機能）
アプリケーションソフトウェアから送られるデータの順番により、一筆書きでカットしたいデータを一筆書きでカットできない場合などに、カットする順番を変更して一筆書きでカットできるようになります。

次のような場合、一筆書きでカットできなくなります

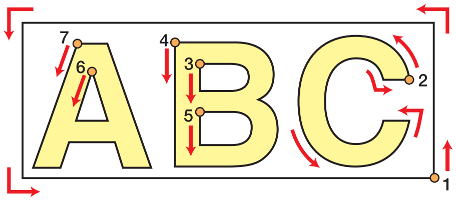
アプリケーションソフトウェアによっては、作成 / 編集した順番に本機にデータを送ります。
- スキャナで読み込んだデータを手直しした場合などは、手直しした場所が後でカットされるため、一筆書きでカットできません。

ソーティングでカットするときは

ソーティングは、ペンダウンした移動からペンアップするまでを 1 つのブロックとして、ブロック単位にカットしていきます。1 つのブロックをカットした後は、始点位置が一番近いブロックをカットします。

ホストデータの始点位置とカット方向は、変更しません。

●印：データの始点 = カット時の始点
矢印：データの方向 = カット方向
数字：カットブロック順

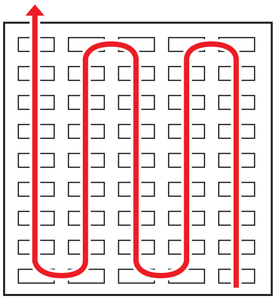


ソーティング機能では次のことができます

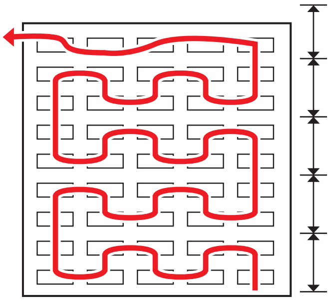
ソーティング機能を “ON” にすると、次の機能が有効になります。

オートフィード機能：
カットするデータの長さを検知し、あらかじめデータ分の長さのメディアを引き出しておく機能です。

エリア管理機能：
あらかじめエリアを指定して、エリア内におさまるブロックデータを優先にカットします。エリア内におさまるブロックデータがなくなるとエリアを拡大させて、メディア送り方向に徐々にカットします。



エリア指定ナシ



エリア指定アリ

ソーティングの設定をする

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>          [#01]
CUT1 (  30/ 60/ 0.30)
```

2 (FUNCTION)キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ             <ENT>
```

3 (ENTER)キーを押す

```
セッテイ
センタク             :CUT1
```

4 (▼)(▲)を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、PEN、HALF)** を選び、(ENTER)キーを押す

5 (▼)(▲)を押して **[** ソーティング **]** を選ぶ

```
[CUT1]
ソーティング゛           <ent>
```

6 (ENTER)キーを押す

```
[CUT1]ソーティング゛
セッテイ              :OFF
```

7 (▼)を押して **"ON"** を選ぶ

```
[CUT1]ソーティング゛
セッテイ              :ON
```

8 (ENTER)キーを押す

```
[CUT1]ソーティング゛
オートフィート゛           :OFF
```

9 (▲)(▼)を押して **[** オートフィード **]** の設定を選ぶ

- オートフィードをするとき "ON" を選びます。

10 (ENTER)キーを押す

```
[CUT1]ソーティング゛
エリア カンリ            :OFF
```

11 [▼][▲]を押して、[エリアカンリ] の設定を選ぶ

```
[CUT1]ソーティング
エリア　カンリ　　　　　:500cm
```

• 設定値 :OFF または 10 ～ 5100cm（10cm 単位)

12 [ENTER] キーを押す

13 [END] キーを数回押して、ローカルに戻る

重 要 !

- 電源を落としても設定値は記憶しています。
- 設定値を変更すると、受信バッファの内容はクリアします。
- ソーティングを ON に設定すると、受信バッファのサイズは約 20MB に減少します。

ソーティングの設定を解除する

「ソーティングの設定をする」手順６までの操作をする	[▲][▼]を押して “OFF” を選ぶ	[ENTER] を押す	[END] を数回押す

ソーティング手順

1 データを送信する

```
＊リモート．C＊    ＜   100KB＞
   ＊＊  ソーティング  ＊＊
```

• 受信バッファ内の未処理データサイズを表示します。カット (ペン作図) はしません。処理した線分をソーティングバッファにため込みます。

2 データの送信が終了すると、カット開始までの待ち時間を表示します。

```
＊リモート．C＊     ＜   100%＞
  ＊＊  プロット ＊＊  09s
```

• 残り時間を秒単位で表示します。
• カット開始までの待機中にデータの受信がなければ、カウントダウンをします。

3 オートフィードを実行する

```
＊リモート．C＊     ＜      1%＞
   ＊＊  ソーティング  ＊＊
```

• ソーティングの設定 (☞ P.4-32) 手順 9 で、[オートフィード :ON] を選んだ場合、オートフィードを実行します。
• カット開始前にカット分のメディアを引き出します。カット長分のメディアが引き出せなかった場合、[エラー 15-C オートフィード] を表示します。
• 長尺メディアに交換後、データ送信または枚数切り (☞ P.4-50) を実行してください。

4 カットを開始する

```
＊リモート．C＊     ＜   100%＞
   ＊＊  ソーティング  ＊＊
```

• カット済みのデータを、パーセントで表示します。

5 カットが終了するとリモートモードになる

```
＊リモート．C＊    ＜   100KB＞
 CUT1  (30/  70  /0.30)
```

• ソーティング [ON] の場合は、カットする全てのデータを受信した後、データ受信完了待ちとソーティング処理が終わるまではカット動作を開始しません。
ただし、以下の場合は、時間を待たずにソーティングしてカットを開始します。
  ソーティングバッファが一杯になった場合
  ツール番号、SPEED、PRESSURE など、カット条件を変更した場合
  フィードコマンドや原点更新コマンドを実行した場合

トンボが無いデータをカットするために

トンボが無いデータをプリント＆カットするため、プリントした画像とカットラインのズレを補正する調整 (P/C 調整) が必要になります。

重 要！

- 調整をする前に塩ビ系のメディアをセットし、カット用のツールとして付属の偏芯カッターを取り付けてください。
- 本設定を行う前にプリントモードの「メディア補正の設定」(☞ P.3-9) を行ってください。
- ここで行う調整をしても、プリントモードやメディアの特性、ピンチローラーの設定など様々な要因により、微妙なズレが生じる場合があります。このときは、再度調整し直してください。
- 本機能は、ファームウェア Ver.2.10 以降対応です。

P/C 調整には、以下の項目があります。

設定項目	概　　要
P/C 原点オフセット	プリント原点とカット原点のズレを調整します。
P/C スケール補正	メディア補正 (☞ P.3-9) で設定したメディア送り補正値を、カット時に反映させるための設定を行います。

P/C 調整の例

本設定は、各ツール条件毎に個別に設定できます。用途に合わせた設定をしてください。

ツール条件 [CUT1] をトンボ検出付きデータのカットで使用する場合	P/C 調整は必要ありません
ツール条件 [CUT2] をトンボ無しデータのプリント＆カットで使用する場合	P/C 調整を行ってください
ツール条件 [CUT3] をカラーメディアなどのカットのみで使用する場合	P/C 調整は必要ありません
ツール条件 [PEN] をペン作図のみで使用する場合	P/C 調整は必要ありません

P/C 原点オフセットの設定をする

プリント原点とカット原点のズレを調整します。
Y 方向のスキャン速度により、540dpi と 720dpi ではプリント時のインクの着弾位置が変わります。実際にプリントしたい解像度で調整してください。

重 要！
- 本機では、540dpi または 720dpi のいずれか一方の調整値のみ保持できます。調整後に実施するプリントの解像度に合わせて調整を行ってください。
- P/C 原点オフセットは、ツール条件ごとに設定できます。
- 同一データ内で 2 つ以上のツール条件 ([CUT1] と [HALF] など) を使ってカットを行う場合、それぞれのツール条件で同じ調整値を設定してください。調整値の異なるツール条件を使ってカットを行うとズレが生じます。
- 2 つ以上のツール条件で同じ設定をする場合、2 つめのツール条件の設定では調整パターンをプリント＆カットする必要はありません。手順 7 の後 ▶ を押し、P/C 原点オフセット値を入力してください。

1 塩ビ系のメディアをセット (☞ P.2-15) し、カット用のツールとして偏芯カッターを取り付ける (☞ P.2-10)

2 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>           [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

3 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ           <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
セッテイ
センタク           :CUT1
```

5 ▼ ▲ を押してツール条件 (CUT1~CUT3、PEN、HALF) を選び、ENTER キーを押す

6 ▼ ▲ を押して [P/C チョウセイ] を選び、ENTER キーを 2 回押す

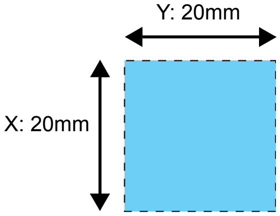
```
P/Cゲンテン オフセット
540dpi            <ent>
```

7 ▲ ▼ を押して540dpiまたは720dpiを選び、ENTER キーを押す

```
P/Cゲンテン オフセット
プリント カイシ       :ent
```

- 調整後に実際にプリントする解像度に合わせて選択してください。
- ▲ ▼ ◀ を押して、プリント開始位置 (プリント原点) を変更できます。
- ▶ を押すと、手順 9 へ進みます。

8 ENTER キーを押して調整パターンのプリント&カットをする



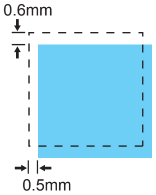
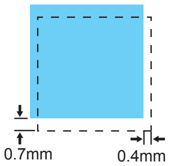
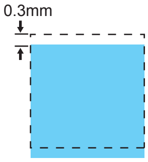
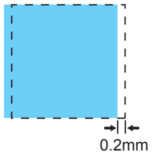
- 右のような調整パターンをプリント&カットします。
- 青い部分がパターン、点線部分がカットラインを表します。

9 カットしたパターンを剥がし、ズレを調整する

```
P/Cゲンテン オフセット
 X = 2      Y = 3
```

- ▲▼◀▶ を押して、カットラインのオフセット値を入力します。(1 ステップおよそ 0.05mm)

X/Y 方向の選択 **:** ◀▶ を押して選択
オフセット値の入力 : ▲▼ を押して入力

カットラインとパターンが合致	カットラインが左方向に 0.5mm、上方向に 0.6mm ずれている場合	カットラインが右方向に 0.4mm、下方向に 0.7mm ずれている場合	カットラインが上方向に 0.3mm ずれている場合	カットラインが右方向に 0.2mm ずれている場合
				
Y=0、X=0	Y=-10 (0.05x**10**) X=-12 (0.05x**12**)	Y=+ 8 (0.05x**8**) X=+14 (0.05x**14**)	Y= 0 (0.05x**0**) X=-6 (0.05x**6**)	Y=+4 (0.05x**4**) X= 0 (0.05x**0**)

10 ENTER キーを押す

```
P/Cゲンテン オフセット
プリント カイシ      :ent
```

- 再度、手順 9 からの操作を行い、ズレが無くなるまで繰り返します。
- 終了するとき、END キーを数回押して、ローカルに戻ります。

注意

- P/C 原点オフセットで調整しても、実際にデータをプリント&カットしたときにズレが生じる場合があります。そのときは、次のようにして調整し直すことができます。

(1) MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ
(2) REMOTE キーを押して、リモートに切り替える
(3) FUNCTION キーを押す
(4) ▲▼◀▶ を押して、調整する
- ◀▶ で X/Y の方向を切り替え、▲▼ でオフセット値を入力します。

```
P/Cゲンテン オフセット
 X = 0      Y =0
```

(5) ENTER キーを押して、調整値を保存する
- 調整値を保存すると、P/C 原点オフセットで登録した値が更新されます。
- 調整値を保存しない場合は、END キーまたは FUNCTION キーを押してください。

P/C スケール補正の設定をする

プリント時に発生するメディア送り補正によるプリント成果物の伸縮をカット時に反映させるための補正を行います。

重 要！

- 使用するメディアや送り補正値を変更したときは、必要に応じて再調整を行ってください。(パターンのプリント開始時に、前に設定した内容は初期化されます。)
- 本設定は、カット位置をプリント位置に合わせるための設定です。カットのみ行う場合や PEN ツールによるペン作図でも、本調整値が反映されますのでお気をつけください。
- カットのみ行う場合に本設定での設定値を反映させたくない場合は、次のようにしてください。
  → 手順 9 で " クリア " を選択する。
  →P/C スケール補正を設定していないツール条件を使ってカットする。

1 塩ビ系のメディアをセット (☞ P.2-15) し、カット用のツールとして偏芯カッターを取り付ける (☞ P.2-10)

2 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>        [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

3 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

4 (ENTER) キーを押す

```
セッテイ
センタク            :CUT1
```

5 (▼)(▲) を押してツール条件 (CUT1~CUT3、PEN、HALF) を選び、(ENTER) キーを押す

6 (▼)(▲) を押して [P/C チョウセイ] を選ぶ

```
[CUT1]
P/C  チョウセイ      <ent>
```

7 (ENTER) キーを押す

```
[CUT1]P/C  チョウセイ
P/Cケ゛ンテン  オフセット  <ent>
```

8 [▼][▲]を押して **[P/C スケールホセイ]** を選ぶ

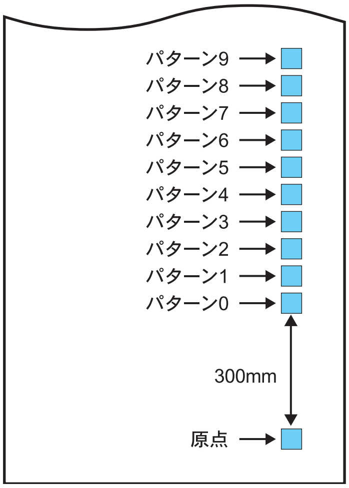
```
[CUT1]P/C  チョウセイ
P/C  スケール  ホセイ      <ent>
```

9 [ENTER]キーを押す

```
P/C  スケール  ホセイ
クリア  <              >  プ゜リント
```

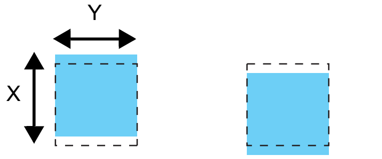
10 [▶]を押して全パターンのプリントとパターン **0** のカットを行う

- 右のパターンがプリントされます。
- 調整値をクリアしたいときは、[◀]を押し手順 16 へ進んでください。
- 原点からパターン 0 までは、約 300mm 離れています。



11 パターン **0** を剥がし、ズレ方向を確認する

- このとき Y 方向にずれる場合もありますが、本調整には影響ありません。



カットラインが下にずれていた場合は、＋方向を選択　カットラインが上にずれていた場合は、－方向を選択

12 [▼][▲]を押して＋／－を設定する

```
P/C  スケール  ホセイ
ホセイ  ホウコウ            =  +
```

13 [ENTER]キーを押す

- パターン 1 から 9 までのカットを行います。

14 パターン 1 から順番に剥がし、カットラインとパターンが合致しているものを確認する

15 合致しているパターン番号を入力し、
(ENTER)キーを押す

```
P/C スケール ホセイ
ホセイチ          =  5
```

16 (END)キーを数回押して、ローカルに戻る

C

その他の設定

使い方に合わせて設定を変えてください。

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>            [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION               C
セッテイ             <ENT>
```

3 (ENTER) キーを押す

```
セッテイ
センタク            :CUT1
```

4 (▼)(▲) を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、PEN、HALF)** を選び、(ENTER) キーを押す

5 (▼)(▲) を押して設定する項目を選択する

- 設定一覧表を参照して選択してください。

6 (ENTER) キーを押す

7 (▼)(▲) を押して設定値を選択する

- 設定一覧表を参照して選択してください。

8 (ENTER) キーを押す

9 (END) キーを数回押して、ローカルに戻る

重要！

- 設定した値は、電源を “OFF” にしても保持しています。

設定一覧表

お買い上げ時は、下線の設定になっています。

機能名	概　要	設定値
ピンチローラーの設定 (☞ P.4-2)	使用するメディアに合わせて、ピンチローラーの圧力とピンチローラー No. を設定。	
トンボ検出の設定	P.4-12 を参照してください	
カットモードの設定 (☞ P.4-42)	通常のカットモード	ヒョウジュン
	短時間でカット（重いメディアの使用には適していません）	コウソク
	カット品質を優先するカットモード	コウヒンイ
オートカットの設定 (☞ P.4-25)	カット終了後に、自動的にメディアを切り離す	OFF / ON
分割カット (☞ P.4-26)	分割カットの設定をする	OFF / ON
点線カット (☞ P.4-29)	点線カットの設定をする	ハーフカットプレス : 0 ~ 300 g ハーフカットチョウ : 0.1~0.5~0.6mm カットチョウ　: 5 ~ 10 ~150 mm
アップスピードの設定	ツールがアップしているときのメディアとキャリッジの移動速度を設定	AUTO / 5 / 10 / 20 / 30
捨て切りの設定 (☞ P.4-43)	捨て切り動作の設定をする	OFF / ON
メディア設定 *1	セットするメディアの重さを設定する	フツウ / オモイ
ソーティングの設定 (☞ P.4-31)	ソーティングの設定をする	OFF / ON
刃先補正圧オフセットの設定 (☞ P.4-43)	カットの始点と終点に切り残しがある場合、値を大きくする	0 ~ 3 ~ 7
巻取タイミングの設定 *2	トンボ付のデータを複数枚カットしたときやマイスウギリ機能を指定したとき、メディアを巻き取るタイミングを設定する	OFF / 1 ~ 99（行）
オーバーカット	厚いメディアなどのカットで切り残しが発生した場合に設定する	OFF / 0.1mm ~ 1.0mm
吸着の設定	メディアを吸着する力を設定。	ツヨイ / ヒョウジュン / ヤヤヨワイ / ヨワイ /OFF

*1. メディア設定を " オモイ " にすると、カット速度が 20cm/s に制限されます。
*2. ・巻取タイミングを設定している場合、オートカット (☞ P.4-25) の設定は無効になります。
・巻取タイミングの設定値を "1" 以上に設定する場合は、巻取装置のスイッチの設定が必要になります。(☞ P.2-29)

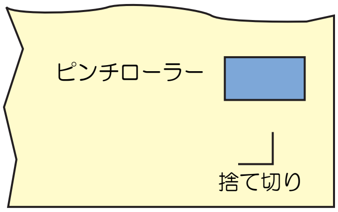
カットモードについて

次のようなデータをカットする場合、" コウヒンイ " に設定します。

- 10 ㎜ 以下の文字をカットするとき
- 鋭角部分が多い絵柄や文字をカットするとき
- 微細なカットをするとき
  ただし、コンピュータからのデータが複雑すぎる場合、仕上がりがギザギザになる場合があります。この場合、" コウソク " を選択すると滑らかな仕上がりになります。
- " コウヒンイ " では、カット速度が 20cm/s に制限されます。

捨て切りについて

メディア検出後や、ツールタイプが変更されたときなどに、現在カッターユニットがある場所から両端に近い方のピンチローラの手前で実行します。
抜き文字をカットするとき、メディアに傷を付けたくない場合は、OFF に設定します。

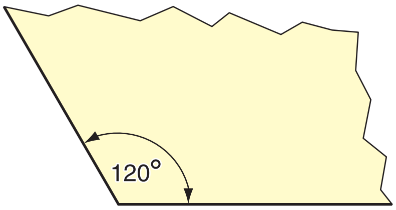


重要!

- ツール条件 “PEN” を選択しているときは、捨て切りの設定はできません。
- 捨て切りの初期値は、ON になっています。OFF に設定した時は、カット前に刃先の方向を合わせるために、テストカット (☞ P.2-44) を実行してください。

刃先補正圧オフセットについて

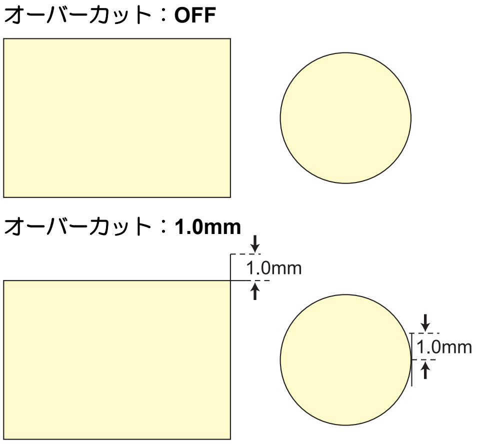
カッターがメディアにダウンするときの圧力が弱いために切り残しが発生します。
オプションの偏芯刃を使用した場合など、角度が 120° 以下のカット部分において切り残しが起きる場合があります。



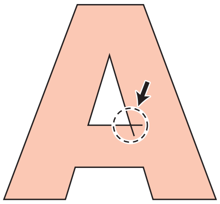
これは角をカットする際、メディアがめくれないように自動的に低いカット圧力 (約 5g) でカットするためです。カット圧力が低いため、刃先が進行方向にスムーズに回転せず、切り残しができる場合があります。このような場合は、角をカットする際の圧力を上げるための設定を行います。

オーバーカットについて

オーバーカット機能の有効・無効と、オーバーカットの長さを指定します。
オーバーカット長が設定されていると、カット開始時に指定長分だけ手前からカットし、終了時に行き過ぎてからツールアップします。



- 適度なオーバーカットを設定することで、特にたわみやすいメディアでの始終点の切り残しを軽減できますが、過度に設定すると成果物に傷を残すことになります。



設定内容をコピーする

設定した内容を他のツール条件にコピーすることができます。

1	ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、カットモードを選ぶ	＜ローカル.C＞　[#01] CUT1 (30/ 60/ 0.30)
2	(FUNCTION) キーを押す	FUNCTION　C セッテイ　＜ENT＞
3	(ENTER) キーを押す	セッテイ センタク　:CUT1
4	(▲)(▼) を押してツール条件 **(CUT1~CUT3、PEN、HALF)** を選び、(ENTER) キーを押す	
5	(▲)(▼) を押して、[セッテイコピー] を選ぶ	[CUT1] セッテイ　コピ゜ー　＜ent＞
6	(ENTER) キーを押す	[CUT1] セッテイ　コピ゜ー CUT1　->　CUT2
7	(▲)(▼) を押して、コピーするツール条件（**CUT1~CUT3、PEN、HALF、ALL**）を選ぶ • “ALL” を選ぶと、すべてのツール条件が同じ設定内容になります。	[CUT1] セッテイ　コピ゜ー CUT1　->　CUT3
8	(ENTER) キーを押す	コピ゜ー　スル　:ent CUT1　->　CUT3
9	(ENTER) キーを押す	
10	(END) キーを数回押して、ローカルに戻る	

重 要！
• (USER TYPE/TOOL) キーで行う設定 (速度、カット圧、オフセット値）をコピーすることはできません。

C

設定した内容を初期状態に戻す

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>           [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

2 (FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION                C
セッテイ             <ENT>
```

3 (ENTER) キーを押す

```
セッテイ
センタク             :CUT1
```

4 (▼)(▲) を押してツール条件 (CUT1~CUT3、PEN、HALF) を選び、(ENTER) キーを押す

5 (▲)(▼) を押して[セッテイ リセット]を選ぶ

```
[CUT1]
セッテイ  リセット    <ent>
```

6 (ENTER) キーを押す

```
[CUT1]セッテイ  リセット
リセット              :ent
```

7 (ENTER) キーを押す

- 設定項目とパラメータを初期化します。

8 (END) キーを数回押して、ローカルに戻る

重要!
- 設定した値は、電源を "OFF" にしても保持しています。

サンプルカットをする

正常にデータをカットできない場合など、本装置に保存されているサンプルをカットして、異常の原因を調べます。

サンプル “Cut”

Cut

サンプル “Logo”

重 要！

- サンプルカットを実行すると、受信バッファに保存されているデータは消去されます。
- メディア検出時にプリントモードになっていた場合、そのままサンプルカットを行うと、手順 10 で ENTER キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、ENTER キーを押してピンチローラー圧の設定をカットモードに切り替えてからサンプルカットを実行してください。
- END キーを押すと切替動作を行いません。

```
! ヒ゜ンチローラーアツ:PRINT !
キリカエ                 :ent
```

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>        [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ             <ENT>
```

3 ▼ ▲ を押して [メンテナンス] を選ぶ

```
FUNCTION              C
メンテナンス         <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
メンテナンス
トンホ゛センサー      <ent>
```

5 ▼ ▲ を押して [サンプルカット] を選ぶ

```
メンテナンス
サンフ゜ル カット     <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
サンフ゜ル カット
テ゛ータ センタク      :CUT
```

7 ▼ ▲ を押してカットするサンプルデータを選ぶ

```
サンフ゜ル カット
テ゛ータ センタク     :LOGO
```

- サンプルには “CUT” と “LOGO” の 2 種類があります。“CUT” を選んだ場合は、手順 10 へ進みます。

8 ENTER キーを押す

```
サンフ゜ル　カット
LOGO                :100%
```

9 LOGO をカットする場合、◀ ▶ を押して倍率（1~999%）を選ぶ

```
サンフ゜ル　カット
LOGO                :200%
```

10 ENTER キーを押す

```
サンフ゜ル　カット
カット　カイシ         :ent
```

11 ENTER キーを押して、カットを開始する

サンプルカットの結果について

サンプルデータは正常にカットできるが、他のデータを正常にカットできない。
⇒ ホストコンピュータ側に異常があります。

サンプルデータや他のデータも正常にカットできない。
⇒ [ハサキホセイアツオフセット] で設定値を増やし（☞ P.4-43）、カッターがダウンするときの圧力を上げてください。

一定の長さのメディアを複数枚カットする

指定した長さのメディアを複数枚カットすることができます。（オートメディアカット機能）

設定項目	設定値	概　　要
カット間隔	10 ～ 10000mm	メディアをカットする間隔を設定します。
先端合わせカット	0 ～ 500mm	オートメディアカットを開始する前に、メディアの先端をカットする長さを設定します。 先端合わせカットをすることにより、メディアの先端が斜めにカットされている場合や切断面がきれいでない場合でも、指定した枚数のメディアを等間隔でカットできるようになります。
カット回数	1 ～ 9999 回	メディアをカットする回数（枚数）を設定します。

C

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

< ローカル. C >

2 FUNCTION キーを押す

FUNCTION　C
セッテイ　< ENT >

3 ▼ ▲ を押して[メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す

メンテナンス
トンボ゛センサー　< ent >

4 ▼ ▲ を押して［オートメディアカット］を選ぶ

メンテナンス
オート　メデ゛ィア　カット　< ent >

5 ENTER キーを押す

オート　メデ゛ィア　カット
カンカク　=　10mm

6 ▼ ▲ を押して、カット間隔を選ぶ

- 設定値：10 ～ 10000mm

オート　メデ゛ィア　カット
カンカク　=　500mm

7 ENTER キーを押す

オート　メデ゛ィア　カット
センタンアワセ　カット　=　10mm

8 ▼ ▲ を押して、先端カット合わせの長さを選ぶ

- 設定値：0 ～ 500mm

オート　メデ゛ィア　カット
センタンアワセ　カット　=　50mm

9 ENTER キーを押す

オート　メデ゛ィア　カット
カイスウ　=　1

10 [▼][▲]を押して、カット回数（枚数）を選ぶ

オート　メデ゛ィア　カット
カイスウ　　　　　　　　＝　１０

- 設定値：1 ～ 9999 回

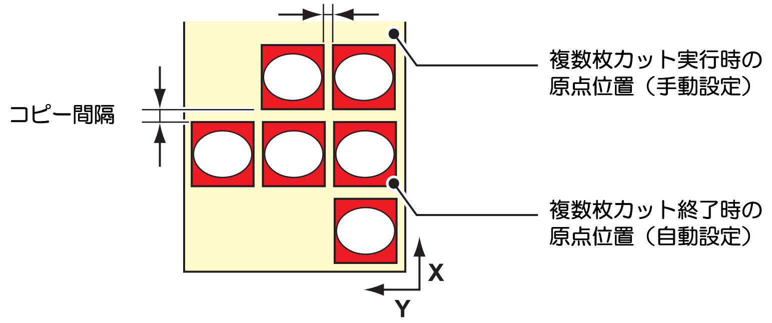
11 [ENTER]キーを押す

- 指定した回数分の裁断を行います。
- [END] キーを押すと、中断できます。

12 [END] キーを数回押して、ローカルに戻る

同じデータを複数枚カットする

受信済みのデータを複数枚カット (ペン作図) することができます。（最大 999 枚）



- 複数枚カットは、本装置の受信バッファに保存したデータを指定して行います。
- 受信バッファには１データのみ保存できます。
- 新しいデータを受信すると、それまで保存されていたデータに上書きされます。
（前に受信したデータを指定して複数枚カットをすることはできません。）

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
＜ローカル.C＞          [#01]
CUT1 （ 30/ 60/ 0.30）
```

2 原点を設定する

- P.2-33 を参照して、原点を設定してください。

3 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

4 ▼ ▲ を押して [マイスウギリ] を選ぶ

```
FUNCTION              C
マイスウキ゛リ        <ENT>
```

5 ENTER キーを押す

```
マイスウキ゛リ
マイスウ            =  1
```

6 ▼ ▲ を押してカットする枚数（1 ～ 999 枚）を選ぶ

```
マイスウキ゛リ
マイスウ            = 10
```

7 ENTER キーを押す

```
マイスウキ゛リ
カンカク          =  0mm
```

8 ▼ ▲ を押してカットする図形の間隔（0 ～ 30mm）を選ぶ

```
マイスウキ゛リ
カンカク          = 10mm
```

9 ENTER キーを押す

• 自動的に REMOTE になり、データをカットします。

重要!

- 複数枚カットをするときは、必ず原点を再設定してください。カットした直後に原点を設定しないまま枚数切りを実行すると、重なってカット (ペン作図) します。
- 枚数切り実行中は、コンピュータからのデータを受信することはできません。
- コンピュータから送信するデータは、データの間隔を 1 秒以上あけて送信してください。1 秒以内に次のデータを送信すると、2 つのデータが枚数切りの対象となります。
- 分割カットデータは、分割せずに指定した枚数分カットします。エラーを表示した場合は、「ワーニングメッセージ」（ P.7-8）を参照してください。

ステップサイズの設定をする

アプリケーションソフト (特に旧い物) によっては基本分解能とは異なる単位のデータの出力しか行えない場合があります。このような場合には、本設定値を変更し、正しいサイズでカットできるようにします。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
< ローカル.C>        [#01]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

3 ▼ ▲ を押して [メンテナンス] を選ぶ

```
FUNCTION              C
メンテナンス        <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
メンテナンス
トンボ゛センサー      <ent>
```

5 ▼ ▲ を押して [ステップサイズ] を選ぶ

```
メンテナンス
ステップ゜ サイズ゛    <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
ステップ゜ サイズ゛
サイズ゛          = 0.025
```

7 ▼ ▲ を押して設定値を選ぶ

- 設定値：0.01、0.025

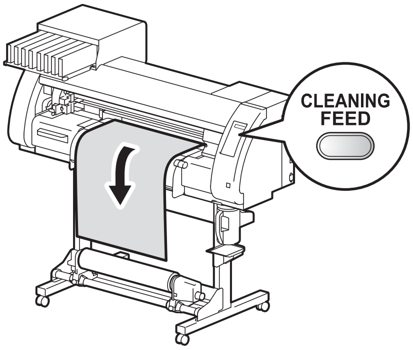
```
ステップ゜ サイズ゛
サイズ゛          = 0.01
```

8 ENTER キーを押す

9 END キーを数回押して、ローカルに戻る

メディアフィード

カットまたはペン作図をする前にメディアを引き出し、余裕を持たせておきます。
メディアをあらかじめ引き出すことで、メディアのずれを確認したり、長いデータをカット(ペン作図)する際のメディアのずれを防ぐことができます。



重 要!

- ロールメディアを巻いたまま高速カットをすると、メディア駆動ができずにエラーになる場合があります。
- メディア検出をしていないと、FEED キーは有効になりません。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
< ローカル. C >          [ #01 ]
CUT1 (  30/  60/  0.30)
```

2 CLEANING/FEED キーを押す

```
メデ゛ィア フィート゛
                  :  0.1m
```

3 ▲ ▼ を押して、メディアを引き出す長さを入力する

- 設定値 : 0.1m ～ 51.0m（0.1m 単位)

```
メデ゛ィア フィート゛
                  :  1.5m
```

4 ENTER キーを押す

- 入力した長さ分を引き出します。

```
 ＊＊  メデ゛ィア フィート゛  ＊＊
                  :  ＊.＊＊m
```

- メディアフィードを途中で止めたいときは、END キーを押してください。

カットモードでヒーターを OFF にしたいときは

カットモードで HEATER/CUTTER キーを押して、ヒーターを OFF に設定することができます。

1 カットモードで HEATER/CUTTER キーを 2 回押す

```
ヒーター デ゛ンゲ゛ン OFF
                 <ENT>
```

- HEATER/CUTTER キーを押すたびに、“ ヒータデンゲン OFF” と “ カッターユニット タイヒ ” が切り替わります。

```
ヒーター デ゛ンゲ゛ン OFF
                 <ENT>
```

HEATER/CUTTER 押して切替

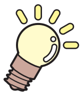
```
カッターユニット タイヒ
                 <ENT>
```

2 ENTER キーを押す

- 手順 1 で選択した設定に応じて動作します。

- 上記の設定を行うと、カットモードではヒーター OFF を継続します。
- カットモードからプリントモードに切り替えたときは、HEATER/CUTTER キーを押してください。
  プリンタモードで設定済みのヒーター温度設定による制御を再開します。

第５章
応用編ー共通設定ー



この章では ...

プリンタ機能とカット機能の両方を便利に使うための操作方法や、
各種設定方法について説明しています。

共通設定 5-2
ピンチローラー設定をする 5-3
カットホウシキの設定をする 5-4
カクニンフィードの設定をする 5-5
エキスパンドの設定をする 5-6
マージンの設定をする 5-8
ジュシンデータの設定をする 5-9
ジコクの設定をする 5-10
タンイの設定をする 5-11
マシンメイショウの設定をする 5-12
キーブザーの設定をする 5-13
装置情報を確認する 5-14
情報を表示させる 5-14
設定リストをプリントする 5-16

共通設定

本機を快適に使用するための各種設定です。
ここで設定する項目は、プリント / カットのどちらのモードでも共通の設定になります。

共通設定で設定できる内容は、次の項目です。

項　目		設定値[*1]	内　容
ピンチローラーセッテイ ☞ P.5-3		ON/ POW ON ジノミ / PR No. ノミ / OFF	メディア検出時のピンチローラー設定について設定します。
カットホウシキ ☞ P.5-4		2 ステップ / 3 ステップ	メディアを裁断をするときの、カット方法を設定します。
カクニンフィード ☞ P.5-5		OFF / 10 ~ 500 mm	テストプリント後、結果を確認するためのフィード設定ができます。ON に設定すると、[FUNCTION] を押してメディアを元の位置に戻すための「メディアモドシフィード」の設定に移ります。
エキスパンド ☞ P.5-6		ON / OFF	プリント範囲やカット（ペン作図）範囲を拡大することができます。
マージン ☞ P.5-8	ヒダリ	0 ~ 85 mm	プリント / カット時のメディアの左側の余白を設定します。
	ミギ	0 ~ 85 mm	プリント / カット時のメディアの右側の余白を設定します。
ジュシンデータ ☞ P.5-9		AUTO / MANUAL	本機に標準添付しているアプリケーション（RasterLinkPro 4 以降 / FineCut7 以降 [*2]）以外のアプリケーションを使って、プリント / カットする場合に設定を変更します。
ジコクセッテイ ☞ P.5-10			現在の日付と時刻を設定します。
タンイセッテイ ☞ P.5-11	オンド	℃（摂氏） / ゜F (華氏)	温度の表示単位を設定します。
	ナガサ	mm / inch	長さ、面積の表示単位を設定します。
マシンメイショウ ☞ P.5-12		01 ～ 99	USB2.0 インターフェイスを使用した複数台接続時の装置認識のためのマシン名称 (マシン№) を設定します。
キーブザー ☞ P.5-13		ON / OFF	キーを押したときのブザー音を設定します。
ジョウホウ ☞ P.5-14		――――	本機の装置状態を確認するための各種情報を確認できます。

*1. お買い上げ時は、下線の設定になっています。

*2. FineCut7(以降) のダイアログ左下に RL が表示されていない場合は、この設定を行ってください。

ピンチローラー設定をする

メディア検出時のピンチローラーの設定方法です。

設定値	概　要
ON	メディアをセットするたびに、使用するメディア幅に合わせたピンチローラー No. とピンチローラー圧の設定を行います。
POW ON ジノミ	電源をオン後、初回のメディアセット時のみ、使用するメディア幅に合わせたピンチローラー No. とピンチローラー圧の設定を行います。
PR No. ノミ	メディアをセットするたびに、使用するメディア幅に合わせたピンチローラー No. の設定のみ行います。
OFF	メディアセット時は、ピンチローラーの設定は行いません。（ファンクション機能で設定した値を使用します。）

1 ローカルで、(FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                 <ENT>
```

2 (▲)(▼)を押して、[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ         <ENT>
```

3 (ENTER) キーを２回押す

```
ピ゜ンチローラー　セッテイ
                 :ON
```

4 (▲)(▼)を押して、設定値を選ぶ

- 設定値 : ON、POW ON ジノミ、PR No. ノミ、OFF

```
ピ゜ンチローラー　セッテイ
センタク         :POW　ONジ゛ノミ
```

5 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ピ゜ンチローラー　セッテイ　<ent>
```

6 終了するとき、(END) キーを数回押す

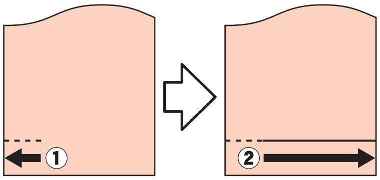
P C 5 応用機能―共通設定―

カットホウシキの設定をする

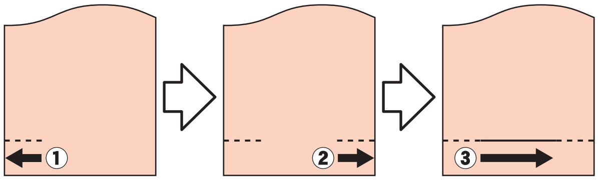
メディアを裁断をするときの、カット方法を設定します。

設定値	概　要
2 ステップ	メディアをカットするとき、2 ステップでカットします。
3 ステップ	メディアをカットするとき、3 ステップでカットします。

2 ステップ



3 ステップ



1 ローカルで、FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                <ENT>
```

2 ▲▼を押して、[キョウツウセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ        <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ピンチローラー　セッテイ      <ent>
```

4 ▲▼を押して、[カットホウシキ] を選ぶ

```
キョウツウ　セッテイ
カット　ホウシキ            <ent>
```

5 ENTER キーを押す

```
カット　ホウシキ
セッテイ              :2ステップ
```

6 ▲▼を押して、設定値を選ぶ

- 設定値：2 ステップ、3 ステップ

```
カット　ホウシキ
セッテイ              :3ステップ
```

7 ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
カット　ホウシキ            <ent>
```

8 終了するとき、END キーを数回押す

カクニンフィードの設定をする

テストプリントなどでパターンをプリントした後、入力した長さに応じてメディアのフィードを行います。
オプションカバー装着時など、プリント結果を見やすい位置までフィードします。

設定値	概　要
OFF	テストプリント後、確認のためのメディアフィードを行いません。
10 ~ 500mm	テストプリント後にフィードする長さを設定します。長さを設定すると、フィードしたメディアを少し巻き戻すための設定ができます。（手順 7 から）

1 ローカルで、FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                <ENT>
```

2 ▲▼を押して、[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ          <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ヒ゜ンチローラー　セッテイ    <ent>
```

4 ▲▼を押して、[カクニンフィード] を選び、ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
カクニン　フィート゛          <ent>
```

5 ▲▼を押して、フィードする長さ (10 ～ 500mm) を選ぶ

```
カクニン　フィート゛
フィート゛                  :100mm
```

• カクニンフィードを設定しないときは [OFF] を選んで、手順 8 へ進んでください。

6 [メディアモドシフィード] の設定をするとき、FUNCTION キーを押す

```
カクニン　フィート゛
メテ゛ィア　モト゛シ　フィート゛:ON
```

7 ▲▼を押して、ON/OFF を選ぶ

• ON ：確認フィードでフィードしたメディアを少し巻き戻す
• OFF: メディアを巻き戻さない

```
カクニン　フィート゛
メテ゛ィア　モト゛シ　フィート゛:ON
```

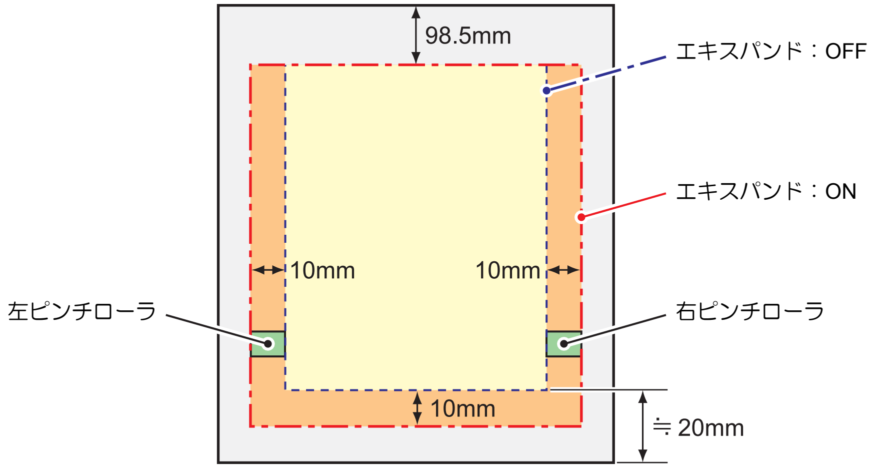
8 ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
カクニン　フィート゛          <ent>
```

9 終了するとき、END キーを数回押す

エキスパンドの設定をする

デッドスペースを少なくして、プリント範囲やカット (ペン作図) 範囲を拡大することができます。（エキスパンド機能）
デッドスペースは、左右とメディア手前側に 10mm 少なくなります。



エキスパンド機能を "ON" にする

エキスパンド機能は、エキスパンドの設定後、メディア検出を行った後から有効になります。

1	ローカルで、(FUNCTION) キーを押す	FUNCTION セッテイ　　　　<ENT>
2	(▲)(▼)を押して、 [キョウツウ セッテイ] を選ぶ	FUNCTION キョウツウ　セッテイ　　<ENT>
3	(ENTER) キーを押す	キョウツウ　セッテイ ピ゜ンチローラー　セッテイ　<ent>
4	(▼)(▲)を押して [エキスパンド] を選ぶ	キョウツウ　セッテイ エキスパ゜ンド゛　　<ent>

5 ENTER キーを押す

```
エキスパ゜ント゛
セッテイ        : OFF
```

6 ▼ ▲ を押して “ON” を選ぶ

```
エキスパ゜ント゛
セッテイ        : ON
```

7 ENTER キーを押す

8 END キーを数回押して、ローカルに戻る

9 メディア検出を行う

- クランプレバーを一度解除してから再セットすると、メディア検出動作を行います。P.2-25 手順 13 以降の操作を参照してください。

- メディア押さえを使ってプリントする場合、エキスパンドの設定を “ON” にすると、メディア押さえの上からプリントを開始することがあるのでお気をつけください。
- エキスパンド機能を “OFF” にするときは、手順 6 で “OFF” を選んだ後に、メディア検出をしてください。

重 要！

- エキスパンドの設定を “ON” にすると、適正以上の圧力をかけた場合に紙詰まりが発生する場合があります。
- 軸補正を行わなかった場合、刃先がメディアからはみ出して紙詰まりを起こす場合があります。また、刃先や装置を傷つける可能性があります。
- カットした部分をピンチローラで送る場合、カット品質が低下します。
- トンボ検出時にトンボ上をピンチローラが移動した場合、トンボを正しく読みとれない場合があります。
- メディア検出後にエキスパンドの設定を行った場合、メディアの検出をやり直してください。エキスパンド機能が有効になりません。

マージンの設定をする

プリント / カット時のメディアの左右の余白を設定します。

設定項目	設定値	概　　要
ヒダリ	0 ~ 85mm	プリント / カット時のメディアの左側の余白を設定します。
ミギ	0 ~ 85mm	プリント / カット時のメディアの右側の余白を設定します。

1 ローカルで（MODE CHANGE）キーを押して、プリントモードを選ぶ

< ローカル. 1 >　[#01]
ハハ゛＊＊＊＊mm

2 （FUNCTION）キーを押す

FUNCTION
キョウツウ　セッテイ　<ENT>

3 （ENTER）キーを押す

キョウツウ　セッテイ
ヒ゜ンチローラー　セッテイ　<ent>

4 （▲）（▼）を押して、[マージン] を選ぶ

キョウツウ　セッテイ
マーシ゛ン　<ent>

5 （ENTER）キーを押す

ヒタ゛リ　:　ミキ゛
0mm　:　0mm

6 （▲）（▼）（◀）（▶）を押して、左右マージンを設定する

項目の選択:（◀）（▶）で選ぶ
余白の設定:（▲）（▼）で設定

左余白：**0 ～ 85mm (1mm 単位)**　右余白：**0 ～ 85mm (1mm 単位)**

ヒタ゛リ　:　ミキ゛
0mm　:　0mm

7 （ENTER）キーを押す

キョウツウ　セッテイ
マーシ゛ン　<ent>

8 終了するとき、（END）キーを数回押す

P
C

ジュシンデータの設定をする

本機に標準添付しているアプリケーション以外のアプリケーションを使って、プリント / カットする場合に設定を変更します。

設定値	概　　要
AUTO	本機に標準添付のアプリケーションを使用している場合、受信したデータの種類に合わせて、プリント / カットを自動的に行います。
MANUAL	本機に標準添付しているアプリケーション（RasterLinkPro4 以降 /FineCut7 以降 [*1]）以外のアプリケーションを使って、プリント / カットする場合に設定します。 この場合、本機は次のように動作し、それ以外のデータを受信したときはエラーを表示します。 PRINT モード時 : プリントデータのみ受信可能。それ以外はエラーを表示 CUT モード時　: カットデータのみ受信可能。それ以外はエラーを表示

*1. FineCut7(以降) のダイアログ左下に RL が表示されていない場合は、この設定を行ってください。

1 ローカルで、(FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                <ENT>
```

2 (▲)(▼)を押して、[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ        <ENT>
```

3 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ピンチローラー　セッテイ    <ent>
```

4 (▲)(▼)を押して、[ジュシンデータ] を選ぶ

```
キョウツウ　セッテイ
ジュシン　データ          <ent>
```

5 (ENTER) キーを押す

```
ジュシン　データ
セッテイ               :AUTO
```

6 (▲)(▼)を押して、設定値を選ぶ

- 設定値：AUTO、MANUAL

7 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ジュシン　データ          <ent>
```

8 終了するとき、(END) キーを数回押す

ジコクの設定をする

1 ローカルで、(FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                <ENT>
```

2 (▲)(▼)を押して、
[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ        <ENT>
```

3 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ヒ゜ンチローラー　セッテイ   <ent>
```

4 (▲)(▼)を押して、
[ジコクセッテイ] を選ぶ

```
キョウツウ　セッテイ
シ゛コク　セッテイ          <ent>
```

5 (ENTER) キーを 2 回押す

```
シ゛コク　セッテイ
2012.09.10    15:30:00
```

6 (▲)(▼)(◀)(▶)を押して、時刻を入力する

年月日 / 時分の選択 ：(◀)(▶)で選ぶ
年月日 / 時分の入力 ：(▲)(▼)で入力

7 (ENTER) キーを押す

• 入力した時刻が表示されます。

```
シ゛コク　セッテイ
2012.09.10    15:30:00
```

8 終了するとき、(END) キーを数回押す

重 要 !

• 過去の時刻設定は、現在の表示時刻より 8 時間前の時刻までしか設定できません。
• 誤って、現在の時刻より未来の時刻を設定した場合、手順 7 で次の操作をすると、前回設定した時刻に戻すことができます。
(1) 手順7で(FUNCTION)キーを押す（入力した時刻と前回設定した時刻が表示される）
(2) (ENTER) キーを押す
変更内容を戻せるのは、一つ前の変更までです。また、変更前の時刻は、経過した時間分進んでいます。

タンイの設定をする

本機で使用する単位を設定します。

1 ローカルで、(FUNCTION) キーを押す

```
FUNCTION
セッテイ                 <ENT>
```

2 (▲)(▼)を押して、[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ セッテイ      <ENT>
```

3 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ セッテイ
ピンチローラー セッテイ  <ent>
```

4 (▲)(▼)を押して、[タンイセッテイ] を選ぶ

```
キョウツウ セッテイ
タンイ セッテイ          <ent>
```

5 (ENTER) キーを押す

```
 オンド       :   ナガサ
  °C          :     mm
```

6 (▲)(▼)(◀)(▶)を押して、単位を選ぶ

項目の選択：(◀)(▶)で選ぶ
単位の設定：(▲)(▼)で入力

7 (ENTER) キーを押す

```
キョウツウ セッテイ
タンイ セッテイ          <ent>
```

8 終了するとき、(END) キーを数回押す

マシンメイショウの設定をする

USB2.0 インターフェイスを使用した複数台接続時の装置認識のためのマシン名称 (マシンNo.) を設定します。

1	ローカルで、FUNCTION キーを押す	FUNCTION セッテイ　　　　　<ENT>
2	▲ ▼ を押して、 [キョウツウ セッテイ] を選ぶ	FUNCTION キョウツウ　セッテイ　　<ENT>
3	ENTER キーを押す	キョウツウ　セッテイ ピンチローラー　セッテイ　<ent>
4	▲ ▼ を押して、 [マシンメイショウ] を選ぶ	キョウツウ　セッテイ マシン　メイショウ　　<ent>
5	ENTER キーを押す	マシン　メイショウ CJV30-01
6	▲ ▼ を押して、 マシン名称 (01~99) を選ぶ	マシン　メイショウ CJV30-10
7	ENTER キーを押す	キョウツウ　セッテイ マシン　メイショウ　　<ent>
8	終了するとき、END キーを数回押す	

キーブザーの設定をする

キーを押したときのブザー音を設定します。

1	ローカルで、(FUNCTION) キーを押す	FUNCTION セッテイ　　　　　　　<ENT>
2	(▲)(▼)を押して、 [キョウツウ セッテイ] を選ぶ	FUNCTION キョウツウ　セッテイ　　<ENT>
3	(ENTER) キーを押す	キョウツウ　セッテイ ピンチローラー　セッテイ　<ent>
4	(▲)(▼)を押して、[キーブザー] を選ぶ	キョウツウ　セッテイ キー　ブザー　　　　　<ent>
5	(ENTER) キーを押す	キー　ブザー セッテイ　　　　　　　:ON
6	(▲)(▼)を押して、ON/OFF を選ぶ	キー　ブザー セッテイ　　　　　　　:OFF
7	(ENTER) キーを押す	キョウツウ　セッテイ キー　ブザー　　　　　<ent>
8	終了するとき、(END) キーを数回押す	

- 設定を "OFF" にしても、エラー / 警告 / 動作完了等のブザー音を消すことはできません。

P
C
5
応用機能—共通設定—

装置情報を確認する

本機の装置情報を確認できます。確認できる装置情報は、次の項目です。

項　　目	概　　要
エラー履歴	現在までに発生したエラー、ワーニング履歴を表示します。 ▲▼を押して、発生順に発生日時 (年月日時分) とエラー、ワーニング情報を切り替えて表示します。
メンテナンス履歴	メンテナンス機能を、いつ使ったかの履歴を表示します。 主に、マニュアルによる洗浄機能や、自動 (定期、スリープ) での洗浄機能について表示します。
プリントモード履歴	電源 ON から現在までに行ったオンラインプリント情報 (プリント条件) を表示します。（最大 50 件） ▲▼を押してプリントした順番に切り替えて表示します。
リスト	装置の設定内容プリントします。プリントする内容は、4 種類の中から選べます。（☞ P.5-16）
インクコウカンレポート *1	装置で使用したインクの履歴をプリントします。
バージョン	装置のバージョン情報を表示します。
シリアル＆ディーラーNo.	シリアル No.、ディーラー No. を表示します。

*1. ファームウェアバージョン V2.40 以降対応。

情報を表示させる

1 ローカルで、FUNCTION キーを押す

- 本機の設定リストをプリントしたい場合は、メディアをセットしてください。（☞ P.2-15）

```
FUNCTION
セッテイ                <ENT>
```

2 ▲▼を押して、[キョウツウ セッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ　セッテイ        <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
キョウツウ　セッテイ
ヒ゜ンチローラー　セッテイ    <ent>
```

4 ▲▼を押して、[ジョウホウ] を選ぶ

```
FUNCTION
シ゛ョウホウ              <ent>
```

5 ENTER キーを押す

```
シ゛ョウホウ
エラー　リレキ            <ent>
```

6 ▲▼を押して、情報の種類を選ぶ

7 ENTER キーを押す

- 情報を表示します。

表示される情報について

表示させた情報の見方を説明します。

エラー履歴		メンテナンス履歴	
発生年月日を表示	エラー リレキ 0001 12.10.10 12:15	メンテナンス内容を表示	0001 12.10.10 12:15 キャリッジ アウト
エラー内容を表示	***** ERROR 09 ***** HDC エラー	**バージョン** F/W などのバージョン情報を表示	CJV30-60 V1.00 MRL-III V1.00
プリントモード履歴 解像度やプリント長などを表示	[01] 720x1080 .12 Bd.Vd.x1.1L: 12.34m	**シリアル&ディーラーNo.** シリアルNo. ディーラーNo.を表示	S/N = ******** D/N = ********
プリント年月日を表示	プリント モード リレキ [01] 12.10.10 12:15		

設定リストをプリントする

本機の設定内容を次の中から選んでプリントできます。

リスト種類	概　　要
Print モード	プリントモードで設定されている内容をプリント
Cut モード	カットモードで設定されている内容をプリント
ランニングメーター	ランニングメーターをプリント
すべて（ALL）	すべてのリストをプリント

重 要！

- メディア検出時にカットモードになっていた場合、そのままリストのプリントを行うと、手順 7 で ENTER キーを押した後に下の画面が表示されます。このときは、ENTER キーを押してピンチローラー圧の設定をプリントモードに切り替えてからプリントしてください。
- END キーを押すと切替動作を行いません。

```
！ ヒ゜ンチローラーアツ：CUT ！
キリカエ              ：ent
```

1 ローカルで、FUNCTION キーを押す

- 本機の設定リストをプリントしたい場合は、メディアをセットしてください。（☞ P.2-15）

```
FUNCTION
セッテイ              <ENT>
```

2 ▲ ▼ を押して、[キョウツウセッテイ] を選ぶ

```
FUNCTION
キョウツウ セッテイ      <ENT>
```

3 ENTER キーを押す

```
キョウツウ セッテイ
ヒ゜ンチローラー セッテイ  <ent>
```

4 ▲ ▼ を押して、[ジョウホウ] を選ぶ

```
FUNCTION
シ゛ョウホウ            <ent>
```

5 ENTER キーを押す

```
シ゛ョウホウ
エラー リレキ           <ent>
```

6 ▲ ▼ を押して、[リスト] を選ぶ

```
シ゛ョウホウ
リスト               <ent>
```

7 ENTER キーを押す

8 [▲][▼]を押して、プリントするリストを選ぶ

```
ジョウホウ
センタク            :PRINTモード
```

9 [ENTER]キーを押す

・プリントを開始する。

第６章
お手入れ

この章では ...

日常行っていただくお手入れ方法やインクユニットのメンテナンスなど、本機を快適にお使いいただくために必要な項目を説明します。

日常のお手入れ 6-2
　お手入れ上のご注意 6-2
　メンテナンス洗浄液について 6-2
　外装のお手入れ 6-3
　プラテンの清掃 6-3
　メディアセンサー／トンボセンサーの清掃 6-4
　メディア押えの清掃 6-4
キャッピングステーションのメンテナンス 6-5
　ワイパーとキャップの清掃 6-6
　ワイパーを交換する 6-8
　インク排出路の洗浄をする前に 6-10
　ヘッドノズルの洗浄 6-12
　インク排出路の洗浄 (PUMP チューブ洗浄) 6-14
　長期間使用しない場合 (ホカンセンジョウ) 6-16
インクヘッド周辺の清掃...................... 6-19
ノズル詰まりが復旧しない場合........... 6-21
　インクを充填する 6-21
　ハイシュツ＆センジョウ 6-22
　インクの初期充填を行う 6-24
電源オフ時のインク詰まりを防止する 6-26
　スリープ中のリフレッシュ間隔を設定する 6-27
　スリープ中のチューブ洗浄間隔を設定する 6-28
　スリープ中のクリーニング間隔を設定する 6-29
定期動作を設定する 6-30
　プリント中の定期ワイピングの動作を設定する 6-31
　待機中のリフレッシュ間隔を設定する 6-33
　待機中のポンプチューブ洗浄間隔を設定する 6-34
　待機中のクリーニング間隔を設定する 6-35
その他のメンテナンス機能 6-37
　ワイパー交換の警告時期を変更する .. 6-37
　メディア残量表示の設定をする 6-38
　ホワイトインクメンテナンス機能 6-40
　廃インクタンク確認メッセージが表示されたら 6-43
　インクを変更したいとき 6-47
裁断カッター刃の交換.......................... 6-48
ピンチローラーの交換.......................... 6-50
付属品以外のカッター刃の交換方法 6-51

日常のお手入れ

本機の精度を保ちながら末永くお使いいただけるよう、使用頻度に応じて、または定期的にお手入れをしてください。

お手入れ上のご注意

本機のお手入れをするとき、次の各事項にご注意ください。

- メンテナンス用洗浄液を使用する場合は、必ず付属の保護メガネを使用してください。
- インクは有機溶剤を使用しています。皮膚に直接付かないように、清掃の際は手袋を着用してください。
- 本機を、絶対に分解しないでください。感電および破損する原因になります。
また、お手入れは電源スイッチをオフにし、電源ケーブルを抜いてから行ってください。思わぬ事故が発生する原因となります。
- 本機の内部に水気が入らないようにしてください。内部が濡れると、感電および破損する原因になります。
- 本機はインクの吐出安定性を確保するために、長時間ご使用 (出力) されないときには、定期的に微量のインクを吐出 (フラッシング) させる必要があります。
- 長時間使用されないときには、前面の電源スイッチのみを OFF とし、背面の主電源スイッチは ON(｜の状態) およびコンセントは挿入した状態にしておいてください。
- 有機溶剤インクは、水やアルコールと混ざると凝集物が発生いたします。
ヘッドのノズル面やワイパー、キャップ等を水、アルコールなどで拭かないでください。ノズル詰まりや故障の原因になります。
- ベンジン、シンナーや研磨剤の入った薬品は使用しないでください。カバーの表面が変質・変形する恐れがあります。
- 本機の内部に潤滑油などを注油しないでください。プロッタ機構が故障する恐れがあります。
- メンテナンス用洗浄液やインクが、カバーに付着しないように注意してください。
カバーの表面が変質、変形します。

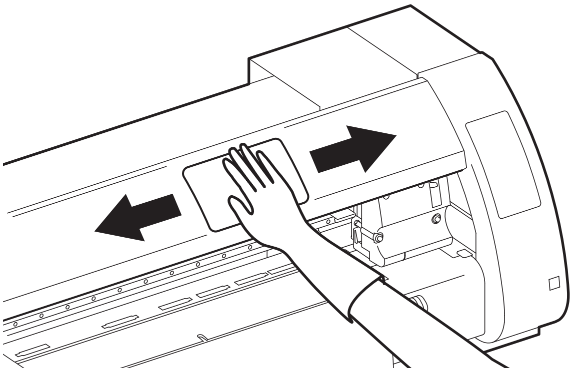
メンテナンス洗浄液について

メンテナンス洗浄液は、お使いになるインクに対応したものをお使いください。

インクの種類	対応するメンテナンス洗浄液
SS21 ソルベントインク	メンテナンス洗浄液 MS2/ES3/HS キット (SPC-0369) MILD SOLVENT 洗浄液カートリッジ（SPC-0294）[別売]
ES3 ソルベントインク	
Eco-PA1 インク	洗浄液ボトルキット A29 (SPC-0137) [別売] メンテナンス洗浄用インクカートリッジ (SPC-0259) [別売]

外装のお手入れ

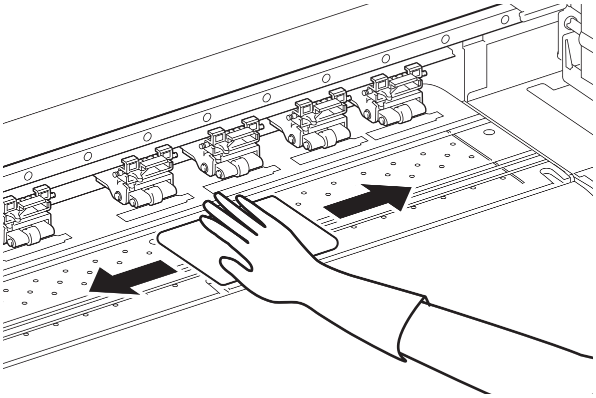
本体の外装が汚れた場合は、柔らかい布に水、または水で薄めた中性洗剤を含ませ、堅くしぼってから拭き取ってください。



プラテンの清掃

プラテン上は、メディアをカットしたときの糸や紙粉等で汚れやすくなります。
汚れが目立つときは、やわらかい毛のハケや乾いた布、ペーパータオルなどで汚れを拭き取ります。

- インクが付着している場合は、メンテナンス用洗浄液をペーパータオルに含ませ、拭き取ります。



重要!

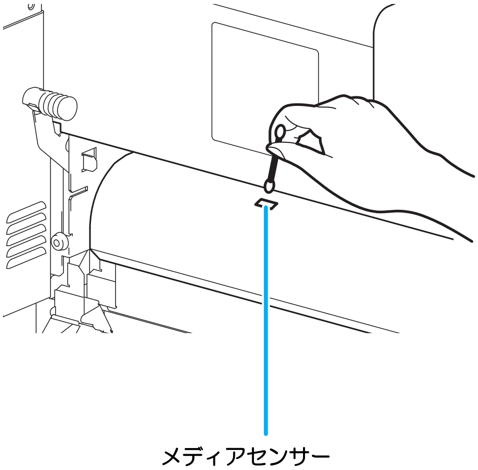
- プラテンの清掃は、プラテンの温度が十分下がった状態で行ってください。
- メディア押さえ用の溝や、用紙カット用の溝 (カッターライン) などは特に汚れがたまりやすい場所です。入念な清掃をお願いします。

メディアセンサー／トンボセンサーの清掃

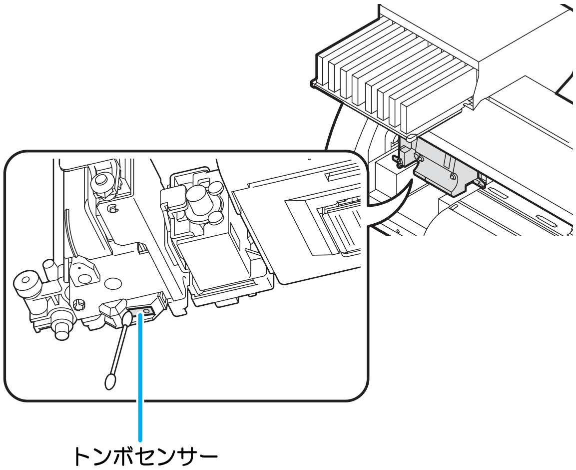
センサーにホコリ等がたまると、メディアやトンボの誤検出の原因となります。
綿棒でセンサーの表面にたまったホコリ等を取り除いてください。

カッターユニット下面のセンサーを清掃するときは、P.6-19「インクヘッド周辺の清掃」手順 1 ～ 2 の操作をして、キャリッジを左端に移動させてから清掃してください。

メディアセンサー：背面のプラテン上

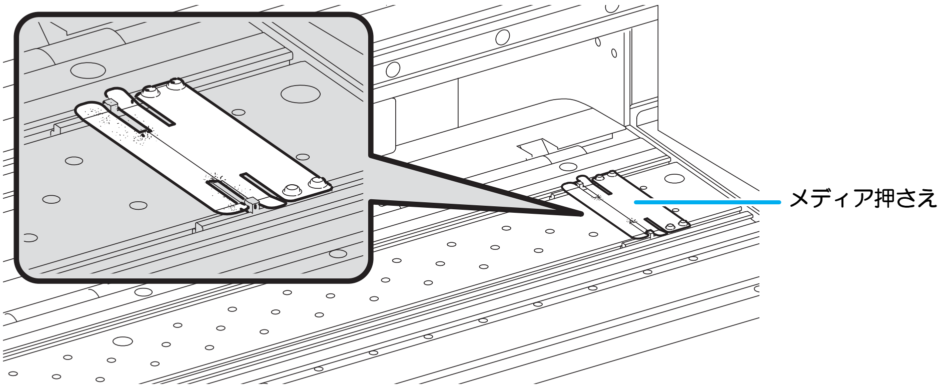


トンボセンサー：カッターユニット下面



メディア押えの清掃

メディア押さえにカットくずやホコリ等がたまると、プリント時のメディアの搬送が正常に行えなくなったり、ホコリ等がノズルに付着して正常なプリントができなくなることがあります。
メディア押さえは、定期的に清掃してください。



キャッピングステーションのメンテナンス

キャッピングステーションにあるインクキャップやワイパー等のメンテナンスをします。
(ステーションメンテナンス)

インクキャップやワイパーは、それぞれ次のような働きをしています。

- **ワイパー**　　　：ヘッドのノズルに付着したインクを拭き取る
- **インクキャップ**：ヘッドのノズルが乾燥により、目詰まりするのを防止する

本機を使用していると、インクやホコリ等でワイパーやキャップが汚れてきます。
ヘッドクリーニングを実行 (☞ P.2-38) しても、ノズル抜けが解消されない場合は、洗浄キットとクリーンスティックを使用して清掃を行います。

<table>
<tr><td rowspan="2">メンテナンスに
必要な道具</td><td colspan="3">• メンテナンス洗浄液キット
メンテナンス洗浄液 MS2/ES3/HS キット (品番 : SPC-0369)</td></tr>
<tr><td>• クリーンスティック (品番 : SPC-0527)</td><td>• 手袋</td><td>• ゴーグル</td></tr>
</table>

注 意

- キャッピングステーションのメンテナンスを行うときは、必ず付属のゴーグルと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- キャリッジを手でキャッピングステーションから出さないでください。キャリッジを移動させたいときは、P.6-6 手順 1 ～ 4 の操作をしてください。

ワイパーとキャップの清掃

画質や本機の状態を良好に保つため、こまめに清掃されることをお勧めします。

重 要!

- SS21 インクをご使用の場合、ワイパー周辺にインクが付着しやすくなります。週に 2 回程度 (プリンタの使用頻度により異なります)、ワイパーと周辺の清掃をしてください。
- ワイパーの汚れ、曲がりがひどい場合は、新しいワイパーと交換してください。(☞ P.6-8)
- 清掃の際は、クリーンスティックの繊維が残らないように注意してください。繊維が残っていると、画質不良の原因になります。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル. 1>            [#01]
              ハバ:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ステーションメンテナンス] を選ぶ

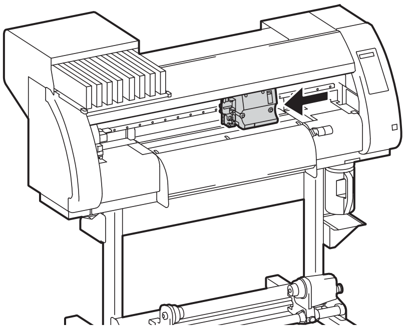
(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す

3 ENTER キーを押す

```
ステーション メンテナンス
キャリッジ アウト        <ent>
```

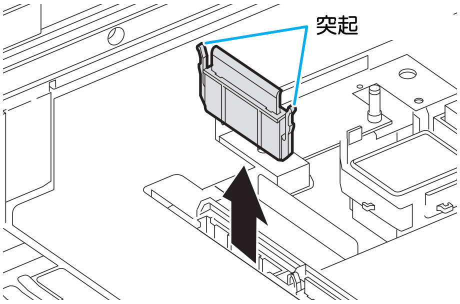
4 ENTER キーを押す

- キャリッジがプラテン上に移動します。



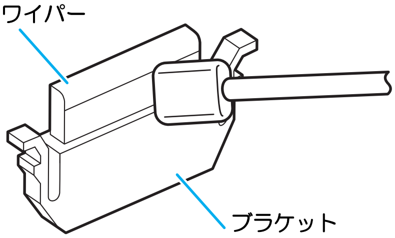
5 ワイパーを取り出す

- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



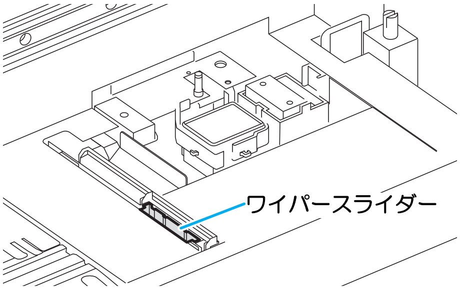
6 ワイパーとブラケットを清掃する

- ワイパーとブラケットに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。



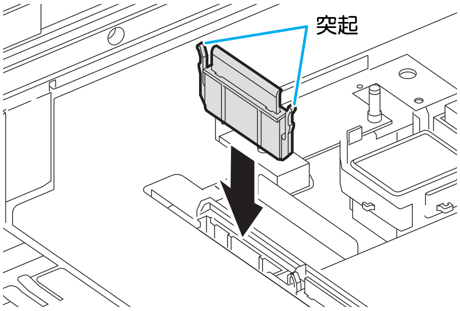
7 ワイパースライダーを清掃する

- ワイパースライダーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。



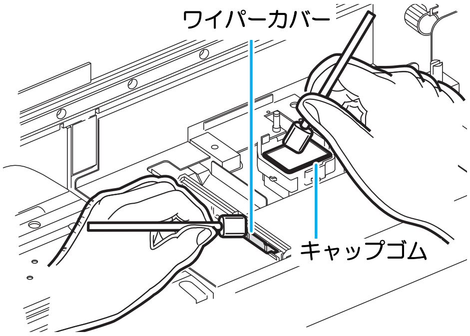
8 ワイパーを元の位置に戻す

- ワイパーの両端を持って差し込みます。



9 キャップゴムやワイパーカバーを清掃する

- キャップゴムやワイパーカバーに付着したインクを、メンテナンス洗浄液を含ませたクリーンスティックで拭き取ります。



10 ENTER キーを押す

- 初期動作後、ローカルに戻ります。

＊ショキカ　チュウ＊
シバ゛ラク　オマチクダ゛サイ

ワイパーを交換する

ワイパーは消耗品です。右のメッセージが表示されたら、速やかにワイパーを交換してください。
また、スライダー下面に付着したインクの清掃をしてください。

```
<ローカル.1>          [#01]
ワイパ゜ー コウカン      <MNT>
```

重 要!

- クリーニングワイパーは別売品です。お近くの販売店、または弊社営業所でお求めください。
- ワイパー交換時以外は、[ワイパーコウカン] を選択しないでください。本機内部で管理しているワイパー使用回数がリセットしてしまいます。

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ステーションメンテナンス] を選ぶ

(1) (FUNCTION) キーを押す
(2) (▲)(▼) を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER) キーを押す

3 (ENTER) キーを押す

```
ステーション メンテナンス
キャリッシ゛ アウト        <ent>
```

4 (▲)(▼) を押して、[ワイパーコウカン] を選ぶ

```
ステーション メンテナンス
ワイパ゜ー コウカン        <ent>
```

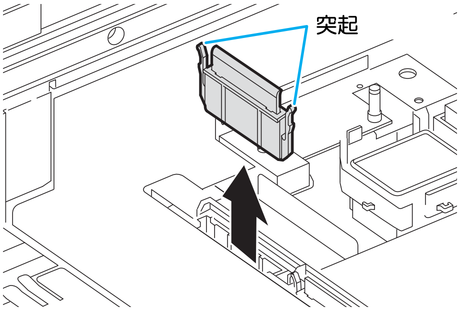
5 (ENTER) キーを押す

- キャリッジがプラテン上に移動します。

```
ステーション メンテナンス
シュウリョウ              :ent
```

6 ワイパーを取り出す

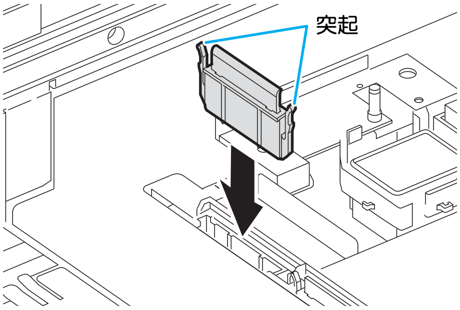
- ワイパー両端の突起を持ち、引き抜きます。



P

7 新しいワイパーを差し込む

・ワイパー両端の突起を持ち、差し込みます。



8 ENTER キーを押す

・初期動作後、ローカルに戻ります。

＊ショキカ　チュウ＊
シバ゛ラク　オマチクダ゛サイ

インク排出路の洗浄をする前に

インク排出路の洗浄 (PUMP チューブセンジョウ) をするには、メンテナンス洗浄液がチューブ内に充填されている必要があります。

- 次のメッセージが表示された場合、廃インクタンクを確認し、状況に応じて P.6-43「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して操作をしてください。

```
＊ハイインクタンク　ヲ　カクニン＊
ケイゾ゛ク<　　　　　　　　> コウカン
```

```
＊ハイインクタンク　ヲ　カクニン＊
コウカン　　　　　　　　　　: ent
```

メンテナンス洗浄液を充填する

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >　　　　　[ #01 ]
　　　　　　　ハハ゛: ＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [ヘッドメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [ヘッドメンテナンス] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して [メンテナンスセンジョウエキ] を選ぶ

```
メンテナンス
メンテナンス　センシ゛ョウエキ< ent >
```

4 ENTER キーを押す

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
シ゛ュウテン　　　　　　< ent >
```

5 ENTER キーを押す

- 正常な洗浄カートリッジをセットしている場合は、手順 7 へ進んでください。

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
　　カートリッシ゛　:　ナシ
```

END を表示した場合
洗浄液の残量がありません。新しい洗浄液カートリッジをセットしてください。
イジョウを表示した場合
セットしているカートリッジは洗浄液ではありません。

6 洗浄カートリッジをセットする

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
シ゛ュウテン　カイシ　　　　: ent
```

7 ENTER キーを押す

- 洗浄液の充填を始めます。

メンテナンス洗浄液を排出する

チューブ内の洗浄液を排出したいときは、下の操作をしてください。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ヘッドメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [ヘッドメンテナンス] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して[メンテナンスセンジョウエキ] を選ぶ

```
メンテナンス
メンテナンス　センシ゛ョウエキ<ent>
```

4 ENTER キーを押す

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
シ゛ュウテン              <ent>
```

5 ▲ ▼ を押して [ハイシュツ] を選ぶ

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
ハイシュツ                <ent>
```

6 ENTER キーを押す

- 洗浄カートリッジが外れている場合は、手順 8 へ進んでください。

```
メンテセンシ゛ョウエキ　ヲ　ハス゛ス
```

7 洗浄カートリッジを外す

```
メンテナンス　センシ゛ョウエキ
ハイシュツ　カイシ          :ent
```

8 ENTER キーを押す

- 洗浄液の排出を始めます。

ヘッドノズルの洗浄

インクの凝固によるインク詰まりのを防止するため、ヘッドノズルの洗浄を行います。

事前に確認してください	[ニアエンド]、[インクエンド] は表示していませんか？ • 洗浄動作の際に、洗浄液やインクの吸引を行います。 このとき、インクエンドまたはニアエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。 • インクエンド等、未検出のカートリッジに交換してください。(☞ P.1-14)

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ステーションメンテナンス] を選ぶ

(1) (FUNCTION)キーを押す
(2) (▲)(▼)を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER)キーを押す

3 (ENTER)キーを押す

```
ステーション メンテナンス
キャリッシ゛ アウト      <ent>
```

4 (▲)(▼)を押して、[ノズルセンジョウ] を選ぶ

```
ステーション メンテナンス
ノス゛ル センシ゛ョウ      <ent>
```

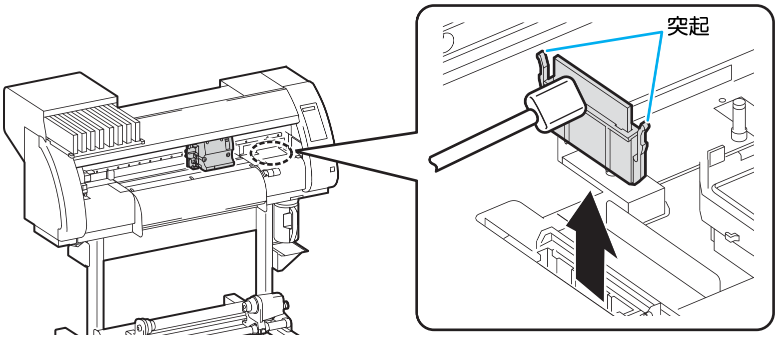
5 (ENTER)キーを押す

• キャリッジがプラテン上に移動します。

```
ワイハ゜ー クリーニンク゛
シュウリョウ (ツキ゛ヘ)     :ent
```

6 ワイパーとブラケットを清掃する

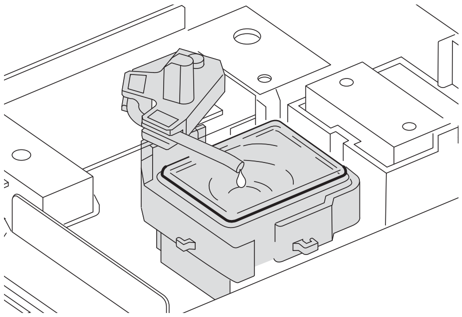
(1) ワイパー両端の突起を持って引き抜く
(2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する。(SPC-0369)
(3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



7 ENTER キーを押す

センシ゛ョウエキ　ヲ　ミタス
シュウリョウ　（ツキ゛ヘ）　　:ent

8 FUNCTION キーを押し、メンテナンス洗浄液をキャップ一杯になるまで満たす



- FUNCTION キーを押すと、キャップに洗浄液が点滴されます。
- 再度、FUNCTION キーを押すと、点滴は止まります。
- 点滴を数回繰り返し、キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。

9 ENTER キーを押す

ステーション　メンテナンス
ホウチ　シ゛カン　　:1min

10 ▲▼を押して、洗浄液の放置時間を設定する

ステーション　メンテナンス
ホウチ　シ゛カン　　:2min

- 設定値：1 ～ 99 分（1 分単位）

11 ENTER キーを押す

- キャップに満たした洗浄液を吸引します。
- 手順 10 で設定した時間だけ、右の画面を表示します。
- 放置時間が過ぎると、ローカルに戻ります。

＊ショキカ　チュウ＊
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ

↓

<ローカル.1>　　[#01]
ハハ゛：＊＊＊＊mm

重 要！

- この洗浄を何回か実行してもノズル抜けが解消されない場合は、「ノズル詰まりが復旧しない場合」(☞ P.6-21) と「ハイシュツ＆センジョウ」(☞ P.6-22) を実行してください。それでも解消されない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡してください。
- 本機にメンテナンス洗浄液が充填されていない場合は次のようにしてください。
  (1) 手順 5 までの操作をする
  (2) スポイトでメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす
  (3) 手順 9 からの操作をする
- ヘッドノズル洗浄で排出した廃インクは、本機で自動的に累積カウントする廃インクとしてカウントされません (☞ P.6-43)。洗浄をする前後は、必ず廃インクタンクの状態を確認してください。

P

インク排出路の洗浄 (PUMP チューブ洗浄)

インク排出路内でのインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にインク排出路の洗浄をしてください。

- 次のメッセージが表示された場合、廃インクタンクを確認し、状況に応じて P.6-43「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して操作をしてください。

```
＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
ケイゾ゛ク<　　　　　> コウカン
```

```
＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
コウカン　　　　　　: ent
```

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >　　　　[ #01 ]
　　　　　ハハ゛: ＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [ステーションメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す

3 ENTER キーを押す

```
ステーション メンテナンス
キャリッシ゛ アウト　　　< ent >
```

4 ▲ ▼ を押して、[PUMP チューブセンジョウ] を選ぶ

```
ステーション メンテナンス
PUMP チューフ゛センシ゛ョウ< ent >
```

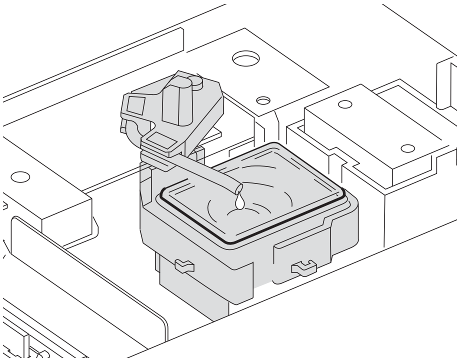
5 ENTER キーを押す

```
ステーション メンテナンス
シュウリョウ　　　　　: ent
```

- キャリッジがプラテン上に移動します。
- 空吸引動作（吸引を 5 秒、停止を 10 秒）を洗浄の作業が終わるまで繰り返し行います。

6 FUNCTION キーを押し、メンテナンス洗浄液をキャップ一杯になるまで満たす

- FUNCTION キーを押すと、キャップに洗浄液が点滴されます。
- 再度、FUNCTION キーを押すと、点滴は止まります。
- 空吸引が停止している間に点滴を数回繰り返し、キャップからあふれる寸前まで洗浄液を満たしてください。



7 ENTER キーを押す

＊ショキカ　チュウ＊
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ

↓

＜ローカル．１＞	［＃０１］
	ハハ゛：＊＊＊＊mm

- 30 秒間空吸引を実行した後、ローカルに戻ります。

重要！

- 本機にメンテナンス洗浄液が充填されていない場合は次のようにしてください。
  (1) 手順 5 までの操作をする
  (2) スポイトでメンテナンス洗浄液をとり、キャップ一杯になるまで満たす
  (3) 手順 7 の操作をする

長期間使用しない場合 (ホカンセンジョウ)

1 週間以上使用しない場合は、保管洗浄機能を使用し、ヘッドのノズルとインクの排路をクリーニングしてください。その後、本機を保管してください。

事前に確認してください	[ニアエンド]、[インクエンド] は表示していませんか？ • 洗浄動作の際に、洗浄液やインクの吸引を行います。このとき、インクエンドまたはニアエンドを検出していると、洗浄動作が行えなくなります。 • インクエンド等、未検出のカートリッジに交換してください。

• 次のメッセージが表示された場合、廃インクタンクを確認し、状況に応じて P.6-43「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して操作をしてください。

```
 ＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
ケイゾ゛ク<              >コウカン
```

```
 ＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
コウカン                  :ent
```

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>              [#01]
                 ハバ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ステーションメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す

3 ENTER キーを押す

```
ステーション メンテナンス
キャリッジ゛ アウト         <ent>
```

4 ▲ ▼ を押して、[ホカンセンジョウ] を選ぶ

```
ステーション メンテナンス
ホカン センジ゛ョウ         <ent>
```

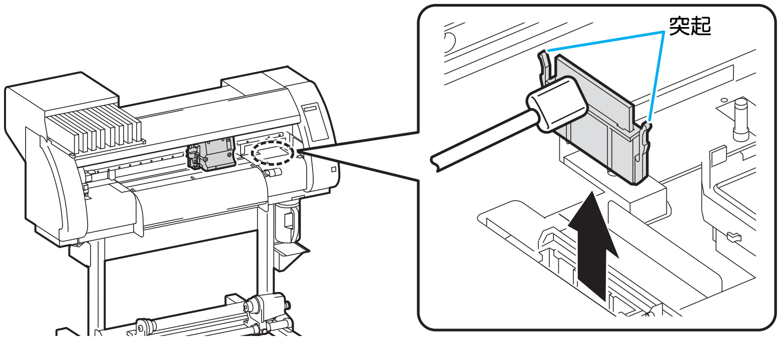
5 ENTER キーを押す

• キャリッジがプラテン上に移動します。

```
ワイパ゜ー クリーニング゛
シュウリョウ (ツギ゛ヘ)      :ent
```

6 ワイパーとブラケットを清掃する

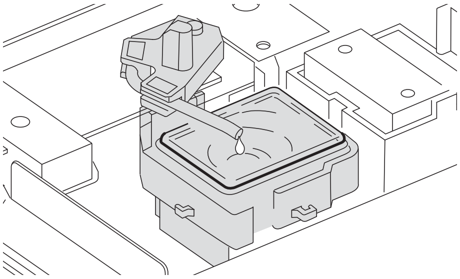
(1) ワイパー両端の突起を持って引き抜く
(2) クリーンスティックにメンテナンス洗浄液を含ませて清掃する。
(SPC-0369)
(3) ワイパー両端の突起を持ち、元の位置に差し込む



7 ENTER キーを押す

センシ゛ョウエキ　ヲ　ミタス
シュウリョウ　（ツキ゛ヘ）　　：ent

8 FUNCTION キーを押し、メンテナンス洗浄液をキャップ一杯になるまで満たす



- FUNCTION キーを押すと、キャップに洗浄液が点滴されます。
- 再度、FUNCTION キーを押すと、点滴は止まります。
- 点滴を数回繰り返し、キャップから溢れる寸前まで洗浄液を満たしてください。

9 ENTER キーを押す

ステーション　メンテナンス
ホウチ　シ゛カン　　：1min

10 ▲ ▼ を押して、洗浄液の放置時間を設定する

ステーション　メンテナンス
ホウチ　シ゛カン　　：2min

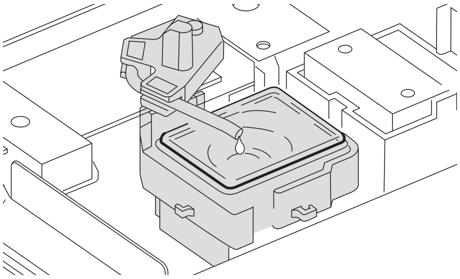
- 設定値：1 ～ 99 分（1 分単位）

11 ENTER キーを押す

＊ショキカ　チュウ＊
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ

- ノズルの洗浄を実行します。
- ノズルの洗浄が終了すると、ヘッドがプラテン上に移動します。

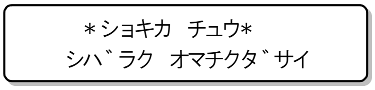
12 FUNCTION キーを押し、メンテナンス洗浄液をキャップ一杯になるまで満たす



- FUNCTION キーを押すと、キャップに洗浄液が点滴されます。
- 再度、FUNCTION キーを押すと、点滴は止まります。
- 空吸引が停止している間に点滴を数回繰り返し、キャップから溢れる寸前まで洗浄液を満たしてください。

13 ENTER キーを押す

- 初期動作後、ローカルに戻ります。



インクヘッド周辺の清掃

インクヘッドそのものは非常に微細なメカニズムを採用しておりますので、お手入れの際には十分な注意が必要です。
スライダ下部、インクヘッド周辺にゲル状になったインクや、ホコリが付着することがありますので、クリーンスティックなどでこすり落としてください。その際、インクヘッドのノズル部分は絶対にこすらないようにしてください。

清掃に必要な道具	• クリーンスティック	• 手袋	• ゴーグル

注 意

- 清掃を行うときは、必ず付属のゴーグルと手袋を着用して作業を行ってください。インクが目に入る場合があります。
- インクは有機溶剤を使用しています。皮膚や目に入った場合は、直ちに水で十分に洗い流してください。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル. 1>          [#01]
          ハハ゛: ****mm
```

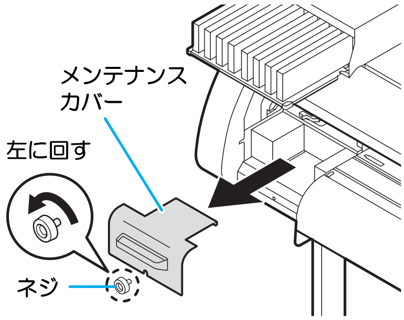
2 メンテナンスメニューの [キャリッジメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [キャリッジメンテナンス] を選び、ENTER キーを押す

```
キャリッシ゛ メンテナンス
メンテナンスカハ゛ーヲ ハス゛ス: ent
```

3 メンテナンスカバーを外す

(1) メンテナンスカバーを止めているネジを左に回して取り除く
(2) メンテナンスカバーを外す



4 ENTER キーを押す

```
キャリッシ゛ メンテナンス
キャリッシ゛ アウト      : ent
```

5 ENTER キーを押す

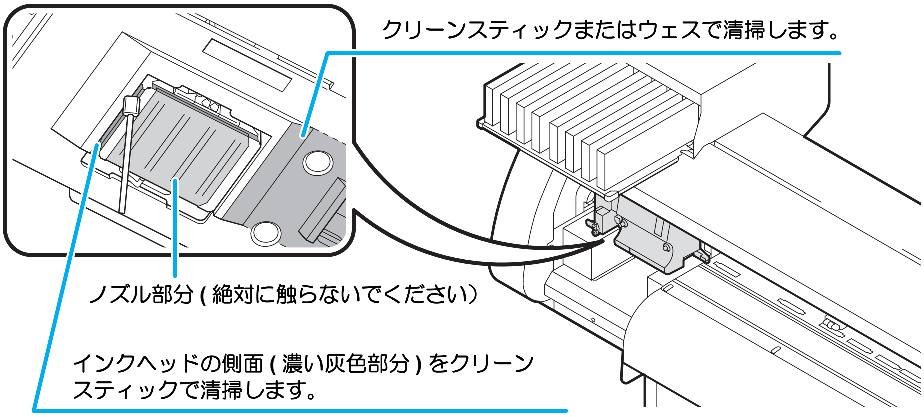
- キャリッジが本機の左端まで移動します。

注 意

- キャリッジを手で動かすことが可能となりますが、連結ユニットをカッターユニットに連結させてしまうと、ロックされてしまうため手では動かせなくなります。無理に動かそうとすると、ケガの原因になりますのでご注意ください。

6 インクヘッドの側面などに付着したインクをクリーンスティックで拭き取る

• ノズル部分は、絶対にこすらないでください。



7 清掃が終了したら、ENTER キーを押す

```
＊ ショキカ チュウ ＊
シバ゛ラク オマチクダ゛サイ
```

• 初期動作後、ローカルに戻ります。

重 要! • SS21W-2 インクをご使用の場合、インクヘッド周辺にインクが付着しやすくなります。週に 2 回程度 (プリンタの使用頻度により異なります)、インクヘッド周辺の清掃をしてください。

ノズル詰まりが復旧しない場合

ヘッドクリーニング (☞ P.2-38) やヘッドノズルの洗浄 (☞ P.6-12) をしても、ノズル詰まりが改善しない場合、次の 2 機能を実行してください。

インクジュウテン	• インクの充填動作を行い、ノズル詰まりを解消します。
ハイシュツ&センジョウ	• 専用の洗浄液 (別売) でヘッド、チューブ、ダンパーを洗浄します。(☞ P.6-22)

インクを充填する

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
           ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ヘッドメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [ヘッドメンテナンス] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ENTER キーを押す

• 自動的にインク充填を開始します。

• インク充填が終わると、右の表示に戻ります。

```
シ゛ュウテン　チュウ
  00:00
```
↓
```
ヘット゛　メンテナンス
インク　シ゛ュウテン      <ent>
```

4 終了するとき、END キーを数回押す

ハイシュツ＆センジョウ

ヘッド、ダンパー、チューブのインクを排出して、洗浄を実行します。

重 要!
- この機能をお使いになるには、専用の洗浄液 (☞ P.6-2「メンテナンス洗浄液について」) が必要です。また、再充填するためのインクが残っているか確認してから作業を行ってください。
- 次のメッセージが表示された場合、廃インクタンクを確認し、状況に応じて P.6-43「廃インクタンク確認メッセージが表示されたら」を参照して操作をしてください。

```
＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
ケイゾ゛ク<        > コウカン
```

```
＊ハイインクタンク ヲ カクニン＊
コウカン           : e n t
```

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >        [ # 0 1 ]
          ハバ : ＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [ヘッドメンテナンス] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [ヘッドメンテナンス] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して、[ハイシュツ＆センジョウ] を選ぶ

```
メンテナンス
ハイシュツ ＆ センシ゛ョウ < e n t >
```

4 ENTER キーを押す

```
インク カートリッシ゛ ヲ ハス゛ス
    MMCC  YYKK
```

5 インクカートリッジを外す

- ヘッドやチューブに残ったインクが廃インクタンクに排出されます。
- 排出が終わると、右の画面を表示します。

```
＊ ハイシュツ チュウ ＊
     00 : 00
```
↓
```
センシ゛ョウ エキ ヲ セット スル
     1 2 3 4 5 6 7 8
```

6 インクステーションに洗浄液カートリッジをセットする

- 洗浄液の吸引を始めます。
- 吸引が終わると、右の画面を表示します。

```
＊ キュウイン チュウ ＊
     00 : 00
```
↓
```
センシ゛ョウ エキ ヲ ハス゛ス
     1 2 3 4 5 6 7 8
```

7 洗浄液カートリッジを外す

- ヘッドやチューブに残った洗浄液が廃インクタンクに排出されます。
- 排出が終わると、右の画面を表示します。

```
＊ ハイシュツ チュウ ＊
00：00
```

↓

```
センシ゛ョウ エキ ヲ セット スル
12345678
```

8 インクステーションに洗浄液カートリッジをセットする

- 洗浄液の吸引を始めます。
- 吸引が終わると、右の画面を表示します。

```
＊ キュウイン チュウ ＊
00：00
```

↓

```
センシ゛ョウ エキ ヲ ハス゛ス
12345678
```

9 洗浄液カートリッジを外す

- ヘッドやチューブに残った洗浄液が廃インクタンクに排出されます。

```
＊ ハイシュツ チュウ ＊
00：00
```

↓

```
シ゛ョウキョウ ニ オウシ゛テ センタク
シュウリョウ<          >サイセンシ゛ョウ
```

- 排出が終わると、右の画面を表示します。
- 廃インクタンクの状態を確認して、洗浄を終了するか、再洗浄するかを選んでください。
- 再洗浄する場合は［▶］を押して、手順 6 に戻ります。

10 ［◀］を押す

11 終了するとき、［END］キーを数回押す

P

6

お手入れ

インクの初期充填を行う

[ハイシュツ＆センジョウ] のあと、次の操作をしてインクの初期充填を行ってください。

1 本機の電源をオンにする

- 電源をオンにすると [BOOT] を表示し、続けてファームウェアのバージョンを表示します。

```
BOOT
```

```
CJV30-60          V*.**
```

```
シハ゛ラク オマチクタ゛サイ
```

2 [▲][▼]を押して、充填するインクタイプを選ぶ

```
インクタイフ゜ ヲ センタク スル.
      SS21 Sol
```

- [REMOTE] キーを押すと、カートリッジの状態が確認できます。(☞ P.7-6)

3 [▲][▼]を押して、充填するインクセット（充填色）を選択する

- お客様の操作で、現在お使いのインクセットから他のインクセットへ変更することはできません。
- インクセットの変更は、弊社営業所へお申し付けください。

```
インクタイフ゜ ヲ センタク スル.
 4-Color(MMCCYYKK)
```

4 [ENTER] キーを押す

```
SS21-4Color インク ヲ セット
      ---- ----
```

P

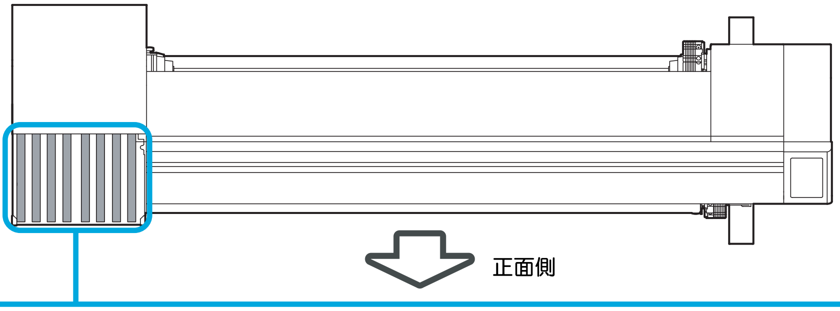
5 インクステーションにインクカートリッジセットする

```
SS21-4Color
    --C-  Y-KK
```

- インクカートリッジをセットすると、自動的に充填が始まる。

```
ジ゛ュウテン チュウ
    00:00
```

- インクステーションには、それぞれ差し込むインク色が決まっています。インクステーション下にあるカートリッジのラベルに合わせ、インクカートリッジをセットしてください。



4 色モデル：	M	M	C	C	Y	Y	K	K
6 色モデル：	M	Lm	C	M	Lc	C	K	Y
6 色 + 白モデル (SS21W-2)：	M	W	C	W	Y	Lm	K	Lc
7 色モデル (Eco-PA1)：	M	Lk	C	Lk	Y	Lm	K	Lc
8 色モデル (ES3)： ファームウェアバージョン V2.40 より	M	S	C	W	Y	Lm	K	Lc

6 インク充填が終了すると、ローカルに戻る

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

- 初期充填後にプリントしたとき、カスレやヌケがある場合は、ヘッドクリーニング (☞ P.2-38) またはインク充填 (☞ P.6-21) をしてください。

手順 5 でインクの充填ができないとき

インクニアエンドやインクエンド、その他各種インクエラーが発生している場合は、インクの充填を開始しなくなります。

手順 5 でインクの充填が始まらない場合

(1) END キーを押すと、手順 2 の画面に戻る
(2) REMOTE キーを押して、インクカートリッジの状況を確認する
(3) インクエラーなどを解消し（☞ P.7-6）、手順 2 から操作し直す

電源オフ時のインク詰まりを防止する

電源スイッチをオフにしても、定期的に装置が起動して、インク詰まりを防止するための各種動作を行います (スリープ設定)。スリープ設定には、以下の項目があります。

設定項目	設定値 *1	概　　要
リフレッシュ カンカク		リフレッシュを実行するまでの間隔を設定します。
チューブセンジョウ カンカク	OFF/1 ~ 168 時間	ポンプチューブ洗浄を実行するまでの間隔を設定します。
クリーニング カンカク		クリーニングを、実行するまでの間隔を設定します。

*1. お買い上げ時の設定は、お使いになっているインクの種類によって異なります。インク別の初期設定値は次のようになります。

● インク別の初期設定値

インクタイプ	リフレッシュ	PUMP チューブ洗浄	クリーニング
SS21	４時間	４８時間	ＯＦＦ
ES3	４８時間	１６８時間	ＯＦＦ
Eco-PA1	４８時間	ＯＦＦ	ＯＦＦ

重 要!

- 右のメッセージが表示されている場合、スリープ設定で設定した動作は実行されません。必要に応じて P.6-44 の操作をしてください。
- 装置前面の電源スイッチをオフにする場合は、廃インクタンクの確認をしてください。

```
<ローカル. 1>                [#01]
ハイ  インクタンク  カクニン  <MNT>
```

スリープ中のリフレッシュ間隔を設定する

ノズル詰まり防止のため、ノズルから若干のインクを吐出する間隔を設定します。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>        [#01]
           ハバ:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [スリープセッテイ] を選ぶ

(1) (FUNCTION)キーを押す
(2) (▲)(▼)を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER)キーを押す
(3) (▲)(▼)を押して [スリープ セッテイ] を選ぶ

3 (ENTER)キーを押す

```
スリープ゜ セッテイ
リフレッシュ          <ent>
```

4 (ENTER)キーを押す

```
スリープ゜ セッテイ
リフレッシュ カンカク    =1h
```

5 (▲)(▼)を押して、リフレッシュ間隔を設定する

• 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

```
スリープ゜ セッテイ
リフレッシュ カンカク    =10h
```

6 (ENTER)キーを押す

```
スリープ゜ セッテイ
リフレッシュ          <ent>
```

7 終了するとき、(END)キーを数回押す

P

6

お手入れ

スリープ中のチューブ洗浄間隔を設定する

スリープ中に、メンテナンス洗浄液を使用してキャップとポンプチューブ洗浄を実行するまでの間隔を設定します。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>           [#01]
              ハハ゛:＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [スリープセッテイ] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [スリープ セッテイ] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して、[PUMP チューブセンジョウ] を選ぶ

```
スリーフ゜ セッテイ
PUMPチューフ゛センシ゛ョウ<ent>
```

4 ENTER キーを押す

```
スリーフ゜ セッテイ
センシ゛ョウ カンカク      =1h
```

5 ▲ ▼ を押して、チューブ洗浄を行う間隔を設定する

```
スリーフ゜ セッテイ
センシ゛ョウ カンカク      =4h
```

• 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

6 ENTER キーを押す

```
スリーフ゜ セッテイ
チューフ゛ センシ゛ョウ      <ent>
```

7 終了するとき、END キーを数回押す

• 本機に洗浄液が充填されていない場合、手順 5 で右の画面が表示されます。洗浄液を充填 (☞ P.6-10) し、手順 1 から操作し直してください。

```
＊＊センシ゛ョウエキ ミシ゛ュウテン＊＊
```

• メンテナンス洗浄液がセットされていない場合は動作しません * ので、メンテナンス洗浄液をセットしてください。

* [センジョウエキエンド] の場合は、洗浄液を使い切るために動作を行いますが、早めに交換してください。

```
<ローカル.C>  !WSH   [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

または

```
<ローカル.1>           [#01]
センシ゛ョウ カートリッシ゛ ナシ
```

P

スリープ中のクリーニング間隔を設定する

メンテナンス洗浄液が終わってしまった時に、ポンプチューブ洗浄の代わりに使う機能です。
スリープ中のクリーニングタイプと、クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
        ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [スリープセッテイ] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [スリープ セッテイ] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して、[クリーニング] を選ぶ

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛        <ent>
```

4 ENTER キーを押す

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛ カンカク    =1h
```

5 ▲ ▼ を押して、クリーニングを行う間隔を設定する

- 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛ カンカク    =4h
```

6 FUNCTION キーを押す

- クリーニングタイプの選択画面が表示されます。

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛ タイフ゜:ノーマル
```

7 ▲ ▼ を押して、クリーニングタイプを選ぶ

- 設定値：ノーマル、ソフト、ハード

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛ タイフ゜:ソフト
```

8 ENTER キーを押す

```
スリーフ゜ セッテイ
クリーニンク゛ カンカク    =4h
```

9 終了するとき、END キーを数回押す

定期動作を設定する

電源がオンの状態で定期的な各種動作を実施することで、インク詰まりなどのトラブルを防止します (定期設定)。定期設定には、以下の項目があります。

設定項目		設定値	概　　要
テイキ ワイピング	スキャン カイスウ	0 ~ 9990 回	プリント中に設定したスキャン回数になったらノズル面をワイピングし結露を取り除きます。
	オンドサ	0 ~ 60 ℃	プリント中にプリントヒーターの設定温度と外気温度との差が設定温度を超えたら、ノズル面をワイピングし結露を取り除きます。
リフレッシュ カンカク		OFF/1 ~ 168 *1 時間	リフレッシュを実行するまでの間隔を設定します。
チューブセンジョウ カンカク			ポンプチューブ洗浄を実行するまでの間隔を設定します。
クリーニング カンカク			クリーニングを、実行するまでの間隔を設定します。

*1. お買い上げ時の設定は、お使いになっているインクの種類によって異なります。インク別の初期設定値は次のようになります。

● インク別の初期設定値

インクタイプ	リフレッシュ	PUMP チューブ洗浄	クリーニング
SS21	４時間	４８時間	ＯＦＦ
ES3	４８時間	１６８時間	ＯＦＦ
Eco-PA1	４８時間	ＯＦＦ	ＯＦＦ

重 要 !

- 右のメッセージが表示されている場合、[テイキ ワイピング] を除き、定期設定で設定した動作は実行されません。必要に応じて P.6-44 の操作をしてください。

```
<ローカル. 1>                [#01]
ハイ  インクタンク  カクニン  <MNT>
```

- 装置前面の電源スイッチをオフにする場合は、廃インクタンクの確認をしてください。
- ディスプレイに [!RTN] が表示しているときでも、一定時間放置状態が継続されると、連結ユニットを自動的にプリンタユニットに切り替えて定期動作を実行します。

```
<ローカル. C>  !RTN    [#01]
CUT1  (  30/  60/  0.30)
```

プリント中の定期ワイピングの動作を設定する

プリント中に設定したスキャン回数になったら、自動的にワイピング動作を行うことにより、ノズル面でインクが結露するのを防止できます。

次のような場合は、プリント途中でしぶき・ボタ落ち・ノズル抜けが発生する場合があります。定期ワイピングの設定をして、常に快適なプリント状態を維持することをお勧めします。

- プリントヒーターを高温に設定している
- 打ち込みインク量を多め (高濃度、2 度塗り等) に設定している

これは、プリント直後のインクがプリントヒーターで加熱され、揮発した溶剤成分がノズル面に結露してしまうことが原因です。
また、プリントヒーターの設定温度と外気温度との差が大きいほど結露しやすくなります。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
          ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [テイキセッテイ] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [テイキセッテイ] を選ぶ

3 ENTER キーを押す

```
テイキ セッテイ
テイキ ワイヒ゜ンク゛      <ent>
```

4 ENTER キーを押す

```
テイキ ワイヒ゜ンク゛
スキャン カイスウ        <ent>
```

5 ENTER キーを押す

```
テイキ ワイヒ゜ンク゛
スキャン カイスウ       = 50
```

6 ▲ ▼ を押して、スキャン回数を設定する

```
テイキ ワイヒ゜ンク゛
スキャン カイスウ       = 40
```

- 設定値：0 ～ 9990 回
- ヒーターを高温 (50 ℃近辺) に設定した場合や、2 度塗り等打ち込みインク量が多い場合は、30 ～ 50 回が目安です。

7 ENTER キーを押す

```
テイキ ワイヒ゜ンク゛
スキャン カイスウ        <ent>
```

8 ▲ ▼ を押す

・オンドサの設定画面が表示されます。

```
テイキ　ワイピ゜ング゛
オンド゛サ　　　　　　　＜ent＞
```

9 ENTER キーを押す

```
テイキ　ワイピ゜ング゛
オンド゛サ　　　　　＝　20°C
```

10 ▲ ▼ を押して、温度差 (0~60°C) を設定する

・プリントヒーターの温度設定が外気温度よりも高く、その差が設定した温度差以上になった場合に、定期ワイピング機能が有効になります。

```
テイキ　ワイピ゜ング゛
オンド゛サ　　　　　＝　20°C
```

11 ENTER キーを押す

```
テイキ　ワイピ゜ング゛
オンド゛サ　　　　　　　＜ent＞
```

12 終了するとき、END キーを数回押す

P

待機中のリフレッシュ間隔を設定する

リフレッシュ動作を実行するまでの間隔を設定します。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
＜ローカル．1＞          [＃01]
              ハバ：＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [テイキセッテイ] を選ぶ

(1) (FUNCTION)キーを押す
(2) (▲)(▼)を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER)キーを押す
(3) (▲)(▼)を押して [テイキセッテイ] を選ぶ
(4) (ENTER)キーを押す

3 (▲)(▼)を押して、[リフレッシュ] を選ぶ

```
テイキ　セッテイ
リフレッシュ              ＜ent＞
```

4 (ENTER)キーを押す

```
テイキ　セッテイ
リフレッシュ　カンカク      =1h
```

5 (▲)(▼)を押して、リフレッシュ動作を行う間隔を設定する

```
テイキ　セッテイ
リフレッシュ　カンカク      =10h
```

• 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

6 (ENTER)キーを押す

```
スリープ　セッテイ
リフレッシュ              ＜ent＞
```

7 終了するとき、(END)キーを数回押す

待機中のポンプチューブ洗浄間隔を設定する

チューブ内において発生するインクの凝固によるインク詰まりを防止するため、定期的にポンプチューブ洗浄を行います。

重 要 !

- 本機能は、以下の表示のまま放置されているときのみ動作します。

```
<ローカル.1>          [#01]
```
ローカル

```
*リモート.1*          [#01]
                      0.00m
```
リモート

1

ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
           ハハ゛:****mm
```

2

メンテナンスメニューの [テイキセッテイ] を選ぶ

(1) (FUNCTION) キーを押す
(2) (▲)(▼) を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER) キーを押す
(3) (▲)(▼) を押して [テイキセッテイ] を選ぶ
(4) (ENTER) キーを押す

3

(▲)(▼) を押して、**[PUMP チューブセンジョウ]** を選ぶ

```
テイキ セッテイ
PUMPチューフ゛センシ゛ョウ<ent>
```

4

(ENTER) キーを押す

```
テイキ セッテイ
センシ゛ョウ カンカク     =1h
```

5

(▲)(▼) を押して、チューブ洗浄を行う間隔を設定する

- 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

```
テイキ セッテイ
センシ゛ョウ カンカク     =4h
```

6

(ENTER) キーを押す

- 終了するとき、(END) キーを数回押します。

```
テイキ セッテイ
PUMPチューフ゛センシ゛ョウ<ent>
```

- 本機に洗浄液が充填されていない場合、手順 5 で右の画面が表示されます。洗浄液を充填 (☞ P.6-10) し、手順 1 から操作し直してください。
- メンテナンス洗浄液がセットされていない場合は動作しません * ので、メンテナンス洗浄液をセットしてください。

* [センジョウエキエンド] の場合は、洗浄液を使い切るために動作を行いますが、早めに交換してください。

```
**センシ゛ョウエキ ミシ゛ュウテン**
```

```
<ローカル.C>  !WSH   [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```
または
```
<ローカル.1>          [#01]
センシ゛ョウ カートリッシ゛ ナシ
```

待機中のクリーニング間隔を設定する

メンテナンス洗浄液が終わってしまった時に、ポンプチューブ洗浄の代わりに使う機能です。
待機中のクリーニングタイプと、クリーニングを実行するまでの間隔を設定します。

重要！

- 「ニアエンド」「インクエンド」等、インクに関係するエラーが発生している場合は、動作しません。
- 動作中は「ヘッドクリーニング」動作と同じ進行状況を示す表示となり、キー操作はできません。(☞ P.2-38「ヘッドクリーニング」)
- 本機能は、以下の表示のまま放置されているときのみ動作します。

```
<ローカル．1>          [#01]
```

ローカル

```
＊リモート．1＊        [#01]
                      0.00m
```

リモート

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル．1>          [#01]
              ハハ゛：＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [テイキセッテイ] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [テイキセッテイ] を選ぶ
(4) ENTER キーを押す

3 ▲ ▼ を押して、[クリーニング] を選ぶ

```
テイキ セッテイ
クリーニンク゛              <ent>
```

4 ENTER キーを押す

```
テイキ セッテイ
クリーニンク゛ カンカク       =1h
```

5 ▲ ▼ を押して、クリーニングを行う間隔を設定する

```
テイキ セッテイ
クリーニンク゛ カンカク       =4h
```

- 設定値：OFF,1 ～ 168 時間

6 FUNCTION キーを押す

- クリーニングタイプの選択画面が表示されます。

```
テイキ セッテイ
クリーニング゛ タイプ゜：ノーマル
```

- メンテナンス洗浄液がセットされていない場合は動作しません * ので、メンテナンス洗浄液をセットしてください。
  * [センジョウエキエンド] の場合は、洗浄液を使い切るために動作を行いますが、早めに交換してください。

```
< ローカル．1 >  ！WSH   [ #01 ]
            ハバ゛：1000mm
```

または

```
< ローカル．1 >          [ #01 ]
センシ゛ョウ カートリッシ゛ ナシ
```

7 ▲ ▼ を押して、クリーニングタイプを選ぶ

- 設定値：ノーマル、ソフト、ハード

```
テイキ セッテイ
クリーニング゛ タイプ゜：ソフト
```

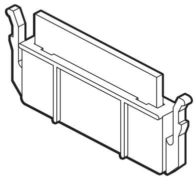
8 ENTER キーを押す

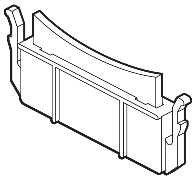
```
テイキ セッテイ
クリーニング゛ カンカク    =4h
```

9 終了するとき、END キーを数回押す

ワイパー交換の警告時期を変更する

ワイパーは消耗品です。ホコリの多い環境などでは、ヘッドが汚れやすくなります。
また、曲がったり摩耗したワイパーではクリーニング効果が得られません。ワイパーレベルを設定して、環境によってワイパー交換時期の警告を標準より早期に促します。





設定値	概　　要
1/10 ~ 10/10	ワイパー交換の警告を出す時期を設定します。 値が小さくなるほど、早くワイパー交換の警告が表示されます。

1 ローカルで（MODE CHANGE）キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル．1>          [#01]
              ハバ：＊＊＊＊mm
```

2 メンテナンスメニューの [ワイパーレベル] を選ぶ

(1) （FUNCTION）キーを押す
(2) （▲）（▼）を押して [メンテナンス] を選び、（ENTER）キーを押す
(3) （▲）（▼）を押して [ワイパーレベル] を選ぶ

3 （ENTER）キーを押す

```
ワイパー　レベル
レベル              :10/10
```

4 （▲）（▼）を押して、ワイパーレベルを設定する

• 設定値 :1/10 ～ 10/10

```
ワイパー　レベル
レベル              :9/10
```

5 （ENTER）キーを押す

```
メンテナンス
ワイパー　レベル       <ent>
```

6 終了するとき、（END）キーを数回押す

メディア残量表示の設定をする

メディア残量表示の設定をします。

メディア残量表示を ON にすると	リモートモードでメディア残量が表示されます。 （ただし、リーフメディアを使用した場合は、プリント長を表示します。）
メディア残量表示を OFF にすると	リモートモードでメディア残量は表示されません。

- プリント、JOG キーによるフィード量が、メディア残量に反映されます。
- メディア長 (残量初期値) はロールメディア検出時に入力します。(☞ P.2-29)
- ここで行う設定は、設定終了後にメディア検出を行わないと有効になりません。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >          [ #01 ]
             ハバ : ****mm
```

2 メンテナンスメニューの [メディア ザンリョウ] を選ぶ

(1) FUNCTION キーを押す
(2) ▲ ▼ を押して [メンテナンス] を選び、ENTER キーを押す
(3) ▲ ▼ を押して [メディア ザンリョウ] を選ぶ

3 ENTER キーを押す

```
メディア ザンリョウ
セッテイ            : ON
```

4 ▲ ▼ を押して、ON/OFF を選ぶ

```
メディア ザンリョウ
セッテイ            : OFF
```

5 ENTER キーを押す

```
メンテナンス
メディア ザンリョウ    < ent >
```

6 終了するとき、END キーを数回押す

メディア残量をプリントする

現在のメディア残量をプリントすることができます。

- メディア残量表示の設定を “ON” にしてください。
- メディア交換時には、現在お使いのメディアに残量をプリントしておくことをお勧めします。あらかじめメディア残量をプリントしておけば、交換したメディアを再度使うとき、メディア検出後のメディア残量入力画面 (☞ P.2-29) で正確な数値を入力できます。

1 ローカルで、▲▼◀▶を押す

- 原点設定モードになります。

```
ケ゛ンテン　セッテイ
0．0　　　　———
```

2 ▲▼◀▶を押して、原点を変更したい位置へ合わせる

- ▲▼◀▶でキャリッジとメディアを移動させて選びます。
- 原点を変更しない場合は、▲▼◀▶を押さずに手順 3 へ進んでください。
- ここで ENTER キーを押すと、原点が変更されローカルに戻ります。

```
ケ゛ンテン　セッテイ
0．0　　　　0．0
```

原点位置（長さ）　原点位置（幅）

3 REMOTE キーを押す

- ▲▼◀▶を押すと、手順 2 の画面に戻ります。
- END キーを押すと、ローカルに戻ります。

```
メテ゛ィア　サ゛ンリョウ　サクス゛
<ENT>
```

4 ENTER キーを押す

- メディア残量のプリントを開始します。
- プリントが終わると、ローカルに戻ります。

重 要！

- 原点を変更してプリントすると、以降のデータのプリントをするときもここで設定した原点が有効になります。

P

6

お手入れ

ホワイトインクメンテナンス機能

SS21 ホワイトインクは性質上、しばらく未使用のまま放置すると、ノズル抜けや顔料の沈降による色ムラが発生してしまいます。
ヘッドクリーニング (☞ P.2-38) を行っても復旧しなかった場合は、本メンテナンス機能を使用します。（ファームウェア Ver.2.10 以降対応、本機能は SS21 ホワイトインクが充填されている場合のみ選択可能です。）

ホワイトインクメンテナンス機能では、3 段階のメンテナンスレベルを設定しています。
状況に応じてメンテナンスレベルを選択してください。

LEVEL1	次の順序でメンテナンスを行います。 **(1)** 自動ノズル洗浄機能を実施 *1 **(2)** クリーニングを行う *2
LEVEL2	次の順序でメンテナンスを行います。 **(1)** 自動ノズル洗浄機能を実施 *1 **(2)** ホワイトインクの充填 **(3)** クリーニングを行う *2
LEVEL3	次の順序でメンテナンスを行います。 **(1)** 自動ノズル洗浄機能を実施 *1 **(2)** ヘッドやチューブに残ったホワイトインクを排出 **(3)** ホワイトインクの充填 **(4)** クリーニングを行う *2

*1. ステーションメンテナンスのノズルセンジョウと同様の動作を行います。（放置時間 3 分）
*2. いずれもヘッドクリーニング (☞ P.2-39) の“ハードクリーニング”と同等のクリーニングを各色に対して行います。

重 要 !

- LEVEL1 から 3 になるに従って、ホワイトインクの消費量は多くなります。LEVEL2、3 は LEVEL1 でメンテナンスを行っても症状が改善しない場合に行ってください。
- マシンを長期間未使用のまま放置する場合、およそ 2 週間に 1 回は本機能の LEVEL1 の実施を推奨します。
- その他、本機能及び、ホワイトインクに関する注意事項は、カートリッジ梱包袋内に添付されております。よくお読みになった上でご使用ください。

P

1 ローカルで (MODE CHANGE) キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>          [#01]
            ハハ゛:****mm
```

2 メンテナンスメニューの [ホワイトメンテナンス] を選ぶ

(1) (FUNCTION) キーを押す
(2) (▲)(▼) を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER) キーを押す
(3) (▲)(▼) を押して [ホワイトメンテナンス] を選ぶ

3 ENTER キーを押す

```
ホワイト　メンテナンス
センタク　　　　　　:LEVEL1
```

4 ▲▼を押して、メンテナンスレベルを設定する

```
ホワイト　メンテナンス
センタク　　　　　　:LEVEL3
```

- 設定値 :LEVEL1 ～ LEVEL3
- ここでは、LEVEL3 に設定した場合の操作を説明します。

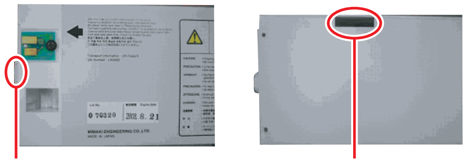
5 ENTER キーを押す

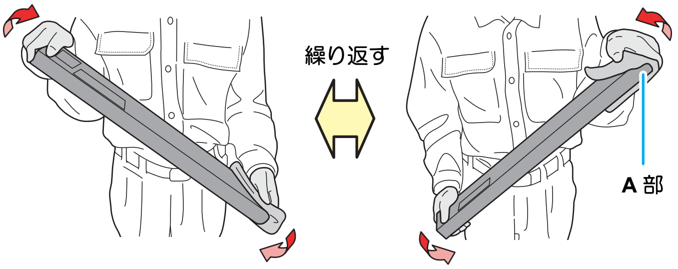
```
ホワイトインクカートリッシ゛ ヲ
フッテクタ゛サイ　　　<ent>
```

6 ホワイトインクカートリッジを取り外し、20 回程度ゆっくりと左右に振る

- 振ったときにインクが漏れ出すのを防ぐため、手袋を着用して紙タオルなどでカートリッジ上面の A 部とカートリッジ底面の B 部をしっかりと塞ぎ、ゆっくりとインクを流すように左右に 20 回以上振ります。

- 強く振りすぎると内部のパックを傷つけ、インク漏れの原因となることがあるため、慎重に行ってください。
- インク残量が少ないと十分にかくはんできない場合があるので、カートリッジが縦になるまで傾けてください。





紙タオルでしっかりと押さえてゆっくり振る

7 ホワイトインクカートリッジをセットし、ENTER キーを押す

- ノズル洗浄を開始します。
- 手順 4 で設定した LEVEL によって、ノズル洗浄終了後の操作が異なります。
- LEVEL1 ：手順 11 へ進む
  LEVEL2 ：手順 10 へ進む
  LEVEL3 ：手順 8 へ進む

選択したメンテナンスレベルを表示

```
Lv.*  >  ノス゛ル センシ゛ョウ
            03:00
```

残り時間を表示

8 ホワイトインクカートリッジを外す

- ホワイトインクカートリッジを外すと、装置内に残ったホワイトインクの排出を行います。

```
Lv.3  >  ハイシュツ
            01:30
```

- 排出が終わると、右の画面を表示します。

```
インクカートリッシ゛ ヲ セットスル
        _W_W____
```

9 ホワイトインクカートリッジをセットする

10 ホワイトインクの充填を開始する

```
Lv.3  >  シ゛ュウテン
            00:30
```

- LEVEL2 と LEVEL3 では充填時間が異なります。
  (LEVEL2 を選択したときの方が、充填時間が短くなります。)

11 クリーニングを行う

```
Lv.3  >  クリーニンク゛
            02:00
```

廃インクタンク確認メッセージが表示されたら

ヘッドクリーニングなどで使用したインクは、本機の右下にある廃インクタンクにたまります。本機では、インクの排出量を累積カウントし、一定の量になったら確認を促すメッセージを表示します。（廃インクタンク交換の目安としてお使いください。）

インク充填などを実行するときにメッセージが表示されたら

インク充填やヘッドクリーニング、PUMP チューブ洗浄など、廃インクタンクを使用する機能を実行するとき、廃インクタンクの状態によって廃インクタンクの確認を促すメッセージを表示します。

● 廃インクタンクがニアフルの場合

右のメッセージが表示される

```
＊ハイインク タンク カクニン＊
ケイゾ゛ク ＜ ＞ コウカン
```

1 廃インクタンクの状態を確認する

廃インクタンクが一杯に近い場合

(1) 廃インクタンクを交換 (☞ P.6-45) する

(2) ENTER キーを押して " コウカン " を選択する（インク排出量をリセットする）

廃インクタンクに余裕がある場合

(1) ◀ を押して " ケイゾク " を選択する（インク排出量をリセットしない）

•この場合、ローカルにもどると、P.6-44「ローカルでの確認メッセージ」のメッセージが表示されます。

● 廃インクタンクがフルの場合

右のメッセージが表示される

```
＊ハイインク タンク カクニン＊
コウカン :ent
```

1 廃インクタンクを交換 (☞ **P.6-45**) し、ENTER キーを押す

• インク排出量のリセットを行います。

重 要 !

- 廃インクタンクがニアフルまたはフルのとき、上の操作で “ コウカン ” を選んだ場合は、必ず廃インクタンクの交換 (☞ P.6-45) をしてください。交換しないでそのままお使いになると、確認メッセージが表示されないうちに廃インクがあふれることがあります。
- ステーションメンテナンスのノズルセンジョウ、PUMP チューブセンジョウ、ホカンセンジョウをしたときに排出した廃インクは、本機で累積カウントされません。これらの操作をする前後は、必ず廃インクタンクの状態を確認してください。

ローカルでの確認メッセージ

右のメッセージが表示される

```
<ローカル.1>            [#01]
ハイ インクタンク カクニン <MNT>
```

1 廃インクタンクを確認し、必要に応じて廃インクタンクの交換をする
(☞ P.6-45)

廃インクタンクの確認メッセージを表示させたくないとき

廃インクタンクの確認メッセージを表示させないように設定できます。

1 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
<ローカル.1>            [#01]
               ハバ:****mm
```

2 マシンセッテイメニューの [ハイインク ワーニング] を選ぶ

(1) (FUNCTION)キーを押す
(2) (▲)(▼)を押して [マシンセッテイ] を選び、(ENTER)キーを押す
(3) (▲)(▼)を押して [ハイインク ワーニング] を選ぶ
(4) (ENTER)キーを押す

3 (▲)(▼)を押して、**OFF** を選ぶ

```
ハイインク ワーニング
セッテイ           : OFF
```

4 (ENTER)キーを押す

```
マシン セッテイ
ハイインク ワーニング     <ent>
```

5 終了するとき、(END)キーを数回押す

重 要!
- 廃インクタンクワーニングの設定を "OFF" にすると、確認メッセージは表示されなくなります。必ず廃インクタンク内のインク残量を目視で確認するようにしてください。

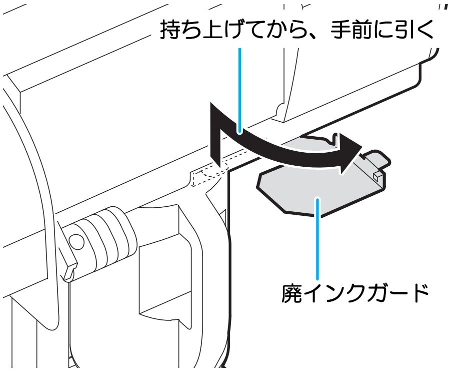
廃インクタンクを交換する

右のメッセージが表示されたら、速やかに廃インクタンクを確認し、状況に応じて交換してください。

<ローカル.1>	[#01]
ハイインク タンク カクニン	<MNT>

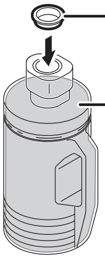
1 廃インクタンクガードを外す

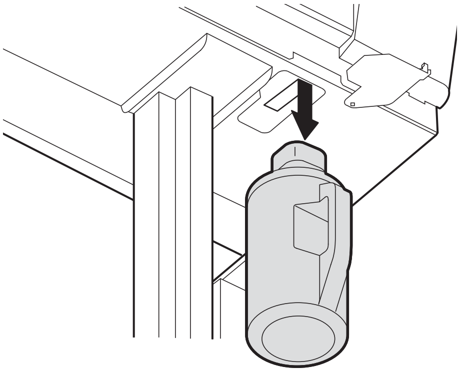
(1) 廃インクタンクガードを持ち上げて、ロックを外す
(2) 廃インクタンクガードを手前に開く



2 廃インクタンクの取っ手を持ち、手前に引いて取り出す

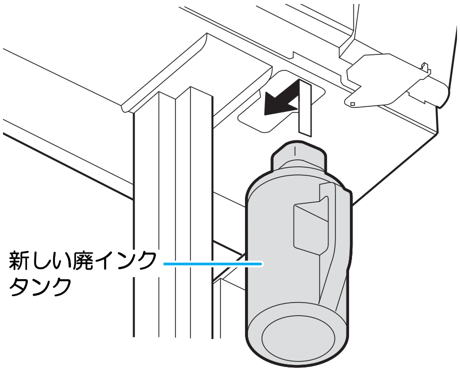
- 取り出した廃インクタンクにキャップをはめてください。





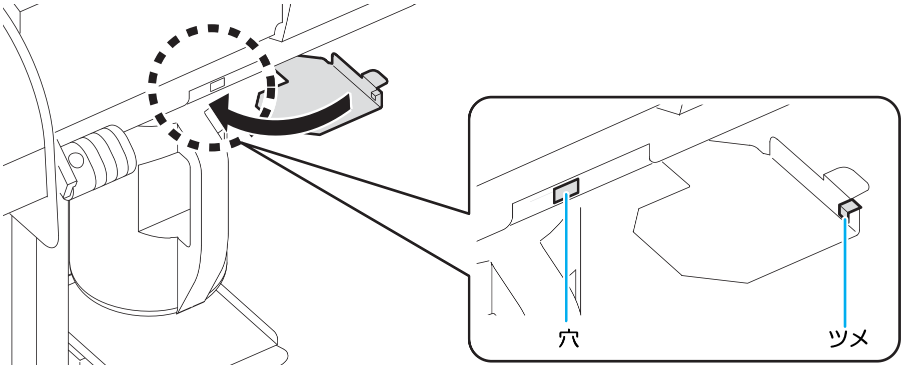
3 廃インクタンクを交換する

(1) 新しい廃インクタンク (SPC-0117) を用意する
(2) 廃インクタンクの取っ手を持ち、差し込む



4 廃インクタンクガードを閉じる

• 廃インクタンクガードのツメを本体の穴に引っ掛けて、ロックしてください。



5 ローカルで(MODE CHANGE)キーを押して、プリントモードを選ぶ

```
< ローカル. 1 >              [ #01 ]
                    ハバ : ****mm
```

6 メンテナンスメニューの [ハイインクタンクコウカン] を選ぶ

(1) (FUNCTION)キーを押す
(2) (▲)(▼)を押して [メンテナンス] を選び、(ENTER)キーを押す
(3) (▲)(▼)を押して [ハイインクタンクコウカン] を選ぶ

7 (ENTER)キーを押す

```
ハイインクタンク　コウカン
コウカン                    : ent
```

8 (ENTER)キーを押す

• 本機で管理しているインク排出量のリセットを行い、メッセージを解除します。

9 終了するとき、(END)キーを数回押す

インクを変更したいとき

お使いになっているインクの種類や色を変えることができます。

注意

- 「4 色モデル」から「6 色モデル」や「8 色モデル」にするなどインクセットを変更したい場合は、サービスマンによる作業が必要です。弊社サービスまたは販売店にお問い合わせください。

インク種類を変更する	インクカラーを変更する
ES3 インクから SS21 インクに変更したい場合など、お使いのインク種類を変更するときは、次のようにしてください。	SS21 インクの「6 色」と「6 色 + 白」を切り替えたい場合など、お使いのインクカラーを変更するときは、次のようにしてください。

装置に残っているインクの「排出」とヘッドやチューブの「洗浄」を行う

P.6-22 「ハイシュツ＆センジョウ」 を参照してください。

↓

インクの充填を行う

P.6-24 「インクの初期充填を行う」 を参照してください。

重要！

- **インク種類変更の注意事項**
  現在お使いのインク種類によっては、変更できるインク種類に制限があります。右の表を確認してください。

		変更したいインク種類	
		Eco-PA1	SS21/ES3
現在のインク種類	Eco-PA1	変更できます	弊社サービスまたは販売店にお問い合わせください
現在のインク種類	SS21 ES3	変更できません	変更できます (ただし、ES3 のシルバーインクやホワイトインクに変更する場合は、弊社サービスによる作業が必要です。)

- **洗浄を行うには、専用の洗浄液カートリッジ (別売) が 8 本必要です**
  現在お使いのインク種類に合った洗浄液カートリッジを使って洗浄を行ってください。

インクの種類	洗浄液の種類
ソルベントインク (SS21/ES3)	MILD SOLVENT 洗浄液カートリッジ (SPC-0294)
水性顔料インク (Eco-PA1)	水性洗浄液カートリッジ (SPC-0259)

裁断カッター刃の交換

メディア裁断カッター刃は消耗品です。切れ味が悪くなってきたら、新しい裁断カッター刃 (SPA-0107) に交換してください。

注意
- 刃先は鋭利です。ケガをしないようご注意ください。
- 裁断カッター刃は、子供の手の届かないところに保管してください。また、使用済みの裁断カッター刃は、地域の条例に従い廃棄してください。

- 裁断カッター刃の下に用紙を敷いておくと、刃先が落ちた時に拾いやすくなります。

1 ローカルで MODE CHANGE キーを押して、カットモードを選ぶ

```
<ローカル.C>         [#01]
CUT1 ( 30/ 60/ 0.30)
```

2 FUNCTION キーを押す

```
FUNCTION              C
セッテイ            <ENT>
```

3 ▼ ▲ を押して [メンテナンス] を選ぶ

```
FUNCTION              C
メンテナンス        <ENT>
```

4 ENTER キーを押す

```
メンテナンス
トンボ゛ センサー    <ent>
```

5 ▼ ▲ を押して [ツールコウカン] を選ぶ

```
メンテナンス
ツール コウカン      <ent>
```

6 ENTER キーを押す

```
ツール コウカン
ト゛ウサ カイシ       :ent
```

7 ENTER キーを押す

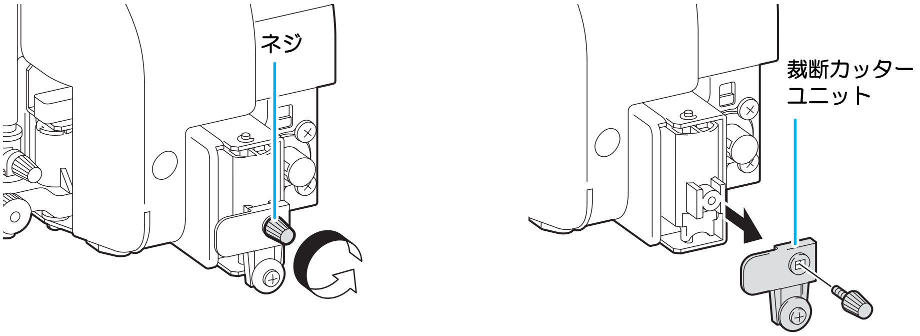
- カッターユニットが、本機の左端へ移動します。

P C

8 キャリッジ手前の裁断カッターユニットを交換する

• カッターユニットが手動で移動できるようになります。交換しやすい位置に移動させてから交換してください。

(1) 裁断カッターユニットのネジを緩める
(2) 裁断カッターユニットを取り外す
(3) 新しい裁断カッターユニットを取り付ける
(4) 裁断カッターユニットのネジを締めて、裁断カッターユニットを固定する



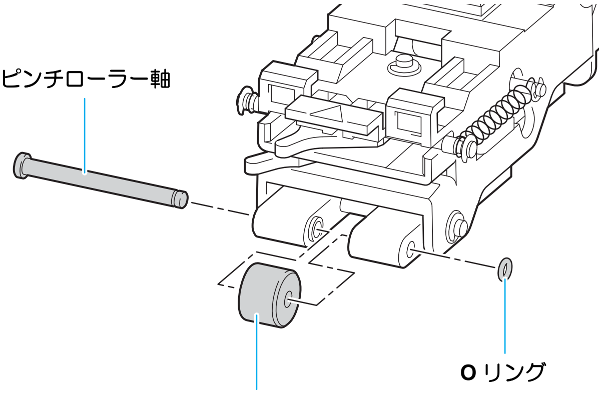
9 交換が終わったら、ENTER キーを押す

• ローカルに戻ります。

ピンチローラーの交換

ピンチローラーの摩耗や汚れが気になるときに交換してください。
(SPA-0166：ピンチローラー 4 個セット／ SPA-0167：ピンチローラー 3 個セット)

1 **O リングを外し、 ピンチローラー軸とピンチローラーを外す**



2 **新しいピンチローラーを取り付け、ピンチローラー軸と O リングを元通りに戻す**

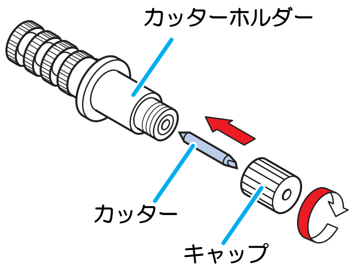
P
C

付属品以外のカッター刃の交換方法

別売のカッターホルダー（偏芯カッターホルダー：SPA-0090）とカッター（偏芯替刃塩ビシート低圧用：SPB-0030）をお使いになるときの交換方法を説明します。

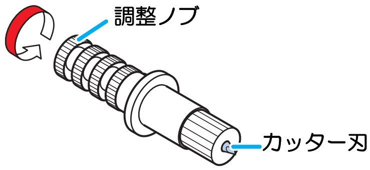
1 刃先が出ている部分を回して取る

2 ピンセット等で新しい刃先に交換する



3 刃先の出し量を調整する

- 調整ノブを、図の矢印方向に回すと刃が出ます。（1 周で 0.5mm）



第７章
困ったときは

この章では ...

故障かな？と思ったときの対処方法や、ディスプレイに表示するエラー番号の解消方法などを説明しています。

故障？と思う前に 7-2
　画質不良が発生したときは 7-5
　ノズル詰まりを解消したいとき 7-5
　カートリッジ異常が発生したら 7-6
メッセージを表示するトラブル 7-8
　ワーニングメッセージ 7-8
　エラーメッセージ 7-11

故障？と思う前に

故障？と思う前にもう一度確認してください。対処しても正常に戻らない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現　　象	原　　因	対処方法
電源が入らない	電源ケーブルを確実に接続していない	電源ケーブルを本装置と電源コンセントに確実に接続する
	主電源が入っていない	主電源を入れる
	前面にある電源スイッチがオンになっていない	前面にある電源スイッチをオンにする
プリント／カット（ペン作図）できない	インターフェイスケーブルを確実に接続していない	インターフェイスケーブルを確実に接続する
	ご使用のインターフェイスケーブルが合っていない	USB2.0 Hi-Speed に対応したケーブルを使用する
	ディスプレイにインク切れのメッセージを表示している	新しいインクカートリッジと交換する
	ホストコンピュータ側の設定で、機種名等の設定が違っている	ホストコンピュータ側の設定を確認する
	USB ドライバをインストールしていない	付属の USB ドライバをインストールする
メディアが詰まる メディアが汚れる	当社推奨メディアを使用していない	推奨のメディアを使用する
	メディアがカールしている	カールがきついメディアは使用しない
	メディアの先端が折れ曲がっている	先端が折れ曲がっているメディアは使用しない
	メディアがプラテンに沿ってたれている	巻取装置を使用するか、メディアを再セットする
[HEAT] ランプ、[CONSTANT] ランプが点灯しない	電源がオンになっていない	電源をオンにする
	ヒーターの温度設定が有効になっていない	ヒーターの温度を室温より高く設定する
コンピュータからデータ送信するとエラーを発生する	コマンド設定が間違っている	添付のアプリケーションを使用する
	機種設定が間違っている	アプリケーションソフトウェアにて、機種を [CJV30] に変更する
カットが点線になる	ツールホルダのツマミが緩んでいる	ツールホルダのツマミを締める
	刃先を出しすぎている	刃先を適切な量に調整する
	ツール条件が [HALF] に設定してある	ツール条件を [CUT1] ～ [CUT3] に設定する
	刃先が欠けているか、摩耗している	新しい刃先に交換する
	刃先の回転が滑らかでない	新しいホルダに交換する

P
C

現　象	原　因	対処方法
カットにズレが生じる	ピンチローラーとグリットローラーが確実にメディアを保持していない	ピンチローラーとグリッドローラーの位置を確認し、確実にメディアを保持する
		使用するピンチローラー数を増やす
	ピンチローラー圧の選択が適正でない	ピンチローラー圧の選択を適正に行う (☞ P.4-2)
	ロールメディアの巻き具合が緩くたるみがあり、メディアフィード時にメディアが蛇行または斜行している	ロールメディアセット時に、ロールのたるみとロール左右端面を平らに整え、メディアフィードを行う
	メディアの折れ曲がりにより、メディアと台紙が剥離し、気泡が入っている	長尺カット時は、メディアフィードおよびカット中メディアにメディアが折り曲がらないように注意し、メディアに負荷を与えない
		長尺カット時は、メディア送り方向の作業スペースを十分確保する 前面：1.5m 以上 後面：1.5m 以上
	メディアのセット方向とデータ出力方向が合っていない	方向を合わせる
	メディアが床面にあたっている	カット速度 (SPEED) を下げ、メディアが床面にあたる際の負荷を和らげる
	ピンチローラ部のサイドマージンが不足している	ピンチローラ部のサイドマージンを 20mm 以上確保する
	「トンボ検出の設定」のオフセット X、オフセット Y の設定が正しくない	オフセット値をズレに合わせて補正する (☞ P.4-14)
動作中にツールを引きずる 余分なカッター跡がメディアに残る	メディアがたわんでいる	メディアがたわまないように取り付ける
	ツールのアップ / ダウンが不良	電源を切り、手でツールホルダをアップ / ダウンできるか確認する ダウンしたままアップしない場合は、販売店にご連絡ください
	極端に厚いメディアを使用している	仕様の範囲内のメディアを使用する
切り残しがある	カッターがダウンするときの圧力が弱い	刃先補正圧オフセットの値を増やす (☞ P.4-43)
		カッター圧力を上げて、再度テストカットを行う (☞ P.2-44)
		オーバーカットの設定を行う (☞ P.4-43)

現　　象	原　　因	対処方法
トンボ検出ができない	トンボセンサーとライトポインタの位置が合っていない	• ライトポインターの位置を調整する (☞ P.4-22)
	トンボセンサーの感度が弱い	• トンボセンサーの感度を調整する (☞ P.4-23)
メディア裁断時に切り残しがある	メディアの両端と両端のピンチローラー位置が離れている	• メディアの両端から左　10cm、右 2cm 以内にピンチローラーをセットする (☞ P.2-17)

画質不良が発生したときは

ここでは、プリント品質に問題があるときの対処方法を説明します。症状に従って対処してください。対処しても改善しない場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

現　　象	対処方法
白スジ / カスレ / 色の濃いスジが発生する（ヘッド移動方向）	**(1)** ヘッドクリーニングを行ってください。☞ P.2-38 **(2)** ステーション内部のメンテナンスをしてください。☞ P.6-5 **(3)**「メディア補正」機能を実行してください。☞ P.3-9 **(4)** メディア押さえの上などヘッドが通過する部分に、紙片などのゴミが付着している場合は、ゴミを取り除いてください。
文字が用紙送り方向に 2 重、3 重にブレる	**(1)**「メディア補正」機能を実行してください。☞ P.3-9
往復印字でズレが発生する	**(1)**「ドット位置補正」機能を実行してください。☞ P.3-12
プリント中にインク滴が落ちる	**(1)** ワイパーを清掃してください。☞ P.6-6 **(2)** インクキャップのクリーニングをしてください。☞ P.6-6 **(3)** ヘッドクリーニングの [ノーマル] を実行してください。☞ P.2-39 **(4)** 症状が改善されないときは、定期ワイピングの設定を行ってください。☞ P.6-31

ノズル詰まりを解消したいとき

P.2-38 の操作でヘッドのクリーニングをしてもノズル詰まりが解消しない場合は、次の 2 つの項目を確認してください。

- **P.6-21** の操作をして、インクの充填をしてください。
- **P.6-22** の操作をして、ハイシュツ＆センジョウをしてください。

カートリッジ異常が発生したら

インクカートリッジに異常が発生したら、ワーニングメッセージを表示します。
プリント、クリーニング等、インク吐出に関する動作は全てできなくなります。
速やかに新しいインクカートリッジに交換してください。

重 要！
- カートリッジ異常を表示したまま長時間放置しないでください。ノズル詰まりの防止機能が動作しなくなります。
  ノズルが詰まった場合、サービスマンによる修理が必要になります。

カートリッジ異常の詳細を表示する

次の操作をして、カートリッジ異常の内容を確認できます。（☞ P.7-7）

1 ローカルで、ENTER キーを押す

```
SS21 mr1        MMCCYYKK
ｻﾞﾝﾘｮｳ          34567899
```

2 FUNCTION キーを押す

```
ﾋｼﾞｭﾝｾｲ  ｲﾝｸ
---C----
```

シアン (C) のカートリッジに異常があることを表す

- 複数のカートリッジ異常が発生している場合、▲▼を押すと、順番に表示します。
- FUNCTION キーまたは END キーを押すと、インク残量表示に戻ります。

メッセージと対処方法

表示	原因	対処方法
インク　ニア　エント゛ MMCC　----	インクカートリッジのインクが少なくなった。	ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
インク　エント゛ ----　YYKK	インクカートリッジのインクがなくなった。	ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
ヒシ゛ュンセイ　インク ----　YYKK	インクカートリッジがミマキ純正品でない。	ワーニングが発生しているカートリッジをミマキ純正品に交換してください。
インク　IC　イシ゛ョウ ----　YYKK	インクカートリッジのICチップが正常に読み込めない。	ワーニングが発生しているカートリッジを再挿入してください。 ワーニング解消しない場合は弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
インク　シュルイ ----　----	インクカートリッジのインク種類が充填してあるインクと異なる。	ワーニングが発生しているカートリッジのインク種類を確認してください。
インク　カラー ----　----	インクカートリッジのインクカラーが充填してあるインクと異なる。	ワーニングが発生しているカートリッジのインクカラーを確認してください。
カートリッシ゛　イシ゛ョウ ----　----	装填したインクカートリッジが異常	ワーニングが発生しているカートリッジを確認してください。
カートリッシ゛　ナシ ----　----	インクカートリッジがスロットに挿入されていない。	ワーニングが発生しているスロットにカートリッジを挿入してください。
インクキケ゛ン　キ゛レ ----　----	インクカートリッジの使用有効期限が切れている。	ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。 そのままでも(使用期限翌月までは)使用可能です。
キケ゛ン　キ゛レ　(1カケ゛ツ) ----　----	インクカートリッジの使用有効期限が切れている(期限切れから1ヶ月経過)。	赤LEDが点滅します。ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。 そのままでも(使用期限翌々月までは)使用可能です。
キケ゛ン　キ゛レ　(2カケ゛ツ) ----　----	インクカートリッジの使用有効期限が切れている(期限切れから2ヶ月経過)。	ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
サ゛ンリョウ　0 ----　----	インクカートリッジの残量が0	ワーニングが発生しているカートリッジを交換してください。
ホワイト　ノス゛ル　シ゛ョウタイ　ヲ カクニン　シテクタ゛サイ　<ENT>	SS21ホワイトインク使用時、ノズル状態を正常に保つために、テストプリントの実行を促すメッセージを表示する。	テストプリントの“ホワイトカクニン”を実行してください。(☞ P.2-36)
トクショクメンテナンス　ヲ シ゛ッコウシマスカ?　<ENT>	ES3のシルバー・ホワイトインク使用時、顔料の沈降による色ムラを防止するために、特色メンテナンスの実行を促すメッセージを表示する。	特色メンテナンスを実行してください。

メッセージを表示するトラブル

何らかの異常が発生すると、ブザーが鳴りディスプレイにメッセージを表示します。
メッセージの内容によって対処してください。

ワーニングメッセージ

表示	原因	対処方法
＊　メデ゛ィアカ゛　アリマセン　＊	メディアがセットされていない。	メディアをセットしてください。
!バ゛ッテリー　コウカン　シテクダ゛サイ	内部時計の電池切れを検出した。	弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
＜ローカル．1＞　[#01] ワイパ゜ー　コウカン　＜MNT＞	キャッピングステーションのワイパー交換時期 (ワイピング回数が規定値に達した。)	ワイパーを交換してください。 (☞ P.6-8)
＜ローカル．1＞　[#01] !テストプ゜リント　ヲ　シテクダ゛サイ	72 時間以上電源が OFF されていたとき、スリープリフレッシュまたはクリーニングを実行しなかった。	テストプリントを行い、ノズル状態を確認してください。 長時間電源を OFF にするときは、スリープ動作を行える状態で電源を OFF にしてください。(☞ P.6-26)
PRE　PRT　AFT ダ゛ンセン　＊＊゜C　＊＊゜C	メディアヒーターが断線している。 (この例ではプリヒーターが断線)	弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
PRE　PRT　AFT サーミスタ　＊＊゜C　＊＊゜C	メディアヒーターのサーミスタ異常が発生している。 (この例ではプリヒーターのサーミスタ異常)	
＜ローカル．1＞　[#01] ニアエンド゛　MMCC----	1 供給経路あたりのインクが少なくなった。	表示しているカラーに対応する供給経路のカートリッジを交換してください。 そのままでも(インクエンドが発生するまで) プリント可能ですが、1 ファイルプリント終了毎にローカルへ移行します。
＊リモート．1＊　[#01] ニアエンド゛　MMCC----		
＜ローカル．1＞　[#01] インクエンド゛　----YYKK	1 供給経路あたりのインクが終わった。	表示しているカラーに対応する供給経路のカートリッジを交換してください。
＊リモート．1＊　[#01] インクエンド゛　----YYKK		
＜ローカル．1＞　[#01] !カートリッシ゛　----YYKK	1 供給経路あたりのインクがセットされていない。 または、使用できないインクがセットされている。	表示しているカラーに対応する供給経路のカートリッジを交換またはセットしてください。 P.7-6「カートリッジ異常が発生したら」を参照し、異常内容を確認後、対処してください。
＊リモート．1＊　[#01] !カートリッシ゛　----YYKK		

表示	原因	対処方法
＜ローカル．１＞　　　［＃０１］ カートリッシ゛　サイセット	インクの残量が多いカートリッジを挿入した直後に、ニアエンドを検出した。	挿入したカートリッジを抜いて再挿入してください。再度表示される場合は、弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
＜ローカル．１＞　！ＣＡＲ　［＃０１］ ＊リモート．１＊　！ＣＡＲ　［＃０１］	装填したインクカートリッジに問題がある。	ガイダンス機能でワーニング詳細を表示して内容を確認してください。 (☞ P.7-6)
＜ローカル．１＞　！ＷＳＨ　［＃０１］ ＊リモート．１＊　！ＷＳＨ　［＃０１］	メンテナンス洗浄液に問題がある。 • セットされていない • メンテナンス洗浄液以外がセットされている • メンテナンス洗浄液エンド	メンテナンス洗浄液カートリッジを交換してください。
＜ローカル．１＞　！ＲＴＮ　［＃０１］ ＊リモート．１＊　！ＲＴＮ　［＃０１］	プリントヘッドに連結ユニットが接続していないため、定期動作が実行できない。	プリントモードで原点設定などを起動し、連結ユニットを切り替えてください。または、該当する定期動作をマニュアルで実施してください。
＜ローカル．１＞　！ＴＮＫ　［＃０１］ ＊リモート．１＊　！ＴＮＫ　［＃０１］ ＜ローカル．１＞　　　［＃０１］ ハイインク　タンク　カクニン　＜ＭＮＴ＞	廃インクタンクがフル間近。	廃インクタンクを交換し、[メンテナンス]-[ハイインクタンク コウカン]を実行してください。(☞ P.6-45)
＜ローカル．１＞　　　［＃０１］ ！センシ゛ョウ　エキ　エント゛	洗浄カートリッジエンドを検出した。	メンテナンス洗浄カートリッジを交換してください。
＜ローカル．１＞　　　［＃０１］ ！センシ゛ョウ　カートリッシ゛　ナシ	洗浄カートリッジが挿入されていない。	メンテナンス洗浄カートリッジを挿入してください。
＜ローカル．１＞　　　［＃０１］ ！センシ゛ョウ　カートリッシ゛イシ゛ョウ	洗浄カートリッジに異常がある。	メンテナンス洗浄カートリッジを挿入してください。
＊＊センシ゛ョウエキ　ミシ゛ュウテン＊＊	メンテナンス洗浄液が充填されていない。	メンテナンス洗浄液を充填してください。 [メンテナンス]-[ヘッドメンテナンス]-[ジュウテン]を実行してください。 (☞ P.6-21)
＊＊　オフスケール　＊＊	カットデータが有効カットエリアを越えている。 または、メディアの最後まで正常にカットして停止した。	メディアのサイズを大きくするか、データを小さくしてください。 または分割カット機能を実行してください。 このワーニングは、P/C 原点オフセット (☞ P.4-36) の設定値によっては、発生する場合があります。

表示	原因	対処方法
＊＊コピーエンド＊＊	受信データに原点更新コマンドがあり、１枚コピーして終了した。	枚数切りはできません。 枚数切りを行う場合は、ホストコンピュータ側で再設定してください。
＊＊ブンカツ＊＊　5s	分割カットでメディア幅を越えるデータをカットした後、次のデータの受信を待っている。	10 秒間ホストコンピュータからのデータを受信しないと、データの区切れと認識します。 次に枠カット・マークカットを行いローカルになります。
＊＊ブンカツエンド＊＊	下記条件のとき表示する。 • メディア幅が 1cm 以下のとき • サンプルカットがメディア幅を越えるとき • 2 点軸補正が ON のとき • トンボ検出済みのとき	分割カットはできません。
コピースキップシマス	トンボ読み取り連続コピー時に、トンボが読み取れなかった。（1 パターン分読み飛ばす）	次のパターン以降、正常にトンボを読み取ることができれば問題ありません。 5 パターン以上連続で読み取れない場合、[エラー36-C トンボケンシュツ](☞ P.7-13) を表示します。
イチジテイシ　REM/END	トンボ検出動作中に REMOTE キーが押されたため、検出動作を一時停止中。	再度 REMOTE キーを押すことで、検出動作を再開します。 または、END キーで終了します。
シートガズレマシタ <ENT>	シートのずれが、スキューチェック (☞ P.4-15) 設定長を超えた	シートをセットし直し、 ENTER キーを押してください
メディアヲコウカン　シテクダサイ	リーフメディアでの連続コピーでメディア交換待ち中です。	リーフメディア (カット紙) を交換し、連続コピーを再開してください。
メディアエンド　　　REM/END	トンボ検出中またはロールメディアでカット中にメディア終端を検出した。	ロールメディアが終了したため、カットを継続できません。 END キーを押して新しいメディアと交換してください。
	メディアが浮いている。	メディアの浮きを直し、REMOTE キーを押してカットを再開してください。
	本装置の後ろ側から強い光が当たっている。	本装置の向きを変えるなどして、光の影響を受けないようにしてから、REMOTE キーを押してカットを再開してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージを表示する場合は、下の表に従って、エラーを取り除いてください。
それでもメッセージを表示する場合は、販売店または弊社営業所にご連絡ください。

<table>
<tr><th>エラーメッセージ</th><th>原因</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>***** ERROR 01 *****
MAIN ROM</td><td>制御基板に異常が発生した。
(ROM)</td><td rowspan="14">一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。
再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 02 *****
MAIN RAM</td><td>制御基板に異常が発生した。
(RAM)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 03 *****
POWER +5V</td><td>制御基板に異常が発生した。
(電源電圧 +5V)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 03 *****
POWER +24V</td><td>制御基板に異常が発生した。
(電源電圧 +24V)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 03 *****
POWER +42V</td><td>制御基板に異常が発生した。
(電源電圧 +42V)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 04 *****
フラッシュ ROM</td><td>制御基板に異常が発生した。
(パラメーター ROM)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 06 *****
SD-RAM</td><td>制御基板に異常が発生した。
(SDRAM)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 07 *****
ヘッド゛ (----)</td><td>ヘッドの接続に異常を検出した。
(異常な温度を検出)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 07 *****
デ゛ンアツ (----)</td><td>ヘッドの接続に異常を検出した。
(異常な電圧を検出)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 08 *****
リニアエンコータ゛ー: センサー</td><td>リニアエンコーダーの検出で異常が発生した。
(カウントできない)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 08 *****
リニアエンコータ゛ー: ホウコウ</td><td>リニアエンコーダーの検出で異常が発生した。
(取り付け方向の異常)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 08 *****
リニアエンコータ゛ー: カウント</td><td>リニアエンコーダーの検出で異常が発生した。
(読み出しカウント数異常)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 09 *****
FPGA エラー</td><td>制御基板に異常が発生した。
(FPGA PDC)</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 09 *****
HDC エラー (----)</td><td>制御基板に異常が発生した。
(FPGA HDC)</td></tr>
</table>

エラーメッセージ	原　　因	対処方法
***** ERROR 10 ***** ｺﾏﾝﾄﾞ ｴﾗｰ **** ERROR 10-C **** ｺﾏﾝﾄﾞ ｴﾗｰ	コマンドデータ以外のデータを受信した。	使用しているアプリケーションに応じてキョウツウセッテイ > ジュシンデータの設定を切替えてください。(☞ P.5-9) インタフェースケーブルを確実に接続してください。 規格に適合したインタフェースケーブルを使用してください。
***** ERROR 11 ***** ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ ｴﾗｰ **** ERROR 11-C **** ﾊﾟﾗﾒｰﾀｰ ｴﾗｰ	数値範囲外のパラメーターを受信した。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
***** ERROR 12 ***** ﾒﾝﾃ ｺﾏﾝﾄﾞ	コマンドデータ以外のデータを受信した。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
**** ERROR 12-C **** ﾃﾞﾊﾞｲｽ	不当なデバイス制御の指示がされた。	マシンへの制御指示を変更し、再度データを送信してください。 または、電源を再投入し、再度データを送信してください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは、販売店にサービスコールしてください。
**** ERROR 13-C **** ﾎﾟﾘｺﾞﾝ	受信バッファをオーバーした。	多角形データを分割して送信してください。
**** ERROR 15-C **** ｵｰﾄ ﾌｨｰﾄﾞ	データで指定した長さがフィードできなかった。	長いメディアをセットし再度実行してください。
***** ERROR 16 ***** MRL ｺﾏﾝﾄﾞ	受信データが、装置で設定したコマンド体系と異なる。	本装置に対応したアプリケーションを使用しコマンド体系のデータを送信してください。
***** ERROR 25 ***** FULL-SPEED	USB2.0 接続でホストコンピュータと本機との通信にエラーが発生した。(Full-Speed モード接続)	ホストコンピュータが USB2.0 インタフェイスに対応しているか確認してください。 (そのまま使用できますが、Hi-Speed モード接続を推奨します。)
***** ERROR 25 ***** ﾊﾟｹｯﾄｻｲｽﾞ ｵｰﾊﾞｰ ***** ERROR 25 ***** USB ﾌﾟﾛﾄｺﾙ ***** ERROR 25 ***** USB ｶﾝｷｮｳ ***** ERROR 25 ***** USB ﾃﾞｰﾀ	USB2.0 接続でホストコンピュータと本機との通信にエラーが発生した。	ケーブルが確実に接続してあるか、またはホストコンピュータ側でエラーが発生していないか確認してください。
***** ERROR 30 ***** ｼﾞｯｺｳ ﾃﾞｷﾏｾﾝ	操作パネルで不当なオペレーションをした。	ディスプレイの 2 行目に表示される理由により操作できません。該当するエラーなどを解除した上で、操作してください。

エラーメッセージ	原　因	対処方法
**** ERROR 31-C **** デ゛ータ ナシ	受信バッファにデータがないので、マイスウギリが実行できない。	本機にカットするデータを送ってから、マイスウギリをしてください。
**** ERROR 32-C **** デ゛ータカ゛ オオキイ	受信済のデータが大きすぎてマイスウギリが実行できない。	マイスウギリ機能を参照してください。
**** ERROR 33-C **** メデ゛ィア サイス゛	メディアの送り方向の長さが短すぎる。	長いメディアを使用してください。
***** ERROR 34 ***** フ゜リント デ゛ータ アリ	プリント未完了のデータがあるのに、ファンクション機能の設定変更や、動作できない機能を実施した。	受信済みのデータを全てプリントするか、データクリアを実行してから、再度、実施してください。
**** ERROR 34-C **** CUT デ゛ータ アリ	REMOTE でカット一時停止中に不当なオペレーションを実行した。	カットデータが完了まで実行するか、データクリアを実行してください。
**** ERROR 35-C **** マキトリ カット フカ	巻き取りを実行するため、メディアをオートカットできない。	ロール検出で巻き取りタイミングが設定されているときは、オートカットしません。 オートカットを優先させる場合は、マキトリタイミングの設定を “OFF” にしてください。 (☞ P.4-42)
**** ERROR 36-C **** トンホ゛ ケンシュツ	トンボ検出ができなかった。 （メディア検出後のトンボ検出にて）	下記の各項目を確認してください。 • メディアがカールしていないか • トンボ検出開始点の指定が正しいか (☞ P.4-16) • 白地のメディアに黒のトンボがプリントされているか • トンボ間に余計なプリントや汚れ、ゴミの付着などないか • トンボの各種設定に誤りがないか (☞ P.4-12) 上記確認事項に異常がない場合は、弊社サービスまたは、販売店にサービスコールしてください。

<table>
<tr><th>エラーメッセージ</th><th>原　因</th><th>対処方法</th></tr>
<tr><td>**** ERROR 36-C ****
JOG & <ENT>or<END>

**** ERROR 38-C ****
トンホ゛ スケール</td><td>トンボ検出ができなかった。
（トンボのコピーカット中にて）
• “ トンボケンシュツ ” と “JOG&<ENT>or<END>” の交互表示
• “ トンボスケール ” と “JOG&<ENT>or<END>” の交互表示</td><td>下記の各項目を確認してください。
• 本エラー発生時は、ライトポインタがトンボ検出開始位置で停止しています。ライトポインタの位置が正しいトンボ検出開始位置でない場合、JOG キーで正しい位置に移動した上で、ENTER キーを押し再検出を行ないます。
• コシのないメディアや、幅が約 600mm を越えるメディアを使用する場合は、ピンチローラーの使用個数 (中間）を増やしてください。
• コシのないメディアを使用する場合、トンボ一辺の長さを 8mm 以上にしてください。またコピーするトンボ間も 8mm 以上離して配置してください。
• 白地のメディアに黒のトンボがプリントされているか確認してください。
• トンボ間に余計なプリントや汚れ、ゴミの付着などないか確認してください。
• トンボの各種設定に誤りがないか確認してください。(☞ P.4-12)
• メディア押えを使用している場合にメディアが浮き上がっている可能性があります。その場合はメディア押さえを使用しないで実行してください。
上記確認事項に異常がない場合は、弊社サービスまたは、販売店にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>**** ERROR 37-C ****
トンホ゛ケ゛ンテン</td><td>トンボ検出の結果、原点を作図範囲外に検出した。</td><td>トンボを作図可能範囲内に配置してください。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 40 *****
モーターアラーム X</td><td>X モーターに過大な負荷がかかった。</td><td rowspan="6">一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。
再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 41 *****
モーターアラーム Y</td><td>Y モーターに過大な負荷がかかった。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 42 *****
X オーハ゛ーカレント</td><td>X モーターの過電流エラーを検出した。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 43 *****
Y オーハ゛ーカレント</td><td>Y モーターの過電流エラーを検出した。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 45 *****
キャッヒ゜ンク゛: ハ゜ラメーター</td><td>キャッピング制御に異常が発生した。（パラメーター調整値不正）</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 46 *****
ワイハ゜ー</td><td>ワイパー制御に異常が発生した。</td></tr>
<tr><td>***** ERROR 50 *****
メテ゛ィア ハハ゛ センサー カクニン</td><td>用紙を検出できなかった。</td><td>メディアセット位置、ピンチローラー位置を確認後、再度、メディア検出を実行してください。(☞ P.2-25)</td></tr>
</table>

エラーメッセージ	原　因	対処方法
＊＊＊＊＊ ERROR 51 ＊＊＊＊＊ Y ゲンテン	Y 原点検出ができなかった。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
＊＊＊＊ ERROR 120 ＊＊＊＊ シツオン ヒクイ (XX°C)	環境温度が使用可能温度範囲外 (低い) になっている。	室温を調整してください。(☞ P.3-39)
＊＊＊＊ ERROR 121 ＊＊＊＊ シツオン タカイ (XX°C)	環境温度が使用可能温度範囲外 (高い) になっている。	
＊＊＊＊ ERROR 144 ＊＊＊＊ カートリッジ セット!	カートリッジが挿入されていないスロットがある。	スロット部分が乾燥し、インクが使用できなくなる可能性があるため、カートリッジをセットしてください。
＊＊＊＊ ERROR 170 ＊＊＊＊ カッターヘッド ロック	カッターヘッドが待機位置で固定されず、連結器の切替ができなかった。	一度、電源を OFF にしてしばらくくたってから ON してください。再度、表示するときは弊社サービスまたは、販売店にサービスコールしてください。
＊＊＊＊ ERROR 170 ＊＊＊＊ プリントヘッド ロック	プリントヘッドが待機位置で固定されず、連結器の切替ができなかった。	
＊＊＊＊ ERROR 180 ＊＊＊＊ カッター レンケツ	動作中カッターユニットと連結器が外れてしまった。	
＊＊＊＊ ERROR 181 ＊＊＊＊ ピンチローラー イチ	用紙検出ができなかった。 ピンチローラー位置が不適当。	ピンチローラーを正しい位置にセットしてください。 それでもエラーを表示する場合は、弊社サービスまたは、販売店にサービスコールしてください。
＊＊＊＊ ERROR 200 ＊＊＊＊ ヘッド メモリー (----)	ヘッドユニットメモリーに異常が発生した。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
＊＊＊＊ ERROR 202 ＊＊＊＊ ソウチ コウセイ	ヘッドが接続されていない ヘッドスライダー基板異常 純正ヘッドではない	
＊＊＊＊ ERROR 203 ＊＊＊＊ SDRAM サイズ	装置に必要なサイズの SD-RAM が搭載されていない。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。 (使用可能な SDRAM が存在する場合は、そのまま起動できますが、解像度によってはプリントスピードが低下します。)
＊＊＊＊ ERROR 205 ＊＊＊＊ 42V HEAD Voltage	ヘッド電圧の異常を検出した。	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
＊＊＊＊ ERROR 206 ＊＊＊＊ MAIN PCB	メイン基板に異常が発生した。	
＊＊＊＊ ERROR 207 ＊＊＊＊ XXXXXXXXXX	ディスプレイ下段に印字している波形の異常を検出した。	

エラーメッセージ	原　因	対処方法
**** ERROR 208 **** CHECK MAIN PCB ID XX	メイン基板の機種 ID が違っている。(XX は ID コード)	一度、主電源を OFF にしてしばらくたってから主電源を ON にしてください。 再度、表示するときは弊社サービスまたは販売店にサービスコールしてください。
**** ERROR 211 **** ヒーター オンド゛ (--/--/--)	メディアヒーターの温度異常を検出した。	
**** ERROR 211 **** カオン ヒーター オンド゛(----)	ヘッド加温ヒーターの温度異常を検出した。	
**** ERROR 250 **** Y ザ゛ヒョウ	スキャン動作時に異常を検出した。	
**** ERROR 251 **** システム エラー	システムエラーが発生	

第8章
付録

この章では ...

本機の仕様一覧表や、 機能の一覧表を記載しています。

本体仕様 8-2
　プリンタ部仕様 8-2
　カット部仕様 8-2
　共通仕様 8-4
インク仕様... 8-5
警告ラベルについて 8-6
お問い合わせシート 8-8
機能フローチャート 8-9

本体仕様

プリンタ部仕様

項　目		CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
プリントヘッド部	方式	オンデマンドピエゾヘッド			
	仕様	1 ヘッド			
プリントモード (スキャン x フィード)		720 x 540dpi ／ 540 または 720 または 1440 x 720dpi ／ 540 x 900dpi ／ 540 または 720 x 1080dpi ／ 720 x 1440dpi ／ 1440 x 1440dpi			
使用可能インク	専用ソルベントインク	ES3 インク または SS21 インク いずれか 1 種			
	専用水性インク	Eco-PA1 インク ：4 色 (Y,M,C,K) 6 色 (Y,M,C,K,Lc,Lm) 7 色 (Y,M,C,K,Lc,Lm,Lk)			
インク供給		インクカートリッジからのチューブ供給 インクカートリッジ交換方式： 4 色時のみ、2 カートリッジ /1 色によるトグル切換供給			
インク容量		8 色搭載時 : 白、シルバー　220cc カートリッジ各色 1 本 それ以外　440cc カートリッジ各色 1 本 6 色搭載時 : 440cc カートリッジ各色 1 本 , 440 cc/1 色 (M,C のみ 2 本 880cc) 6 色 + 白色搭載時 白色　220cc カートリッジ 2 本、440cc/1 色 白以外　440cc カートリッジ各色 1 本 , 440 cc/1 色 4 色搭載時 : 440cc カートリッジ各色 2 本 ,880cc/1 色			
使用可能メディア		FF ／ターポリン／塩ビフィルム／ MS 塩ビ／ MS ターポリン			
デッドスペース	リーフメディア	左右 : ピンチローラー検出位置内側 (デフォルト値) ／ 前 : 40.0 ㎜／後 : 98.5 ㎜			
	ロールメディア	左右 : ピンチローラー検出位置内側 (デフォルト値) ／ 前 : 40.0 ㎜／後 : 0.0 ㎜			
ヘッド高さ調整		2.0mm/3.0mm (プラテン面より) 2 段階調整			
廃インクタンク		ボトル式 (2000 cc)			
画像メモリ		SD-RAM 128MB			
コマンド		MRL- Ⅲ（ミマキオリジナルコマンド）			

カット部仕様

項　目	CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
最大速度 *1	30cm/s			
最大加速度	1G			
カット圧力	10~350g			
使用可能ツール	偏芯カッター／水性ボールペン／油性ボールペン／ 手書き用ボールペン（市販品）*2			
カッター応答回数	10 回／ sec			

項　目		CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
使用可能メディア		MS 塩ビ／塩ビシート（ラミネート加工を含み厚さ 0.25mm 以下 *3）／蛍光シート *4 ／反射シート *4（高輝度反射シートは除く）			
デッドスペース	リーフメディア	左右 : ピンチローラー検出位置内側 (デフォルト値) ／前 : 40.0 ㎜／後 : 98.5 ㎜			
	ロールメディア	左右 : ピンチローラー検出位置内側 (デフォルト値) ／前 : 40.0 ㎜／後 : 0.0 ㎜			
反復精度 *5		± 0.2 ㎜ （フィルムの温度による伸縮を除く）			
受信バッファメモリ		SD-RAM 30MB（ソーティング有効には 20MB）			
コマンド		MGL- Ⅱ c2			
プログラムステップ		25µm ／ 10µm			

*1. メディアサイズによって最大速度が制限される場合があります。また、速度・加速度ともに最大での動作はできません。
*2. Φ8 ～ Φ9 でクランプされる部分に、出っ張りやテーパーの無いものを使用してください。また、ペン先位置がペンによってばらつきますので、画質は保障できません。
*3. 当社規定のシートによる。
*4. 蛍光シート専用刃（SPB-0007）、反射シート専用刃（SPB-0006）使用時。
*5. 反復精度については、ページ下部を参照してください。

反復精度の条件

プロッタの状態

- クランプ圧力：強

メディアセット状態

- メディアのサイドマージン：20 ㎜以上
- メディアのフロント側の状態：反り、浮きが無いこと。
- メディアの折れ曲がりによる、メディアと台紙の剥離（気泡混入）が無いこと。
- メディアフィードにより、正しくメディアがセットされていること。
- ロールメディアの場合、巻き緩みが無いこと。（左右端面に段差が無いこと）

カット速度

- 30cm/s 以下（付属のカッター使用時）

カットデータ

- メンテナンス用テストパターン（長手方向連続 10 往復）
- カット中メディアの極端な折れ曲がりによる、メディアと台紙の剥離（気泡混入）がないこと。

共通仕様

項　目		CJV30-60	CJV30-100	CJV30-130	CJV30-160
最大プリント / カット幅		610mm	1020mm	1361mm	1610mm
ロールメディアサイズ	最大幅	620mm	1030mm	1371mm	1620mm
	最小幅	100mm			
	厚さ	1.0mm 以下			
	ロール外径	Φ180mm 以下			
	ロール重量 *1	25kg 以下			
	紙管内径	2 インチまたは 3 インチ			
	プリント面	ロール外側面			
	巻終わり処理	紙管にテープ止め、または弱粘着			
リーフメディアサイズ	最大幅	620mm	1030mm	1371mm	1620mm
	最小幅	100mm			
距離精度	絶対精度	± 0.3 ㎜ または指定距離の ± 0.3 % の大きい方			
	再現性	± 0.2 ㎜ または指定距離の ± 0.1 % の大きい方			
直角精度		± 0.5 ㎜ / 1000 ㎜			
メディアスキュー		5 ㎜ 以下 / 10 m			
メディア裁断		カッターヘッド部に装備した裁断カッターによる Y 方向カット（裁断精度 (段差) 0.5 mm 以下）			
排紙		ロール巻き取り装置標準 (内巻き / 外巻き 切り替え可能)			
インターフェイス		USB 2.0			
騒音	待機時	58 dB 以下 (FAST-A, 前後左右 1m, 吸着ファン Low)			
	動作連続音	70 dB 以下			
適合規格		VCCI-classA, FCC ClassA, UL 60950, CE マーキング (EMC 指令、低電圧指令）, CB レポート , RoHS 対応			
電源仕様		AC100 ～ 120±10% , AC220 ～ 240±10% , 50/60Hz±1Hz , 15A 以下			
消費電力 *2		1380 W 以下			
設置環境	使用可能温度	20 ℃～ 35 ℃			
	相対湿度	35 ～ 65% Rh (結露なきこと)			
	精度保証温度	20 ℃～ 25 ℃			
	温度勾配	±10 ℃ / h 以下			
	粉塵	オフィス相当			
重量		110kg	130kg	145kg	160kg
外形寸法	幅	1524 mm	1934 mm	2289mm	2538mm
	奥行き	739 mm			
	高さ	1424 mm			

*1. ただしロールの左右を保持した時、ロールがたわまないこと。
*2. 本体とヒーターを含む。

インク仕様

項　目		ソルベントインクをご使用の場合	水性インクをご使用の場合
形態		専用インクカートリッジ	
色		ブラックインクカートリッジ シアンインクカートリッジ マゼンタインクカートリッジ イエローインクカートリッジ ライトシアンインクカートリッジ ライトマゼンタインクカートリッジ ホワイトインクカートリッジ *1 シルバーインクカートリッジ *2	ブラックインクカートリッジ シアンインクカートリッジ マゼンタインクカートリッジ イエローインクカートリッジ ライトシアンインクカートリッジ ライトマゼンタインクカートリッジ ライトブラック *3
インク容量		220cc / 440cc カートリッジ	
有効期限		有効期限は、インクカートリッジに記載されている通り。 ただし、開封後は有効期限内であっても 3ヶ月以内。	
保存温度	保存時	0 ～ 25 ℃（1 日の平均気温） • 容器は密閉した状態で保管すること。	10 ～ 35 ℃（1 日の平均気温） • 容器は密閉した状態で保管すること。 • 乾燥した換気の良い冷暗所に保管すること。
	輸送時	-20 ～ 60 ℃ • -20 ℃より低温になる場所、60 ℃より高温になる場所は避けること。	0 ～ 40 ℃ • 0 ℃より低温になる場所、40 ℃より高温になる場所は避けること。

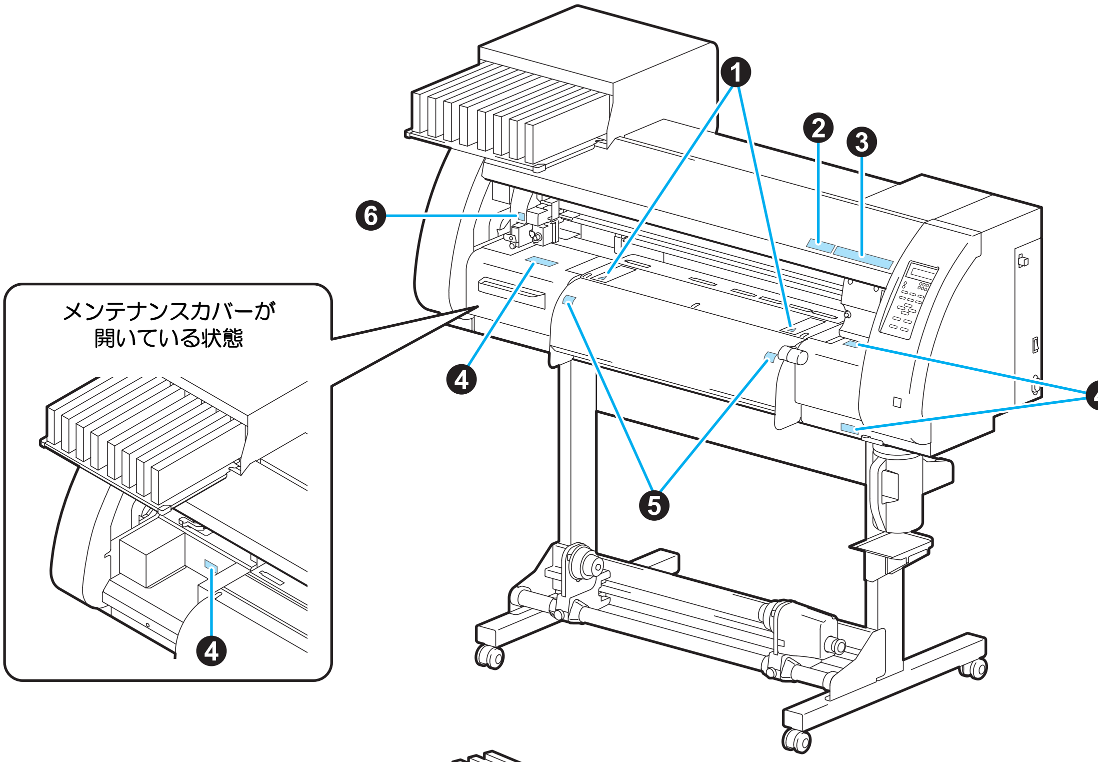
*1. SS21W-2 (SPC-0504-W) インクカートリッジ使用時
ES3 ホワイトインク (SPC-0433-W) インクカートリッジ使用時
*2. ES3 シルバーインク (SPC-0433-Si) インクカートリッジ使用時
*3. Eco-PA1 インク使用時

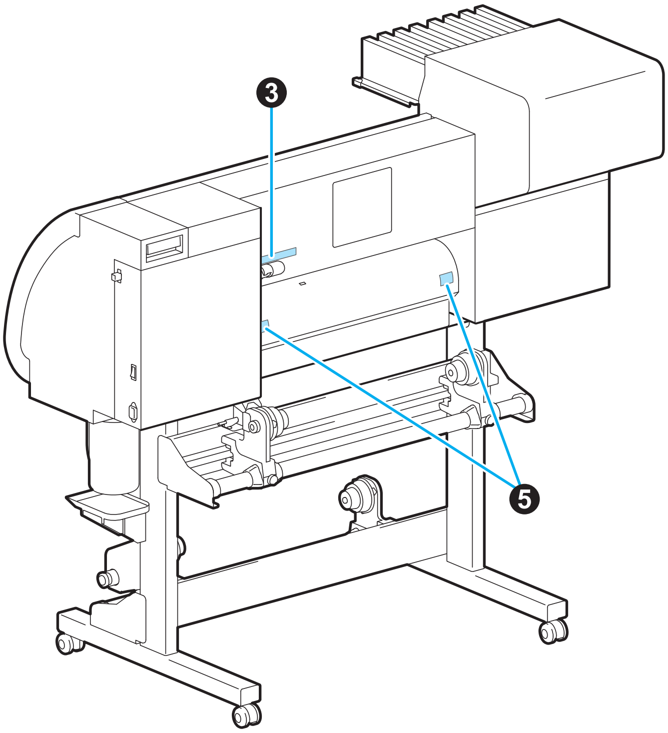
重 要！

- インクカートリッジを分解したり、インクを詰め替えないでください。
- インクは、寒い場所で長時間放置すると凍結する場合があります。
- 万一インクが凍結したときは、室温 (25 ℃) で 3 時間以上かけて解凍してから使用してください。

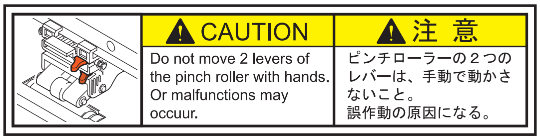
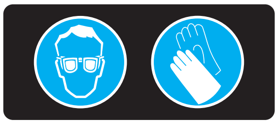
警告ラベルについて

本装置には、下記の警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルの内容を十分理解してください。
なお、警告ラベルが汚れて読めなくなったり剥がれた場合は、新しい警告ラベルを販売店または弊社営業所にてお買い求めください。





P
C

No.	注文番号	ラベル
1	M904810	
2	M905935	
3	M905811	
4	M903330	
5	M903239	
6	M903405	

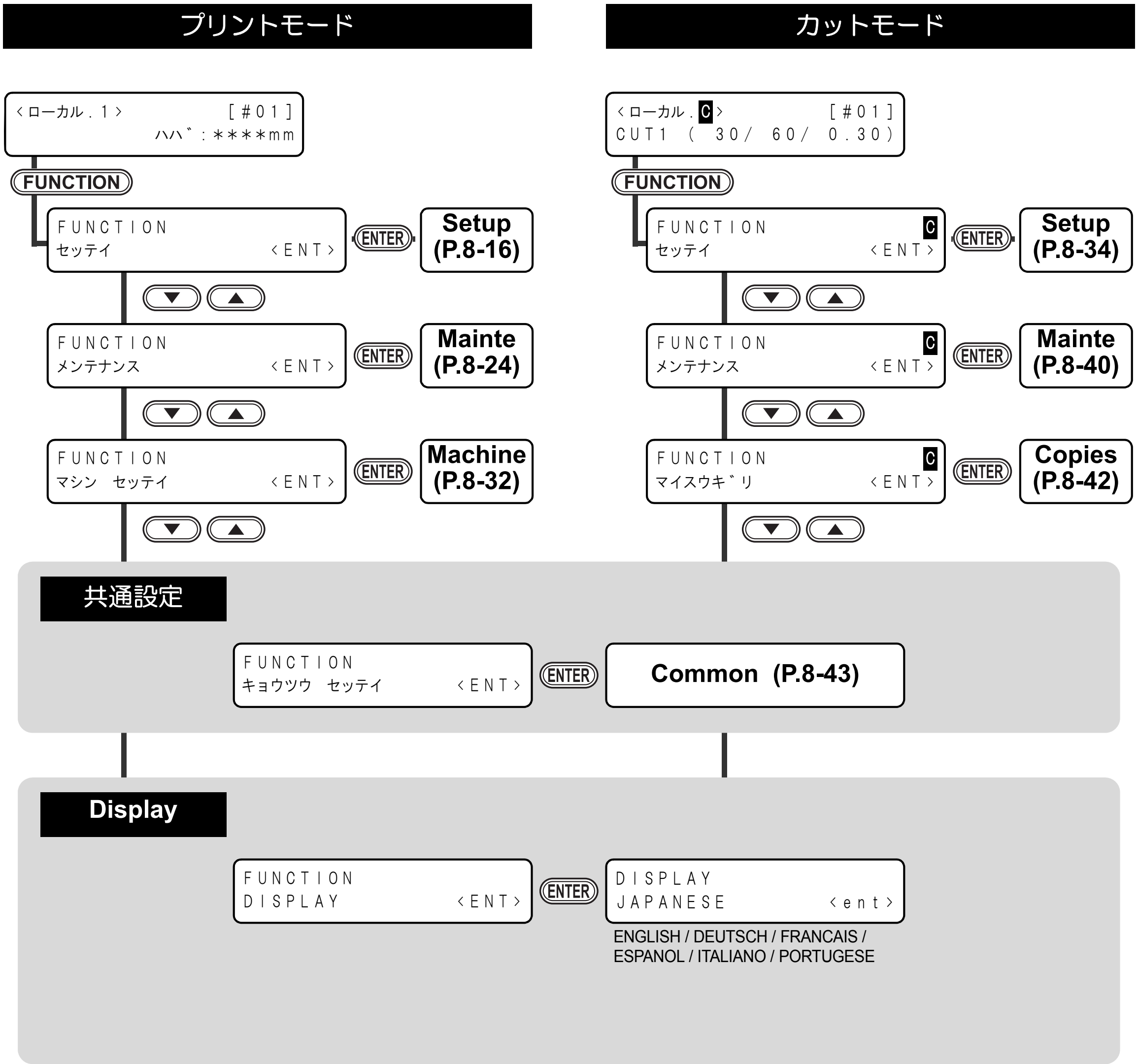
お問い合わせシート

プリンタの故障、異常動作については、このシートをお使いください。
下記の必要事項をご記入の上、弊社営業所まで FAX でお送りください。

御社名	
ご担当者名	
お電話番号	
プリンタ機種名	
お使いの **OS**	
マシン情報*1	
エラーメッセージ	
お問い合わせ内容	

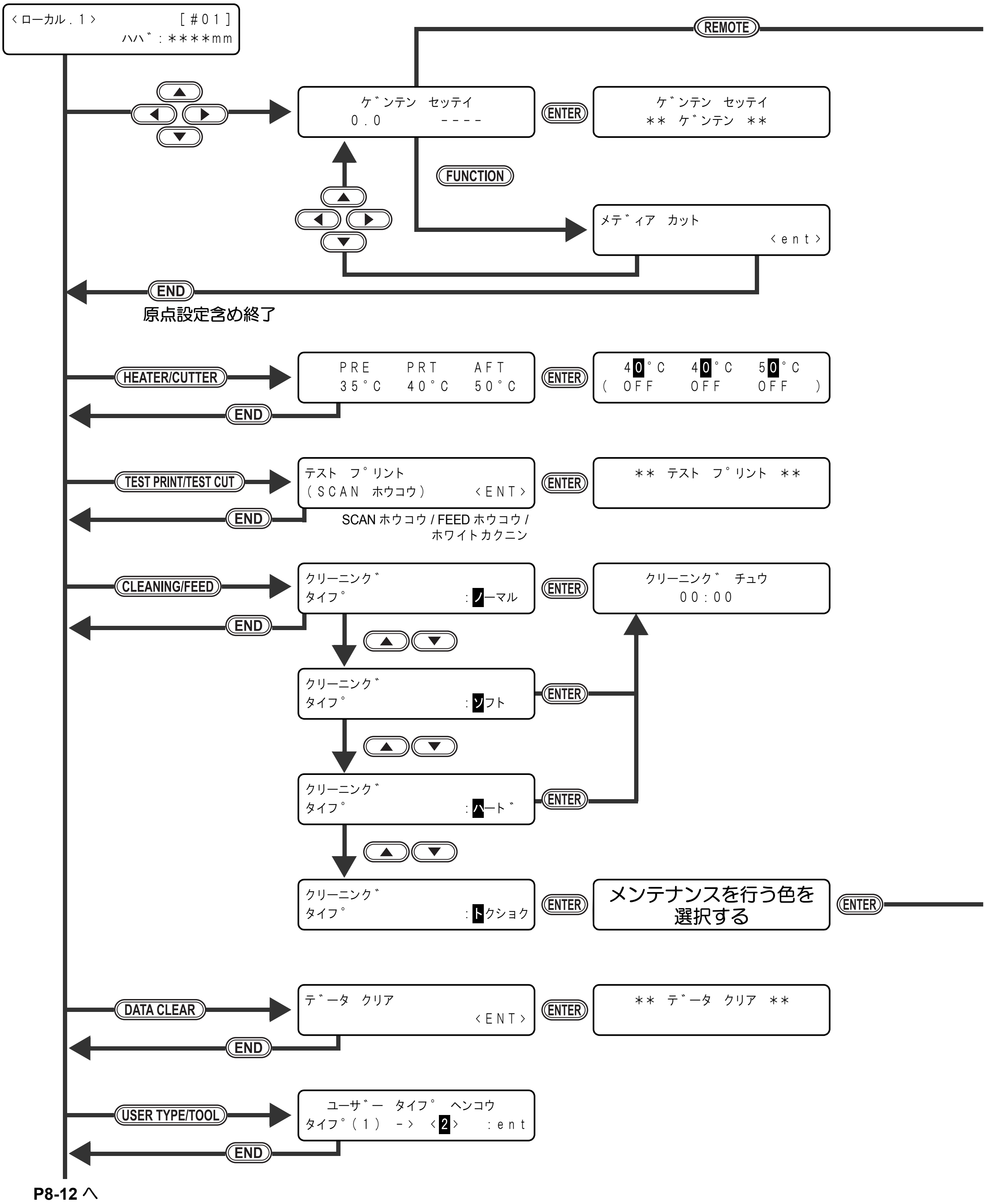
*1.「第５章 応用機能ー共通設定ー」の、「装置情報を確認する」(☞ P.5-14) をご覧いただき、必要な情報をご記入ください。

機能フローチャート



P
C
8
付録

プリンタモードでのローカルメニュー

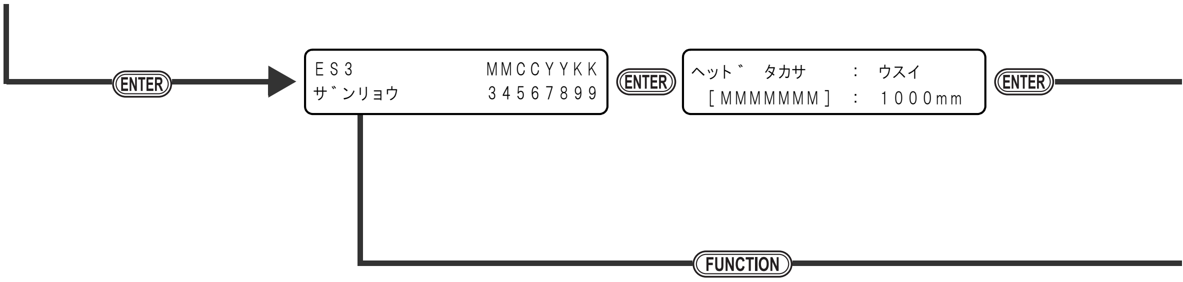


メテ゛ィア　サ゛ンリョウ　フ゜リント
<ENT>

メンテナンスメニューの [メディアザンリョウ] が **“ON”** の場合のみ

カートリッジを取り外す → カートリッジを **5** ～ **6** 回振る → (ENTER) → カートリッジをセットする

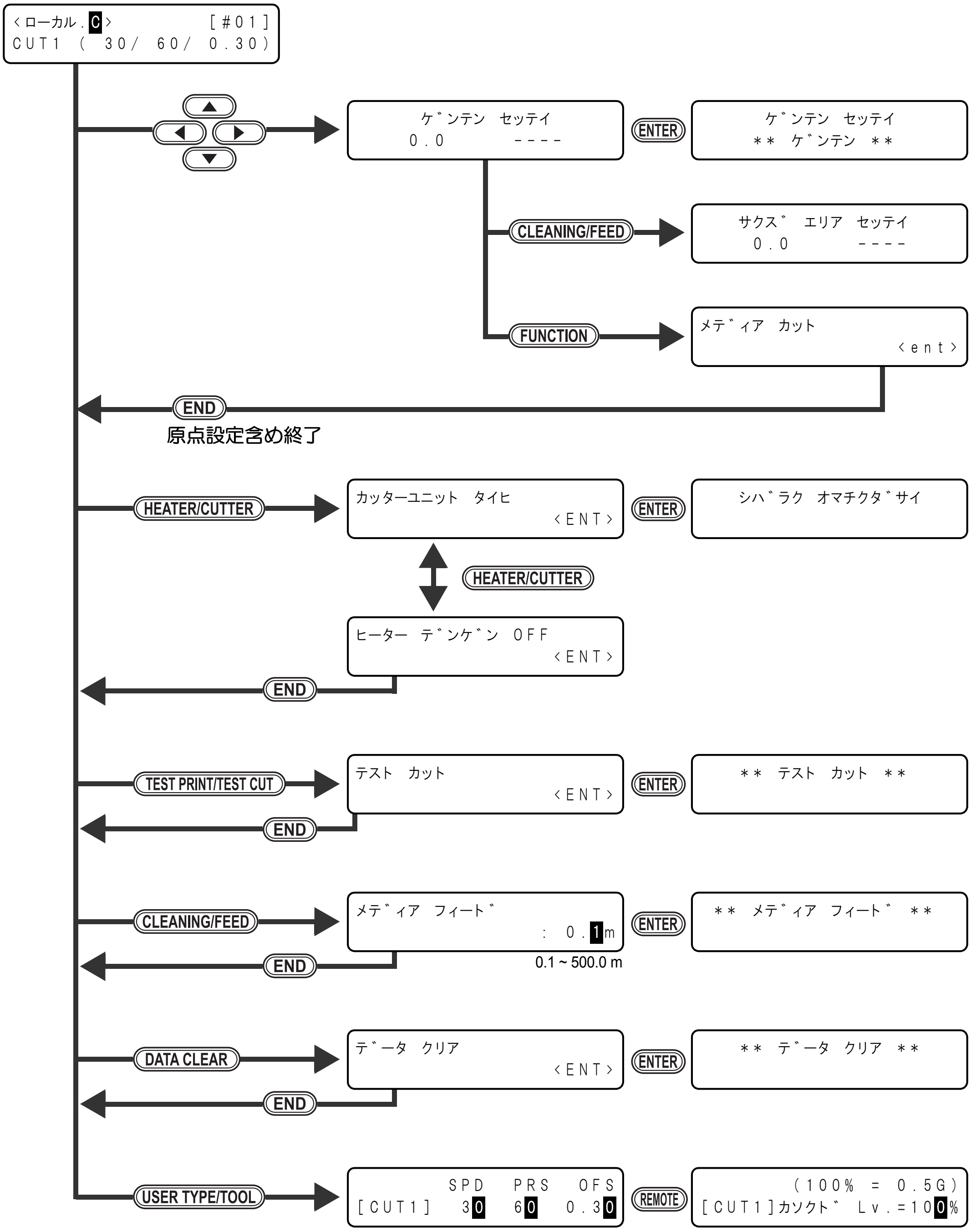
P8-10 から

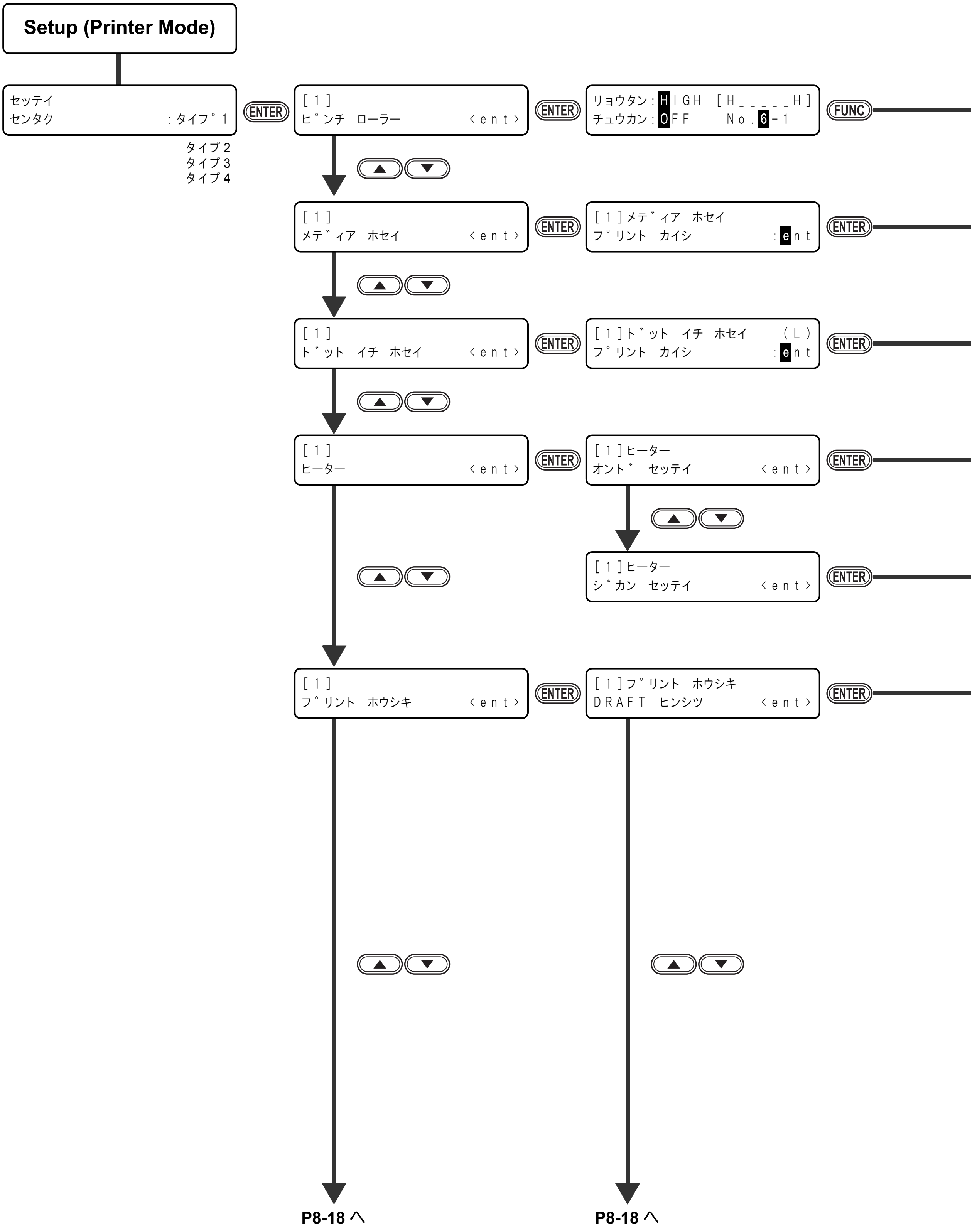

ENTER
ES3 MMCCYYKK
ザ゛ンリョウ 34567899
ENTER
ヘット゛ タカサ : ウスイ
[MMMMMMM] : 1000mm
ENTER
FUNCTION

```
CJV30-60     V1.00
MRL-III      V1.00
```

ヒ シ゛ュンセイ インク M-C- ---K	インク IC イシ゛ョウ M-C- ---K	インク シュルイ M-C- ---K
インク カラー M-C- ---K	カートリッシ゛ イシ゛ョウ M-C- ---K	カートリッシ゛ ナシ M-C- ---K
キケ゛ン キ゛レ （2カケ゛ツ） M-C- ---K	サ゛ンリョウ 0 M-C- ---K	インク エント゛ M-C- ---K
インク ニア エント゛ M-C- ---K	キケ゛ン キ゛レ （1カケ゛ツ） M-C- ---K	インク キケ゛ン キ゛レ M-C- ---K

カットモードでのローカルメニュー




Setup (Printer Mode)
セッテイ
センタク : タイフ゜1
タイプ2
タイプ3
タイプ4
ENTER
[1]
ヒ゜ンチ ローラー <ent>
ENTER
リョウタン:HIGH [H_____H]
チュウカン:OFF No.6-1
FUNC
[1]
メテ゛ィア ホセイ <ent>
ENTER
[1]メテ゛ィア ホセイ
フ゜リント カイシ :ent
ENTER
[1]
ト゛ット イチ ホセイ <ent>
ENTER
[1]ト゛ット イチ ホセイ (L)
フ゜リント カイシ :ent
ENTER
[1]
ヒーター <ent>
ENTER
[1]ヒーター
オント゛ セッテイ <ent>
ENTER
[1]ヒーター
シ゛カン セッテイ <ent>
ENTER
[1]
フ゜リント ホウシキ <ent>
ENTER
[1]フ゜リント ホウシキ
DRAFT ヒンシツ <ent>
ENTER
P8-18 へ
P8-18 へ

リョウタン：－－－－　［H＿＿L＿＿H］
チュウカン：－－－－　Ｎｏ．６－１

フ゜リント　チュウ
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ
プリント終了
［１］メテ゛ィア　ホセイ
ホセイチ　＝　０
-255 ～ 255

フ゜リント　チュウ
シハ゛ラク　オマチクタ゛サイ
プリント終了
ト゛ット　イチ　ホセイ　（Ｌ）
ハ゜ターン１　＝　０．０
-40.0 ～ 40.0
ENTER
パターン 2 ～の
設定を行う

ＰＲＥ　ＰＲＴ　ＡＦＴ
３５゜Ｃ　４０゜Ｃ　５０゜Ｃ
▲▼数値変更、
◀▶カーソル移動

スタンハ゛イ　：ＯＦＦ　シ゛カン
１０ｍｉｎ　：　ナシ
▲▼数値変更、
◀▶カーソル移動

［１］フ゜リント　ホウシキ
ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ　：ヒョウシ゛ュン
ヒョウジュン，ハヤイ，キレイ
FUNC
［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
５４０ｘ７２０　‹ｅｎｔ›
ENTER
［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
ＰＡＳＳ＝８　：スキャン＝コウソク

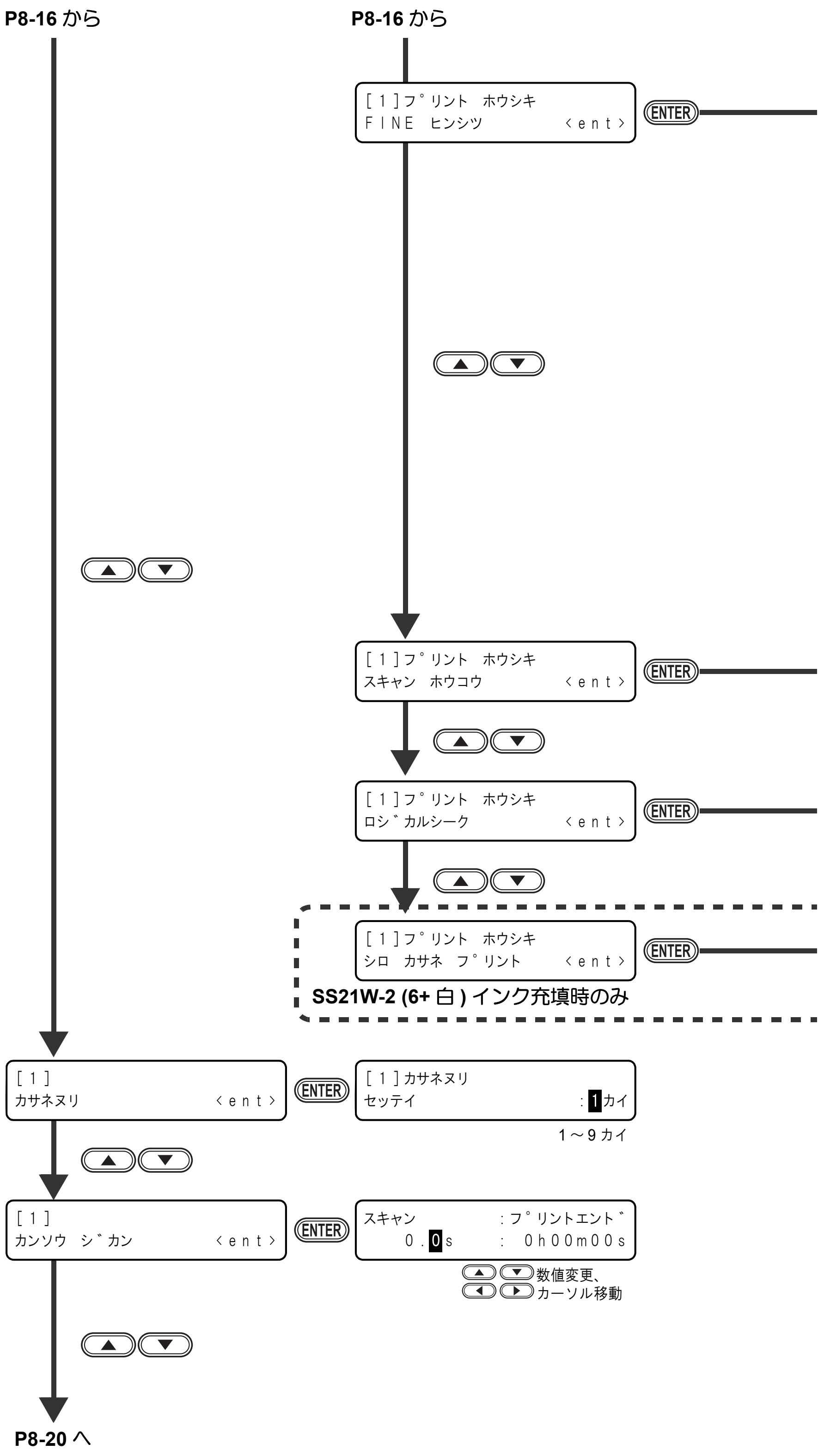
▲▼

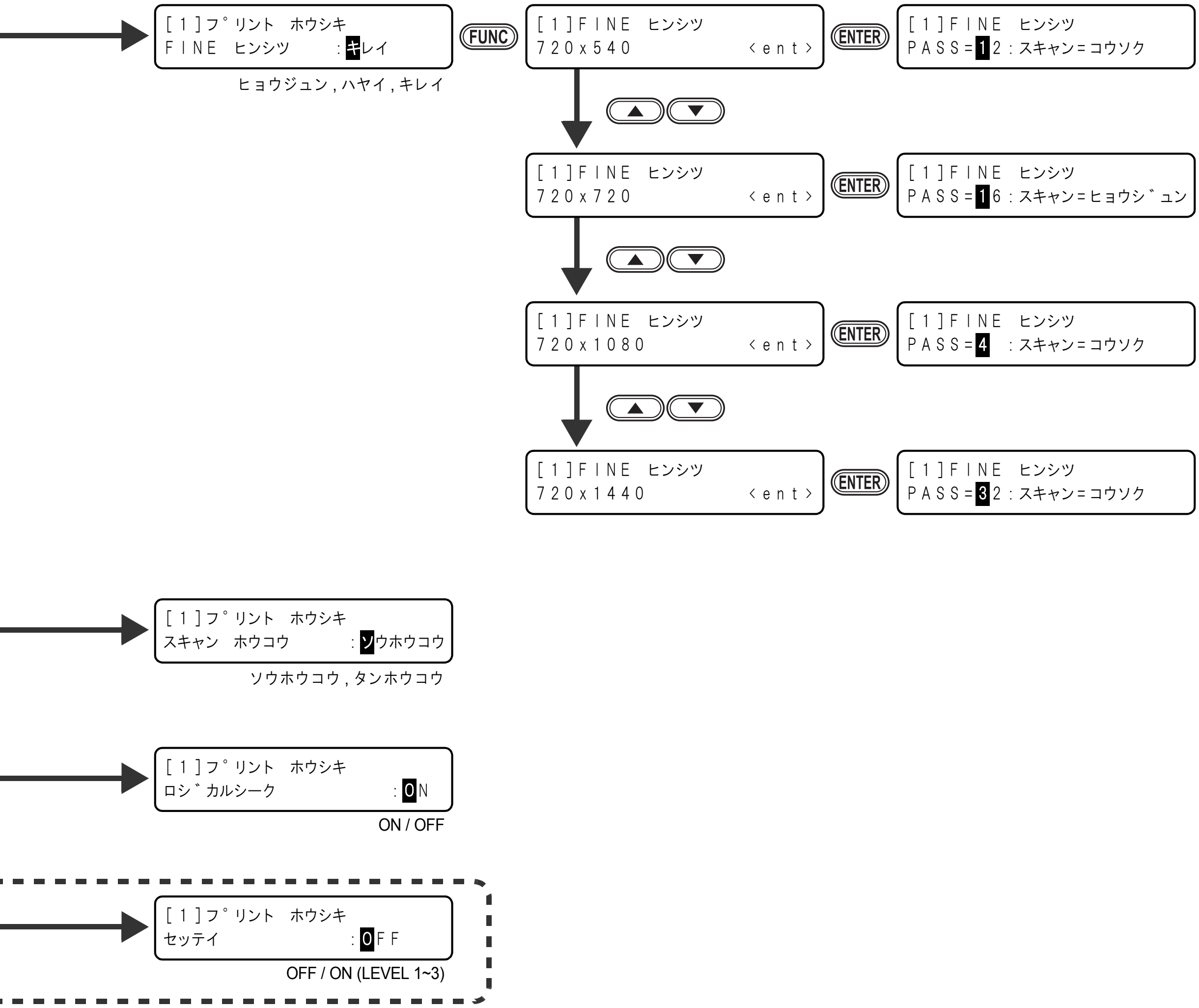
［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
５４０ｘ９００　‹ｅｎｔ›
ENTER
［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
ＰＡＳＳ＝２０：スキャン＝コウソク

▲▼

［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
５４０ｘ１０８０　‹ｅｎｔ›
ENTER
［１］ＤＲＡＦＴ　ヒンシツ
ＰＡＳＳ＝１２：スキャン＝ヒョウシ゛ュン

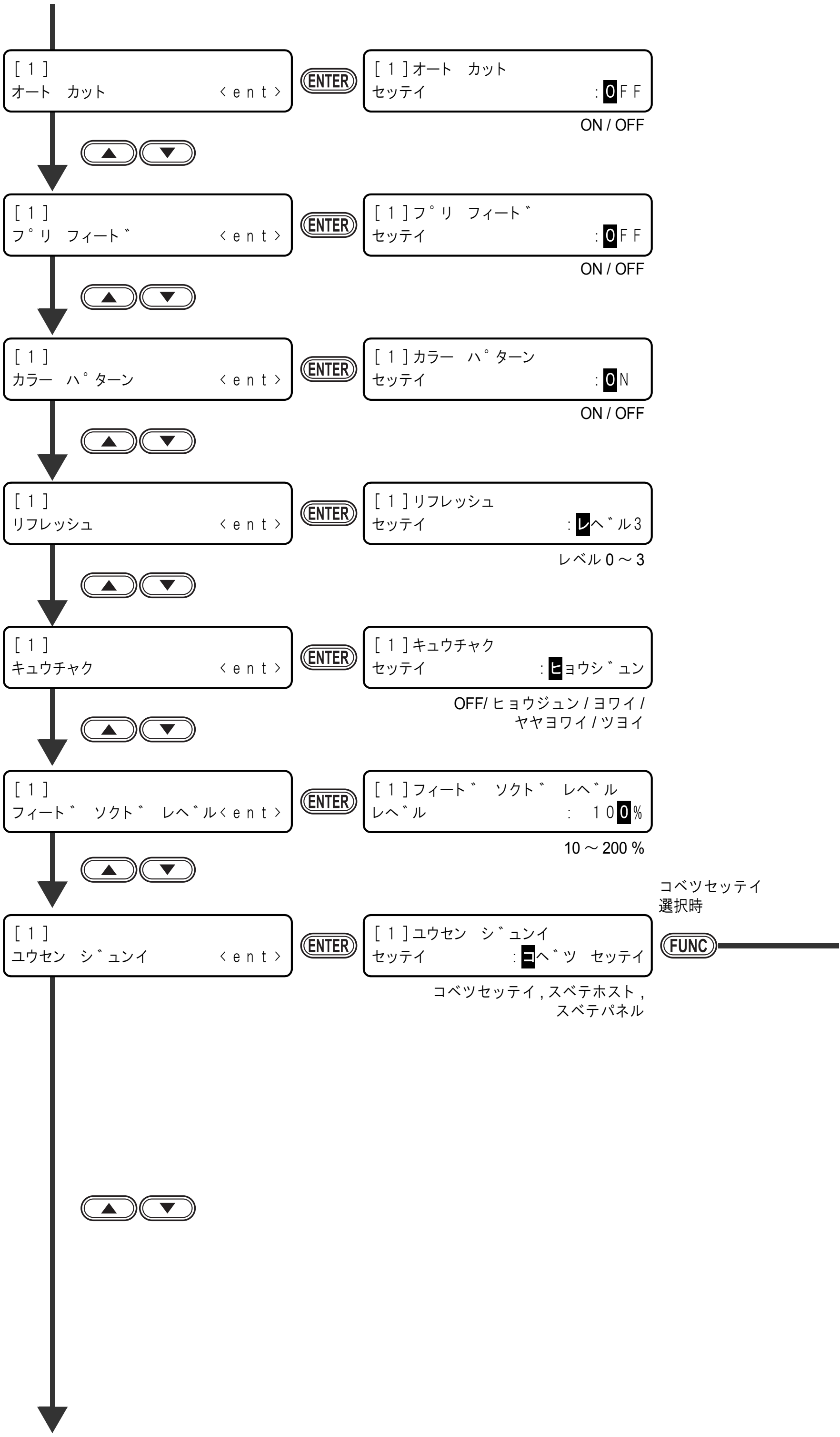
P
C
8
付録


P8-16 から
P8-16 から
[1]プ゜リント　ホウシキ
FINE　ヒンシツ　<ent>
ENTER
[1]プ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　<ent>
ENTER
[1]プ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　<ent>
ENTER
[1]プ゜リント　ホウシキ
シロ　カサネ　プ゜リント　<ent>
ENTER
SS21W-2 (6+ 白) インク充填時のみ
[1]
カサネヌリ　<ent>
ENTER
[1]カサネヌリ
セッテイ　: 1カイ
1～9 カイ
[1]
カンソウ　シ゛カン　<ent>
ENTER
スキャン　: プ゜リントエント゛
0 . 0s　:　0h00m00s
数値変更、
カーソル移動
P8-20 へ


[1]プ゜リント　ホウシキ
FINE ヒンシツ　:キレイ
ヒョウジュン，ハヤイ，キレイ
FUNC
[1]FINE ヒンシツ
720x540　<ent>
ENTER
[1]FINE ヒンシツ
PASS=12：スキャン=コウソク
[1]FINE ヒンシツ
720x720　<ent>
[1]FINE ヒンシツ
PASS=16：スキャン=ヒョウシ゛ュン
[1]FINE ヒンシツ
720x1080　<ent>
[1]FINE ヒンシツ
PASS=4　：スキャン=コウソク
[1]FINE ヒンシツ
720x1440　<ent>
[1]FINE ヒンシツ
PASS=32：スキャン=コウソク
[1]プ゜リント　ホウシキ
スキャン　ホウコウ　:ソウホウコウ
ソウホウコウ，タンホウコウ
[1]プ゜リント　ホウシキ
ロシ゛カルシーク　:ON
ON / OFF
[1]プ゜リント　ホウシキ
セッテイ　:OFF
OFF / ON (LEVEL 1~3)

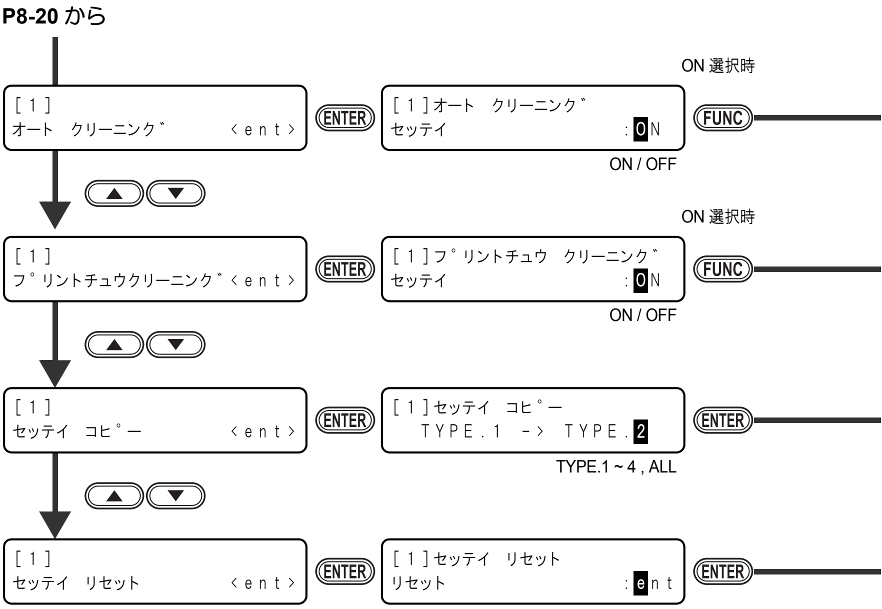
P
C
8
付録

P8-18 から



P8-22 へ

[1]ユウセン シ゛ュンイ
メテ゛ィア ホセイ :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
ヒーター :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
フ゜リント ホウシキ :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
カサネヌリ :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
カンソウ シ゛カン :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
オート カット :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
フ゜リフィート゛ :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
カラー ハ゜ターン :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
リフレッシュ :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
キュウチャク :ホスト
ホスト / パネル
ENTER
[1]ユウセン シ゛ュンイ
フィート゛ ソクト゛ レヘ゛ル :ホスト
ホスト / パネル

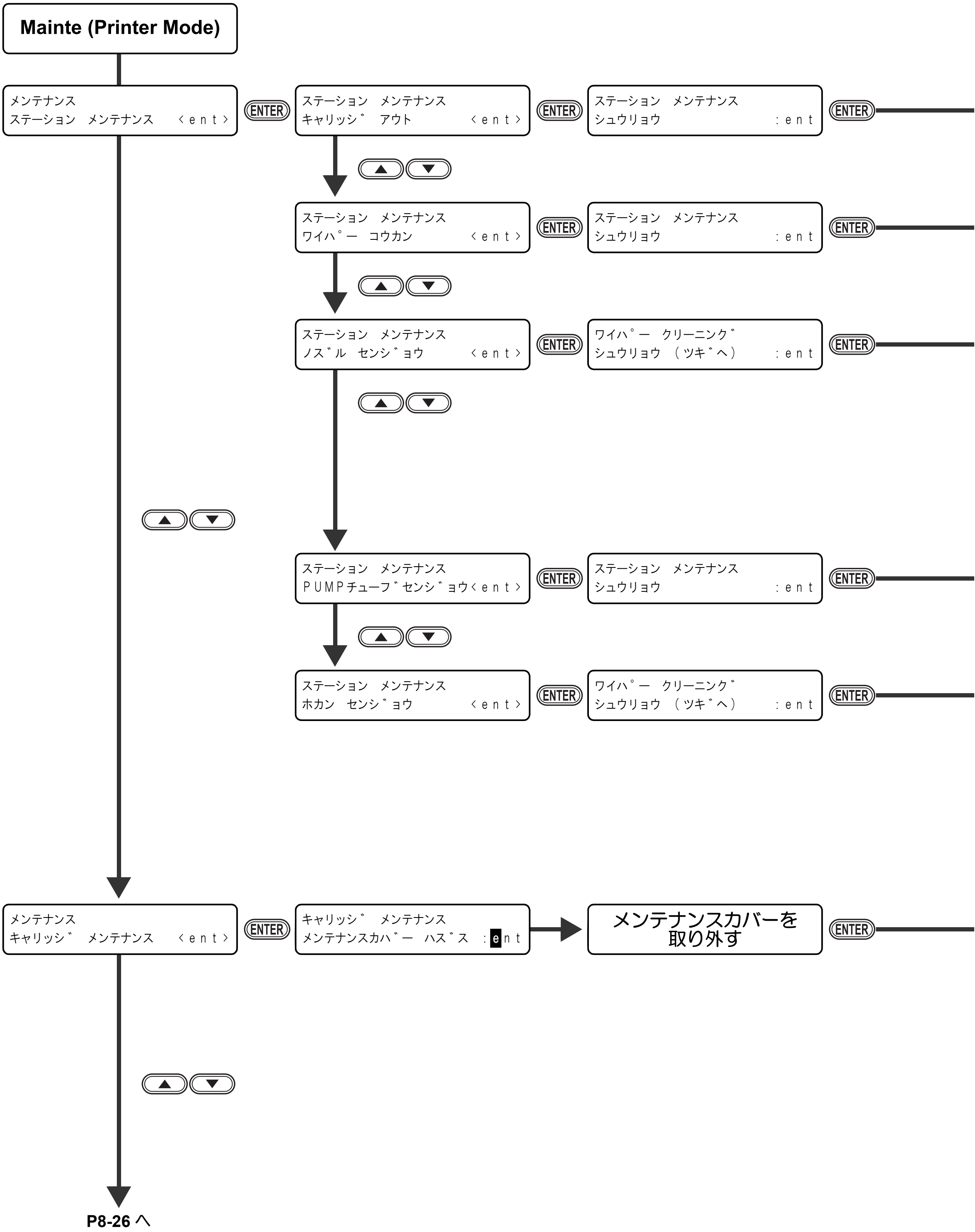

P8-20 から
[1]
オート　クリーニング゛　〈ent〉
ENTER
[1] オート　クリーニング゛
セッテイ　: ON
ON / OFF
ON 選択時
FUNC
[1]
プ゜リントチュウクリーニング゛〈ent〉
ENTER
[1] プ゜リントチュウ　クリーニング゛
セッテイ　: ON
ON / OFF
ON 選択時
FUNC
[1]
セッテイ　コピ゜ー　〈ent〉
ENTER
[1] セッテイ　コピ゜ー
TYPE.1　-> TYPE.2
TYPE.1 ~ 4 , ALL
ENTER
[1]
セッテイ　リセット　〈ent〉
ENTER
[1] セッテイ　リセット
リセット　: ent
ENTER

```
カンカク          ：タイフ゜
1000mm          ：ノーマル
```
▲▼数値変更、
◀▶カーソル移動

```
カンカク          ：タイフ゜
1000mm          ：ノーマル
```
▲▼数値変更、
◀▶カーソル移動

```
コヒ゜ー スル            ：ent
  TYPE.1  -> TYPE.2
```
(ENTER) → コピー開始

選択ユーザータイプの
設定パラメータの初期化


Mainte (Printer Mode)
メンテナンス
ステーション　メンテナンス　　＜ent＞
ENTER
ステーション　メンテナンス
キャリッシ゛　アウト　　　　＜ent＞
ENTER
ステーション　メンテナンス
シュウリョウ　　　　　　　：ent
ENTER
ステーション　メンテナンス
ワイハ゜ー　コウカン　　　＜ent＞
ENTER
ステーション　メンテナンス
シュウリョウ　　　　　　　：ent
ENTER
ステーション　メンテナンス
ノズ゛ル　センシ゛ョウ　　＜ent＞
ENTER
ワイハ゜ー　クリーニンク゛
シュウリョウ　（ツキ゛ヘ）　：ent
ENTER
ステーション　メンテナンス
PUMPチューフ゛センシ゛ョウ＜ent＞
ENTER
ステーション　メンテナンス
シュウリョウ　　　　　　　：ent
ENTER
ステーション　メンテナンス
ホカン　センシ゛ョウ　　　＜ent＞
ENTER
ワイハ゜ー　クリーニンク゛
シュウリョウ　（ツキ゛ヘ）　：ent
ENTER
メンテナンス
キャリッシ゛　メンテナンス　＜ent＞
ENTER
キャリッシ゛　メンテナンス
メンテナンスカハ゛ー　ハス゛ス　：ent
メンテナンスカバーを
取り外す
ENTER
P8-26 へ

初期動作完了後
ローカルへ

初期動作完了後
ローカルへ

センジョウエキ　ヲ　ミタス
シュウリョウ　（ツギヘ）　:ent

ENTER

ステーション　メンテナンス
ホウチ　ジカン　:1min

1 ~ 99 min

ENTER

設定時間の間
放置

初期動作完了後
ローカルへ

初期動作完了後
ローカルへ

センジョウエキ　ヲ　ミタス
シュウリョウ　（ツギヘ）　:ent

ENTER

ステーション　メンテナンス
ホウチ　ジカン　:1min

1 ~ 99 min

ENTER

設定時間の間
放置

初期動作完了後
ローカルへ

ステーション　メンテナンス
シュウリョウ　:ent

ENTER

初期動作完了後
ローカルへ

キャリッジ　メンテナンス
キャリッジ　アウト　:ent

ENTER

キャリッジ　メンテナンス
シュウリョウ　:ent

ENTER

初期動作完了後
ローカルへ

P
C

P8-24 から

メンテナンス
ヘット゛　メンテナンス　＜ent＞

[ENTER]

ヘット゛　メンテナンス
インクシ゛ュウテン　＜ent＞

[ENTER]

シ゛ュウテン　チュウ
00：00

[▲][▼]

ヘット゛　メンテナンス
ハイシュツ　＆　センシ゛ョウ　＜ent＞

[ENTER]

インク　カートリッシ゛　ヲ　ハス゛ス
MMCCYYKK

[ENTER]

[▲][▼]

ヘット゛　メンテナンス
メンテナンス　センシ゛ョウエキ＜ent＞

[ENTER]

メンテナンス　センシ゛ョウエキ
シ゛ュウテン　＜ent＞

[ENTER]

[▲][▼]

メンテナンス　センシ゛ョウエキ
ハイシュツ　＜ent＞

[ENTER]

[▲][▼]

メンテナンス
スリーフ゜　セッテイ　＜ent＞

[ENTER]

スリーフ゜　セッテイ
リフレッシュ　＜ent＞

[ENTER]

スリーフ゜　セッテイ
リフレッシュ　カンカク　＝　4h

OFF/1 ～ 168h

[▲][▼]

スリーフ゜　セッテイ
PUMPチューフ゛センシ゛ョウ＜ent＞

[ENTER]

スリーフ゜　セッテイ
センシ゛ョウ　カンカク　＝　4h

OFF/1 ～ 168h

[▲][▼]

スリーフ゜　セッテイ
クリーニンク゛　＜ent＞

[ENTER]

スリーフ゜　セッテイ
クリーニンク゛　カンカク　＝　4h

OFF/1 ～ 168h

[FUNC]

[▲][▼]

P8-28 へ

P
C

＊ ハイシュツ　チュウ　＊
00：00

センシ゛ョウ　エキ　ヲ　セット　スル
12345678

＊ キュウイン　チュウ　＊
00：00

センシ゛ョウ　エキ　ヲ　ハス゛ス
12345678

＊ ハイシュツ　チュウ　＊
00：00

センシ゛ョウ　エキ　ヲ　セット　スル
12345678

＊ キュウイン　チュウ　＊
00：00

センシ゛ョウ　エキ　ヲ　ハス゛ス
12345678

＊ ハイシュツ　チュウ　＊
00：00

シ゛ョウキョウニ　オウシ゛テ　センタク
シュウリョウ＜　　　＞サイセンシ゛ョウ

メンテナンス　センシ゛ョウエキ
カートリッシ゛　：　ナシ

カートリッジをセット

メンテナンス　センシ゛ョウエキ
シ゛ュウテン　カイシ　：ent

メンテセンシ゛ョウエキ　ヲ　ハス゛ス

メンテナンス洗浄液を取り外す

メンテナンス　センシ゛ョウエキ
ハイシュツ　カイシ　：ent

OFF 以外の場合設定可能

スリーフ゜　セッテイ
クリーニンク゛　タイフ゜　：ノーマル

ノーマル / ソフト / ハード

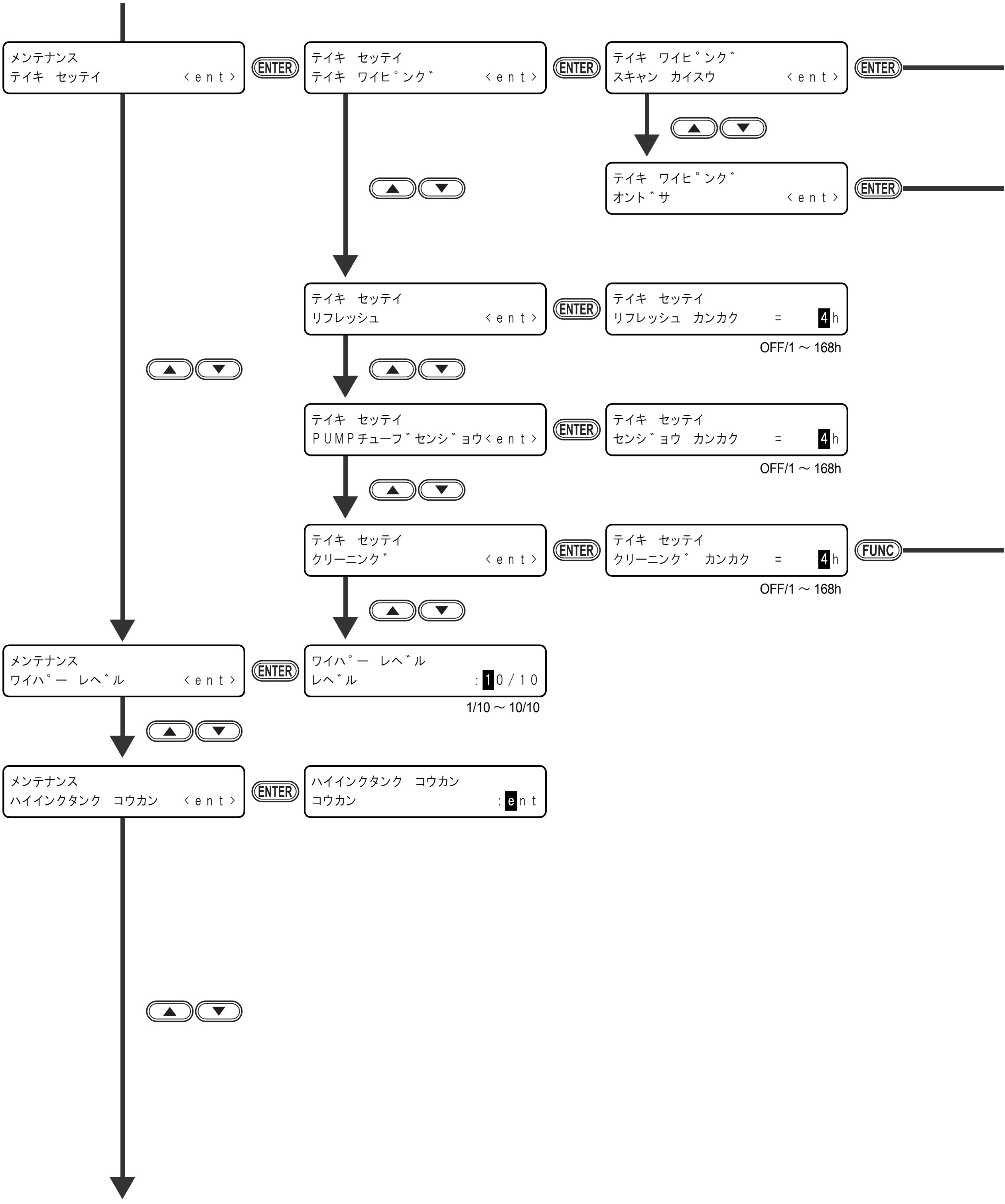
P

C

8

付録

P8-26 から



P8-30 へ

```
テイキ　ワイヒ゜ンク゛
スキャン　カイスウ　　　　=　　50
```

0 ~ 9990

```
テイキ　ワイヒ゜ンク゛
オント゛サ　　　　　　　=　　20゜C
```

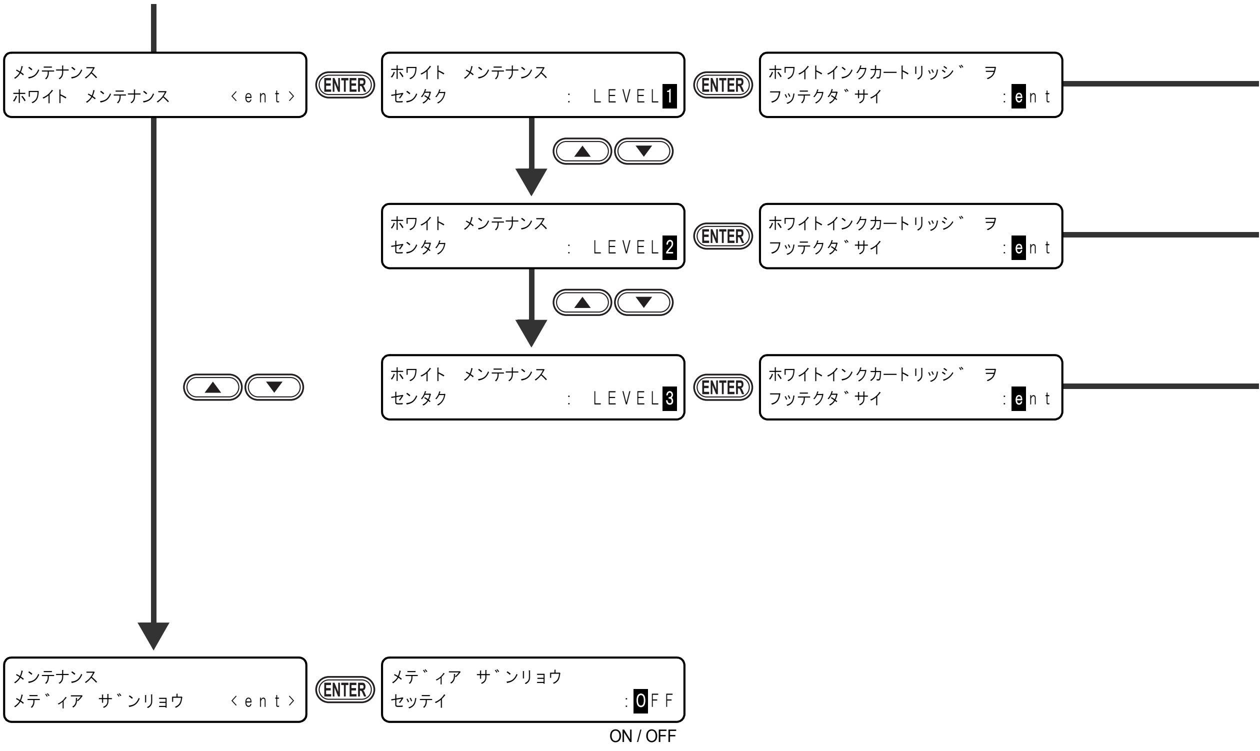
0 ~ 60 ℃

OFF 以外の場合設定可能

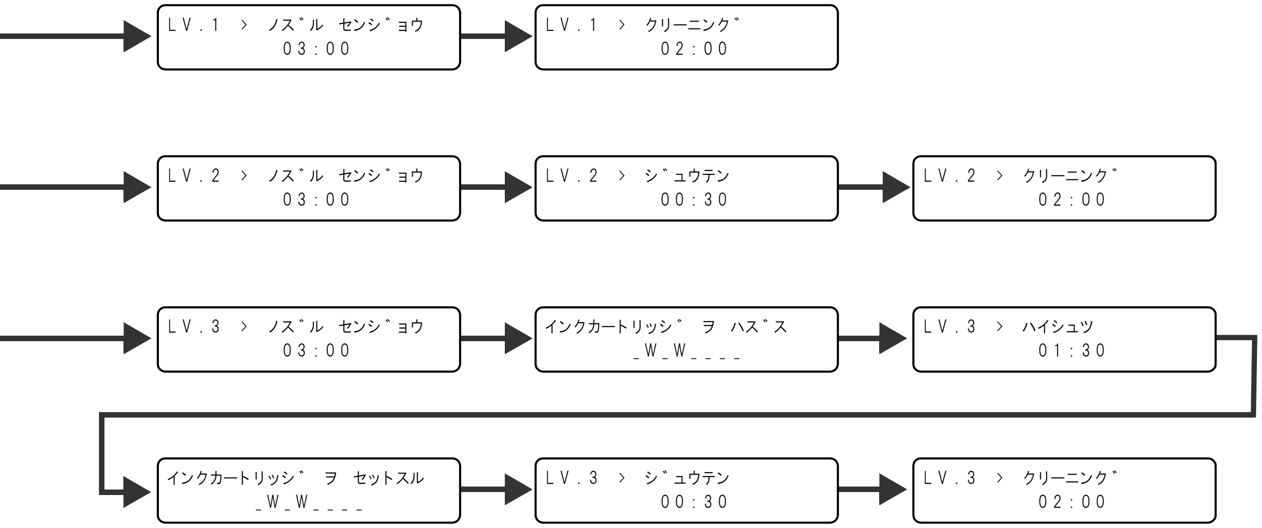
```
テイキ　セッテイ
クリーニンク゛　タイフ゜　　:ノーマル
```

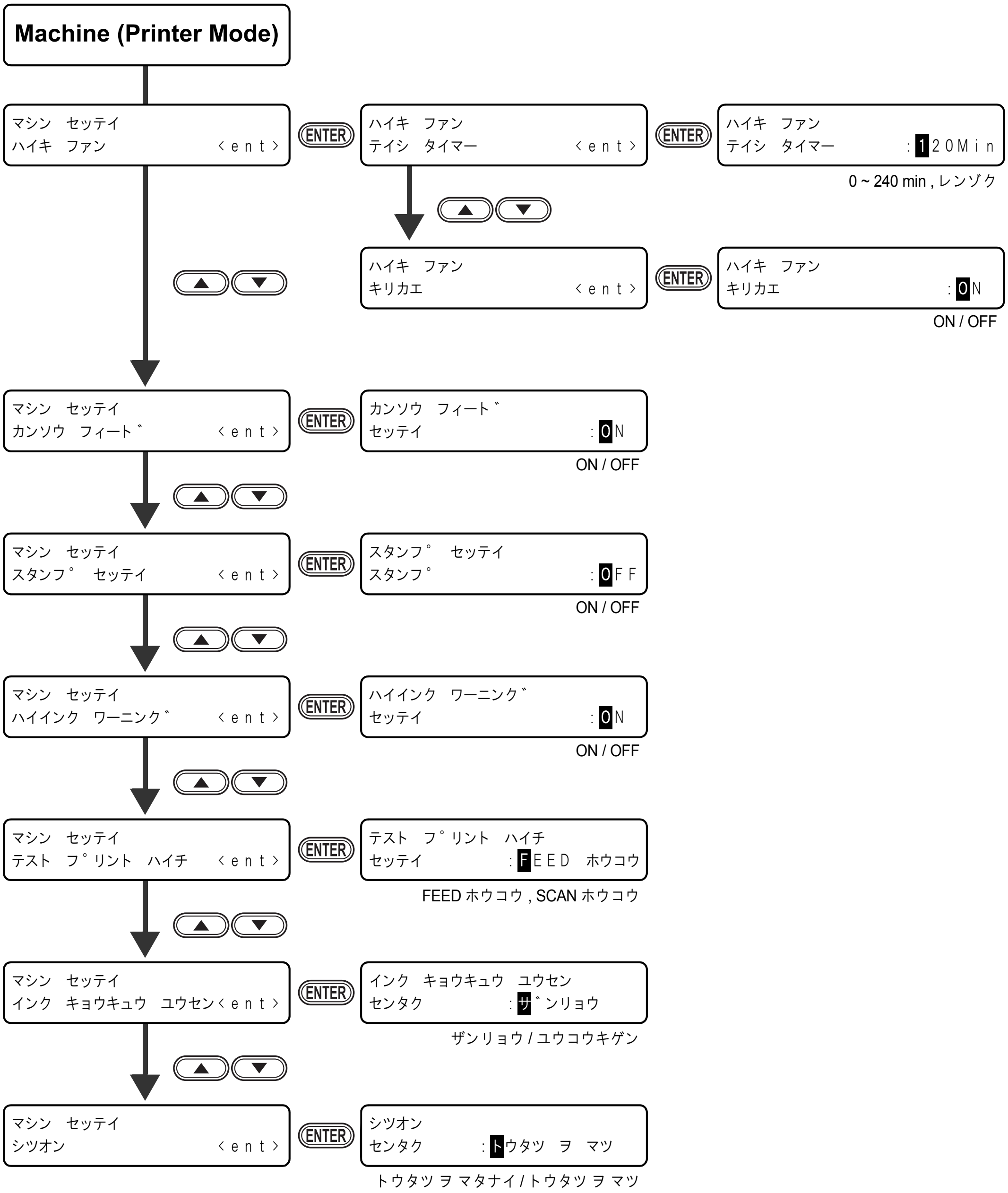
ノーマル , ソフト , ハード

P8-28 から



メンテナンス
ホワイト　メンテナンス　<ent>
ENTER
ホワイト　メンテナンス
センタク　：LEVEL1
ENTER
ホワイトインクカートリッジ　ヲ
フッテクダサイ　：ent
ホワイト　メンテナンス
センタク　：LEVEL2
ENTER
ホワイトインクカートリッジ　ヲ
フッテクダサイ　：ent
ホワイト　メンテナンス
センタク　：LEVEL3
ENTER
ホワイトインクカートリッジ　ヲ
フッテクダサイ　：ent
メンテナンス
メディア　ザンリョウ　<ent>
ENTER
メディア　ザンリョウ
セッテイ　：OFF
ON / OFF


LV.1 > ノズ゛ル センシ゛ョウ
03:00
LV.1 > クリーニンク゛
02:00
LV.2 > ノズ゛ル センシ゛ョウ
03:00
LV.2 > シ゛ュウテン
00:30
LV.2 > クリーニンク゛
02:00
LV.3 > ノズ゛ル センシ゛ョウ
03:00
インクカートリッシ゛ ヲ ハズ゛ス
_W_W_ _ _ _
LV.3 > ハイシュツ
01:30
インクカートリッシ゛ ヲ セットスル
_W_W_ _ _ _
LV.3 > シ゛ュウテン
00:30
LV.3 > クリーニンク゛
02:00



Machine (Printer Mode)
マシン セッテイ
ハイキ ファン <ent>
ENTER
ハイキ ファン
テイシ タイマー <ent>
ENTER
ハイキ ファン
テイシ タイマー :120Min
0 ~ 240 min , レンゾク
ハイキ ファン
キリカエ <ent>
ENTER
ハイキ ファン
キリカエ :ON
ON / OFF
マシン セッテイ
カンソウ フィード <ent>
ENTER
カンソウ フィード
セッテイ :ON
ON / OFF
マシン セッテイ
スタンプ セッテイ <ent>
ENTER
スタンプ セッテイ
スタンプ :OFF
ON / OFF
マシン セッテイ
ハイインク ワーニング <ent>
ENTER
ハイインク ワーニング
セッテイ :ON
ON / OFF
マシン セッテイ
テスト プリント ハイチ <ent>
ENTER
テスト プリント ハイチ
セッテイ :FEED ホウコウ
FEED ホウコウ , SCAN ホウコウ
マシン セッテイ
インク キョウキュウ ユウセン<ent>
ENTER
インク キョウキュウ ユウセン
センタク :ザンリョウ
ザンリョウ / ユウコウキゲン
マシン セッテイ
シツオン <ent>
ENTER
シツオン
センタク :トウタツ ヲ マツ
トウタツ ヲ マタナイ / トウタツ ヲ マツ

Setup (Cut Mode)

セッテイ
センタク　　　　: CUT1

CUT2
CUT3
PEN
HALF

[ENTER]

[CUT1]
ヒ゜ンチ　ローラー　　<ent>

[ENTER]

リョウタン : HIGH　[H_ _ _ _H]
チュウカン : OFF　　No. 6-1

[FUNC]

[▲][▼]

[CUT1]
トンボ゛　ケンシュツ　　<ent>

[ENTER]

[CUT1]トンボ゛　ケンシュツ
ケンシュツ　　　: OFF

OFF , 1 テン , 2 テン X,
2 テン Y,3 テン , 4 テン

[ENTER]

[▲][▼]

[CUT1]
P/C　チョウセイ　　<ent>

[ENTER]

[CUT1]P/C　チョウセイ
P/Cケ゛ンテン　オフセット　<ent>

[ENTER]

[▲][▼]

[CUT1]P/C　チョウセイ
P/C　スケール　ホセイ　<ent>

[ENTER]

[▲][▼]

P8-36 へ

リョウタン：－－－－　[H_ _L_ _H]
チュウカン：－－－－　No.6－1

[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
サイズ゛　＝　10mm
4 ～ 40 mm
ENTER
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
オフセット　Y（←）　＝　0.0mm
-40.0 ～ 40.0 mm
ENTER
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
オフセット　X（↑）　＝　0.0mm
-40.0 ～ 40.0 mm

[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
ケイシ゛ョウ　：タイフ゜1 ╬
タイプ 1 ╬ / タイプ 2 [ ]
ENTER
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
マイスウ　Y（←）　＝　1
1 ~ 9999
ENTER
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
マイスウ　X（↑）　＝　1
1 ~ 9999

[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
コウソク　リミット　＝　1cm/s
1 ~ 30 cm/s
ENTER
[CUT1]トンボ゛ケンシュツ
スキューチェック　＝　0mm
0 ~ 99 mm

P/Cケ゛ンテン　オフセット
540dpi　<ent>
540dpi / 720dpi
ENTER
P/Cケ゛ンテン　オフセット
フ゜リント　カイシ　：ent
ENTER
プリント&カットしたパターンを剥がす

P/Cケ゛ンテン　オフセット
Y　＝　0　　X　＝　0
ズレを調整する

P/C　スケール　ホセイ
クリア　<　　>　フ゜リント
▶
全パターンのプリント
パターン **0** をカット
パターン **0** のズレを確認

P/C　スケール　ホセイ
ホセイ　ホウコウ　＝　＋
+ / -
ENTER
パターン **1** ～パターン **9** をカット
合致するパターンを入力

P/C　スケール　ホセイ
ホセイチ　＝　5

P
C
8
付録

P8-34 から

[CUT1]
カット モード゛ <ent>
ENTER
[CUT1]カット モード゛
セッテイ :ヒョウシ゛ュン
ヒョウジュン , ハヤイ , コウヒンイ

[CUT1]
オート カット <ent>
ENTER
[CUT1]オート カット
セッテイ :OFF
OFF / ON
ENTER

[CUT1]
フ゛ンカツ カット <ent>
ENTER
[CUT1]フ゛ンカツ カット
セッテイ :OFF
OFF / ON
ENTER

ツール条件 **[HALF]** 選択時のみ

[HALF]
テンセン カット <ent>
ENTER
[HALF]テンセン カット
ハーフカット フ゜レス = 0g
0 ~ 300 g
ENTER

[CUT1]
アッフ゜ スヒ゜ート゛ <ent>
ENTER
[CUT1]アッフ゜ スヒ゜ート゛
セッテイ :AUTO
AUTO , 5 , 10 , 20 , 30 cm/s

ツール条件 **[PEN]** 選択時は表示しない

[CUT1]
ステキ゛リ <ent>
ENTER
[CUT1]ステキ゛リ
セッテイ :OFF
OFF / ON

[CUT1]
メテ゛ィア セッテイ <ent>
ENTER
[CUT1]メテ゛ィア セッテイ
セッテイ :フツウ
フツウ , オモイ

[CUT1]
ソーティンク゛ <ent>
ENTER
[CUT1]ソーティンク゛
セッテイ :OFF
OFF / ON
ENTER

[CUT1]
ハサキホセイアツ オフセット <ent>
ENTER
[CUT1]ハサキホセイアツ オフセット
オフセット = 3
1 ~ 7

P8-38 へ

オートカット **ON** の場合のみ

[CUT1]オート　カット
カット　ヨハク　　　　＝　30mm
0 ~ 30 mm

ブンカツカット **ON** の場合のみ

[CUT1]フ゛ンカツ　カット
ワク　カット　　　　　：ON　：
OFF / ON

ENTER

[CUT1]フ゛ンカツ　カット
マーク　カット　　　　：OFF：
OFF / ON

[HALF]テンセン　カット
ハーフカット　チョウ　＝　0.5mm
0.1 ~ 6.0 mm

ENTER

[HALF]テンセン　カット
カット　チョウ　　　＝　10mm
5 ~ 150 mm

[CUT1]ソーティンク゛
オートフィート゛　　　：OFF
OFF / ON

ENTER

[CUT1]ソーティンク゛
エリア　カンリ　　　　：OFF
OFF / 10 ~ 5100 cm

P8-36 から

[C U T 1]
キュウチャク　　　　　　< e n t >

ENTER

[C U T 1] キュウチャク
セッテイ　　　　:ツヨイ

OFF , ツヨイ , ヨワイ ,
ヤヤヨワイ , ヒョウジュン

▲ ▼

[C U T 1]
マキトリ　タイミング　　< e n t >

ENTER

[C U T 1] マキトリ　タイミング
セッテイ　　　　　　:O F F

OFF / 1 ~ 99

▲ ▼

[C U T 1]
オーバー　カット　　　　< e n t >

ENTER

[C U T 1] オーバー　カット
カットナガサ　　　　0 . 1 m m

OFF , 0.1 ~ 1.0 mm

▲ ▼

[C U T 1]
セッテイ　コピー　　　　< e n t >

ENTER

[C U T 1] セッテイ　コピー
　　C U T 1　 - >　C U T 2

ENTER

CUT1 ~ 3 , PEN , HALF , ALL

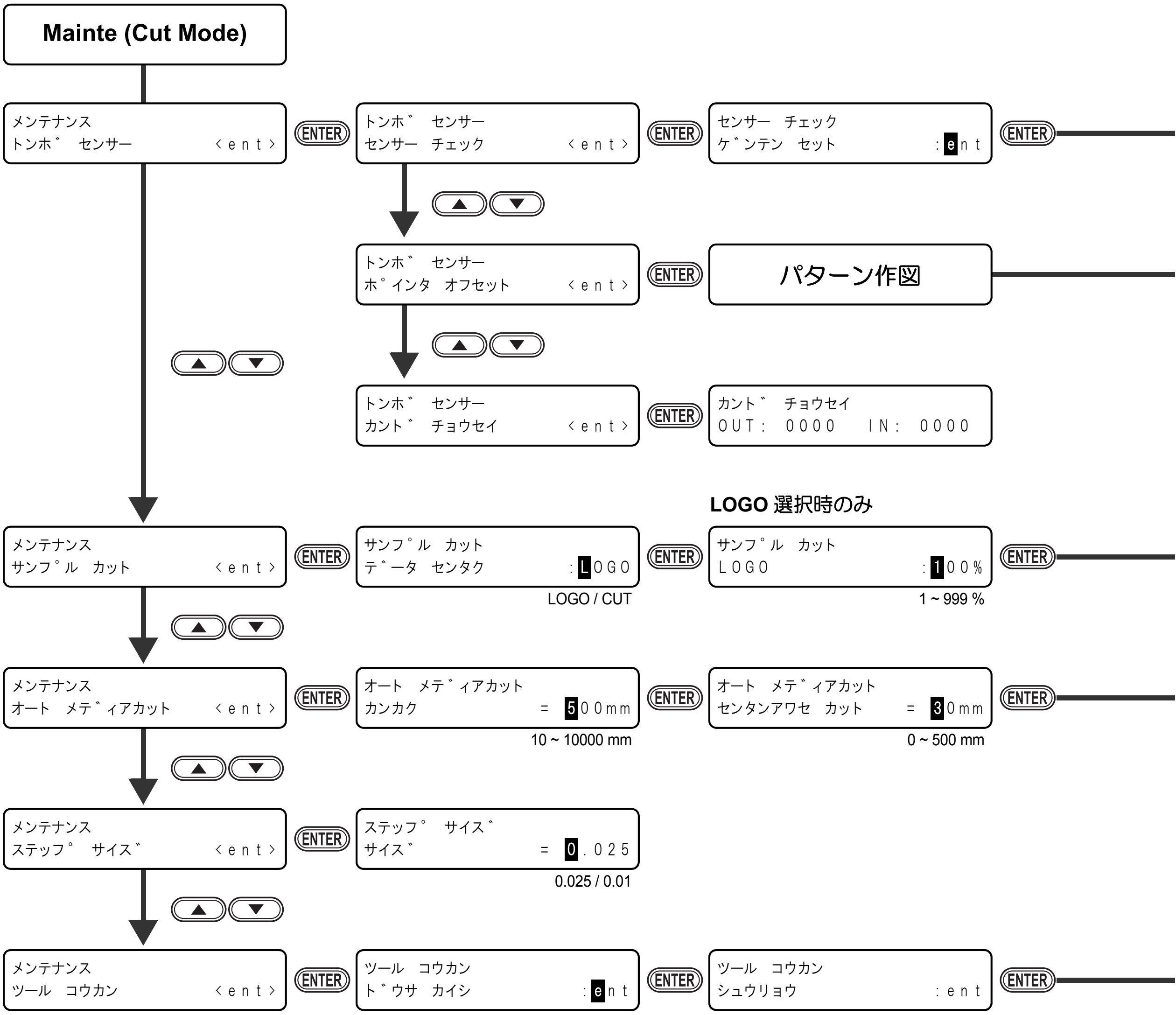
▲ ▼

[C U T 1]
セッテイ　リセット　　　< e n t >

ENTER

[C U T 1] セッテイ　リセット
リセット　　　　　　:e n t

コピー　スル　　　　　　　:ent CUT1　->　CUT2	ENTER	コピー開始


Mainte (Cut Mode)
メンテナンス
トンホ゛ センサー ‹ent›
ENTER
トンホ゛ センサー
センサー チェック ‹ent›
ENTER
センサー チェック
ケ゛ンテン セット :ent
ENTER
トンホ゛ センサー
ホ゜インタ オフセット ‹ent›
ENTER
パターン作図
トンホ゛ センサー
カント゛ チョウセイ ‹ent›
ENTER
カント゛ チョウセイ
OUT: 0000 IN: 0000
LOGO 選択時のみ
メンテナンス
サンフ゜ル カット ‹ent›
ENTER
サンフ゜ル カット
テ゛ータ センタク :LOGO
LOGO / CUT
ENTER
サンフ゜ル カット
LOGO :100%
1 ~ 999 %
ENTER
メンテナンス
オート メテ゛ィアカット ‹ent›
ENTER
オート メテ゛ィアカット
カンカク = 500mm
10 ~ 10000 mm
ENTER
オート メテ゛ィアカット
センタンアワセ カット = 30mm
0 ~ 500 mm
ENTER
メンテナンス
ステッフ゜ サイス゛ ‹ent›
ENTER
ステッフ゜ サイス゛
サイス゛ = 0.025
0.025 / 0.01
メンテナンス
ツール コウカン ‹ent›
ENTER
ツール コウカン
ト゛ウサ カイシ :ent
ENTER
ツール コウカン
シュウリョウ :ent
ENTER

センサー　チェック
サイズ゛　　　　　　＝　10mm
ENTER
4 ～ 40 mm

センサー　チェック
ケイシ゛ョウ　　　　：タイフ゜
ENTER
タイプ 1 / タイプ 2

センサー　チェック
スヒ゜ート゛　　　　＝　10cm/s
5 ~ 10 cm/s

ホ゜インタ　オフセット
Y　＝　0.0　　X　＝　0.0

サンフ゜ル　カット
カット　カイシ　　　　：ent
ENTER
パターンカット後
リモートへ移行

オート　メテ゛ィアカット
カイスウ　　　　＝　1
ENTER
1 ~ 9999 回
動作開始

初期動作完了後
ローカルへ

P
C
8
付録

Copies (Cut Mode)

マイスウキ゛リ
マイスウ = 1
1 ~ 999

ENTER

マイスウキ゛リ
カンカク = 2mm
0 ~ 30 mm

ENTER

リモートへ移行後
動作開始

Common Setup

メニュー	キー	設定画面	設定値
キョウツウ　セッテイ ヒ゜ンチ　ローラー　セッテイ　＜ent＞	ENTER	ヒ゜ンチ　ローラー　セッテイ センタク　：ON	ON , POW ON ジノミ , PR No. ノミ , OFF
キョウツウ　セッテイ カット　ホウシキ　＜ent＞	ENTER	カット　ホウシキ セッテイ　：2ステッフ゜	2 ステップ , 3 ステップ
キョウツウ　セッテイ カクニン　フィート゛　＜ent＞	ENTER	カクニン　フィート゛ フィート゛　：100mm	OFF / 10 ~ 500
キョウツウ　セッテイ エキスハ゜ント゛　＜ent＞	ENTER	エキスハ゜ント゛ セッテイ　：ON	ON / OFF
キョウツウ　セッテイ マーシ゛ン　＜ent＞	ENTER	ヒタ゛リ　：　ミキ゛ 0mm　：　0mm	0 ~ 85 mm
キョウツウ　セッテイ シ゛ュシン　テ゛ータ　＜ent＞	ENTER	シ゛ュシン　テ゛ータ セッテイ　：AUTO	AUTO / MANUAL
キョウツウ　セッテイ シ゛コク　セッテイ　＜ent＞	ENTER	シ゛コク　セッテイ 2012.10.05　15:30:00	ENTER → シ゛コク　セッテイ 2012.10.05　15:30:00
キョウツウ　セッテイ タンイ　セッテイ　＜ent＞	ENTER	オント゛　：　ナカ゛サ °C　：　mm	オンド : ℃ / ℉ ナガサ :mm / inch
キョウツウ　セッテイ マシン　メイショウ　＜ent＞	ENTER	マシン　メイショウ CJV30-01	

Each menu item is reached in turn with the ▲ / ▼ keys.

フィード長を設定した場合のみ

FUNC → カクニン　フィート゛
メテ゛ィア　モト゛シ　フィート゛：ON　（ON / OFF）

P8-44 へ

P8-43 から

キョウツウ　セッテイ
キー　フ゛ザ゛ー　＜ent＞

ENTER

キー　フ゛ザ゛ー
セッテイ　:ON

ON / OFF

キョウツウ　セッテイ
シ゛ョウホウ　＜ent＞

ENTER

シ゛ョウホウ
エラー　リレキ　＜ent＞

ENTER

エラー　リレキ
[01]　12.10.10　12:15

で選択

シ゛ョウホウ
メンテナンス　リレキ　＜ent＞

ENTER

[01]　12.09.29　08:18
キャリッシ゛　アウト

で選択

シ゛ョウホウ
フ゜リント　モート゛　リレキ　＜ent＞

ENTER

[01]　720x1080　.12
Bd.Vd.x1.1L:　12.34m

で選択

シ゛ョウホウ
リスト　＜ent＞

ENTER

リスト
センタク　:PRINTモート゛

ENTER

RPINT モード / CUT モード /
ランニングメーター / ALL

ファームウェアバージョン **V2.40** より

シ゛ョウホウ
インク　コウカン　レホ゜ート　＜ent＞

ENTER

プリント開始

シ゛ョウホウ
ハ゛ーシ゛ョン　＜ent＞

ENTER

CJV30-60　V1.00
MRL-III　V1.00

シ゛ョウホウ
シリアル　&　テ゛ィーラーNo＜ent＞

ENTER

S/N　=　********
D/N　=　********

P

C

エラー内容を表示

▲▼で選択

```
フ゜リント　モート゛　リレキ
[01]　12.09.29　　09:57
```

▲▼で選択

```
リスト
　＊＊　フ゜リント　チュウ　＊＊
```

索引

P

P/C 原点オフセット 4-36
P/C スケール補正 4-38
PUMP チューブ洗浄 6-14

U

USB ハイスピードモード 1-12
USB2.0 インターフェイスケーブル 1-12
USB メモリの抜きかた 1-13

あ

安全にお使いいただくために ix
ご注意とお願い xii
使用上の警告と注意 x
使用上のご注意 xi
設置上のご注意 xiii
マーク表示 ix
マーク表示の例 ix

い

インクカートリッジ 1-14
インクカートリッジ取り扱い上のご注意 1-15
インクカートリッジランプ 1-15
インクカートリッジを交換する 1-14
インク供給経路の切替設定 3-42
インクコウカンレポート 5-14
インクの初期充填を行う 6-24
インクの有効期限を延長する 3-40
インクを充填する 6-21
インクを変更したいとき 6-47

え

エキスパンド 5-6
エキスパンド機能を ON にしているときの
注意事項 2-23
エラーメッセージ 7-11
エリア管理機能 4-31

お

オートカット 2-52, 4-25
オートクリーニングの設定をする 3-26
オートフィード機能 4-31
お問い合わせシート 8-8
同じデータを複数枚カットする 4-50
おねがい vii

か

外装のお手入れ 6-3
カクニンフィード 5-5
各部の名称とはたらきについて 1-4
カッターユニット 1-8
キャッピングステーション 1-9
キャリッジ 1-8
操作パネル 1-6
装置前面 1-4
背面 / 側面 1-5
ヒーター 1-7
ピンチローラーとグリッドローラー 1-9
プリンタユニット 1-8
ペンラインゴム 1-10
メディアセンサー 1-7
画質不良が発生したときは 7-5
カッター刃を取り付ける 2-10
カッターホルダー 2-12
カッターホルダーを取り付ける 2-12
カッターユニットを退避させる 2-51
カット順を変更する 4-31
カットする 2-50
カットモード 1-17, 4-42
カットモードでヒーターを OFF にしたい
ときは 4-54
カットを開始する 2-50
カットを再開する 2-50
カットを中断する 2-50
乾燥時間の設定をする 3-23
カンソウフィード 3-36

き

キーブザー 5-13
機能フローチャート 8-9
キャッピングステーション 6-5
キャッピングステーションのメンテナンス
メンテナンス洗浄液を排出する 6-11
インク排出路の洗浄 6-14
インク排出路の洗浄をする前に 6-10
長期間使用しない場合 6-16
ヘッドノズルの洗浄 6-12
メンテナンス洗浄液を充填する 6-10
ワイパーとキャップの清掃 6-6
ワイパーを交換する 6-8
共通設定 5-2
切り込み量 2-11

く

クリーニング間隔 3-27, 3-29
クリーニングタイプ 3-27, 3-29

け

ケーブルを接続する 1-12
警告ラベルについて 8-6
原点
　原点設定位置の目安 2-33
　原点を変更する 2-33

こ

故障？と思う前に 7-2
　カートリッジ異常が発生したら 7-6
　画質不良が発生したときは 7-5
　ノズル詰まりを解消したいとき 7-5
ご注意 vii

さ

最大プリントエリア / カットエリア 2-23
裁断カッター刃の交換 6-48
作業の流れ 2-7
サンプルカット 4-46
サンプルカットの結果 4-47

し

ジコク 5-10
シツオンの動作条件を変更する 3-39
受信障害 vii
ジュシンデータ 5-9
手動でロールストッパーをロックする 2-22
仕様
　インク仕様 8-5
　カット部仕様 8-2
　共通仕様 8-4
　プリンタ部仕様 8-2
　本体仕様 8-2
使用可能メディアサイズ 1-11
使用環境温度 1-2
情報表示
　エラー履歴 5-15
　シリアル＆ディーラー№ 5-15
　バージョン 5-15
　プリントモード履歴 5-15
　メンテナンス履歴 5-15
情報を表示させる 5-14
初期状態 .... 3-33,　4-45

す

推奨するトンボ 4-10
スタンプ 3-37
捨て切り 4-43
ステップサイズの設定をする 4-52
スリープ設定 6-26
　クリーニング間隔 6-29
　チューブ洗浄間隔 6-28
　リフレッシュ間隔 6-27
スリットライン 2-24

せ

正常にカットできなかったとき 4-19
設置場所について 1-2
設定した内容を初期状態に戻す ... 3-33,　4-45
設定内容をコピーする .... 3-32,　4-44
設定リスト
　Cut モード 5-16
　Print モード 5-16
　すべて 5-16
　ランニングメーター 5-16
設定リストをプリントする 5-16
設定リセット 3-33
セッテイリセット 4-45

そ

ソーティング .... 4-31,　4-34
　エリア管理機能 4-31
　オートフィード機能 4-31
　解除 4-33
　設定 4-32
装置情報を確認する 5-14
その他の設定 4-41

た

高さ調整レバー 2-15
タンイ 5-11

ち

中間ピンチローラー .... 3-6,　4-3
調整ノブ 2-11
調整レバーとレンジについて 2-16

つ

ツール条件 2-3
　種類と選択方法 2-3
　ツール条件を登録する 2-4
ツールホルダー 2-12
ツールを交換する 2-13

ツールを取り付ける 2-10

て

データクリア 2-49, 2-51
データをプリントする 2-48
定期設定 6-30
クリーニング間隔 6-35
定期ワイピング 6-31
ポンプチューブ洗浄間隔 6-34
リフレッシュ間隔 6-33
テストカット 2-44
テストカットなどをした後にトンボ原点を設定する 4-18
テストパターンについて 2-34
テストプリント 2-34
通常のテストパターン 2-35
ホワイト確認 2-36
テストプリントに関する注意事項 2-34
テストプリントの結果 2-35, 2-36
テストプリントハイチ 3-38
電源オフ時のインク詰まりを防止する 6-26
電源ケーブル 1-13
電源を入れる 2-8
電源を切る 2-9
電源を切るときのご注意 2-9
点線でカットする 4-29
電波障害自主規制 vii

と

特色メンテナンス 2-40
特色メンテナンスの実行警告表示 2-42
ドットの位置がずれたら 3-12
取扱説明書について viii
トルクリミッタ 2-30
トンボ 4-6
トンボが無いデータをカットする 4-35
トンボ間隔 4-9
トンボ検出に関する注意事項 4-11
トンボ検出の設定 4-12
オフセット X 4-14
オフセット Y 4-14
高速リミット 4-15
スキューチェック 4-15
設定項目について 4-13
トンボの形状 4-14
トンボ検出点数 4-13
トンボサイズ 4-13
マイスウ X 4-14
マイスウ Y 4-14
トンボ検出の設定を解除する 4-15
トンボ検出モードにする 4-6
トンボ原点誤検出の例 4-8
トンボ周辺のプリント禁止エリア 4-8
トンボセンサーの反応を確認する 4-19
トンボセンサ LED 4-23
トンボ付きデータ作成に関する注意事項 4-7
トンボ付きデータをカットする 4-6
トンボ付きデータをカットする流れ 4-6
トンボと図柄の配置可能範囲 4-7
トンボの色 4-10
トンボの大きさ 4-7
トンボの距離とトンボサイズの目安 4-9
トンボの形状 4-6
トンボの検出方法 4-16
トンボのにじみ 4-10

に

ニアフル 6-43
日常のお手入れ 6-2
お手入れ上のご注意 6-2

の

ノズル詰まりが復旧しない場合 6-21
ノットレディ 1-17

は

廃インクタンク確認メッセージ 6-43
廃インクタンクを交換する 6-45
ハイキファン 3-35
キリカエ 3-35
テイシタイマー 3-35
ハイシュツ＆センジョウ 6-22
刃先の出し量を調整する 2-11
刃先補正圧オフセット 4-43
刃先を調整する 2-11
はじめに viii
パターンプリント 3-12
パネル 3-24
反復精度の条件 8-3

ひ

ヒーター
温度設定の目安 2-47, 3-14
適温調整 3-16
ヒーター温度が設定温度に達していないと 3-17
ヒーターの温度設定を変更する 2-46
ヒーターの温度を確認する 2-47
ヒーターの準備をする 2-46

ヒーターの設定値を変更する 3-14
ビーディング 3-17
ピンチローラー
個数 3-5, 4-2
使用ピンチローラー数 4-2
推奨するピンチローラー圧 3-5, 4-2
ピンチローラーの詳細設定 3-8, 4-5
ピンチローラーの設定
.... 3-5, 3-6, 4-2, 4-3
ピンチローラーの合わせ方 2-17
ピンチローラーの位置を調整する 2-17

ふ

ファンクション 1-17
付属品以外のカッター 6-51
プラテンの清掃 6-3
プリンタモード 1-17
プリント中クリーニングの設定をする 3-28
プリント方式
白重ねプリント 3-22
スキャン方向の設定 3-20
設定可能な要素の組み合わせ 3-19
プリント品質の設定 3-18
ロジカルシークの設定 3-21
プリント方式の設定をする 3-18
プリントを開始する 2-48
プリントを中止する 2-49
フル 6-43
分割カット 4-26
解除 4-27
設定 4-26
データをカットする 4-28
貼りしろマーク 4-28
枠カット 4-28

へ

ヘッドクリーニング 2-38
ヘッドクリーニングについて 2-38
ヘッドクリーニングを行う 2-39
ヘッド高さを調整する 2-15
ペンアダプタ 2-14
ペンラインゴム 1-10
ペンラインスポンジ 1-10

ほ

ボールペンの取り付け方 2-14
ホカンセンジョウ 6-16
ホスト 3-24
補正パターン 3-9
ホワイトインクメンテナンス機能 6-40
ホワイトノズル状態確認警告 2-37
本装置の移動 1-2, 1-3

ま

マージンの設定をする 5-8
巻き取り装置について 2-29
スイッチを調整する 2-29
トルクリミッタを調節する 2-30
巻き取り装置を使わないとき 2-30
マシン設定 3-34
マシンメイショウ 5-12
マニュアルカット 2-52

め

メディア押さえ
セット位置 2-24
メディア押さえをお使いになるときの
注意事項 2-24
メディア押えの清掃 6-4
メディアサイズとグリッドローラーについて
CJV30-100 2-20
CJV30-130 2-19
CJV30-160 2-18
CJV30-60 2-21
メディア残量入力 2-29
メディア残量表示 6-38
メディアセンサー／トンボセンサーの
清掃 6-4
メディア取り扱い上の注意 1-11
メディアについて 1-11
メディアのセット位置 2-24
メディアフィード 4-53
メディア補正の設定 3-9
メディアを裁断する 2-52
メディアをセットする 2-15
メニューモードについて 1-17
メンテナンス洗浄液 6-2
キャッピングステーションのメンテナンス
メンテナンス洗浄液を排出する 6-11

ゆ

ユーザータイプ
設定機能一覧 3-3
タイプ登録 3-2
タイプ登録の例 3-2, 4-35
登録できる設定内容 2-2
ユーザータイプを使用する 2-2
優先順位の設定をする 3-24

ら

ライトポインタの位置を補正する 4-22

り

リーフメディアをセットする 2-31
リフレッシュ 3-31
リモート 1-17
両端ピンチローラー ....3-6,　4-3

ろ

ローカル 1-17
ロールストッパー 2-22
ロールストッパーアーム 2-22
ロールメディアをセットする 2-25

わ

ワーニングメッセージ 7-8
ワイパー交換の警告時期 6-37
ワイパーレベル 6-37

CJV30-60/100/130/160 取扱説明書

2012 年 2 月

発行者　株式会社ミマキエンジニアリング
発行所　株式会社ミマキエンジニアリング
〒 389-0512
長野県東御市滋野乙 2182-3

D201872-14-16022012

© MIMAKI ENGINEERING CO., LTD.2012

NH
FW : 3.1